

## VI章 上幌内4遺跡 V層の遺構・包含層の出土遺物

### 1. 概要

本遺跡のV層の遺構・包含層出土の遺物をまとめて記載する。包含層から土器5,001点、石器等10,169点、合計15,170点出土した。

#### 包含層出土点数表(表33~35)

Ⅲ層出土の土器は、Ⅳ層が薄い地点でV層と誤認したものである。V層出土はⅣ群が約74%を占め、次いでⅠ群約14%、Ⅲ群約8%、Ⅱ群約1%である。各群で残存状態は良好が多く、ついで小破片が多いが、Ⅳ群は小破片と剝離が多い。剝片石器は約94%がフレイクで黒曜石が多い。器種を多い順に記すと、石鏃70点、U・Rフレイク69点、スクレイパー42点、石槍・ナイフ38点、石核22点、つまみ付きナイフ15点、原石12点、石錐4点である。礫石器・石製品・レキは約88%がレキで、多い順に台石・石皿177点、たたき石146点、砥石131点、すり石86点、磨製石斧71点、北海道式石冠13点で、石製品は10点である。これらの出土層位はⅢ層が235点、V層が4,862点で、後者が約93%を占める。

#### 出土分布図(図49~55)

Ⅰ群土器はN-22区とR-23区、Ⅱ群土器はN-22区、Ⅲ群土器はL-21区に多い。Ⅳ群土器が多いグリッドは、J-24区、N-21区、O-20区、R-23・24・26区、S-24区で調査区の北東と南西側部分に多く、調査区中央付近が少ない。石鏃はO-22区が最多で、その北側のグリッドからも出土している。石槍・ナイフはO-21・22区、P-23・24区が多く、石錐はL-23区、P・R-26区から出土している。つまみ付きナイフは散在的で調査区南西側にやや多い。スクレイパーは全体から出土し、L-24区、M-21区、R-25区に多い。U・RフレイクはL-23区に多い。石核は調査区の東側、北側、南西側から出土している。原石は散在的な出土である。フレイクはL-24区、M-23区に特に多い。磨製石斧はL・M-22・23区に多く、たたき石は調査区全体から均一的な出土である。すり石は斜面の北側から多く出土している。北海道式石冠は散在的である。砥石は調査区北東側に多く、台石・石皿は北側に多い。

### 2. 土器

#### (1) 復原土器

#### 遺構出土復原土器(図56~58 表36~50 図版17~19)

##### H-1

1はN-25区出土のものに、H-1覆土出土の破片が1点接合した。直立気味の口縁部からゆるやかにすばまる器形で、3条の貼付帯とR/L原体による施文がみられ、Ⅳ群a類の余市式である。

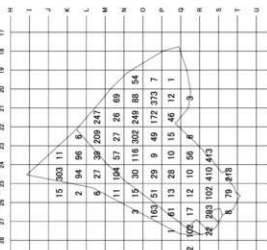
##### H-1・PS-5

2はH-1床面直上出土の土器とPS-5出土の破片が接合した。両遺構の直線距離は15mである。若干膨らむ胴部中位から下位へとすばまり、底部付近は直立気味である。貼付帯が2条あり、燃りの異なる原体による羽状縄文が施される。Ⅳ群a類の余市式である。

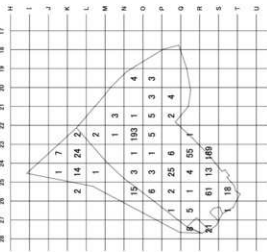
##### TP-21

3はわずかに開口する口縁部から胴部中位を経て、底部へと直線的にすばまる器形を呈する。口唇部直下に貼付帯があり、その下位に無文部分がある。幅広い貼付帯が4条みられ、別原体による羽状

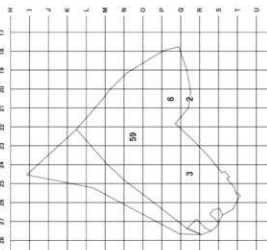
土器 総点数



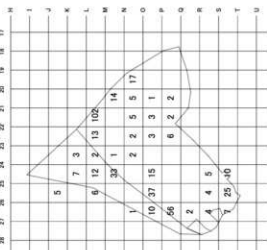
I 群土器



II 群土器



III 群土器



土器 群不明

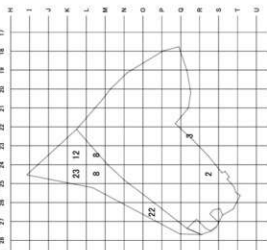


図49 上層内4遺跡 遺物出土分布図(1)

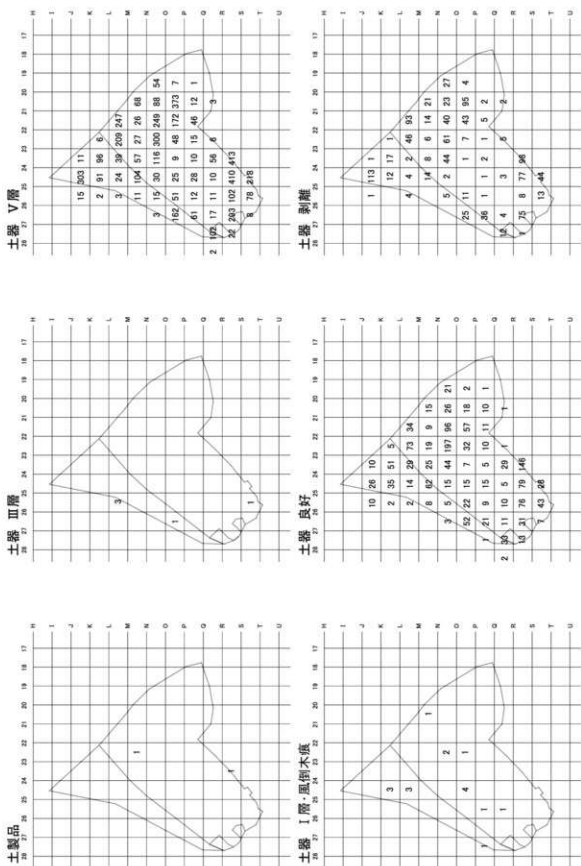
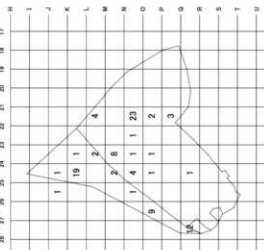
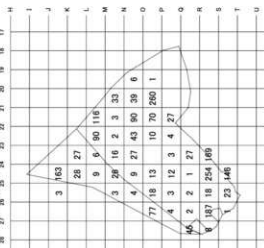


図50 上幌内4遺跡 遺物出土分布図(2)

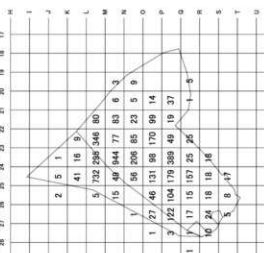
土器 磨耗



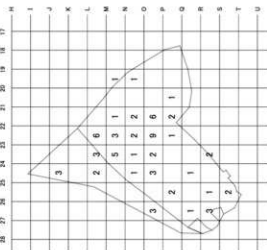
土器 小破片



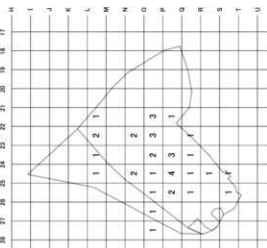
剥片石器 総点数



石鏃



石槍・ナイフ



石鏃

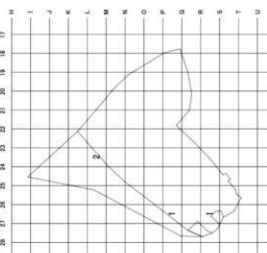


図51 上層内4遺跡 遺物出土分布図(3)



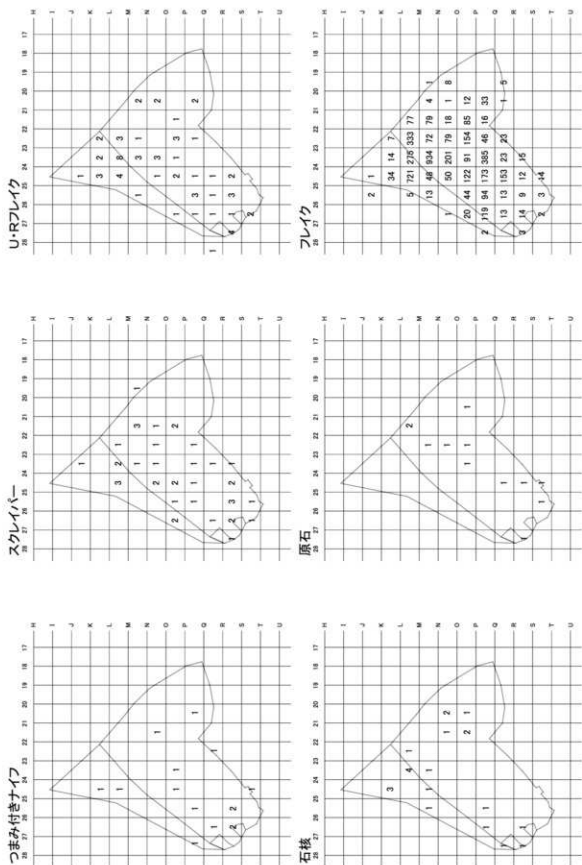
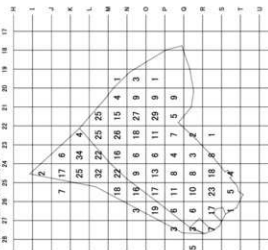
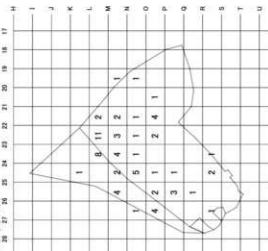


図52 上帳内4遺跡 遺物出土分布図(4)

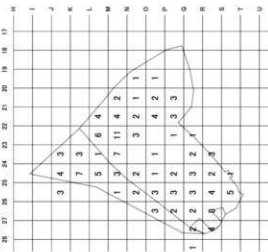
礫石器 総点数



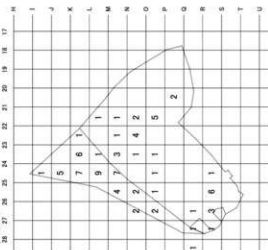
磨製石斧



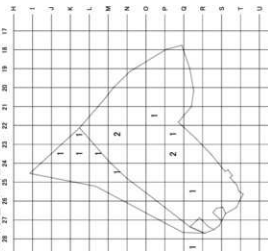
たまたぎ石



すり石



北海道式石冠



磁石

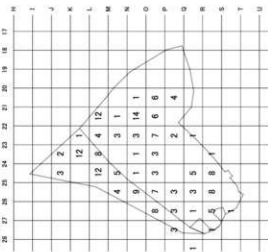


図53 上層内4遺跡 遺物出土分布図(5)

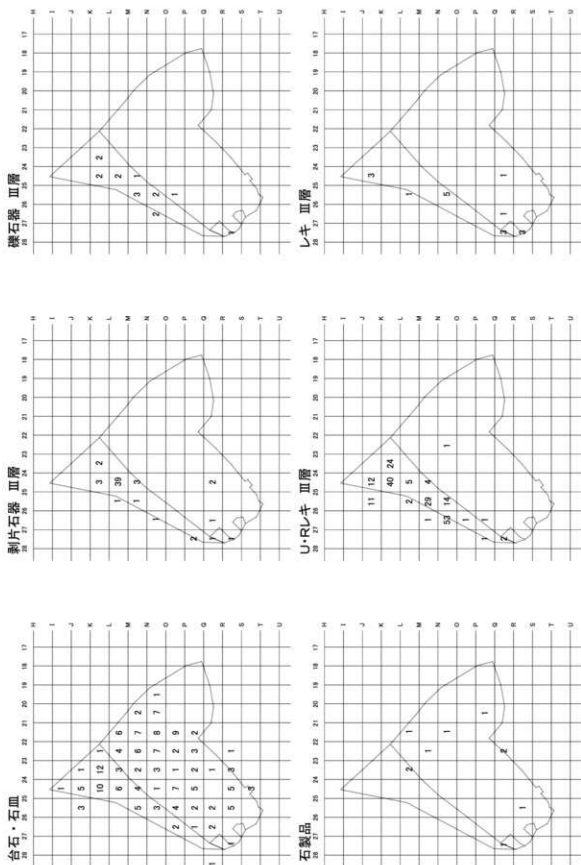


図54 上幌内4遺跡 遺物出土分布図(6)

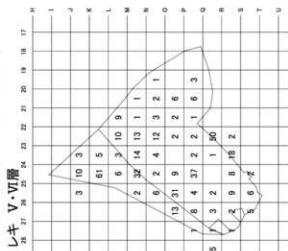
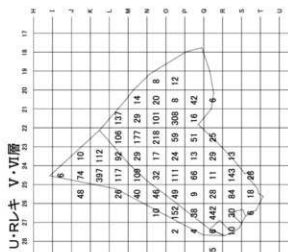
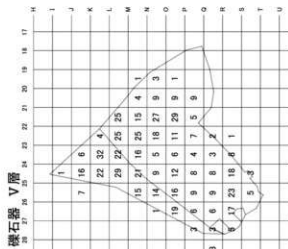
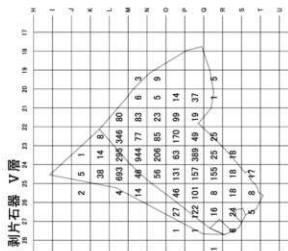


図55 上層内4遺跡 遺物出土分布図(7)

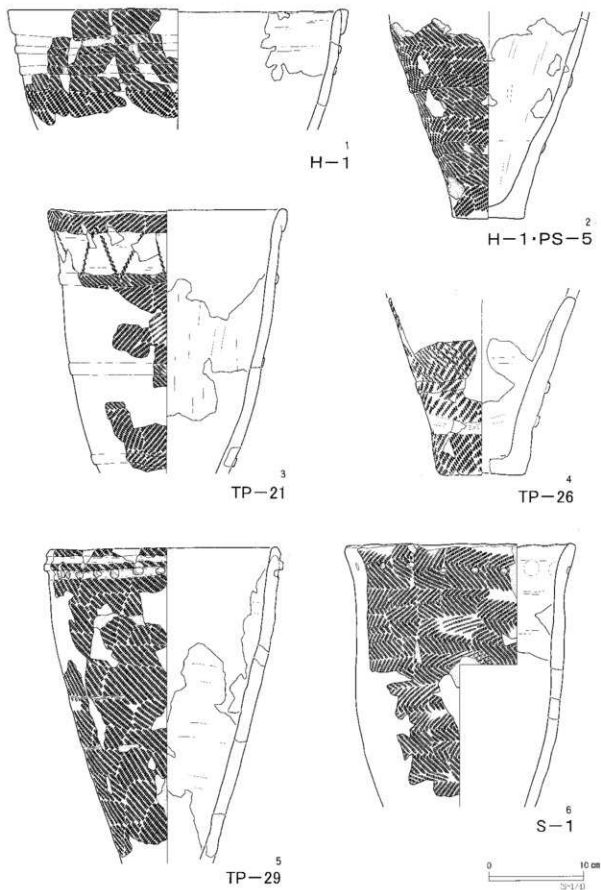


図56 上幌内4遺跡 遺構出土の復原土器(1)

縄文が施される。無文地にはR L縄線文、原体端部の回転圧痕と条が観察され、縄文を施した後、ナデ調整されたと判断される。R L縄線文は斜めに施され、端部は貼付上にみられる。IV群 a 類の余市式である。

#### TP-26

4は幅広い胴部から下位へとすぼまり、底部は直立気味である。器形の変化点の外側は粘土のつなぎ目が観察され、ヨコナデである。地文は燃りの異なる原体で施され、重複する部分のみられる。IV群 a 類の余市式である。

#### TP-29

5はL-22区出土のものに、TP-29出土の破片が1点接合した。口縁部から胴部上位まで直立気味で、そこから直線的にすぼまる器形を呈する。R L縄文を施した後、口唇部直下の器面には、ナデによる幅広い沈線文状の文様(凹線文)が施され、円形刺突文が横環する。凹線文の間は貼付帯様に見える。胎土には石英を多く含む。IV群 a 類のタブコブ式と考えられる。

#### S-1

6はわずかに開口する口縁部から頸部へと曲線的にすぼまり、さらに胴部上位が膨らみ、底部へとすぼまる器形である。LR・RL結束第1種羽状縄文と円形刺突文が施され、III群 b 類の北筒式と考えられる。

#### PS-1 (カラー図版3)

7はわずかに広がる口縁部から頸部ですぼまり、若干胴部の上位が膨らみ、その中位から底部へ直線的にすぼまる器形である。突起部が4か所の波状口縁である。突起部の先端は「M」字状に二股で、粘土の貼付により肥厚し、この部分に燃紐刻みが施される。器形の変化点である頸部には貼付帯が横環する。これより上位が口縁部文様帯で、突起下は粘土が菱形様に貼り付けられ、燃紐刻みや、円形や曲線的な縄線文が複数施される。これ以外では、3本1組の縄線文が水平、鋸歯状にみられる。燃紐刻みや縄線文の原体は、場所により燃りの異なるものが観察される。頸部の貼付帯より下位は結束第1種羽状縄文が整然と施され、内面は平滑でミガキ調整と判断される。III群 a 類の円筒土器上層 a 式と判断される。

#### PS-2 (カラー図版3)

8は注口土器である。外反する口縁は「く」の字状にくびれ、上部分は直線的、下は曲線的である。胴部の形状も曲線的で、上位に最大幅となるふくらみがあり、ゆるやかに底部へ至る。外面は全体に平滑で、ミガキ調整と考えられる。胴部には曲線的な沈線文で描かれた菱形のみられ、文様内の器面は一段低い。この沈線文の上面観は四つ葉にみえ、胴部下位には水平に横環する沈線文が施される。曲線的な注口部分は約55°の角度で立ち上がる。先端部はミガキにより明瞭な段差が作出され、付け根の下位には横長の楕円形の粘土が貼り付けられる。内面は丹念なナデ調整で、IV群 b 類の手稲式と判断される。

#### PS-3A

9はわずかに開く直線的な口縁部から胴部中位へすぼまり、そこから急角度で底部へ至る器形である。3本1組の直線的な条が水平に横環する部分が4か所みられ、縄線文と推測される。その間は燃糸文で、上半はRを用いた横走～斜行、下半は羽状である。内面はヨコナデと判断される。I群 b 類の東鋼路IV式である。

#### PS-3B

10は直立する口縁部から緩やかに平底の底部へとすぼまる器形を呈する。4か所の突起を有し、緩

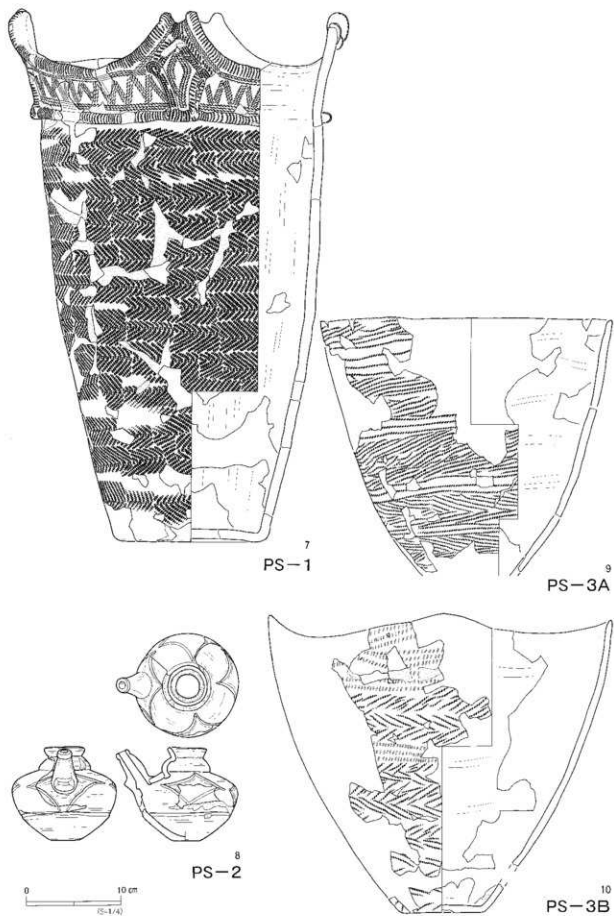


図57 上幌内4遺跡 遺構出土の復原土器(2)

やかな波状である。口縁部と胴部上位には右巻きの絡条体を用いた圧痕文が横位にみられ、その間は羽状燃糸文が施される。内面はヨコナデで、胴部下位は工具を用いた調整痕が観察される。I群b類の東銅路IV式である。

#### PS-5

11は外反する口縁部がすばまり、さらに胴部上位が若干曲線的に膨らみ、下位へ至る器形である。4か所の波状突起を有し、口唇部直下の器面は剥落痕が観察され、粘土が貼り付けられていたと推定される。口唇部に半截竹管状工具による施文が観察され、地文はLR縄文である。III群b類の柏木川式と考えられる。

#### PS-5A

12は口縁部から胴部中位まで直立気味で、そこからすばまり、底部付近はやや直立する器形である。別原体による羽状縄文を施し、原体端部の回転圧痕が残る。口縁部には貼付帯が3条みられ、1条目の下位の器面は条が不明瞭で、無文帯と考えられる。縦位方向の貼付と考えられる剥落痕がある。IV群a類の余市式である。

#### PS-5B

13は若干開く胴部上位から直線的に下位へすばまる器形である。貼付帯は4条みられ、別原体による羽状縄文が施される。IV群a類の余市式である。

#### PS-6

14は口縁部から胴部上位まで直立気味で、そこから底部へと直線的にすばまる器形である。緩やかな波状の突起を4か所有し、Lの燃紐を左右にそれぞれ巻いた絡条体による羽状燃糸文が施される。I群b類の東銅路IV式である。

#### PS-7

15は直立する口縁部から胴部中位に続き、そこから底部へとすばまる器形である。上面観は楕円形を呈し、底部は残存していないが実底と考えられる。地文はLR斜行縄文で、胎土には繊維を多く含み、胴部下半から底部は赤色化し、内外の器面は剥落が著しい。II群a類の静内野式である。

#### 包含層出土復原土器(図59 表51~53 図版19)

16・17は波状口縁で平底の鉢形土器である。16は大小の突起が合計4か所あり、地文はLR・RLの羽状縄文である。17はRの燃紐を用いた別の絡条体と考えられる不整な燃糸文が施される。これらはI群b類の東銅路IV式と考えられる。

18は直立する口縁部からそのまま底部へ至る筒形である。地文はLR斜行縄文で、口唇部、底外面、口縁部の内面にも施される。口唇部断面は切り出し形で、胎土に繊維を多く含み、外面は剥落が著しい。II群b類の植苗式と考えられる。

#### (2) 破片土器

##### 遺構出土(図60 表54 図版20)

#### TP出土

1はTP-8出土でRL縄文が施される。2はTP-13出土で磨耗する。3はTP-16出土で、地文はRL、貼付帯上はLR縄文が施される。4・5はTP-20出土である。4はL左巻きの燃糸文が施される。5は胴部下位から底部で無文である。6はTP-21出土でLR縄文である。7はTP-22出土で、綾絡文が観察される。8はTP-24出土で、貼付帯が剥落し、地文はRLである。9はTP-25出土、10はTP-26出土、11はTP-27出土で、地文はLRである。12・13はTP-30出土で、12は絡条体による施文である。13は底部で胎土に石英が目立つ。1~3・6~9はIV群a類、4・5・



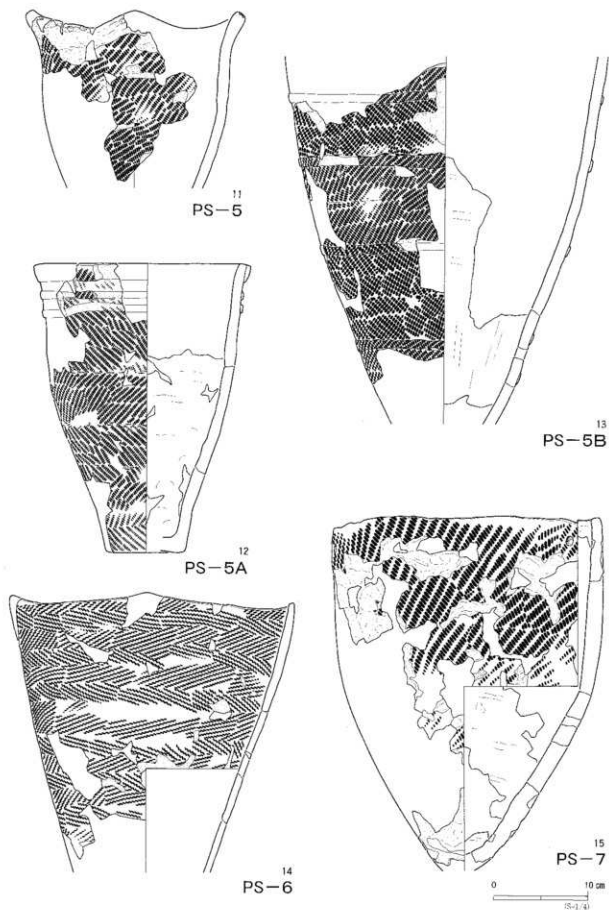


図58 上幌内4遺跡 遺構出土の復原土器(3)

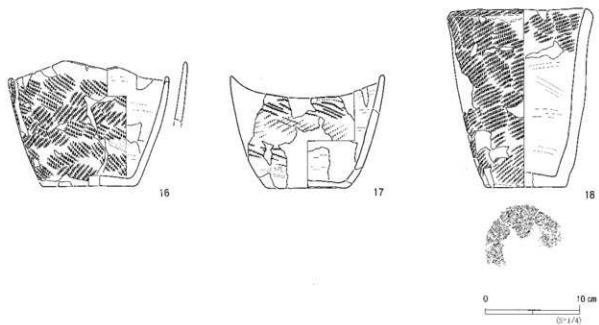


図59 上幌内4遺跡 包含層出土の復原土器

12はI群b類, 10・11はIII群b類, 13はIII群あるいはIV群と考えられる。

#### P S 出土

14～17はP S - 4 出土で, 14は燃りと巻き付け方向が同じ原体による羽状燃糸文が施される。15・16は同一個体で, 15は矢羽根状燃糸文, 16は羽状燃糸文がみられる。17は胴部下位から底部である。18～20はP S - 6 出土で, 18は口縁部で不整な羽状燃糸文が施される。19・20は同一個体で, 横走る条が観察される。14～20はI群b類の東銅路IV式である。

#### 包含層出土(図61～63 表54 図版20・21)

#### I 群

21は口縁部に微隆起線文と絡条体圧痕文が施され, 胴部上位は自縄自巻のL R 縄文, 下位は羽状燃糸文である。22は横走る燃糸文と斜めの条が観察される。23の羽状燃糸文はL左巻きとR右巻きである。24の燃糸文は整然としている。25・26は底部で外面は無文である。21～26はI群b類の東銅路IV式である。

#### II 群

27は条らしきものが観察される。28・29は胎土に繊維を含み, 燃りの異なる原体を用いた縄線文と地文が施され, 29の内面にも施文される。30・31は異なる原体による縄線文が施され, 地文は30が羽状縄文, 31はL R である。32は外面の施文がL R・R L 原体で, 口唇部に縄線文が施される。33は口唇部断面が尖り気味で, 羽状縄文がみられる。34は磨耗するが, 羽状の条が観察される。35は縦走るL R 縄文が施され, 内面はミガキである。27はIII群であるかもしれない。28～32は大麻V式と考えられ, 35は円筒土器下層式の可能性がある。

#### III 群

36は先端が二叉の突起部で, 円形と曲線的な粘土が貼り付けられ, 頸部には水平横環する貼付帯が施される。貼付上や口唇部には燃紐刻みや縄線文がみられる。口縁部は「C」字形の刺突文と4本

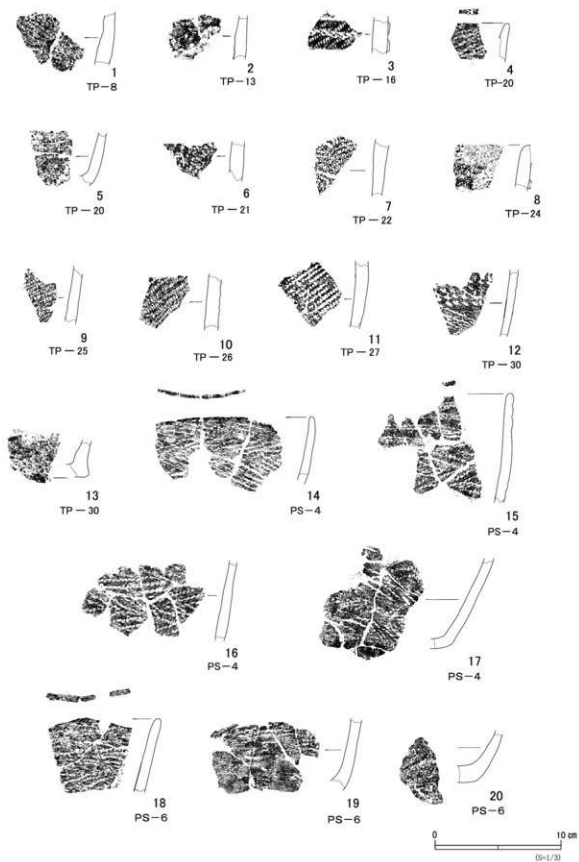


図60 上幌内4遺跡 V層出土の破片土器

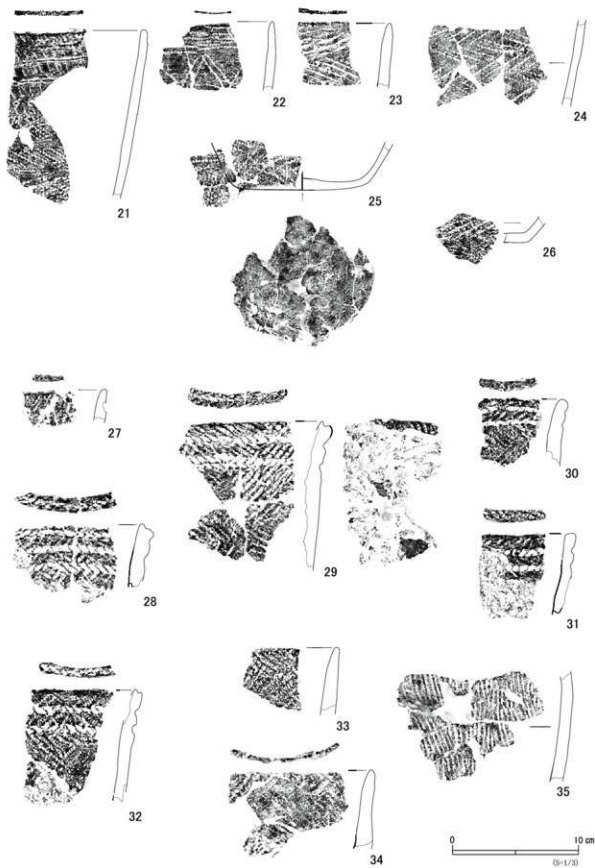


図61 上幌内4遺跡 包含層出土の破片土器(1)

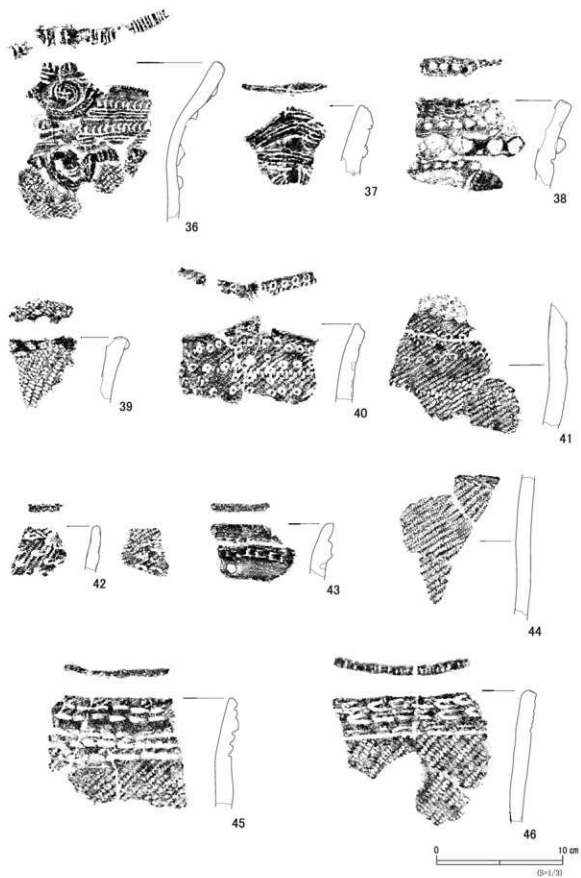


図62 上幌内4遺跡 包含層出土の破片土器(2)

並びの縄線文で、地文は結束第1種斜行縄文である。内面は丹念に調整され平滑である。37は突起部で貼付と半截竹管状工具による平行沈線文が施される。38は口唇部と器面に刺突文が施され、貼付上は指頭による施文である。39は口唇部直下の器面に貼付があり、刺突文が施される。40・41は同一個体と考えられ、地文はLR結束第1種斜行縄文で、円形を呈する刺突文が施される。この刺突文の施文工具は半截竹管状工具で、円形を呈する様に組み合わせて施したと観察される。42は内外面にLR縄文と刺突文が施され、内面には綾絡文らしきものがみられる。43・44は同一個体と考えられ、口縁部はナデ調整の無文地に貼付帯があり、その上に刺突文、器面には円形刺突文が施される。44は無文地と縄文地の境にLR縄線文がみられる。45は口唇部直下の器面に粘土が貼り付けられ、刺突文が施される。46は半截竹管状工具による施文で、最下段の押し文は深く施され、沈線文のようである。36はa類の円筒土器上層c式、37はb類の萩ヶ岡式、38～42・45・46は柏木川式、43・44は北筒式である。

#### IV群

47は器面にRL原体による施文の後、貼付帯が施される。48の地文はLRで、貼付帯上は燃りの異なる原体で施文される。49は器面が羽状縄文で、貼付帯上はLRである。50はLR縄文と縄線文が施される。51は磨耗のため地文が不明で、RL縄線文が2条観察される。52はLR縄文で、内外面が黒色化する。53～55は底部でいずれも直立気味に胴部へと立ち上がる。54はLR、55はRL縄文が施される。47～49は余市式、50・51はタブコブ式である。

### 3. 石器等

#### (1) 遺構出土の石器(図64～70 表55 図版22～25)

##### 剥片石器

##### H出土

1・2はH-1出土である。1は石槍・ナイフで基部は破損し、背面中央付近の剥離の稜が一部磨滅する。2は両面加工の大型のつまみ付きナイフで、つまみ部付近には背腹両面に原礫面が残る。

##### T P出土

3はT P-4出土の石鐮で先端部を破損し、形状は柳葉形と考えられる。4・5・6はT P-16出土である。4は左右非対称の石鐮である。5は両面加工のつまみ付きナイフ、つまみ部上端は折れ面で、右側縁に急角度の刃部を有する。6はスクレイパーで、背面を主として二次加工される。両側縁はやや鋸歯状で、下端部には急角度の刃部がある。7・8はT P-25出土である。7はつまみ付きナイフで両面加工である。右側縁の刃部は急角度で、下端部の左側縁には槌状剥離がみられる。8はスクレイパーで、縦長剥片の両側縁と下端部に刃部がある。

##### F C出土

9・10はF C-1出土である。9は両面加工のスクレイパーで上部を破損し、10は石核である。背面には上下端部からの縦長の剥離がみられ、原礫面が残る。腹面は右側縁からの剥離がある。

##### 礫石器

##### H出土

11～17はH-1出土で、13～15・17は黒色化する。11は磨製石斧で刃部を破損する。下端の割れ面や両側面にたたき痕があり、転用品と考える。12・14はすり石である。12は片岩製で表裏両面に平滑なすり面がある。14は床面直上出土で、表裏両面と下端部にすり痕を有する。下端部は剥離調整後に使用されている。13はたたき石で覆土B層と床面直上出土のものが接合した。割れ口付近の側縁は完全に一致しないので、割れた後も個々で使用された可能性がある。15・16は砥石である。15は床面出

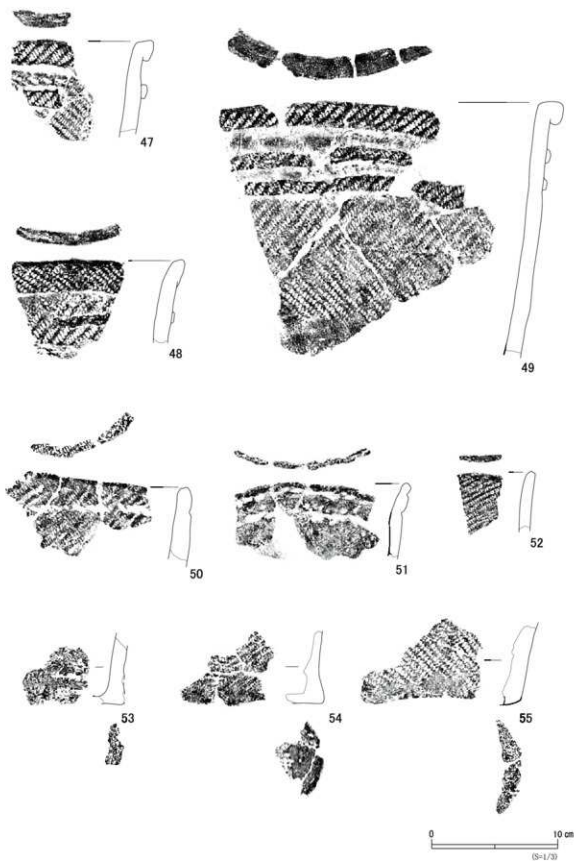


図63 上幌内4遺跡 包含層出土の破片土器(3)

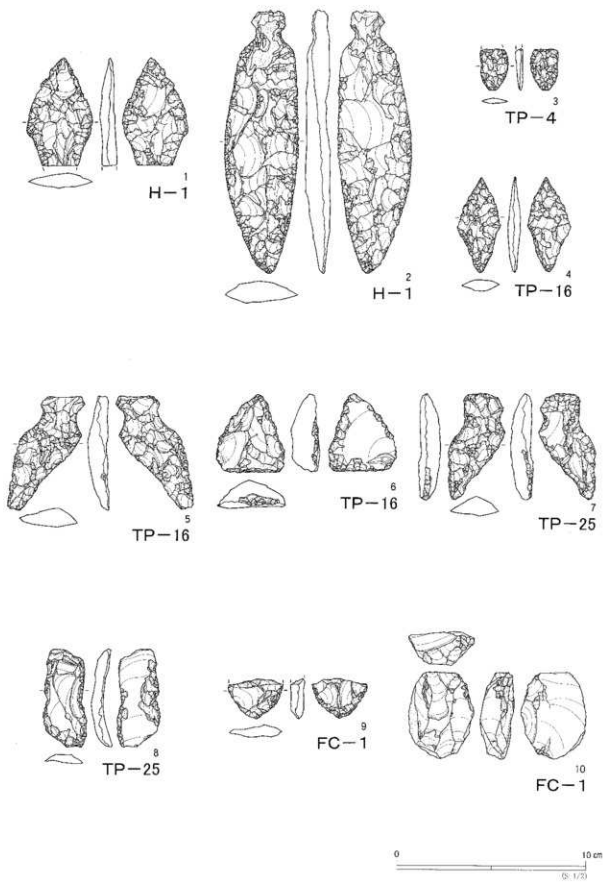


図64 上幌内4遺跡 遺構出土の剥片石器



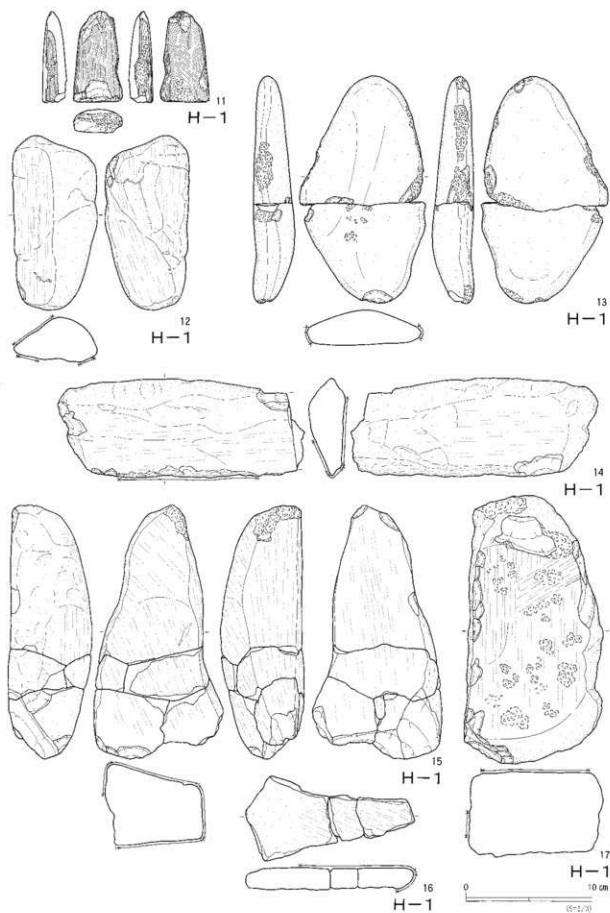


図65 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(1)

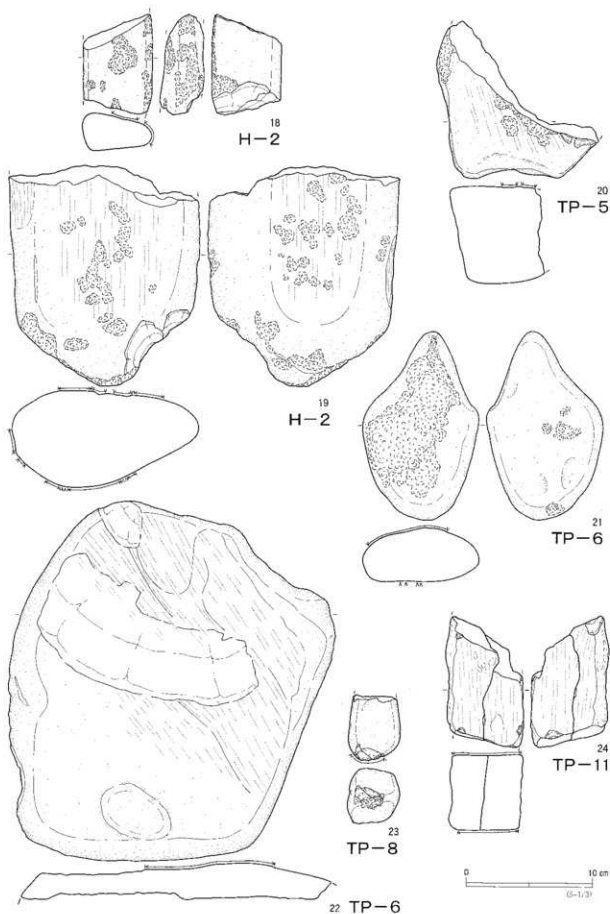


図66 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(2)

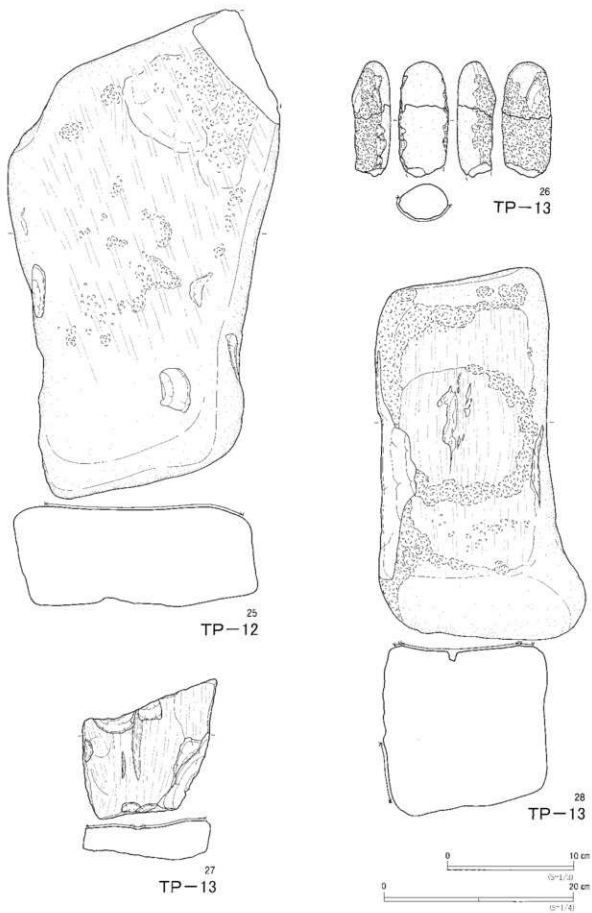


図67 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(3)

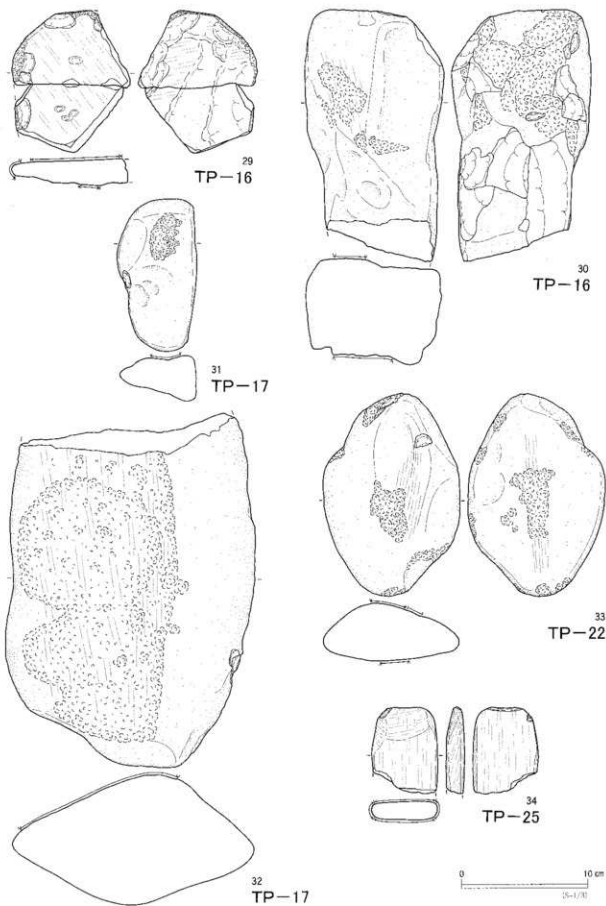


図68 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(4)

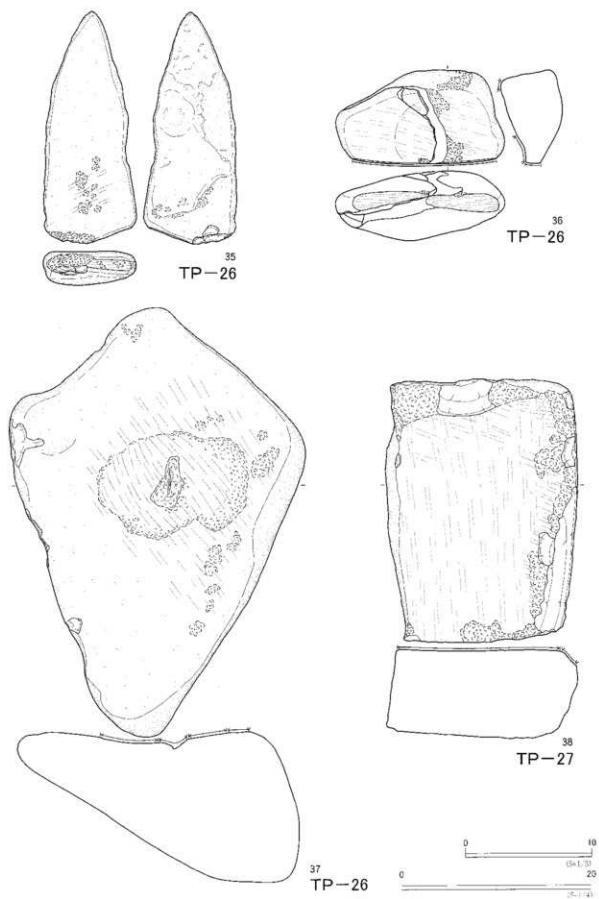


図69 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(5)

土で、表裏両面と右側面に明瞭な砥面がみられる。左側面の一部にもすり痕があり、いわゆる四面砥石である。16は板状の砂岩製で、表面と右側面に使用痕がある。17は台石・石皿で表面に平坦なすり面が残る。左側面の割れ面にも使用痕がみられる。

18・19はH-2出土である。18はたたき石で上下両端を破損する。たたき痕は、表裏両面のもは若干くぼみ、側面は細かいものが密集する。19は台石・石皿である。表裏両面にすり痕、たたき痕がみられ、表面のたたき痕は深く、凹状にくぼむ。

#### T P 出土

20はT P-5出土の台石・石皿で上部が破損する。表面に平坦なすり面とたたき痕がある。一部に黒色化と赤色化がみられる。21・22はT P-6出土である。21はたたき石で、表面にたたき痕が広範囲にみられる。22は台石・石皿で裏面が破損する。表面上部の大きな剥離の周辺にすり面があり、剥離面は黒色化する。23はT P-8出土のたたき石で、上部が破損する。尖った形状の下端部に剥落痕、たたき痕がみられる。24はT P-11出土の砥石である。表裏両面に平坦な砥面がある。25はT P-12出土の台石・石皿である。剥離痕や微細なたたき痕、すり面がみられる。26~28はT P-13出土である。26はたたき石で下端部を破損する。側面から裏面にかけたたたき痕があり、表面は黒色化する。27は砥石で、表面にくぼみ状の砥面があり、一部溝状の使用痕がみられる。28は台石・石皿で、表面と右側面に使用痕がある。表面の中央部分には曲線的にくぼむすり面と溝状の使用痕が数か所みられる。29・30はT P-16出土である。29は砥石で、表裏両面に平坦な使用痕がある。30は台石・石皿で、表裏両面に微細なたたき痕があり、表面にはすり痕もみられる。31・32はT P-17出土である。31はたたき石で、表面に凹状のたたき痕が1か所みられる。32は台石・石皿で、表面にすり痕と細かなたたき痕がある。33はT P-22出土のたたき石で、表裏両面の中央や側面にたたき痕がみられる。34はT P-25出土のすり石で下側部分を破損する。全体にすり面がある。35~37はT P-27出土である。35はたたき石で、表裏両面に使用痕が部分的にみられ、下端部にはたたき痕とすり痕がみられる。36は断面が三角形のすり石で、表面と下端部にすり面がある。37は台石・石皿である。表面の中央は敲打後に、使用されたと考えられ、曲線的にくぼむすり面がある。38はT P-27出土の砥石で、表面の全部と裏面上部の一部に平坦な砥面がある。39・40はT P-31出土の台石・石皿である。39は全体の約3分の1が残存し、平坦面に使用痕が確認できる。割れ面以外は赤色化、黒色化する。40は3点が接合し、およそ半分が残存する。表面は部分的にたたき痕、全体的にすり痕がみられる。

#### F 出土

41はF-1出土のたたき石で下端部が破損する。表裏両面に剥離痕とたたき痕があり、表面にはすり痕がある。

#### S 出土

42~46はS-1出土で、いずれも全体が赤色化し一部黒色化もみられる。42・43はすり石で、平坦面にすり痕があり、43には下端部にも使用痕がみられる。44~46は台石・石皿で、44は表裏両面にすり面、表面はたたき痕が部分的にみられる。45は4点が接合し、表面全体にすり痕がある。46は表面にたたき痕とすり痕がある。

### (2) 包含層出土の石器

#### 剥片石器(図71・72 表56 図版26)

1~15は石鏃である。1・2は三角形で、基部形状は1が直線的、2はやや内湾する。3~11は菱形である。3は小型で腹面に主要剥離面を広く残す。4は左側縁の先端部が破損する。5は左右非対称で、背面に原礫面を残し、全体に厚みがある。6は側縁部がやや鋸歯状である。7は先端部左側の

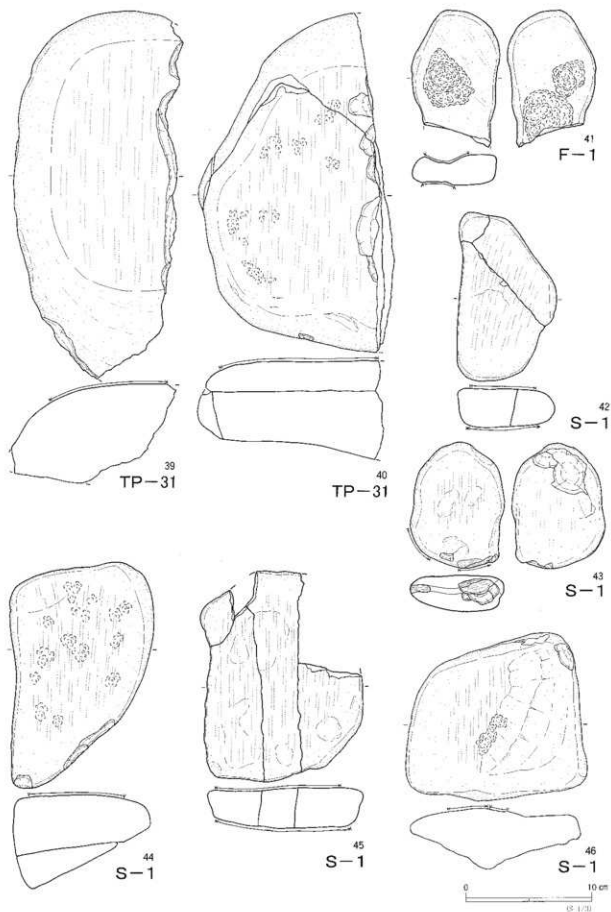


図70 上幌内4遺跡 遺構出土の礫石器(6)

折れ面を再加工し、形状を整えている。8は厚みがあり、左右非対称である。9は両面に丹念な加工がみられる。10は粗い二次加工が施され、側縁部が鋸歯状である。腹面は基部や周縁のみが加工される。11は細身で薄い。12～15は有茎である。12は先端部の右側縁がやや内湾する。13は刃部の左側縁が直線的、右側縁が曲線的である。14は両側縁が曲線的である。15は茎部が幅広で、左右非対称である。

16～21は石槍・ナイフである。16は頁岩製で長いものである。背面の下半部分は急角度の刃部で、中央部分は厚みが残る。17・18・19は側縁が鋸歯状である。18・19は厚みがあり、18は棒状に近い形状、19は比して粗い二次調整である。20は基部が直線的で、21は有茎で曲線的な刃部をもつ。

22～24は石錐である。22は棒状で、背面に原礫面を残す。腹面は広い剥離面があり、上下端部に二次加工が施される。23・24はつまみ付きナイフを転用したもので、背腹両面に広い剥離面が残る。23はつまみ部や下端部などの周縁に二次加工がみられる。被熱によるためか光沢がない。24は赤褐色を呈する黒曜石製である。側縁は急角度で、機能部は細い加工である。

25～29はつまみ付きナイフである。いずれも右側縁部に二次調整がみられ、下端部は尖る。25は上端部に原礫面を残す。26・27・28の右側縁の刃部は急角度である。26は背面と腹面右側縁に加工がみられ、27は刃部がやや内湾する。28は両面加工で、背面の右側縁の刃部は急角度で、腹面は平坦な剥離が施される。29は、ねじれのある剥片を素材とする。

30～39はスクレイパーである。30～34は縦長剥片の側縁に刃部をもつものである。30は背面に原礫面が広く残る。両側縁に刃部を有し、左側縁は鋸歯状である。31は右側縁が背面、左側縁は腹面に微細な剥離痕がある。32は左側縁にある刃部がやや内湾する。33は両側縁と下縁に刃部があり、後者は急角度である。34は背面の右側縁から下縁に原礫面が残り、左側縁に内湾する刃部がみられる。35は背面上部の両側縁と下縁に刃部がみられる。36は背腹両面に原礫面が残り、左側縁に外湾する刃部がある。37・38の刃部は外湾するものである。37は両側縁と下縁の一部に刃部があり、被熱によるためか光沢がない。38は円形で、上縁部を除く部分に曲線的な刃部がある。39は縦長の剥片の両側縁に抉れる部分があり、背面に微細な剥離痕がある。

40～44は石核で、40・41が黒曜石、42～44がチャートである。40は主に表面に剥離面があり、裏面と下端部は原礫面である。41は上部の原礫面を打面とする複数の剥離面がある。42は上面の打面からの剥離が多いが、一部下面からの剥離もみられる。43は裏面下半と下端部に原礫面があり、打面を変えて複数の剥離がなされる。44は上面からの複数の剥離痕が表面にみられ、裏面は原礫面である。

#### 礫石器(図73～77 表56 図版27～30)

45～47は磨製石斧である。45は裏面中央に溝状のすり面が斜めにみられ、その部分が黒色化する。46は細長い形状で両側面も研磨される。47は刃部に多くの剥離痕がみられる。

48～54はたたき石である。48は緑色泥岩製で全周縁に細かなたたき痕がみられる。49～51は広く平坦な面に複数の凹状のたたき痕がみられる。49は表面の中央付近に凹状のたたき痕が2か所あり、裏面にはすり痕と浅いたたき痕がある。50・51は表裏両面に2か所ずつ凹状のたたき痕がある。50は左側縁にすり痕とたたき痕がある。52は断面三角形の稜部に部分的なたたき痕があり、一部黒色化する。53は下端部と側縁部にたたき痕があり、表裏の平坦面にすり痕と部分的に浅いたたき痕がみられる。54は両側縁の上部にたたき痕がみられる。

55～60はすり石である。55はほぼ全面にすり痕がある。右側面には線状の深い使用痕がみられ、表面には凹状のたたき痕がある。56～58は扁平な礫の表裏両面にすり痕がある。56は上端部にたたき痕があり、57・58は全面に平滑な面がみられる。59は断面三角形の素材を用い、一つの稜に平坦なすり面、上端部に剥離痕とたたき痕がみられる。60は扁平な礫の下端部に平坦なすり面がある。上部は剥



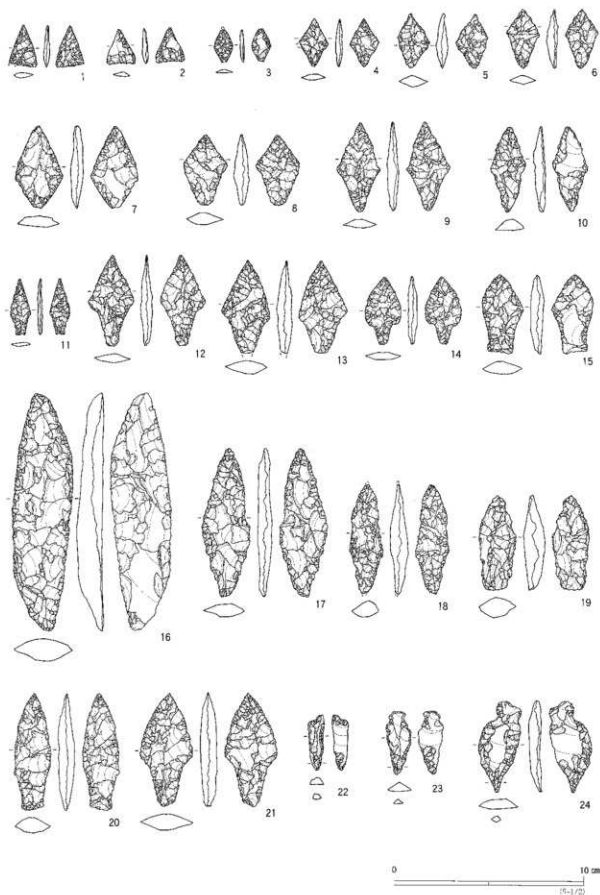


図71 上幌内4遺跡 包含層出土の剥片石器(1)

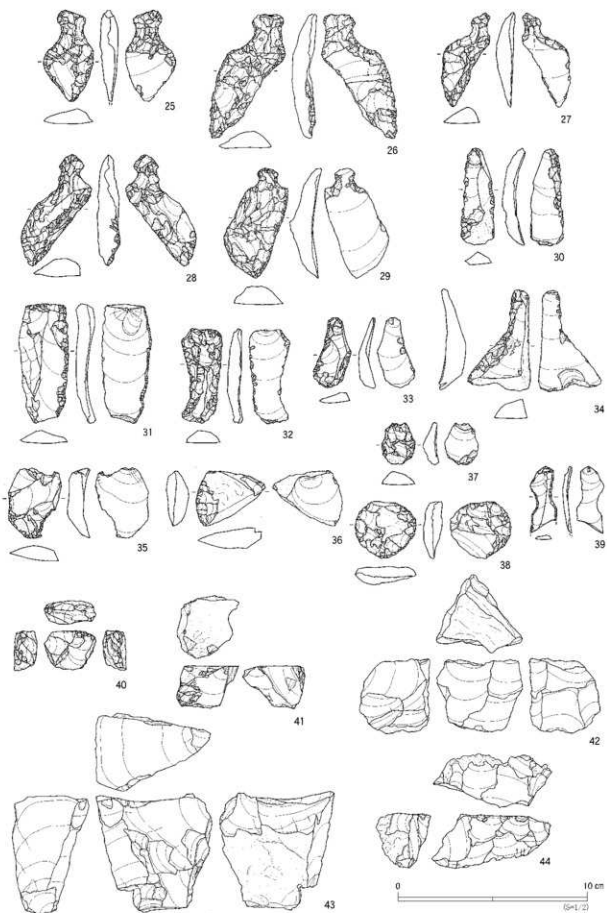


図72 上幌内4遺跡 包含層出土の剥片石器(2)

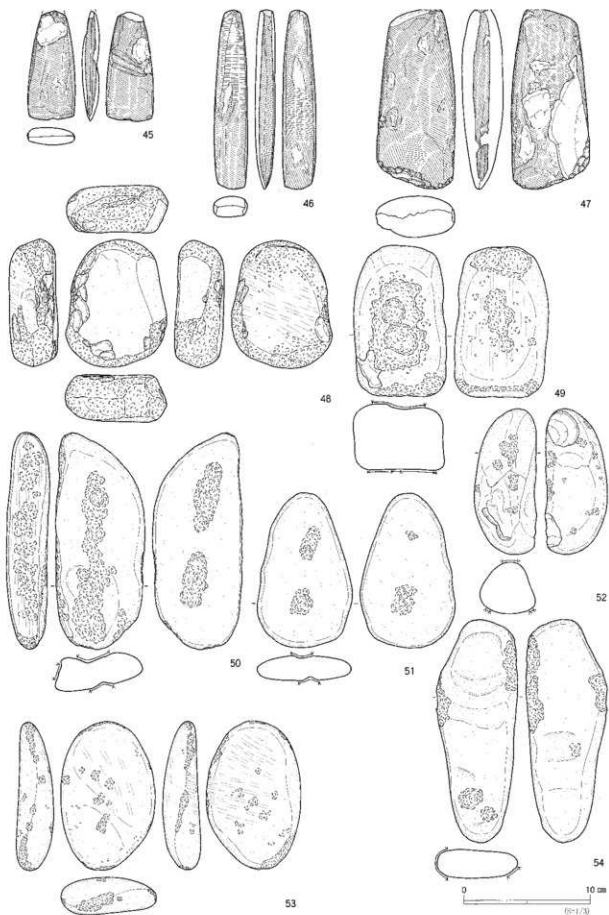


図73 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(1)

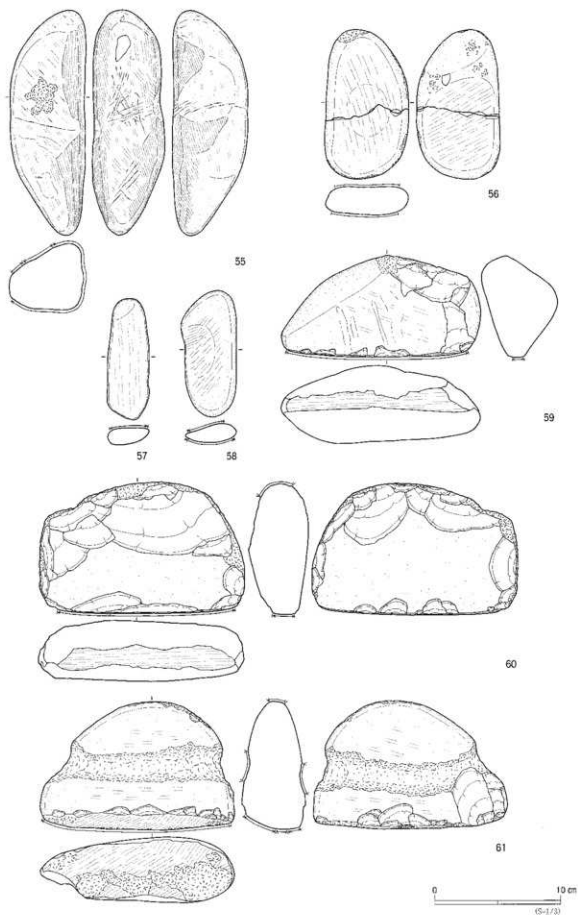


図74 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(2)

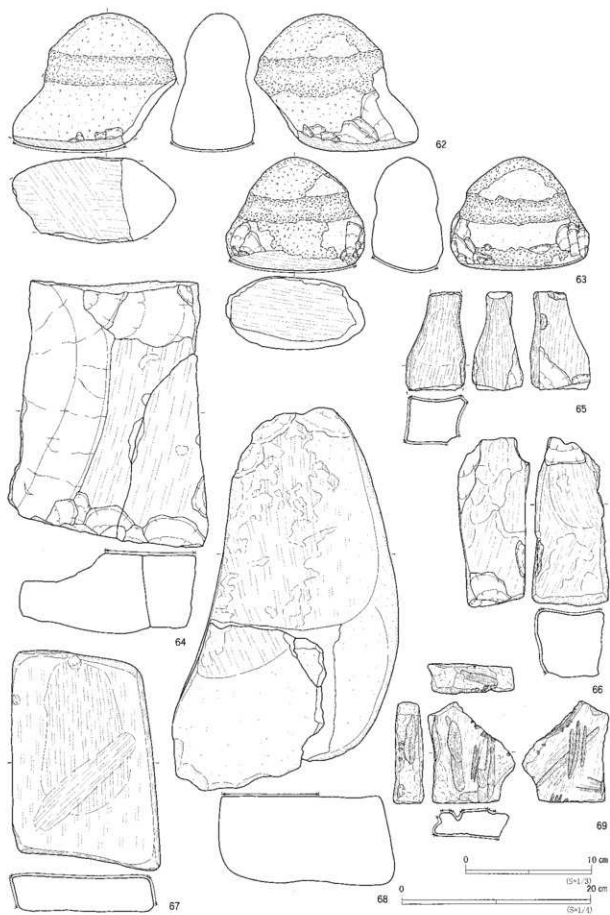


図75 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(3)

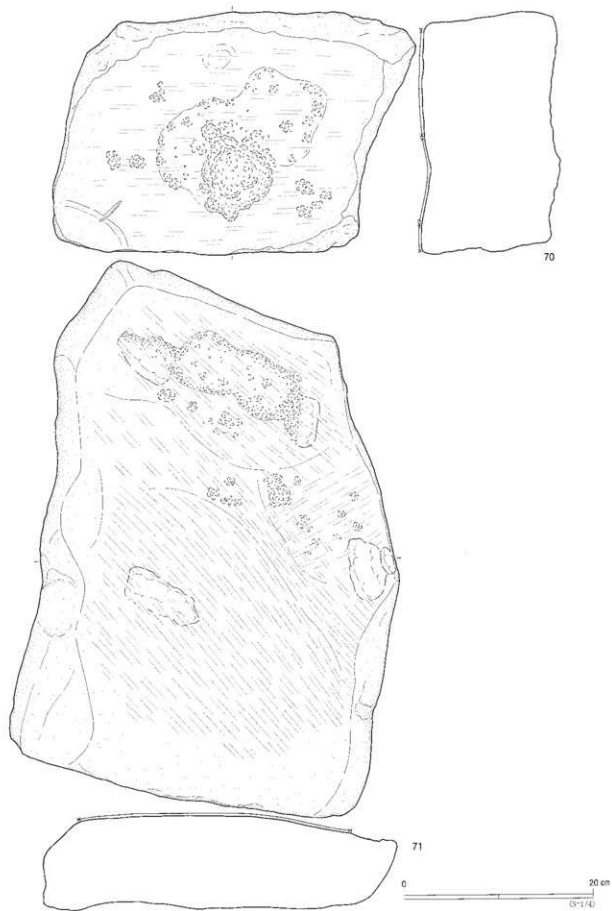


図76 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(4)

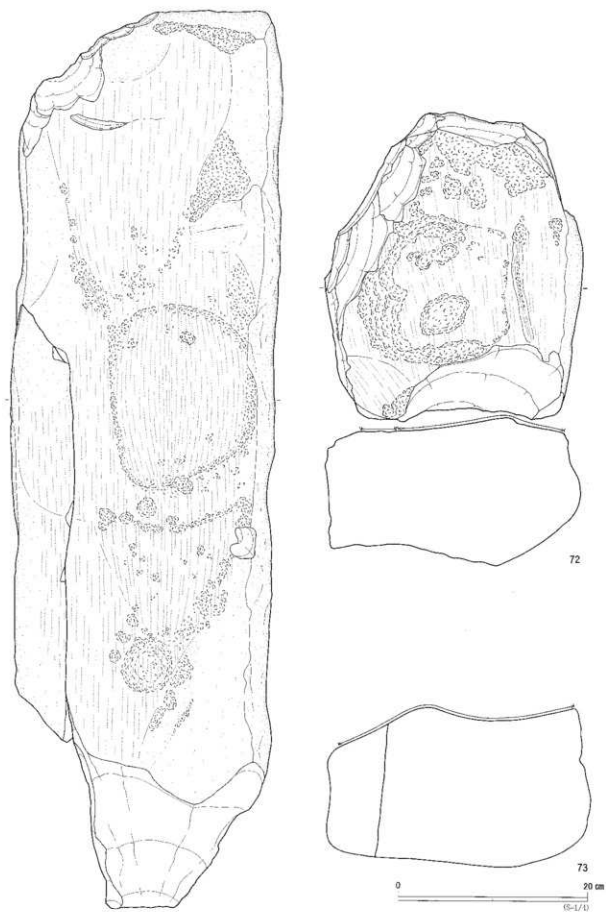


図77 上幌内4遺跡 包含層出土の礫石器(5)

離痕と敲打痕が残り、全体が赤色化する。

61～63は北海道式石冠である。扁平な礫を素材とし、下縁の形状は曲線的、下端面に幅広なすり面を有する。また、敲打による全周する溝状の加工がみられ、持ち手部分を作り出している。61は上端部とすり面にたたき痕がみられる。62は左右の側縁部が破損する。63は表裏両面の左右の下方に剥離痕がみられる。また、62・63の持ち手部分の敲打痕は磨滅し不明瞭である。

64～69は砥石である。64は板状の素材で表面に平坦な砥面と大きな剥離痕がある。65は表裏と側面に湾曲する砥面がみられる。66は角柱状の素材で表面と左側面に使用痕がある。67は扁平な礫を素材とし、表面に砥面、側面に使用痕がある。68は平たい礫の割れ面に使用痕がみられる。69は右側面以外に、平坦もしくは溝状の使用痕がある。

70～72は台石・石皿である。70はたたき痕が多いが、すり痕も確認できる。71はQ-26区のV層上面でみつかり、図化した面を上にした状態で出土した大型のものである(図版30)。表面に広くすり面がみられ、剥離痕やたたき痕もみられる。72は表面にすり面があり、中央付近は皿状にくぼむ。剥離痕やたたき痕も観察される。73はQ-25区のV層上面でみつかった大型の角柱状のもので、図化した面を上にした状態で出土した(図版30)。表面にはすり面とたたき痕があり、中央付近に明瞭なくぼみの使用面がある。上下端には剥離痕がみられ、下端部は尖る形状である。

#### 石製品(図78 表56 図版30)

74は深緑色を呈する橄欖岩製の玉で、円形かつ扁平である。上部に位置する孔は表裏両面から穿たれて、下端一部が破損する。75は砂岩製で、表裏両面の周縁に多数の線刻がみられる。全体が黒色化する。76は砂岩製で全面に研磨痕がみられ、上端部が尖り、下端部が丸い形状で、意図して作出したものか、使用の結果なのか判断できない。表裏両面の中央付近はややくぼみ、その周囲には溝状のすり痕がみられる。77・78は小型の北海道式石冠で、敲打による溝状の加工が全周し丹念に作られている。上端部にも敲打痕がみられ、下端面は、77はすり痕、78は割れ面である。

(末光)



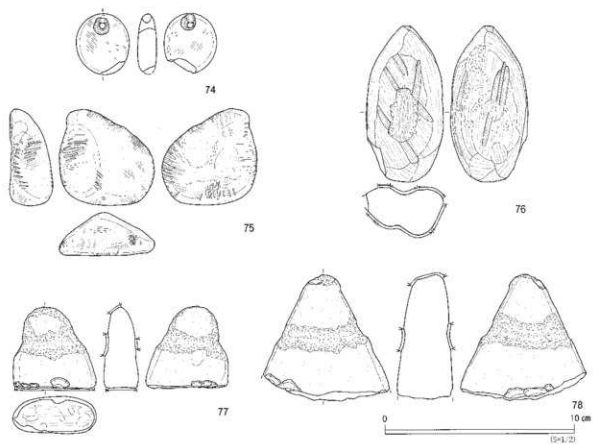


図78 上幌内4遺跡 包含層出土の石製品

表30 上幌内4遺跡 遺構出土土器点数表

遺構位置・層位 土層	F1		F2		F3		F4		F5		F6		F7		F8		F9		合計	
	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計		
遺構位置																			0	
I 竪穴	口縁部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0	
	胴部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0	
	底部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0	
	不明	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0	
	合計	12		12		12		12		12		12		12		12		12	0	
	II 竪穴	口縁部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		胴部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		底部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		不明	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		合計	12		12		12		12		12		12		12		12		12	0
III 竪穴		口縁部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		胴部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		底部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		不明	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		合計	12		12		12		12		12		12		12		12		12	0
	IV 竪穴	口縁部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		胴部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		底部	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		不明	3		3		3		3		3		3		3		3		3	0
		合計	12		12		12		12		12		12		12		12		12	0
合計		48		48		48		48		48		48		48		48		48	0	

遺構位置・層位 土層	F1		F2		F3		F4		F5		F6		F7		F8		F9		合計	合計	
	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計	遺構 番号	小計			
遺構位置																			0	0	
I 竪穴	口縁部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30	
	胴部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30	
	底部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30	
	不明	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30	
	合計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120	120	
	II 竪穴	口縁部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		胴部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		底部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		不明	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		合計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120	120
III 竪穴		口縁部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		胴部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		底部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		不明	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		合計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120	120
	IV 竪穴	口縁部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		胴部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		底部	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		不明	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30	30
		合計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120	120
合計		48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	480	480	



表32 上幌内4遺跡 遺構出土礫石器・レキ点数表

遺跡	遺構	層位	方位	形状	用途	調査年度																合計				
						昭和23年度		昭和24年度		昭和25年度		昭和26年度		昭和27年度		昭和28年度		昭和29年度		昭和30年度						
						小計	大計	小計	大計	小計	大計	小計	大計	小計	大計	小計	大計	小計	大計							
遺跡B	溝	遺構	北	直線	掘跡																					
		遺構	南	直線	掘跡																					
		遺構	東	直線	掘跡																					
		遺構	西	直線	掘跡																					
		小計																								
遺跡C	溝	遺構	北	直線	掘跡																					
		遺構	南	直線	掘跡																					
		遺構	東	直線	掘跡																					
		遺構	西	直線	掘跡																					
		小計																								
遺跡D	溝	遺構	北	直線	掘跡																					
		遺構	南	直線	掘跡																					
		遺構	東	直線	掘跡																					
		遺構	西	直線	掘跡																					
		小計																								
遺跡E	溝	遺構	北	直線	掘跡																					
		遺構	南	直線	掘跡																					
		遺構	東	直線	掘跡																					
		遺構	西	直線	掘跡																					
		小計																								

遺跡	遺構	層位	方位	形状	用途	調査年度																合計				
						昭和23年度		昭和24年度		昭和25年度		昭和26年度		昭和27年度		昭和28年度		昭和29年度		昭和30年度						
						小計	大計	小計	大計	小計	大計	小計	大計	小計	大計	小計	大計	小計	大計							
遺跡B	溝	遺構	北	直線	掘跡																					
		遺構	南	直線	掘跡																					
		遺構	東	直線	掘跡																					
		遺構	西	直線	掘跡																					
		小計																								
遺跡C	溝	遺構	北	直線	掘跡																					
		遺構	南	直線	掘跡																					
		遺構	東	直線	掘跡																					
		遺構	西	直線	掘跡																					
		小計																								
遺跡D	溝	遺構	北	直線	掘跡																					
		遺構	南	直線	掘跡																					
		遺構	東	直線	掘跡																					
		遺構	西	直線	掘跡																					
		小計																								
遺跡E	溝	遺構	北	直線	掘跡																					
		遺構	南	直線	掘跡																					
		遺構	東	直線	掘跡																					
		遺構	西	直線	掘跡																					
		小計																								

表33 上幌内4遺跡 包含層出土土器点数表

遺物種別 / 層位		III層		V層		その他 (I層・F層)		合計	
時期	部位	残存状態							
I群	複数部位								0
	口縁部	良好		63	65		0	63	65
		剥離	0	1		1			
		磨耗		1		1			
		小破片		18		18			
	底部	良好		19	19		0	19	19
		剥離	0			0			
		磨耗		1		1			
		小破片		1		1			
	胴部	良好		377	631	3	3	380	634
		剥離	0	88		88			
		磨耗		1		1			
		小破片		165		165			
	小計		0	715		3		718	
複数部位								0	
II群	口縁部	良好			0	0	0	0	
		剥離	0				0		
		磨耗					0		
		小破片					0		
	底部	良好			0	0	0	0	
		剥離	0				0		
		磨耗					0		
		小破片					0		
	胴部	良好		63	70	0	0	63	70
		剥離	0	7				7	
磨耗				0					
小破片				0					
小計		0	70		0		70		
複数部位								0	
III群	口縁部	良好	1	21	27	0	22	28	
		剥離		3			3		
		磨耗	1	1			1		
		小破片		2			2		
	底部	良好		15	21	3	3	18	24
		剥離	0	3		3			
		磨耗				0			
		小破片		3		3			
	胴部	良好	1	159	365	2	2	162	370
		剥離	2	97		99			
		磨耗		6		6			
		小破片		103		103			
	小計		4	413		5		422	
	複数部位								0
IV群	口縁部	良好		106	135	2	2	108	137
		剥離	0	21				21	
		磨耗		8				8	
		小破片		43				43	
	底部	良好		9	55	0	0	9	55
		剥離	0					0	
		磨耗		3				3	
		小破片		743				747	
	胴部	良好	1	897	3,512	3	8	900	3,521
		剥離		80		81			
磨耗			1	1					
小破片			1,792	1,794					
小計		1	3,702		10		3,713		
複数部位								0	
不明	口縁部	良好		1	1	0	1	1	
		剥離	0				0		
		磨耗					0		
		小破片					0		
	底部	良好		1	1	0	0	1	1
		剥離	0					0	
		磨耗						0	
		小破片						0	
胴部	良好		15	76	0	0	15	76	
	剥離	0	5				5		
	磨耗		8				8		
	小破片		48				48		
小計		0	78		0		78		
合計		5	4,978		18		5,001		

表34 上幌内4遺跡 包含層出土剥片石器点数表

器種名・分類 / 層位		III層	V層		その他 (I層・F層)		合計		
器種	残存状態		岩石	被熱等					
石鏃	完形	黒曜石	—	1	46			47	47
	準完形	黒曜石	—		8			8	8
	半形	黒曜石	—		3			3	3
	片	黒曜石	—		12			12	12
石槍・ナイフ	完形	黒曜石	—		10			10	11
		頁岩	—		1			1	
	準完形	黒曜石	—		3		1	4	4
	半形	黒曜石	—		9		1	10	11
		被熱	—		1			1	
	片	—	—		10			10	
		被熱	—		1			1	12
		頁岩	—		1			1	
石錐	完形	黒曜石	—		3			3	4
	片	黒曜石	—		1			1	
つまみ付きナイフ	完形	黒曜石	—		8			8	11
		頁岩	—		3			3	
	準完形	黒曜石	—		1			1	2
		頁岩	—		1			1	1
	半形	黒曜石	—		1			1	1
	片	黒曜石	—		1			1	1
スクレイパー	完形	黒曜石	—		26		1	27	28
		被熱	—		1			1	
	半形	黒曜石	—		3			3	4
		被熱	—		1			1	
片	黒曜石	—		9		1	10	10	
U・Rフレイク	黒曜石	—	1		59		4	64	68
		被熱	—		4			4	
	チャート	—					1	1	1
石核	黒曜石	—		2	8			8	8
	チャート	—	2		12			14	14
	—	—							
フレイク	黒曜石	—	52		3,319		77	3,448	4,661
		被熱	—		1,213			1,213	
	凝灰岩	—			1			1	1
	頁岩	—			1			1	1
	チャート	—			27			27	27
	蛇紋岩	—			1			1	1
原石	完形	チャート	—	1	3		1	5	
		蛇紋岩	—		2			2	8
		花崗岩	—		1			1	1
	半形	花崗岩	—		1			1	1
	片	チャート	—		3			3	3
合計				57	4,819		87	4,963	

表35 上幌内4遺跡 包含層出土礫石器・石製品・レキ点数表

遺跡	遺物名・形状・部位	数量	V層	VI層	VII層	その他 (I層～IV層)	合計
藤原石井	実形	1	69	0	0	1	71
	片	1	47			1	62
	実形	1	48			1	54
	片	1	137			5	148
	実形	1	137			5	148
	片	1	137			5	148
	実形	1	137			5	148
	片	1	137			5	148
	実形	1	137			5	148
	片	1	137			5	148
すり石	実形	11	73	0	0	2	86
	片	1	73			1	86
	実形	1	73			1	86
	片	1	73			1	86
	実形	1	73			1	86
	片	1	73			1	86
	実形	1	73			1	86
	片	1	73			1	86
	実形	1	73			1	86
	片	1	73			1	86
北海道式石鏡	実形	0	13	0	0	0	13
	片	0	13			0	13
	実形	0	13			0	13
	片	0	13			0	13
	実形	0	13			0	13
	片	0	13			0	13
	実形	0	13			0	13
	片	0	13			0	13
	実形	0	13			0	13
	片	0	13			0	13
網石	実形	0	130	0	0	1	131
	片	0	130			1	131
	実形	0	130			1	131
	片	0	130			1	131
	実形	0	130			1	131
	片	0	130			1	131
	実形	0	130			1	131
	片	0	130			1	131
	実形	0	130			1	131
	片	0	130			1	131
自然・石鏡	実形	0	168	0	0	11	177
	片	0	168			11	177
	実形	0	168			11	177
	片	0	168			11	177
	実形	0	168			11	177
	片	0	168			11	177
	実形	0	168			11	177
	片	0	168			11	177
	実形	0	168			11	177
	片	0	168			11	177
石製品	実形	1	0	0	0	0	1
	片	1	0			0	1
	実形	1	0			0	1
	片	1	0			0	1
	実形	1	0			0	1
	片	1	0			0	1
	実形	1	0			0	1
	片	1	0			0	1
	実形	1	0			0	1
	片	1	0			0	1
L・Rレキ	実形	201	3,820	3	0	77	4,101
	片	1	3,820			77	4,101
	実形	1	3,820			77	4,101
	片	1	3,820			77	4,101
	実形	1	3,820			77	4,101
	片	1	3,820			77	4,101
	実形	1	3,820			77	4,101
	片	1	3,820			77	4,101
	実形	1	3,820			77	4,101
	片	1	3,820			77	4,101
レキ	実形	17	445	0	1	8	471
	片	1	445			8	471
	実形	1	445			8	471
	片	1	445			8	471
	実形	1	445			8	471
	片	1	445			8	471
	実形	1	445			8	471
	片	1	445			8	471
	実形	1	445			8	471
	片	1	445			8	471
合計		218	4,265	3		85	4,332
合計		218	4,265	3		85	4,332

表36 上幌内4遺跡 H-1 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
56	1	17	H-1	層上土層	—	1	(12.4)	36.9	—	1,300	口縁～胴部上位	深鉢	IV群a型 余市式	
集合破片総点数			63	集合・同一器種破片出土地点・層位・遺物番号 (点数)			H-2区・V層・(58)、P-25区・V層・(4)							
粘土 (造粒材)		織織	黒	粒徑	粗～中粒		種類	卵石・瓦物 (ともにあり)		量	中～多量		備考	—
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
		ナデ	灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—	口唇部 (25%)		—	—	—		—		
		貼付帯 R.L.織文	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—	口唇部 (25%)		ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—		—		
		貼付帯 R.L.織文	灰黄褐色 (10YR6/2)	黒色化	—	胴部上半 (30%)		ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—		—		

表37 上幌内4遺跡 H-1・P S-5 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
56	2	17	H-1	基壇層上	8	6	(31.3)	—	7.6	1,910	胴部中位～底部	深鉢	IV群a型 余市式	
集合破片総点数			16	集合・同一器種破片出土地点・層位・遺物番号 (点数)			H-1・基壇層上・(2)(4)、P S-5・V層・(1)(3)、M-25区・V層・(1)、M-25区・V層・(2)							
粘土 (造粒材)		織織	少量	粒徑	中～中粒		種類	卵石主体		量	多量		備考	—
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
		貼付帯 R.L・L.R.羽状織文	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化 炭化物付着	破綻孔 1か所	胴部上半 (40%)		ナデ	(黒褐色)	黒色化		—		
		貼付帯 R.L・L.R.羽状織文	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	炭化物付着	—	胴部下半～底部 (40%)		—	(黒褐色)	黒色化		—		
		—	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—	底面 (40%)		—	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—		—		

表38 上幌内4遺跡 T P-21 出土復原土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物番号	破片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)	
							器高	口径	底径					
56	3	17	T P-21	層上土層	—	22	(27.8)	23.4	—	2,700	口縁～胴部下位	深鉢	IV群a型 余市式	
集合破片総点数			65	集合・同一器種破片出土地点・層位・遺物番号 (点数)			H-2区・V層・(80)							
粘土 (造粒材)		織織	黒	粒徑	粗～中粒		種類	卵石主体		量	多量		備考	—
外	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部位 (残存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	内			
		ナデ	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	—	口唇部 (40%)		—	—	—		—		
		貼付帯 L.R・R.L.羽状織文・M.L.織文・M.L.網目文	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	胴部端部の凹凸・短冊文付に一致する付着	口唇部 (40%)		ナデ (沈降文状の調整帯)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—		—		
		貼付帯 L.R・R.L.羽状織文	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	赤色化? 褐色 (7.5YR 5/2)	—	胴部上半 (30%)		ナデ (沈降文状の調整帯)	(黒褐色)	黒色化		—		
貼付帯 R.L・L.R.羽状織文	にぶい黄褐色 (7.5YR 6/4)	—	—	胴部下半 (40%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—						



表39 上幌内4遺跡 T P-26出土復原土器観察表

図番	図名	出土地点	層位	遺物番号	観片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
						器高	口径	底径						
56	4	17	TP-26	複土 土層	—	8	(18.8)	—	9.0	L.120	胴部中位 ～底座	深鉢	IV群a類 余布式	
観片 観片点数			24	観片 観片点数			総合・同一観片 観片点数							
結合観片 観片点数			24	結合・同一観片 観片点数			M-22区・V層・(1)、H-20区・V層・(1)、H-21区・V層・(1)、H-22区・V層・(3)							
出土地点・層位・遺物番号 (点数)			M-22区・V層・(1)、H-20区・V層・(1)、H-21区・V層・(1)、H-22区・V層・(3)											
粘土 (原料材)		織理	質	粒徑	中～粗粒			種類	灰物主体		量	中～多量	備考	—
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (保存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他			
	L.R・R.L羽状縄文		黒褐色色 (10YR5/4)	—	—	胴部上半		ナデ?	にぶい黒褐色 (10YR5/4)	—	垂尾			
	取付部 L.R縄文 Yコナデ		黒褐色色 (10YR5/4)	—	粘土の つなぎ目	胴部下半 ～底座		ナデ?	にぶい黒褐色 (10YR5/4)	黒色化 灰化物付着	磨耗			
	ナデ		黒褐色色 (10YR5/4)	—	—	底 座		ナデ?	—	—	—			

表40 上幌内4遺跡 T P-29出土復原土器観察表

図番	図名	出土地点	層位	遺物番号	観片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
						器高	口径	底径						
56	5	17	TP-29	複土 土層	—	1	(32.8)	24.3	—	3,200	口縁～ 胴部下位	深鉢	IV群a類 タブコブ式	
観片 観片点数			96	観片 観片点数			総合・同一観片 観片点数							
結合観片 観片点数			96	結合・同一観片 観片点数			L-22区・V層・(8)、M-22区・V層・(12)、H-21区・V層・(1)、O-22区・V層・(1)							
出土地点・層位・遺物番号 (点数)			L-22区・V層・(8)、M-22区・V層・(12)、H-21区・V層・(1)、O-22区・V層・(1)											
粘土 (原料材)		織理	質	粒徑	中～粗粒			種類	灰物主体		量	多量	備考	石英
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (保存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他			
	ナデ		明赤褐色 (5YR5/4)	黒色化	—	口 縁 部		ナデ	—	—	—			
	取付部 の文様 Yコナデ		黒褐色色 (7.5YR5/1)	黒色化	原形端部の 凹陥付着	口 縁 部		ナデ 指頭付着	明赤褐色 (5YR5/4)	—	—			
	R.L縄文		にぶい黒褐色 (7.5YR5/4)	黒色化	原形端部の 凹陥付着	胴部上半		ナデ 指頭付着	明赤褐色 (5YR5/4)	—	—			
R.L縄文		にぶい黒褐色 (7.5YR5/4)	—	—	胴部下半		ナデ	(黒褐色)	黒色化	—				

表41 上幌内4遺跡 S-1出土復原土器観察表

図番	図名	出土地点	層位	遺物番号	観片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)		
						器高	口径	底径						
56	6	17	S-1	V層	3	9	(26.7)	24.4	—	1,980	口縁～ 胴部下位	深鉢	IV群b類 北筒式	
観片 観片点数			35	観片 観片点数			総合・同一観片 観片点数							
結合観片 観片点数			35	結合・同一観片 観片点数			J-24区・V層・(1)、J-24区・V層・(12)、J-25区・V層・(7)、K-24区・V層・(6)							
出土地点・層位・遺物番号 (点数)			J-24区・V層・(1)、J-24区・V層・(12)、J-25区・V層・(7)、K-24区・V層・(6)											
粘土 (原料材)		織理	質	粒徑	中～粗粒			種類	灰石・灰物 と互にあり		量	多量	備考	石英・白色岩片
外 面	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (保存率)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他			
	ナデ		(黒褐色)	黒色化	—	口 縁 部		ナデ	—	—	—			
	円形刺突文 L.R・R.L起東第1種 羽状縄文		(黒褐色)	黒色化	縦径孔 1か所	口 縁 部		ナデ	黒褐色 (10YR5/1)	黒色化	—			
	L.R・R.L起東第1種 羽状縄文		にぶい黒褐色 (10YR5/4)	—	—	胴部上半		ナデ	黒褐色 (10YR5/1)	黒色化	—			
L.R・R.L起東第1種 羽状縄文		にぶい黒褐色 (10YR5/4)	—	—	胴部下半		—	黒褐色 (10YR5/1)	黒色化	—				

表42 上幌内4遺跡 P S-1 出土復原土器観察表

図	番号	図説	出土地点	層位	遺物番号	観片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
57	7	8	P S-1	V層	—	106	28.4	20.1	19.6	6,300	118~119底	産跡	器野a型 門内土層上層a式
観片断片 観片数			167	観片・同一観片断片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			S-24区・V層・(1)						
胎土 (産物材)		織織	黒	粒強	細粒	種類	瓦物主体	量	多量	備考	赤内練状の質片 (白色 チャート)		
外 堀	文様・調整		色調	使用の産跡	その他	部位 (保存率)	文様・調整	色調	使用の産跡	その他			
	胎付層 L・R熱結圧痕文	にぶい黄褐色 (10136/D)	—	—	突縁部 (75%)	口唇部	—	—	—				
	胎付層 L・R熱結圧痕文	にぶい黄褐色 (10136/D)	—	—	口唇部 (80%)	口縁部	—	—	—				
	胎付層 L・R熱結圧痕文	にぶい黄褐色 (10137/D)	—	—	口縁部 (80%)	口唇部	—	—	—				
	胎付層 L・R熱結圧痕文	にぶい黄褐色 (10137/D)	—	—	胴部	ミナギ	褐色 (7,5184/D)	黒色化	—				
	L・R・R1結束第1種 羽状縄文	にぶい褐色 (7,5185/D)	黒色化	—	胴部上半	夕子 ミナギ	褐色 (7,5184/D)	黒色化	—				
	L・R・R1結束第1種 羽状縄文	褐色 (7,5184/D)	赤色化 赤色 (10135/D)	—	胴部下半 ~底縁 (70%)	夕子 ミナギ	褐色 (7,5184/D)	黒色化	—				
	ナゾ	褐色 (7,5184/D)	—	やや上げ底	底縁	ミナギ	褐色 (7,5184/D)	—	—				

表43 上幌内4遺跡 P S-2 出土復原土器観察表

図	番号	図説	出土地点	層位	遺物番号	観片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
57	8	8	P S-2	V層	—	19	10.0	4.4	3.1	250	118~119底	注11土器	器野b型 子船式
観片断片 観片数			20	観片・同一観片断片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			R-24区・V層・(1)						
胎土 (産物材)		織織	黒	粒強	細粒	種類	瓦物主体	量	少量	備考	石質		
外 堀	文様・調整		色調	使用の産跡	その他	部位 (保存率)	文様・調整	色調	使用の産跡	その他			
	ミナギ	にぶい褐色 (7,5185/D)	—	—	口唇部 (100%)	口唇部	—	—	—				
	ミナギ	にぶい褐色 (7,5185/D)	—	—	口唇部 (80%)	ミナギ	灰褐色 (7,5184/D)	—	—				
	ミナギ	にぶい赤褐色 (5185/D)	—	—	胴部 (70%)	ナゾ	にぶい褐色 (7,5185/D)	—	—				
	粘土胎付 ミナギ	にぶい赤褐色 (5185/D)	—	—	縁口部 (100%)	—	—	—	—				
	花縄文 ミナギ	にぶい赤褐色 (5185/D)	—	—	胴部上半 (70%)	ナゾ	にぶい褐色 (7,5186/D)	—	—				
	花縄文 ミナギ	にぶい黄褐色 (10135/D)	—	—	胴部下半 ~底縁 (70%)	ナゾ	にぶい褐色 (7,5186/D)	—	—				
	ナゾ	にぶい黄褐色 (10135/D)	—	—	底縁 (100%)	ナゾ	にぶい褐色 (7,5186/D)	—	—				

表44 上幌内4遺跡 P S-3 A 出土復原土器観察表

図	番号	図説	出土地点	層位	遺物番号	観片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
57	9	8	P S-3 A	V層	—	111	(26.8)	30.5	—	1,678	118~119底 胴部下半	鉢	118b型 赤銅器IV式
観片断片 観片数			127	観片・同一観片断片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			P S-3 B・V層・(1)、Q-210区・V層・(1)、Q-24区・V層・(1)						
胎土 (産物材)		織織	黒	粒強	細粒	種類	瓦物主体	量	中量	備考	有色瓦物		
外 堀	文様・調整		色調	使用の産跡	その他	部位 (保存率)	文様・調整	色調	使用の産跡	その他			
	ナゾ	にぶい黄褐色 (10137/D)	黒色化	—	口唇部 (10%)	口唇部	—	—	—				
	横北気味の 瓦器文 土器文?	(灰褐色)	黒色化 炭化物付着	—	口唇部 (10%)	ヨコナ子 指環圧痕	灰褐色 (10135/D)	黒色化	—				
	横北気味の R・L熱結文 土器文?	(灰褐色)	黒色化 炭化物付着	—	胴部上半 (10%)	ヨコナ子 指環圧痕	にぶい黄褐色 (10137/D)	—	—				
	L結束部・R1結束部 羽状縄文	灰白色 (10138/D)	炭化物付着	—	胴部下半 (70%)	ヨコナ子 指環圧痕	にぶい黄褐色 (10137/D)	黒色化	—				

表45 上椽内4遺跡 P S-3 B出土復原土器観察表

図	番号	図層	出土地点	層位	遺物番号	切片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
57	10	Ⅷ	P S-3 B	V層	—	54	31.7	20.3	9.6	1層～底面	鉢	1層もみ 兼割断式	
総合切片取点数			59	総合・同一個体切片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			P-23区・V層 (2)、Q-23区・V層 (2)、R-23区V層 (1)						
粘土 (遺物材)			繊維	少量	粒徑	細粒	種類	卵石・瓦物 ともあり	量	少量	備考	—	
外	内	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (包含層)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	
		ナデ	にぶい黄褐色 (10YR5/2)	—	突起部 4小周	口縁部 ( 5%)							
		R右巻き 筋条押圧痕文	にぶい黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	—	口縁部 ( 15%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化	—			
		L右巻き・R左部曲 筋条押圧痕文 R右巻き	にぶい黄褐色 (10YR5/2)	—	—	胴部上半 ( 10%)	ヨコナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
		L右巻き・R左部曲 筋条押圧痕文	(黄)色 (7.5YR6/4)	赤褐色? 褐色 (7.5YR7/3)	—	胴部下半 ～底面 ( 5%)	ヨコナデ (工具のフタ?)	(黒褐色)	黒色化	—			
ナデ	黒褐色 (10YR5/1)	炭化物付着	平底	底面 ( 70%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR5/2)	黒色化	—					

表46 上椽内4遺跡 P S-5 出土復原土器観察表

図	番号	図層	出土地点	層位	遺物番号	切片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
58	11	Ⅷ	P S-5	V層	12	1	(17.6)	33.2	—	900	1層～ 胴部中心	深鉢	耳部1筋 粘土川式
総合切片取点数			17	総合・同一個体切片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			P S-5・V層・I筋(1)・II筋(1)・III筋(1)、L-23区・V層 (3)、M-23区・V層 (3)						
粘土 (遺物材)			繊維	中量	粒徑	中～粗粒	種類	卵石主体	量	少量	備考	—	
外	内	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (包含層)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	
		手織り管状工具 押引文字 刺引文字	にぶい褐色 (7.5YR5/2)	—	突起部 4小周	口縁部 ( 50%)							
		貼付(縦線) L右横文	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	黒色化 炭化物付着	—	口縁部 ( 50%)	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—			
		L右横文	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—	胴部上半 ( 35%)	ナデ	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—			
		L右横文	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	—	—	胴部下半 ( 10%)	ヨコナデ (工具のフタ?)	灰黄褐色 (10YR6/2)	—	—			

表47 上椽内4遺跡 P S-5 A出土復原土器観察表

図	番号	図層	出土地点	層位	遺物番号	切片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
58	12	Ⅷ	P S-5 A	V層	3	56	20.5	21.0	8.5	1層～底面	深鉢	耳部a筋 糸巾式	
総合切片取点数			68	総合・同一個体切片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)			P S-5 A・V層 (2)、M-23区・V層 (1)、H-23区・V層 (3)、H-23区・V層 (1)、P-23区・V層 (1)						
粘土 (遺物材)			繊維	無	粒徑	中粒	種類	卵石・瓦物 ともあり	量	中量	備考	—	
外	内	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部位 (包含層)		文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	
		ナデ	浅黄褐色 (10YR6/4)	黒色化	—	口縁部 ( 5%)							
		貼付帯 無文字 L右・R上横文	黄褐色 (10YR6/4)	黒色化 炭化物付着	縦方向 炭付 剥落?	口縁部 ( 5%)	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	磨耗			
		L右・R上 羽状横文	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	—	胴部の 同転圧痕	胴部上半 ( 70%)	—	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	磨耗			
		L右・R上 羽状横文	(赤)褐色 (7.5YR7/4)	赤褐色? にぶい褐色 (7.5YR7/4)	胴部の 同転圧痕	胴部下半 ～底面 ( 50%)	—	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黒色化?	磨耗			
ナデ	にぶい褐色 (7.5YR7/4)	—	—	底面 ( 10%)	—	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	—	—					

表48 上幌内4遺跡 P S - 5 B 出土復原土器観察表

図	番号	図説	出土地点	層位	遺物番号	観片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
58	13	19	PS-5B	V層	1	10	(36.4)	—	—	2,920	胴部 上唇~下唇	深鉢	IV群a類 余布式
総合観片観点数			44	総合・同一観片観片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			PS-5B・V層・2(40)、PS-5B・V層・(10)、M-23IX・V層・(41)、M-24IX・V層・(48)、M-25IX・V層・(11)、M-26IX・V層・(11)						
粘土(選別材)		織様	無	粒徑	中粒	種類	岩石主体		量	多量	備考	(断面縁状の習片)	
外 観	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内 観	
	L.R・R.L.羽状模文 L.R・R.L.羽状模文		黒褐色 (10YR7/3)	黒色化 炭化物付着	縁折孔 貫通：1か所	胴部上半 胴縁上唇 ( 80%)	ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		
	L.R・R.L.羽状模文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	—	—	胴部下半 ( 40%)	ナデ		(黒褐色)	黒色化	—		

表49 上幌内4遺跡 P S - 6 出土復原土器観察表

図	番号	図説	出土地点	層位	遺物番号	観片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
58	34	19	PS-6	V層	5	46	(37.8)	30.1	—	2,380	11縁~ 胴部下唇	深鉢	I群b類 葉形蹄舟式
総合観片観点数			104	総合・同一観片観片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			PS-6・V層・1(23)・2(5)・3(33)・4(42)、PS-6・V層・(39)、J-23IX・V層・(42)、K-23IX・V層・(6)						
粘土(選別材)		織様	無	粒徑	細粒	種類	瓦物主体		量	中量	備考	石灰・白色習片	
外 観	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内 観	
	ナデ		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	突起部 4か所	口 唇 部 ( 80%)	—		—	—	—		
	L.R右巻き 羽状模文		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—	口 唇 部 ( 80%)	ぼこナデ		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—		
	L.R右巻き 羽状模文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	炭化物付着	—	胴部上半 ( 80%)	ナデ		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—		
	L.R右巻き 羽状模文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	赤色化 褐色 (2.5YR7/3)	—	胴部下半 ( 70%)	ナデ		(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—		

表50 上幌内4遺跡 P S - 7 出土復原土器観察表

図	番号	図説	出土地点	層位	遺物番号	観片点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	器種	備考 (分類・型式)
							器高	口径	底径				
58	35	19	PS-7	V層	1~3	700	(57.6)	28.3	—	3,790	11縁~胴部	深鉢	IV群a類 胴内中野式
総合観片観点数			105	総合・同一観片観片 出土地点・層位・遺物番号(点数)			J-23IX・V層・(2) *現場での一次分類はすべてIV群						
粘土(選別材)		織様	極多量	粒徑	中粒	種類	岩石主体		量	少量	備考	白色陶片	
外 観	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	部 位 (残存率)	文様・調整		色調	使用の痕跡	その他	内 観	
	ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	黒色化	波状	口 唇 部 ( 80%)	—		—	—	—		
	L.R模文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	黒色化	縁折孔 貫通：2か所 内径小 溝高處：1か所	口 唇 部 ( 80%)	ナデ		(黒褐色)	黒色化	—		
	L.R模文		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—	胴部上半 ( 55%)	ナデ		(黒褐色)	黒色化	—		
	L.R模文		にぶい黄褐色 (10YR7/4)	赤色化 褐色 (2.5YR7/3)	剥離	胴部下半 ~底縁 ( 30%)	ナデ		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	—	—		
尖底		—	—	—	底 面 ( 80%)	—		—	—	剥離			

表51 上幌内4遺跡 R-25区出土復原土器観察表

図 番 号	図 録	出土地点	層位	遺物 番号	観片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部 位	器 種	備 考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
59	18	19	R-25区	V層	54	13.9	17.9	10.9	321	11種~底部	鉢	1器1種 兼銅器片式
観片点 数点			55	観合・同一観片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)		R-25区・V層・(1)						
胎土 (選別材)		繊維	量	粒径	細粒	種類	胎物主体	量	中~多量	備考	石炭	
外 観	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部 位 (保存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他			
	ナデ	(黒褐色)	黒色化	突起部:2か所 6-突起:2か所	口 縁 部 ( 80%)							
	L.R・R.L 羽状縄文	にじい褐色 (7.5185/D)	黒色化	—	口 縁 部 ( 80%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
	L.R・R.L 羽状縄文	にじい褐色 (7.5185/D)	—	—	胴部上半 ( 70%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
	L.R・R.L 羽状縄文	にじい褐色 (7.5185/D)	—	—	胴部下半 ~底縁 ( 80%)	ナデ	(黒褐色)	黒色化	—			
ナデ	にじい濃褐色 (10183/D)	—	平底	底 面 ( 40%)	ナデ	にじい濃褐色 (10183/D)	黒色化	—				

表52 上幌内4遺跡 K-23区出土復原土器観察表

図 番 号	図 録	出土地点	層位	遺物 番号	観片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部 位	器 種	備 考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
58	17	19	K-23区	V層	15	11.1	16.4	8.4	410	11種~底部	鉢	1器1種 兼銅器片式
観片点 数点			19	観合・同一観片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)		J-23区・V層・(4)						
胎土 (選別材)		繊維	少量	粒径	細粒	種類	胎物主体	量	中量	備考	—	
外 観	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部 位 (保存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他			
	ナデ	褐色 (7.5187/D)	炭化物付着	突起部:2か所	口 縁 部 ( 30%)							
	Rの左右部 不整な 羽状縄文	褐色 (7.5187/D)	黒色化?	—	口 縁 部 ( 30%)	ゴコ ナデ	(黒褐色)	黒色化	—			
	Rの左右部 不整な 羽状縄文	褐色 (7.5187/D)	黒色化?	頸部孔:1か所	胴部上半 ( 20%)	タテ ナデ	(黒褐色)	黒色化	—			
	—	褐色 (7.5187/D)	黒色化?	—	胴部下半 ~底縁 ( 20%)	タテ ナデ	(黒褐色)	黒色化	—			
ナデ	にじい褐色 (7.5187/D)	—	やや上り底	底 面 ( 80%)	ナデ	浅褐色 (10185/D)	—	—				

表53 上幌内4遺跡 R-24区出土復原土器観察表

図 番 号	図 録	出土地点	層位	遺物 番号	観片 点数	計測値 (cm)			重量 (g)	部 位	器 種	備 考 (分類・型式)
						器高	口径	底径				
58	18	19	R-24区	V層	44	18.5	15.5	8.7	836	11種~底部	浅鉢 小型	3器1種 餅缶式
観片点 数点			44	観合・同一観片 出土地点・層位・遺物番号 (点数)		—						
胎土 (選別材)		繊維	多量	粒径	細粒	種類	胎石主体	量	多量	備考	白色岩片	
外 観	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他	部 位 (保存率)	文様・調整	色調	使用の痕跡	その他			
	L.R縄文	にじい褐色 (7.5187/D)	黒色化 炭化物付着	—	口 縁 部 ( 80%)							
	L.R縄文	にじい褐色 (7.5187/D)	—	—	口 縁 部 ( 80%)	L.R縄文	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	—			
	L.R縄文	にじい褐色 (7.5187/D)	赤色化? 褐色 (7.5187/D)	—	胴部上半 ( 40%)	ゴコナデ (工具の痕跡)	にじい褐色 (7.5187/D)	黒色化	—			
	L.R縄文	にじい褐色 (7.5187/D)	赤色化? 褐色 (7.5187/D)	—	胴部下半 ~底縁 ( 40%)	ゴコナデ (工具の痕跡)	灰褐色 (10185/D)	黒色化	—			
L.R縄文	にじい褐色 (7.5185/D)	—	—	底 面 ( 30%)	ナデ	にじい褐色 (7.5187/D)	—	—				

表54 上幌内4遺跡 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(1)

品	番号	図紙	出土地点	層位	遺物番号	破片数		破片部位	重量(g)	器種	分類	備考(土器変式)
						小計	合計					
粘土(遺和材)												
					文様・装飾				色調		使用の痕跡	
時期		和洋	種類	外周	内周	(脚部)	外周	内周				
60	1	20	TP-8 K-25区 V層	磁土器	—	1	3	脚部	24.0	深鉢	IV群a類	—
なし			中～前期	瓦物土器 (石表)	瓦土織文	ナデ	—	—	褐色(0318/0)	(黄褐色)	—	黒色化
60	2	20	TP-13	磁土	—	1	3	脚部	9.0	深鉢	IV群a類?	—
中量			中期	瓦物土器	不明 (陶粒)	ナデ	—	—	褐色 (J.3197/0)	(黄褐色)	—	黒色化
60	3	20	TP-15	磁土器	—	1	3	脚部	23.0	深鉢	IV群a類	糸巾式
少量			前～中期	瓦石、瓦物 ともにあり	瓦土織文	—	—	(灰付部) 瓦土織文	褐色(0319/0)	褐色(03198/0)	—	黒化物付着
60	4	20	TP-20	磁土器	—	1	1	口縁部	3.0	深鉢	I群b類	東郷節式
中量			前～中期	瓦石、瓦物 ともにあり	瓦土織文	ナデ	—	(口縁部) ナデ	褐色(03198/0)	褐色(03198/0)	—	黒化物付着
60	5	20	TP-20	磁土器	—	1	3	胴部～底面	12.0	不明	I群b類	東郷節式
少量			中期	瓦物土器	無文ツ 素ツ	ナデ	—	—	褐色 (J.3198/0)	黄褐色 (J.317/0)	—	黒色化 黒化物付着
60	6	20	TP-21	磁土器	—	1	3	脚部	11.0	深鉢	IV群a類	—
なし			中～前期	瓦物土器 (石表)	瓦土織文	ナデ	—	—	黄褐色 (0319/0)	(黄褐色)	—	黒化物付着
60	7	20	TP-22	磁土器	—	1	3	脚部	13.0	深鉢	IV群a類	—
少量			中期	瓦石、瓦物 ともにあり	瓦土織文 縁部文	ナデ	—	—	褐色(0319/0)	(黄褐色)	—	黒色化 黒化物付着
60	8	20	TP-24	磁土器	—	1	1	口縁部	13.0	深鉢	IV群a類	糸巾式
なし			中期	瓦物土器	灰付部(斜線) 瓦土織文	ナデ	—	(灰付部)	黄褐色 (J.3197/0)	褐色 (J.3197/0)	—	黒化物付着
60	9	20	TP-25	磁土器	—	1	3	脚部	9.0	深鉢	IV群a類	—
少量			中期	瓦石、瓦物 ともにあり	瓦土織文	ナデ	—	—	褐色 (J.3198/0)	黄褐色 (0318/0)	—	黒色化
60	10	20	TP-25	磁土器	—	1	3	脚部	21.0	深鉢	IV群a類	—
中量			中期	瓦石、瓦物 ともにあり	瓦土織文	三ツ斗	—	—	褐色 (J.3198/0)	褐色(03198/0)	—	—
60	11	20	TP-27	磁土器	—	1	3	脚部	22.0	深鉢	IV群a類	—
中量			前～中期	瓦物土器 (石表)	瓦土織文	ナデ	—	—	褐色(0319/0)	(黄褐色)	—	黒色化 黒化物付着
60	12	20	TP-30 M-21区 V層	磁土器	—	1	3	脚部	12.0	深鉢	I群b類	東郷節式 縁部孔
微量			中期	瓦物土器	瓦土織文 瓦の右巻き 縁部斜線	ナデ	—	—	褐色(03197/0)	褐色(03197/0)	—	黒色化
60	13	20	TP-30	磁土器	—	1	3	底面	17.0	深鉢	IV群a類?	—
少量			中期	瓦物土器 (石表)	ナデ	ナデ	—	(底外面) ナデ	赤褐色 (0318/0)	(黄褐色)	—	黒色化 黒化物付着
60	14	20	P5-4	V層	—	1	3	口縁部	35.0	深鉢	I群b類	東郷節式
微量			中～前期	瓦物土器	瓦土織文 瓦土織文	ナデ	—	(口縁部) ナデ	褐色 (J.3197/0)	褐色(03197/0)	—	黒色化
60	15	20	P5-4	V層	—	1	3	口縁部	49.0	深鉢	I群b類	東郷節式 15:15同一群
微量			前～中期	瓦物土器	瓦土織文 瓦土織文 瓦土織文	ナデ	—	(口縁部) ナデ	褐色(03197/0)	黄褐色 (0318/0)	—	黒化物付着
60	16	20	P5-4	V層	—	1	3	脚部	46.0	深鉢	I群b類	東郷節式 15:15同一群
微量			前～中期	瓦物土器	瓦土織文 瓦土織文	ナデ	—	—	褐色(03197/0)	褐色(03197/0)	—	黒色化
60	17	20	P5-4	V層	—	1	3	胴部～底面	19.0	深鉢	I群b類	東郷節式
微量			前～中期	瓦物土器	瓦土織文 縁部斜線	ナデ	—	(底外面) ナデ	褐色 (J.3198/0)	褐色(03197/0)	—	黒化物付着
60	18	20	P5-6	V層	5	3	3	口縁部 (底外面)	34.0	深鉢	I群b類	東郷節式
少量			中期	瓦物土器	瓦土織文 瓦土織文	ナデ	—	(口縁部) ナデ	褐色(03198/0)	黄褐色 (0318/0)	—	黒色化 黒化物付着
60	19	20	P5-6	V層	—	1	3	脚部	44.0	深鉢	I群b類	東郷節式
少量			中期	瓦物土器	瓦土織文	ナデ	—	—	黄褐色 (0319/0)	(黄褐色)	—	黒色化 黒化物付着
60	20	20	P5-6	V層	—	1	3	胴部～底面	16.0	深鉢	I群b類	東郷節式
少量			中期	瓦物土器	ナデ	ナデ	—	—	黄褐色 (0318/0)	(黄褐色)	—	黒化物付着

表54 上幌内4遺跡 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(2)

遺 跡 番 号	図 録	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分 類	備考 (土器変式)
					小計	合計					
出土(遺物付)											
				文様・装飾				色調		使用の痕跡	
遺構	和名	種類		外周	内周	(即位)	外周	内周	外周	内周	
01	21	20	N-22区	V層	—	4	口縁部	63.0	深鉢	Ⅱ群b類	東網路式
なし	中程	瓦物主体			ナブ		(口縁部) ナブ	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化 炭化物付着	黒色化 炭化物付着
01	22	20	L-22区 N-22区	V層	—	1	口縁部	25.0	深鉢	Ⅱ群b類	東網路式
なし	短程	瓦物主体			ナブ		—	にぶい黄褐色 (0197/0)	にぶい黄褐色 (0197/0)	—	黒色化 炭化物付着
01	23	20	O-19区	V層	—	1	口縁部	23.0	深鉢	Ⅱ群b類	東網路式
少量	短程	瓦物主体			ナブ		—	にぶい褐色 (0196/0)	(黒褐色)	炭化物付着	黒色化 炭化物付着
01	24	20	N-22区	V層	—	3	胴部	33.0	深鉢	Ⅱ群b類	東網路式
なし	中程	瓦物主体			ナブ		—	にぶい黄褐色 (0197/0)	褐色 (0197/0)	赤褐色 にぶい褐色 (0196/0)	黒色化 炭化物付着
01	25	20	N-22区	V層	—	18	底部	101.0	深鉢	Ⅱ群b類	東網路式
なし	中程	瓦物主体			ナブ		(底内面) ナブ	にぶい褐色 (0197/0)	にぶい褐色 (0197/0)	黒色化	炭化物付着
01	26	20	R-27区	V層	—	1	底部	55.0	鉢?	Ⅱ群b類	東網路式
少量	短~中程	瓦物主体			ナブ		(底内面) 瓦器面文	黄褐色 (0196/0)	黄褐色 (0196/0)	—	黒色化 炭化物付着
01	27	20	N-22区	V層	—	1	口縁部	9.0	深鉢	Ⅱ群b類	
多量	短程	瓦器主体			ナブ		—	(黒褐色)	(黒褐色)	黒色化	炭化物付着
01	28	20	O-26区	V層	—	2	口縁部	49.0	深鉢	Ⅱ群b類	大森V式
多量	短程	瓦物主体			ナブ		(口縁部) L.R・瓦土 磨擦文・羽状溝文	にぶい黄褐色 (0197/0)	黄褐色 (0197/0)	炭化物付着	—
01	29	20	R-24区	V層	—	4	口縁部	108.0	深鉢	Ⅱ群b類	大森V式
多量	短~中程	瓦物主体			ナブ		(口縁部) L.R・瓦土 磨擦文・羽状溝文	灰白色 (0198/0)	にぶい黄褐色 (0196/0)	黒色化 炭化物付着 (0197/0)	—
01	30	20	M-22区	V層	—	1	口縁部	27.0	深鉢	Ⅱ群b類?	
中~多量	短~中程	瓦器・瓦物 土に赤石			ナブ		(口縁部) 瓦土磨擦文 ナブ	にぶい黄褐色 (0197/0)	にぶい褐色 (0197/0)	—	—
01	31	20	L-21区	V層	—	1	口縁部	37.0	深鉢	Ⅱ群b類	大森V式
多量	短~中程	瓦物主体			ナブ		(口縁部) L.R・瓦土 磨擦文 L.R磨擦文	(黒褐色)	黄褐色 (0196/0)	炭化物付着	黒色化 炭化物付着
01	32	20	M-25区 M-26区	V層	—	1	口縁部	62.0	深鉢	Ⅱ群b類	大森V式
多量	短~中程	瓦物主体			ナブ		(口縁部) L.R・瓦土 磨擦文	にぶい黄褐色 (0196/0)	黄褐色 (0196/0)	—	黒色化 炭化物付着
01	33	20	O-22区	V層	—	1	口縁部	26.0	深鉢	Ⅱ群b類	
中量	短~中程	瓦物主体			ナブ		—	灰白色 (0196/0)	(黒褐色)	炭化物付着	黒色化 炭化物付着
01	34	20	O-21区 O-22区	V層	—	1	口縁部	64.0	深鉢	Ⅱ群b類	大森V式
中量	短~中程	瓦物主体			ナブ		—	にぶい黄褐色 (0197/0)	(黒褐色)	—	黒色化 炭化物付着
01	35	20	L-22区	V層	—	8	胴部	81.0	深鉢	Ⅱ群b類?	
少量	短程	瓦物主体			ナブ・3付本		—	褐色 (0198/0)	(黒褐色)	赤褐色 にぶい黄褐色 (0196/0)	黒色化 炭化物付着
02	36	21	R-24区 S-24区	V層	—	3	口縁部 (炭化部)	143.0	深鉢	Ⅱ群b類	内周土器土層付式
中~多量	中~短程	瓦物主体			ナブ		(口縁部) 瓦器面付本 (炭化)	褐色 (0198/0)	(黒褐色)	—	黒色化
02	37	21	L-21区	V層	—	1	口縁部	36.0	深鉢	Ⅱ群b類	短~網2または3式
中量	中程	瓦物主体			磨耗 ナブ?		(口縁部) 磨耗 (貼付) 半截竹形瓦文	褐色 (0197/0)	にぶい黄褐色 (0197/0)	—	黒色化
02	38	21	J-24区	V層	—	3	口縁部	77.0	深鉢	Ⅱ群b類	相木川式
中量	短程	瓦器主体			貼付 磨擦文 L.R磨擦文		(口縁部) 磨擦文 (貼付) 磨擦付瓦文	褐色 (0197/0)	褐色 (0196/0)	—	—

表54 上幌内4遺跡 V層 遺構・包含層出土破片土器観察表(3)

遺 構 号	遺 跡	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分 類	備考 (土器形式)
					小計	合計					
色土 (遺和材)											
				文様・装飾				色調		使用の痕跡	
種類	形状	種類		外周	内周	(即位)	外周	内周	外周	内周	
62	39	Z1	K-23区	V層	—	1	口縁部	33.0	深鉢	青銅色	粘土式
少量	煎形	岩石主体		L.R.焼文 船付文	ナデ				黒褐色 (0193/1)	赤褐色 (0194/0)	黒色化
				L.R.焼文 船付文							
				L.R.焼文 船付文							
62	40	Z1	L-24区 Q-25区 S-25区	V層	—	1	口縁部	108.0	深鉢	青銅色	粘土式 口縁同一器体
少量	中へ煎形	岩石・瓦物 ともにあり		L.R.結末第1層 煎形焼文 内面の焼文	ナデ 3方弁				L.R.焼文 船付文	赤褐色 (0193/0)	黒色化 炭化物付着
				L.R.結末第1層 煎形焼文 内面の焼文							
				L.R.結末第1層 煎形焼文 内面の焼文							
62	41	Z1	N-21区 N-22区 N-26区	V層	—	1	胴部	141.0	深鉢	青銅色	粘土式 口縁同一器体
少量	中へ煎形	岩石・瓦物 ともにあり		L.R.結末第1層 煎形焼文 内面の焼文	ナデ 3方弁				L.R.焼文 船付文	赤褐色 (0193/0)	黒色化 炭化物付着
				L.R.結末第1層 煎形焼文 内面の焼文							
				L.R.結末第1層 煎形焼文 内面の焼文							
62	42	Z1	S-25区	V層	—	1	口縁部	36.0	深鉢	青銅色	—
中へ少量	煎形	瓦物主体		L.R.焼文 半煎形煎文	L.R.焼文 半煎形煎文	縁部文 キマゴツ			L.R.焼文 (0193/0)	L.R.焼文 (0193/0)	炭化物付着
				L.R.焼文 半煎形煎文							
				L.R.焼文 半煎形煎文							
62	43	Z1	K-24区	V層	—	1	口縁部	33.0	深鉢	青銅色	土物式 口縁同一器体
微量	煎へ中煎	瓦物主体		仰口文 内煎形焼文	ナデ				L.R.焼文 (0193/0)	褐色 (0193/0)	黒色化
				仰口文 内煎形焼文							
				仰口文 内煎形焼文							
62	44	Z1	K-24区 L-24区	V層	—	2	胴部	63.0	深鉢	青銅色	土物式 口縁同一器体
少量	煎へ中煎	瓦物主体		L.R.焼文 煎文 無文	ナデ				L.R.焼文 (0193/0)	褐色 (0193/0)	黒色化
				L.R.焼文 煎文 無文							
				L.R.焼文 煎文 無文							
62	45	Z1	N-29区 L-22区	V層	—	3	口縁部	156.0	深鉢	青銅色	粘土式
中へ多量	煎形	瓦物主体		煎形 仰口文・煎文 L.R.焼文	ナデ (工具のフタ?)				L.R.焼文 (0193/0)	褐色 (0193/0)	炭化物付着
				煎形 仰口文・煎文 L.R.焼文							
				煎形 仰口文・煎文 L.R.焼文							
62	46	Z1	L-23区 L-24区	V層	—	2	口縁部	126.0	深鉢	青銅色	粘土式
中量	煎へ中煎	瓦物主体		L.R.焼文 半煎形仰口文 (煎文)	ナデ				L.R.焼文 (0193/0)	L.R.焼文 (0193/0)	黒色化
				L.R.焼文 半煎形仰口文 (煎文)							
				L.R.焼文 半煎形仰口文 (煎文)							
63	47	Z1	N-20区 N-22区	V層	—	2	口縁部	61.0	深鉢	青銅色	余市式
無	煎へ中煎	瓦物主体		L.R.焼文 船付文 ナデ	ナデ				L.R.焼文 (0193/0)	L.R.焼文 (0193/0)	黒色化
				L.R.焼文 船付文 ナデ							
				L.R.焼文 船付文 ナデ							
63	48	Z1	L-21区	V層	—	1	口縁部	99.0	深鉢	青銅色	余市式
無	中へ煎形	岩石・瓦物 ともにあり		L.R.焼文 船付文	ナデ				L.R.焼文 (0193/0)	L.R.焼文 (0193/0)	赤褐色 (0193/0)
				L.R.焼文 船付文							
				L.R.焼文 船付文							
63	49	Z1	Q-27区 V層 Q-28区	V層	—	2	口縁部	491.0	深鉢	青銅色	余市式
無	煎へ中煎	瓦物主体		L.R.・R.L. 煎形焼文 船付文 ナデ	ナデ				L.R.焼文 (0193/0)	L.R.焼文 (0193/0)	黒色化 炭化物付着
				L.R.・R.L. 煎形焼文 船付文 ナデ							
				L.R.・R.L. 煎形焼文 船付文 ナデ							
63	50	Z1	S-24区	V層	—	4	口縁部	85.0	深鉢	青銅色	タゴコブ式
無	煎形	岩石主体		L.R.焼文 煎文	ナデ (工具のフタ?)				L.R.焼文 (0193/0)	褐色 (0193/0)	—
				L.R.焼文 煎文							
				L.R.焼文 煎文							
63	51	Z1	K-24区	V層	—	2	口縁部	38.0	深鉢	青銅色	タゴコブ式
少量	中煎	瓦物主体		(煎形) 煎形焼文	ナデ				L.R.焼文 (0193/0)	赤褐色 (0193/0)	—
				(煎形) 煎形焼文							
				(煎形) 煎形焼文							
63	52	Z1	L-22区	V層	—	1	口縁部	36.0	深鉢	青銅色	—
少量	煎形	岩石・瓦物 ともにあり		L.R.焼文	ナデ				L.R.焼文 (0193/0)	(黒褐色)	黒色化
				L.R.焼文							
				L.R.焼文							
63	53	Z1	L-21区	V層	—	3	底面	54.0	深鉢	青銅色	—
少量	中煎	瓦物主体 (石)		ナデ	ナデ				赤褐色 (0194/0)	(黒褐色)	—
				ナデ							
				ナデ							
63	54	Z1	P-26区	V層	—	5	底面	55.0	深鉢	青銅色	—
少へ中量	煎形	岩石主体		L.R.焼文	煎形				L.R.焼文 (0193/0)	L.R.焼文 (0193/0)	—
				L.R.焼文							
				L.R.焼文							
63	55	Z1	Q-26区	V層	—	3	底面	68.0	深鉢	青銅色	—
少量	中煎	岩石・瓦物 ともにあり		L.R.焼文	煎形				赤褐色 (0193/0)	赤褐色 (0193/0)	赤褐色 (0193/0)
				L.R.焼文							
				L.R.焼文							



表55 上幌内4遺跡 V層 遺構出土石器等観察表(1)

図	遺構 番号	図面	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		持ち 状態	特徴 観察事項	備考
							長さ	幅	厚さ		原石名	特徴			
64	1	22	H-1	覆土状態	—	石剣・ナイフ	(3.7)	3.5	0.9	14.2	黒輝石	—	準完成	後部基部破損	被熱
	2	22	H-1	床面	1	つまみ付きナイフ	13.9	4.0	1.5	58.9	黒輝石	原表面残る	完成	大型 両面加工 原表面	
	3	22	TP-4	覆土状態	—	石鏃	(2.2)	1.5	0.4	1.2	黒輝石	—	半部	先端部破損	
	4	22	TP-16	覆土状態	—	石鏃	5.0	2.5	0.7	4.8	黒輝石	小球果	完成	左右非対称	
	5	22	TP-16	覆土状態	—	つまみ付きナイフ	6.0	4.1	1.0	15.3	黒輝石	球果	完成	両面加工	
	6	22	TP-16	覆土状態	—	スクレイパー	4.1	3.6	1.5	16.9	黒輝石	原表面残る	完成	両側縁面曲状	
	7	22	TP-25	覆土状態	—	つまみ付きナイフ	5.6	3.0	1.2	14.4	黒輝石	—	完成	両面加工	
	8	22	TP-25	覆土状態	—	スクレイパー	5.2	2.3	1.1	8.8	黒輝石	—	完成	背面両側縁 下部に刃部	
	9	22	FC-1	V層	—	スクレイパー	(2.1)	2.9	0.7	3.5	黒輝石	—	半部	両面加工	
	10	22	FC-1	V層	—	石杖	4.6	3.5	1.8	27.2	黒輝石	小球果 筋状	—	—	原表面 破損面
65	11	22	H-1	覆土状態	—	磨製石斧	7.2	3.9	1.9	80	緑色花崗	—	半部	両側面 下部に両側面 に磨打痕	
	12	22	H-1	覆土状態	—	すり石	15.8	6.7	3.5	440	片岩	緑灰色 H65/71	完成	表面にすり痕	
	13	22	H-1	床面直上 覆土状態	5	たたき石	17.9	10.0	3.3	572	砂岩	灰オリーブ色 515/7	完成	両側面にたたき痕	接合 被熱
	14	22	H-1	床面直上	7	すり石	(19.4)	7.8	3.1	555	砂岩	緑 黄灰色 2.516/1	準完成	表面下部と 下部にすり痕	被熱
	15	22	H-1	床面	18	砥石	20.0	10.2	6.6	1,155	砂岩	緑 灰色 315/1	片	両面に使用痕	被熱
	16	22	H-1	床面直上	10	砥石	12.4	6.8	1.7	148.9	砂岩	中粒 暗黄灰色 2.511/2	片	表面と右側縁に すり痕	接合
	17	22	H-1	床面	19	台石・石皿	21.2	10.9	7.0	2,200	砂岩	中粒 暗黄灰色 2.513/3	片	表面と右側縁に すり痕	
66	18	22	H-2	覆土状態	—	たたき石	07.90	5.5	3.5	168.2	砂岩	粗粒 暗黄灰色 2.513/2	片	表面と右側縁に たたき痕 上下基部破損	
	19	22	H-2	床面	2	台石・石皿	(17.4)	13.1	7.6	2,400	砂岩	粗粒 暗黄灰色 2.513/2	半部	表面に たたき痕とすり痕 上部破損	
	20	23	TP-5	覆土状態	—	台石・石皿	(12.4)	(12.8)	7.7	950	砂岩	中粒 黄灰色 2.518/2	片	表面に すり痕とたたき痕	被熱
	21	23	TP-6	覆土状態	—	たたき石	14.9	9.2	4.9	560	凝灰岩	粗粒 黄灰色 2.517/3	完成	表面にたたき痕	
	22	23	TP-6	覆土状態	—	台石・石皿	28.4	25.8	5.0	3,400	砂岩	粗粒 黄灰色 2.516/2	片	表面すり痕	被熱
	23	23	TP-8	覆土状態	—	たたき石	(5.2)	4.1	4.3	83.0	凝灰岩	粗粒 黄灰色 2.517/2	片	下部に たたき痕と剥落痕 上部破損	
	24	23	TP-11	覆土状態	—	砥石	(10.3)	6.2	5.9	500	砂岩	粗粒 暗黄灰色 2.513/2	片	表面にすり痕	
	25	23	TP-12	覆土状態	—	台石・石皿	38.6	21.5	7.9	9,720	砂岩	粗粒 暗黄灰色 2.513/2	完成	表面に すり痕とたたき痕	
67	26	23	TP-13	覆土状態	—	たたき石	09.11	4.0	2.1	124.8	砂岩	粗粒 にぶい黄褐色 2.518/3	準完成	側縁から表面に たたき痕 下部破損	被熱
	27	23	TP-13	覆土状態	—	砥石	11.0	10.6	3.1	380	砂岩	粗粒 暗黄灰色 2.513/3	片	表面に破損	
	28	23	TP-13	覆土状態	—	台石・石皿	39.4	22.2	17.9	24,200	砂岩	粗粒 暗黄灰色 2.513/2	完成	表面と右側縁に すり痕 表面に溝状のくぼみ	被熱
	29	24	TP-16	覆土状態	—	砥石	(11.2)	08.0	2.2	202	砂岩	粗粒 暗黄灰色 2.513/2	片	表面にすり痕	被熱
68	30	24	TP-16	覆土状態	—	台石・石皿	(19.8)	11.0	10.0	2,530	砂岩	粗粒 暗黄灰色 2.513/2	片	表面にたたき痕 表面すり痕	
	31	24	TP-17	覆土	—	たたき石	12.0	6.3	3.6	300	砂岩	中粒 暗黄灰色 2.515/2	完成	表面に 凹状のたたき痕	
	32	24	TP-17	覆土状態	—	台石・石皿	(28.0)	19.7	10.3	6,250	砂岩	中粒 暗黄灰色 2.515/2	完成	表面に たたき痕とすり痕	
	33	24	TP-22	覆土状態	—	たたき石	15.9	10.8	4.5	850	砂岩	粗粒 暗黄灰色 2.513/2	完成	表面の中央と側縁部に たたき痕	
	34	24	TP-25	覆土状態	—	すり石	(6.8)	3.2	1.5	68.5	砂岩	中粒 暗黄灰色 2.515/2	片	全面にすり痕 下部破損	

表55 上幌内4遺跡 V層 遺構出土石器等観察表(2)

図	遺跡 番号	発掘 段階	出土地点	層位	遺物 番号	器種	計測値 (cm)		重量 (g)	石材		保存 状態	特徴 観察事項	備考
							長さ	幅		厚さ	前石名			
69	35	24	TP-26	覆土B層	—	たたき石	18.3	7.3	2.7	459	砂岩	定形	表裏面と下端面に たたき痕 下端面すり痕	
	36	24	TP-26	覆土B層	—	すり石	7.4	13.3	3.5	450	砂岩	準定形	表面と一側縁部に すり痕	
	37	24	TP-26	覆土B層	—	台石・石皿	45.3	31.3	13.9	30,400	砂岩	定形	表面にすり痕 溝状のくぼみ	
	38	25	TP-27	覆土B層	—	砥石	20.8	15.1	7.0	3,720	砂岩	片	両面に砥面	
70	39	25	TP-31	覆土B層	—	台石・石皿	129.0	113.3	7.9	2,400	砂岩	片	表面にすり痕	焼熟
	40	25	TP-31	覆土B層	—	台石・石皿	28.7	115.3	7.9	3,650	砂岩	片	表面に すり痕とたたき痕	
	41	25	F-1	R層	—	たたき石	108.8	7.0	2.4	242.5	砂岩	片	表裏面にたたき痕 下部破損	焼熟
	42	25	S-1	V層	5	すり石	13.3	7.8	3.4	470	砂岩	定形	表面にすり痕	焼熟 接合
	43	25	S-1	V層	13	すり石	9.9	7.4	3.9	282	砂岩	定形	表面にすり痕 下端面にたたき痕	焼熟
	44	25	S-1	V層	2・4	台石・石皿	17.9	11.4	7.8	1,298	砂岩	定形	表面にたたき痕	焼熟 接合
	45	25	S-1	V層	7・8・9	台石・石皿	16.7	12.8	3.6	839	砂岩	準定形	表面にすり痕	焼熟 接合
	46	25	S-1	V層	12	台石・石皿	13.2	14.3	3.8	1,947	砂岩	定形	表面に すり痕とたたき痕	焼熟

表57 上幌内4遺跡 フローテーション法回収遺物一覧表

年度	資料 番号	採取 年月日	採得場所 (発掘調査区画)	遺構名	採取地点 (付随遺構名)	層位	土壌試料		水洗後 乾燥状態			自然遺物				人工遺物		備考	
							乾燥状態	含水 率(%)	種類	個数	重量 (g)	種類	遺構名	動物 遺体	炭化材 炭化物	土器	石製物		
																	重量 (g)		個数
平成27 (2015)年度	—	2015/8/28	発射機調査 帯代発掘区画B区	H-2	b-f-1	雑土	55.6	5.3	2013/10/14	焼土	1.45g	11.0	—	—	—	—	—	—	—
	浮遊物	2.29g								1.7	—	—	—	—	—	—			
	焼土	3.425g	1.4	—	—	—	—	—	—										
	浮遊物	1.45g	10.0	—	—	—	—	—	—										
平成28 (2016)年度	—	2016/6/6	炭化種子 調査区画B区	UF-1	—	雑土	5.239	1.5	2016/9/12	焼土	2.96g	3.6	—	—	—	—	—	—	植物遺存物は すべて土壌化 である
	浮遊物	0.425g								3.9	—	—	—	—	—	—			
	浮遊物	1.45g	11.0	—	—	—	—	—	—										
	浮遊物	0.425g	3.9	—	—	—	—	—	—										

表56 上幌内4遺跡 V層 包含層出土石器等観察表(1)

図	遺構 番号	図面	出土地点	層位	遺物 番号	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		保存 状態	特徴 観察事項	備考
							長さ	幅	厚さ		原石名	特徴			
71	1	26	O-22区	V層	—	石錐	2.2	1.3	0.3	0.7	黒曜石	—	完整	基部 直線的	
	2	26	O-22区	V層	—	石錐	1.9	1.3	0.3	0.6	黒曜石	—	完整	基部 ゆるい湾	
	3	26	R-25区	V層	—	石錐	(1.7)	1.0	0.2	0.3	黒曜石	—	準完整	小形 断面に割線面	
	4	26	M-23区	V層	—	石錐	2.3	1.3	0.4	0.9	黒曜石	小球葉 巻状	完整	断面に割線面	
	5	26	O-22区	V層	—	石錐	2.9	1.7	0.6	1.6	黒曜石	小球葉 巻状	完整	左右非対称 背面に原線面	
	6	26	O-22区	V層	—	石錐	3.1	1.8	0.6	1.9	黒曜石	小球葉 巻状	完整	側線部 磨面状	
	7	26	N-21区	V層	—	石錐	4.4	2.3	0.6	3.3	黒曜石	—	完整	先端部 折断面内加工	
	8	26	O-21区	V層	—	石錐	3.7	3.3	0.5	4.4	黒曜石	—	完整	左右非対称	
	9	26	M-19区	V層	—	石錐	4.7	3.3	0.6	3.7	黒曜石	—	完整	扁平割線	
	10	26	S-25区	V層	—	石錐	4.3	1.9	0.6	3.3	黒曜石	—	完整	側線部断面状 断面に割線面	
	11	26	N-24区	V層	—	石錐	3.0	1.1	0.2	0.6	黒曜石	—	完整	湾い	
	12	26	P-22区	V層	—	石錐	4.8	3.4	0.6	3.9	黒曜石	—	完整	石錐線部 内湾	
	13	26	O-22区	V層	—	石錐	(4.9)	2.6	0.9	6.6	黒曜石	—	完整	左側線部 直線的 右側線部 曲線的	
	14	26	L-23区	V層	—	石錐	2.6	1.9	0.5	2.4	黒曜石	—	完整	側線部 巻状	
	15	26	M-23区	V層	—	石錐	4.2	2.2	0.7	5.2	黒曜石	—	完整	左右非対称 基部が幅広	
	16	26	R-24区	V層	—	石剣・ナイフ	12.6	3.2	1.4	48.9	頁岩	—	完整	背面 磨面状割線面	
	17	26	O-21区	V層	—	石剣・ナイフ	7.9	2.6	0.8	12.0	黒曜石	—	完整	側線部 磨面状	
	18	26	O-27区	V層	—	石剣・ナイフ	(5.9)	1.8	0.9	6.3	黒曜石	小球葉	完整	側線部 磨面状	
	19	26	L-22区	V層	—	石剣・ナイフ	(5.0)	2.0	1.1	9.2	黒曜石	巻状	完整	両側線に 磨面状割線面	
	20	26	P-24区	V層	—	石剣・ナイフ	6.2	2.0	0.9	8.0	—	—	完整	基部 直線的	
	21	26	Q-24区	V層	—	石剣・ナイフ	6.0	3.8	0.9	11.0	黒曜石	—	完整	有草 両側線部 曲線的	
22	26	P-26区	V層	—	石錐	2.9	0.9	0.4	1.0	黒曜石	—	完整	巻状 断面に割線面		
23	26	Q-23区	V層	—	石錐	3.3	1.3	0.3	1.8	黒曜石	—	完整	つまみ付きナイフ 製品品?	既熟	
24	26	R-26区	V層	—	石錐	4.8	3.2	0.7	5.8	黒曜石	赤褐色部分 あり	完整	つまみ付きナイフ 製品品?		
72	25	26	O-24区	V層	—	つまみ付きナイフ	14.0	2.6	0.9	8.5	黒曜石	—	完整	上面面に磨面	
	26	26	R-25区	V層	—	つまみ付きナイフ	6.6	4.0	1.3	16.9	黒曜石	—	完整	石錐線に 磨面状割線面	
	27	26	P-20区	V層	—	つまみ付きナイフ	5.0	2.6	1.0	7.0	頁岩	褐色色 (附24/)	完整	断面に割線面	
	28	26	N-21区	V層	—	つまみ付きナイフ	3.9	3.7	1.2	13.0	黒曜石	—	完整	両面加工	
	29	26	L-24区	V層	—	つまみ付きナイフ	3.8	3.4	1.7	13.0	頁岩	灰黄色 土質あり	完整	断面に割線面	
	30	26	O-25区	V層	—	スクレイパー	5.1	1.8	1.2	6.6	黒曜石	—	完整	背面に原線面	
	31	26	O-29区	V層	—	スクレイパー	6.3	2.7	1.0	13.0	黒曜石	にがい赤褐色色 L5184/4 部分が欠ける	完整	背面磨面石錐線に 磨面状割線面	
	32	26	R-26区	V層	—	スクレイパー	3.0	2.2	0.8	7.2	黒曜石	—	完整	背面加工 左側線内湾	
	33	26	O-24区	V層	—	スクレイパー	3.7	2.0	0.9	3.0	黒曜石	—	完整	背面加工 断面に原線面	
	34	26	L-24区	V層	—	スクレイパー	3.3	3.3	1.4	10.3	黒曜石	小球葉 巻状	完整	背面に原線面 背面左側線に互角面	
	35	26	N-23区	V層	—	スクレイパー	3.7	3.8	1.7	8.0	黒曜石	—	完整	背面に側面に 原線面	
	36	26	R-26区	V層	—	スクレイパー	2.9	3.7	1.2	10.3	黒曜石	—	完整	背背面上部に 原線面 左側線に互角面	
	37	26	O-29区	V層	—	スクレイパー	2.2	1.8	0.5	2.6	黒曜石	光沢なし	完整	背面加工	既熟
	38	26	S-25区	V層	—	スクレイパー	3.0	3.3	1.6	8.6	黒曜石	—	完整	ラウン? スクレイパー	
	39	26	M-23区	V層	—	スクレイパー	(3.3)	1.4	0.5	1.1	黒曜石	—	完整	両側線に狭り折れ状 磨面状割線面	
	40	26	N-20区	V層	—	石核	2.1	3.7	1.3	7.7	黒曜石	—	—	複数の割線面 断面に原線面	
	41	26	L-23区	V層	—	石核	2.2	3.3	3.3	21.1	黒曜石	小球葉 巻状	—	複数の割線面 上面面に原線面	
	42	26	O-21区	V層	—	石核	3.9	4.3	3.7	60.3	チャート	灰白色 ST8/1	—	複数の割線面 上面面に原線面	
	43	26	M-25区	V層	—	石核	6.2	6.1	4.1	134.4	チャート	灰白色 ST8/1	—	複数の割線面 裏面に原線面	
	44	26	O-20区	V層	—	石核	2.8	6.3	3.9	38.7	チャート	灰白色 ST7/2	—	複数の割線面	
	73	45	27	O-29区	V層	—	磨製石斧	(8.6)	3.8	1.4	68.1	緑色泥岩	緑灰色 10673/3	完整	全面研磨 上面欠損
46		27	N-19区	V層	—	磨製石斧	14.1	2.6	1.6	111.	片岩	緑灰色 10673/1	完整	全面に研磨面	

表56 上幌内4遺跡 V層 包含層出土石器等観察表(2)

図	遺跡 番号	出土地点	層位	遺物 番号	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		保存 状態	特徴 観察事項	備考
						長さ	幅	厚さ		原石名	特徴			
73	47	27	N-23区	V層	—	磨製石斧	14.3	6.2	3.3	489	緑色閃岩	緑灰色 100/5/1	完全に研削痕 方に研削痕	
	48	27	Q-26区	V層	—	たたき石	18.1	8.0	3.8	559	緑色閃岩	緑灰色 2.5/3/1	側面にたたき痕 裏面にすり痕	
	49	27	Q-25区	V層	—	たたき石	11.8	7.4	3.2	600	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5/3/2	表面に 凹状のたたき痕 前面に すり痕	
	50	27	P-20区	V層	—	たたき石	17.1	7.0	3.4	588	砂岩	粗粒 黄灰色 2.5/3/2	表面面に 凹状のたたき痕	
	51	27	M-23区	V層	—	たたき石	12.2	7.5	2.0	245	凝灰岩	粗粒 硬質 灰白色 2.5/3/1	完全 凹状のたたき痕	
	52	27	K-23区	V層	—	たたき石	12.0	3.0	4.1	218	砂岩	にぶい黄緑色 100/6/3	側縁部に たたき痕	被熱
	53	27	K-23区	V層	—	たたき石	11.7	7.5	3.0	272	凝灰岩	粗粒 にぶい黄緑色 2.5/3/2	側縁部のたたき痕 表面すり痕	
	54	27	R-25区	V層	—	たたき石	17.6	6.4	2.3	245	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5/3/2	完全 凹状の上部側に たたき痕	
	55	27	L-24区	V層	—	すり石	17.8	6.0	5.7	532	片麻岩	粗粒 にぶい黄緑色 100/6/4	全面にすり痕 表面にたたき痕	
	74	56	27	N-25区	V層	—	すり石	11.8	6.6	3.9	270	凝灰岩	粗粒 暗灰黄色 2.5/3/2	表面面に すり痕、たたき痕 側面にたたき痕
57		27	P-20区	V層	—	すり石	8.6	3.4	1.4	52.7	凝灰岩	粗粒 灰黄色 2.5/3/2	全面にすり痕	
58		27	L-24区	V層	—	すり石	10.0	4.4	1.5	88	凝灰岩	粗粒 黄灰色 2.5/3/2	表面面にすり痕	
59		27	O-24区	V層	—	すり石	8.0	15.7	6.1	850	砂岩	粗粒 黄灰色 2.5/3/1	下端面にすり痕	
60		27	R-26区	V層	—	すり石	10.4	16.2	4.8	1,160	砂岩	粗粒 にぶい赤褐色 2.5/3/2	側面に 研削痕と磨打痕 下端面にすり痕	被熱
61		27	Q-28区	V層	—	北海道式石冠	18.1	15.3	3.2	988	砂岩	粗粒 灰黄色 2.5/3/2	準定形 下端面にすり面 表面面に磨打痕	炭化物 付着
62		28	M-22区	V層	—	北海道式石冠	10.8	12.0	6.8	1,000	砂岩	粗粒 灰黄色 2.5/3/2	準定形 下端面にすり面 表面面に磨打痕	
63		28	O-24区	V層	—	北海道式石冠	8.9	10.9	3.7	722	砂岩	粗粒 黄灰色 2.5/3/1	準定形 下端面にすり面 表面面に磨打痕	
64		28	L-21区	V層	—	砥石	20.9	15.8	6.4	2,850	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5/3/2	片 表面面に砥面	接合
75		65	28	L-23区	V層	—	砥石	17.30	4.7	4.0	137	凝灰岩	粗粒 灰黄色 2.5/3/2	完全 四面に砥面
	66	28	R-24区	V層	—	砥石	13.3	6.0	5.7	550	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5/3/2	片 表面と右側面に 砥面	
	67	28	P-27区	V層	—	砥石	17.4	11.8	7.8	1,120	砂岩	粗粒 灰黄色 2.5/3/2	完全 表面と側面に 砥面	
	68	28	Q-25区	V層	—	砥石	40.5	23.9	11.6	8,790	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5/3/2	準定形 表面に砥面	
	69	28	O-24区	I層	—	砥石	8.0	8.8	2.4	122	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5/3/2	片 表面面と側面に 溝状の砥面	
	76	70	29	S-24区	V層	—	台石・石皿	28.3	25.8	14.6	23,900	砂岩	中粒 にぶい黄緑色 2.5/3/2	完全 すり痕
71		29	Q-26区	V層	—	台石・石皿	38.1	41.4	11.9	3,490	砂岩	中粒 暗灰黄色 2.5/3/2	完全 すり痕	大型 たたき痕とすり痕
72		30	R-25区	V層	—	台石・石皿	32.7	27.3	15.7	17,000	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5/3/2	準定形 表面に すり痕とたたき痕	
77	73	30	Q-25区	V層	—	台石・石皿	84.9	28.3	28.5	51,000	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5/3/2	準定形 表面に すり痕とたたき痕 下端面は加工痕?	
	74	30	M-22区	V層	—	玉	3.2	2.8	1.0	12.9	凝灰岩	すりすり面 100/3/1	完全 上部に穿孔	
78	75	30	Q-22区	V層	—	石製品	5.1	5.1	2.3	32.9	砂岩	粗粒 灰黄色 2.5/3/2	完全 表面に	多数の砥状の跡み
	76	30	P-20区	V層	—	石製品	8.3	4.1	2.5	82.0	砂岩	粗粒 灰黄色 2.5/3/2	完全 表面に	磨削に伴う 研削痕?
	77	30	L-23区	V層	—	石製品	4.3	4.4	2.0	42.9	砂岩	粗粒 暗灰黄色 2.5/3/2	完全 表面に	小型の 北海道式石冠
	78	30	N-21区	V層	—	石製品	6.7	6.7	2.9	134.5	砂岩	中粒 黄灰色 2.5/3/1	片 表面に	小型の 北海道式石冠

## VII章 上幌内5遺跡 遺構

### 1. 概要(図79)

調査した遺構は竪穴住居跡(H)1軒、土坑(P)8基、小土坑(SP)1基で、すべて無名の沢(イタルイカ)の左岸L地区でみつかった。竪穴住居跡はL-3地区で楕円形のH-1を調査し、縄文時代早期または中期と推測している。土坑はL-1地区でP-1、L-3地区の東側でP-8、西側ではP-2~7を調査した。P-1は楕円形、P-8は細長い。西側のものは円形または楕円形で、礫石器やレキがまとまって出土した。小土坑はL-3地区西側で1か所みつかった。多くみつかったTビット(TP)は第4節で述べる。また、図79でR-3地区の中央付近にのみV層上面の等高線を図示したが、この部分は包含層調査の予定範囲であったが、遺構確認調査に切り換えた(Ⅲ章3節参照)。また、この沢への崖が左岸のL-1・4地区、右岸のR-2地区にみられ、これより沢に近い低位部に遺構はみられなかった。

### 2. 竪穴住居跡

H-1 (図80 表58・59 図版32)

位置 b・c・d-44・45・46区 規模 7.60×5.16 / 7.30×4.40 / 0.54m

平面形態 楕円形

**確認・調査** 建設機械による表土除去作業中、VII層が傾斜し黒色土がみられた。調査区無名の沢へ傾斜する地形と考え、この黒色土を掘削するように指示した。しかし、北西から北側、そして北東側でVII層が再びみられ、楕円形の広い黒色土の堆積で遺構と考えられた。その後、人力で調査を開始した。黒色土が残る北東側部分で土層を観察したところ、平坦な面と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と判断した。規模から竪穴住居跡と考えられ、段や土坑、柱穴・杭穴を確認した。

**覆土** 北東側部分で覆土最下層を確認し、炭化物が微量に混じる。

**床面・壁** 壁はゆるやかに立ち上がり、坑底面は曲線的で中央がくぼむ。

**付属遺構** 土坑h p-1を1基、柱穴・杭穴h p-2~4を3か所、そして段を確認した。

土坑 h p-1 規模 0.76×0.46 / 0.64×0.36 / 0.06m 平面形態 楕円形

柱穴・杭穴 h p-2 規模 0.28 / 0.20 / 0.20m 平面形態 円形

h p-3 規模 0.14 / ー / 0.08m 平面形態 円形

h p-4 規模 0.24 / 0.08・0.10 / 0.06m 平面形態 円形

段 規模 2.80×1.54 / 2.52×1.18 / (0.12)m 平面形態 不整な楕円形

土坑h p-1は楕円形で住居跡の北西側に位置し、軸方向は一致しない。柱穴・杭穴は、h p-2は径が大きく、h p-3は小さい。h p-4は底面を2か所確認した。段は北東側に位置し底面は平坦である。

**重複** 南西側部分の壁跡で、TP-17・18と重なるが、覆土を調査できなかったため、新旧関係は不明である。

**遺物出土状況** 床面出土の遺物はI群土器、石鏃、フレイク、台石・石皿、レキがあり、覆土からは石鏃、石槍・ナイフ、磨製石斧、砥石等が出土した。

**時期** 出土土器から縄文時代早期の可能性があるが、放射性炭素年代測定の結果は5292ca1BP-

5044c1BP(95.4%) (2σ 暦年代)で、縄文時代中期中葉と考えられる。

### 3. 土坑・小土坑 (図81～85 表60・61 図版33・34)

P-1 (図81 表60 図版33)

**位置** a-37区 **規模** 1.23×0.76 / 0.76×0.45 / 0.24m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の黒色土がみられた。半載し平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 黒色土主体で、上位のくぼみには1層の盛土が堆積していた。

**坑底面・壁** 坑底は短軸方向が平坦で、長軸方向が曲線的である。壁は大きく開いて立ち上がる。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-2 (図81 表60 図版33)

**位置** k-54区 **規模** 1.23×0.67 / 0.63×0.22 / 0.52m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の黒色土がみられた。半載したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 上～中位は黒色土主体で、下位の第3層は褐色を呈する。

**坑底面・壁** 坑底は概ね平坦で、壁は大きく開いて立ち上がり、南側では曲線的である。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-3 (図82 表60 図版33)

**位置** j・k-53区 **規模** 1.84×1.53 / 1.00×0.42 / 0.84m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の土がみられた。半載したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 最上位のくぼみにIV層T a-cが厚く堆積しており、第1層は褐色土主体である。

**坑底面・壁** 坑底は概して平坦で、壁は大きく開口気味に立ち上がる。

**遺物出土状況** 覆土からIV群土器の胴部と底部破片、台石・石皿、U・Rレキが出土した。

**時期** 出土土器から縄文時代後期初頭と判断される。

P-4 (図82 表60 図版33)

**位置** i-53区 **規模** 1.11×0.95 / 0.90×0.56 / 0.28m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、レキと楕円形の土がみられたので、半載したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 第2層の上位の層界は、中央がくぼむ形状で堆積する。

**坑底面・壁** 坑底は、長軸方向は中央が低く、短軸方向は北側へ傾斜する。

**遺物出土状況** 覆土から台石・石皿・レキがまとめて出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-5 (図83 表60 図版34)

**位置** i-53区 **規模** 1.06×0.66 / 0.70×0.15 / 0.32m **平面形態** 楕円形  
**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の黒色土がみられた。半載したところ平坦な面と壁の立ち上が

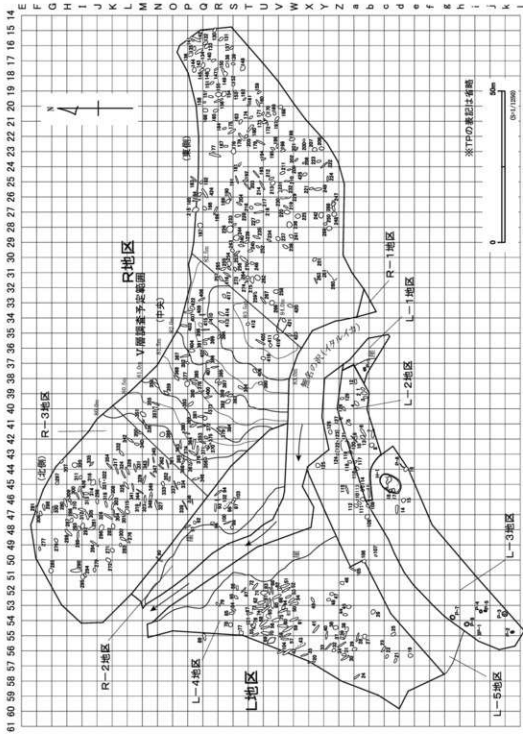
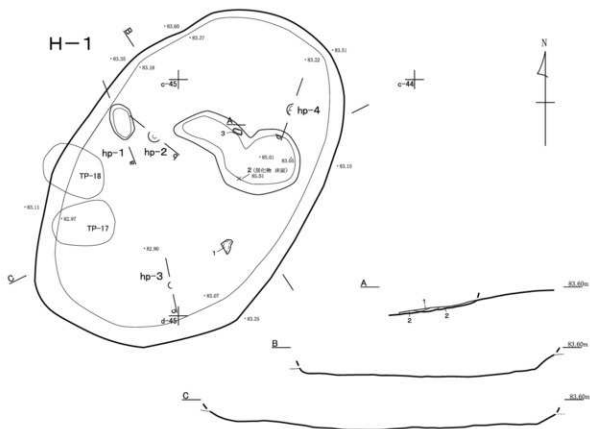
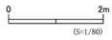
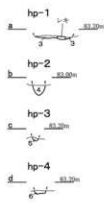


図79 上幌内5遺跡 V層上面地形測量図・遺構位置図



遺構	位置	用途	構造	形状	面積	層位	高さ (m)	備考
hp-1	東側	貯蔵	土	円形	11	Ⅰ	83.20	
hp-2	北側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
hp-3	南側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
hp-4	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
TP-17	西側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
TP-18	西側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
1	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
2	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
3	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
4	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
5	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
6	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
7	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
8	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
9	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
10	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
11	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
12	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
13	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
14	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
15	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
16	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
17	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
18	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
19	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
20	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
21	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
22	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
23	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
24	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
25	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
26	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
27	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
28	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
29	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
30	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
31	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
32	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
33	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
34	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
35	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
36	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
37	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
38	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
39	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
40	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
41	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
42	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
43	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
44	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
45	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
46	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
47	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
48	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
49	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
50	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
51	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
52	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
53	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
54	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
55	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
56	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
57	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
58	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
59	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
60	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
61	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
62	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
63	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
64	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
65	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
66	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
67	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
68	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
69	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
70	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
71	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
72	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
73	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
74	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
75	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
76	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
77	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
78	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
79	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
80	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
81	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
82	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
83	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
84	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
85	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
86	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
87	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
88	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
89	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
90	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
91	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
92	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
93	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
94	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
95	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
96	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
97	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
98	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
99	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	
100	東側	貯蔵	土	円形	1	Ⅰ	83.20	



遺構名	位置	用途	構造	形状	面積	高さ (m)	備考	砂・粘土・シルト (長径2m未満)				礫 (長径2m以上)							
								色	粒度	粘性	塑性	種類	平均	最大	形状	長径の程度	遺入物	備考	
H-1	1	貯蔵	土	円形	11	83.20		黄褐色	0.075	無	無	7	5	11	近円形	線形	炭化物 少量		
	2	貯蔵	土	円形	1	83.20		黄褐色	0.075	無	無	7	5	11	近円形	線形	炭化物 少量		
H-1	hp-1	3	貯蔵	土	円形	1	83.20		黄褐色	0.075	無	無	7	5	11	近円形	線形	炭化物 少量	
	hp-2	4	貯蔵	土	円形	1	83.20		黄褐色	0.075	無	無	7	5	11	近円形	線形	炭化物 少量	
	hp-3	5	貯蔵	土	円形	1	83.20		黄褐色	0.075	無	無	7	5	11	近円形	線形	炭化物 少量	
	hp-4	6	貯蔵	土	円形	1	83.20		黄褐色	0.075	無	無	7	5	11	近円形	線形	炭化物 少量	

図80 上幌内5遺跡 H-1



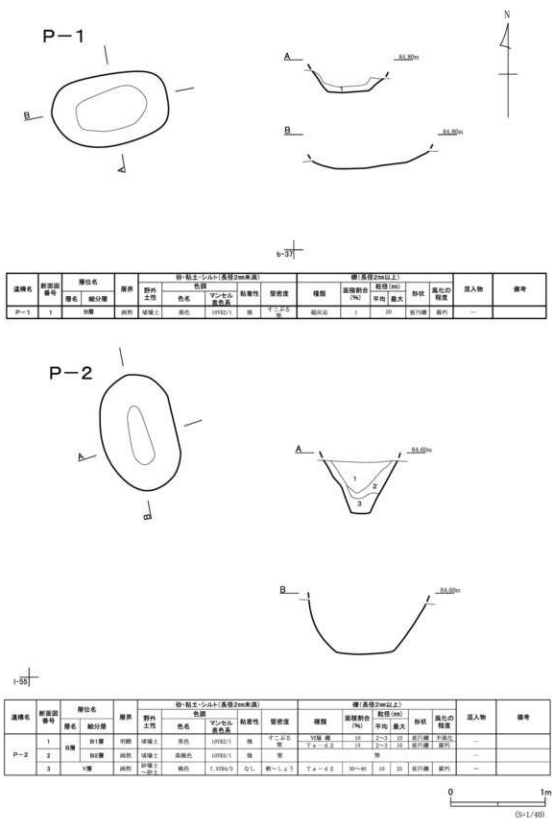


図81 上幌内5遺跡 P-1・P-2

りを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 主たる覆土は黒色土主体で、上位の中央に褐色土が一部堆積する。

**坑底面・壁** 長軸方向の坑底は曲線的で、壁の立ち上がりは大きく開く。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-6 (図83 表60 図版34)

**位置** h-54区 **規模** 1.63×1.38 / 1.23×1.07 / 0.34m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 遺構確認調査中、円形の黒色土がみられた。半載したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 覆土第3層が黄褐色土主体で、各層は概して水平な堆積である。

**坑底面・壁** 坑底は概して平坦で、壁は大きく開いて立ち上がる。

**遺物出土状況** 中央よりやや北側で頁岩製のつまみ付きナイフ、南側の壁際に礫石器やレキがまとめてみられた。覆土から黒曜石のフレイクが100点以上、残存状態が「片」の磨製石斧が50点弱出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-7 (図84 表60 図版34)

**位置** g-53区 **規模** 1.63×1.41 / 1.34×1.06 / 0.34m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 遺構確認調査中、楕円形の黒色土がみられた。半載したところ平坦な面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。

**覆土** 主たる覆土は褐色土で、上位は部分的な層が多くみられる。

**坑底面・壁** 坑底は凹凸があり、壁の立ち上がりは開口気味である。

**遺物出土状況** 覆土からフレイク、台石・石皿、レキが中心付近からまとめて出土した。

**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

P-8 (図84 表60 図版34)

**位置** d-43区 **規模** 1.80×(0.37) / 1.56×(0.28) / 0.36m **平面形態** 楕円形

**確認・調査** 遺構確認調査中、細長い黒色土がみられた。形状からTビットと予想し半載した。平坦な面と壁の立ち上がりを確認したので、土坑と判断した。

**覆土** すべて黒色土主体で、第1層は最上位の中央付近に部分的に堆積する。

**坑底面・壁** 坑底は段差があるが平坦で、壁は長軸方向で大きく開き、短軸方向ではやや直立気味な立ち上がりである。

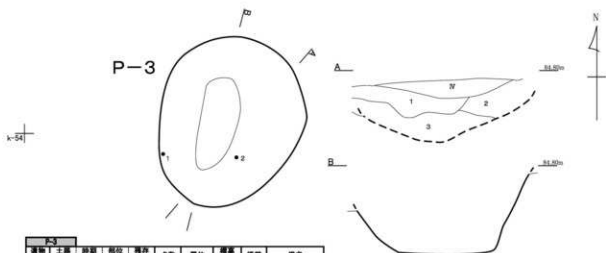
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。

SP-1 (図85 表61 図版34)

**位置** i-55区 **規模** 0.12 / 0.04 / 0.20m **平面形態** 円形

**確認・調査** 遺構確認調査中、円形の黒色土がみられた。半載して断面形態や覆土から遺構と判断した。周辺も精査し同様な遺構の発見に努めたが、みられなかった。覆土は黒色土主体で、断面形態は斜めである。

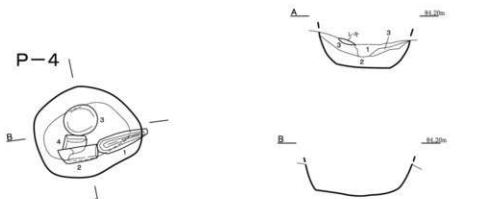
**時期** 遺跡の主たる時期である縄文時代中期後半～後期初頭と推測される。



遺構番号	土層	時期	形状	掘削状況	点数	層位	層厚 (m)	縄文	備考
1	砂土・石層	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			
2	砂土・石層	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			
3	砂土・石層	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			
4	砂土・石層	前期	乱石	4	層上1層	0.1-0.5			
5	砂土・石層	前期	乱石	10	層上1層	0.1-0.5			
6	砂土・石層	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			
7	砂土・石層	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			

遺構名	断面図番号	層位名	層厚	野付土性	色調			堅硬度	種類	腐蝕割合 (%)		形状	風化の程度	遺人物	備考
					色名	マンセル色数表	粘着性			種類	平均				
P-3	1	砂層	乱石	硬土	灰色	10Y5/4	弱	粘~粘	砂層	20	2~3	乱石層	中風化	炭化物 微量	
	2	砂層	乱石	硬土	黄褐色	10Y5/1	弱	粘~粘	砂土・砂	1~2	2~3	乱石層	中風化	炭化物 微量	
	3	砂層	乱石	硬土	黄褐色	10Y5/1	弱	粘~粘	砂土・砂	1~2	2~3	乱石層	中風化	炭化物 微量	

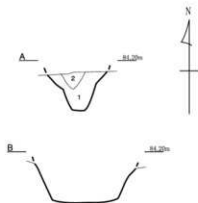
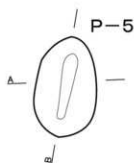
P-53



遺構番号	土層	時期	形状	掘削状況	点数	層位	層厚 (m)	縄文	備考
1	砂土・石層	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			
2	砂土・石層	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			
3	砂土・石層	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			
4	砂土・石層	前期	乱石	2	層上1層	0.1-0.5			
5	砂土	前期	乱石	2	層上1層	0.1-0.5			
6	砂土	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			
7	砂土	前期	乱石	1	層上1層	0.1-0.5			
8	砂土	前期	乱石	4	層上1層	0.1-0.5			
9	砂土	前期	乱石	12	層上1層	0.1-0.5			

遺構名	断面図番号	層位名	層厚	野付土性	色調			堅硬度	種類	腐蝕割合 (%)		形状	風化の程度	遺人物	備考
					色名	マンセル色数表	粘着性			種類	平均				
P-4	1	砂層	乱石	硬土	灰色	10Y5/1	弱	粘~粘	砂土・砂	1~2	2~3	乱石層	中風化	遺人物	
	2	砂層	乱石	硬土	黄褐色	10Y5/2	弱	粘	砂土	1~2	2~3	乱石層	中風化	遺人物	

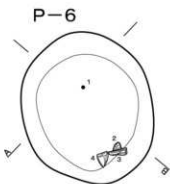
図82 上幌内5遺跡 P-3・P-4



J-53

遺構名	新調査番号	遺構名	層別	砂・粘土・シルト(長径2m未満)				礫(長径2m以上)				遺入物	備考		
				層別土性	色相		粘着性	堅固度	種類	粒径割合 (%)				形状	高さの程度
					色名	マンテル濃色名				平均	最大				
P-5	1	B1層	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	3~7	2~3	卵円礫	無し	—		
P-5	2	B2層	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	3~5	2~3	卵円礫	無し	—		

J-54

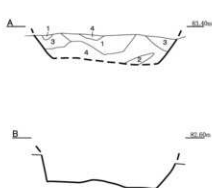
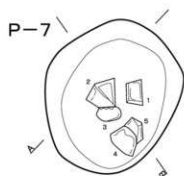


P-6														
遺構番号	土層	時期	層別	層別土性	色相	マンテル濃色名	粘着性	堅固度	種類	粒径割合 (%)	形状	高さ (m)	残骸	備考
1	1	縄文	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	1	卵円礫	83.24		
2	2	縄文	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	1	卵円礫	83.20		
3	3	縄文	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	1	卵円礫	83.31		
4	4	U・R・L層	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	2	卵円礫	83.31		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	1	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	79	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	5	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	7	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	9	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	4	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	41	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	1	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	1	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	2	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	2	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	1	卵円礫	—		
—	—	—	砂質土	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	細砂	1	卵円礫	—		

遺構名	新調査番号	遺構名	層別	砂・粘土・シルト(長径2m未満)				礫(長径2m以上)				遺入物	備考		
				層別土性	色相		粘着性	堅固度	種類	粒径割合 (%)				形状	高さの程度
					色名	マンテル濃色名				平均	最大				
P-6	1	B1層	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	T+~4.2	5	3~5	卵円礫	フレイク			
P-6	2	B2層	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	T+~4.2	7	7	卵円礫	—			
P-6	3	B3層	砂質土	黄褐色	100B1.3	無	無	T+~4.2	20	3~5	卵円礫	—			
P-6	4	B4層	砂質土	黄褐色	1.00B1.3	無	無	T+~4.2	13	10	卵円礫	フレイク			

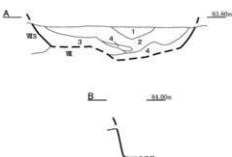
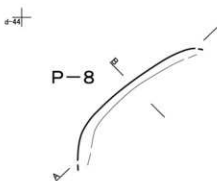


図83 上幌内5遺跡 P-5・P-6



遺構番号	土層	種類	形状	構造	高さ	層位	深さ (m)	規模	備考
1	白石・石炭	砂状	穴形	1	掘土跡層	83.27 →83.21			
2	白石・石炭	砂状	穴形	1	掘土跡層	83.06 →83.11			
3	石炭	砂状	穴	1	掘土跡層	83.16			
4	白石・石炭	砂状	穴形	1	掘土跡層	83.07 →83.12			
5	石灰・石炭	砂状	穴形	1	掘土跡層	83.13 →83.64			
—	フレイク	炭層石	—	1	掘土跡層	—			
—	石炭	砂状	穴	2	掘土跡層	—			
—	石炭	砂状	穴	3	掘土跡層	—			

遺構名	新調査番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)				遺物の種類	備考	
		層名	細分類		野内土性	色名	マンセル色色名	粘着性	堅密度	種類	含量割合 (%)	平均			最大
P-7	1	砂1層	砂質	硬質土	赤褐色	10Y5/2	強	堅	T a - 4 2	7	5	10	球形礫	風化跡 少量	
	2	砂2層	砂質	硬質土	赤色	10Y5/1	強	堅～軟	T a - 4 2	5	2~3	5	球形礫	風化跡	—
	3	砂3層	砂質	硬質土	赤褐色	10Y5/1	強	堅～軟	T a - 4 2	7	8~10	5	球形礫	風化跡	—
	4	V層	砂質	硬質土	褐色	7.5Y5/4	強	堅	T a - 4 2	30	5~6	10	球形礫	風化跡	—



遺構名	新調査番号	層位名		層界	砂・粘土・シルト (長径2mm未満)				礫 (長径2mm以上)				遺物の種類	備考	
		層名	細分類		野内土性	色名	マンセル色色名	粘着性	堅密度	種類	含量割合 (%)	平均			最大
P-8	1	砂1層	砂質	硬質土	赤色	10Y5/1, 7/1	強	堅							—
	2	砂2層	砂質	硬質土	赤色	10Y5/1, 7/1	強	堅	T a - 4 2	7~10	3~5	5	球形礫	風化跡	—
	3	砂3層	砂質	硬質土	赤褐色	10Y5/1	強	堅	T a - 4 2	1	2~5	5	球形礫	風化跡	—
	4	砂4層	砂質	硬質土	赤褐色	10Y5/1	強	堅	T a - 4 2	30	2~3	10	球形礫	風化跡	—



図84 上幌内5遺跡 P-7・P-8

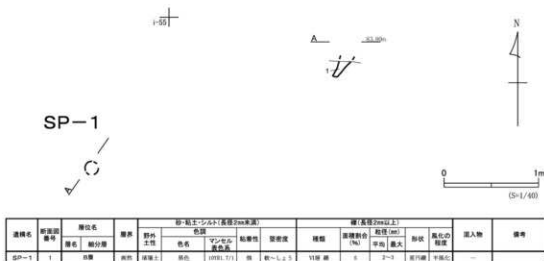


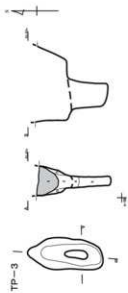
図85 上横内5遺跡 SP-1

#### 4. Tピット(図79・86~193 表62・63 図版35~104)

Tピットは遺跡の全体から多くみつかり、426番までを付した。これには、同じ番号を複数の遺構付しさらに記号を追加して付けたもの、複数と想定したものが単独であったもの、土坑と判断したもの、遺構でないものがある。これらを整理した総数は421基で、左岸L地区が116基、右岸R地区が305基である(詳細はⅩ章3節参照)。

Tピットは形態で円形、楕円形、長楕円形、溝状に分けられる。L地区の南側では楕円形のものも多く、散在的な分布で、調査区中央を流れる無名の沢(イタルイカ)から離れたL-3・5地区の南西側ではみられない。L-4地区では中央付近から南側が散在的で、西側に楕円形、東側に溝状が多い。特にU~W-52~55区付近は大型の溝状が集中する。これより北側へは散在的で、さらにみられなくなる。右岸はこの沢近くに、凝灰岩由来と考えられる粘土層(Lgc1層・Lgtf層)を地山とするR-2地区で散在的にみられ、上流側は存在しない。R-3地区の東側は概ね散在的で、概して楕円形が多い。中央付近~北側部分は溝状のものも多く、厚真川の崖に近い北東側とこの沢近くではみられなかった。

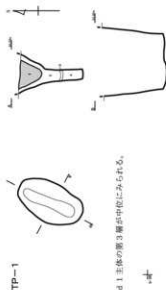
多くのTピットを限られた期間で調査するため、方法を工夫した。図化作業は、土層断面図は、平成27(2015)年度の調査開始時、作業員の中で実測できる人材を数名育成し、当初は二人一組での図化、熟練するにつれ単独で行った。平成28(2016)年度は、現場の普通作業員として雇用した高知大学考古学専攻の学生中原朋美に、基本土層とTピット覆土のモデル(表74)に基づいた分層作業に携わせた。平面図とエレベーション図は、平成27(2015)年度の調査からトータルステーションを導入し、測点は平面直角座標(世界測地系)で測り、CADソフトを用いて作図した。



TP-3

第3層は砂と粘土の互層で遺構の覆土ではなく、周囲の深い部分は掘り通りで、エレベーターシャフトの遺構で示した位置が瓦葺基壇と考えられる。

遺構番号	層	遺構名	平面形状		面積	形状	高さ	用途
			長さ	幅				
TP-3	3	瓦葺基壇	1.5	1.5	2.25	正方形	0.5	瓦葺基壇
TP-3	3	掘り通	1.5	1.5	2.25	正方形	0.5	掘り通

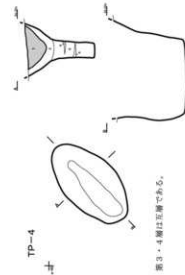


TP-1

TP-1はTP-3の第3層が中心にかられる。

↑

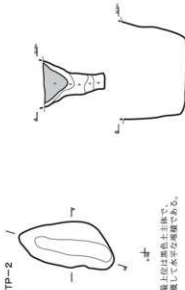
遺構番号	層	遺構名	平面形状		面積	形状	高さ	用途
			長さ	幅				
TP-1	3	瓦葺基壇	1.5	1.5	2.25	正方形	0.5	瓦葺基壇
TP-1	3	掘り通	1.5	1.5	2.25	正方形	0.5	掘り通



TP-4

第3・4層は互層である。

遺構番号	層	遺構名	平面形状		面積	形状	高さ	用途
			長さ	幅				
TP-4	3	瓦葺基壇	1.5	1.5	2.25	正方形	0.5	瓦葺基壇
TP-4	3	掘り通	1.5	1.5	2.25	正方形	0.5	掘り通



TP-2

覆土の層上は土主体で、下位は掘り通りで水圧伝達である。

遺構番号	層	遺構名	平面形状		面積	形状	高さ	用途
			長さ	幅				
TP-2	3	瓦葺基壇	1.5	1.5	2.25	正方形	0.5	瓦葺基壇
TP-2	3	掘り通	1.5	1.5	2.25	正方形	0.5	掘り通

図86 上幌内5遺跡 TP-1・TP-2・TP-3・TP-4

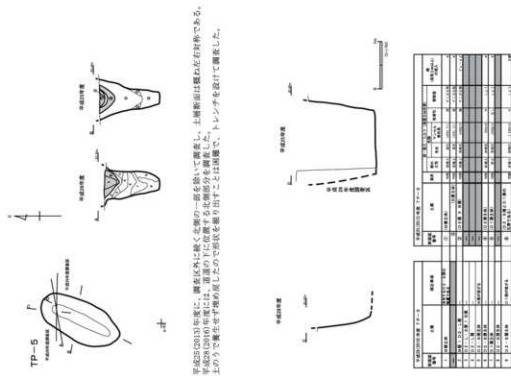
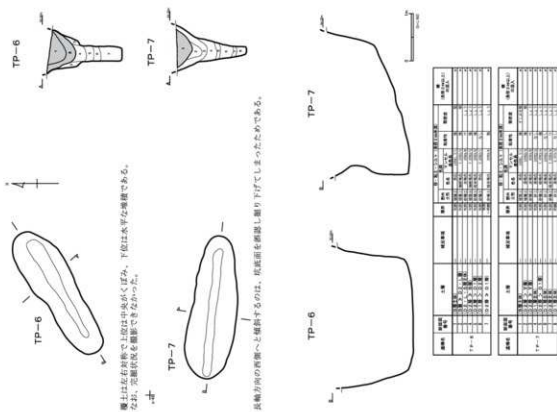


図87 上管内5遺跡 TP-5・TP-6・TP-7





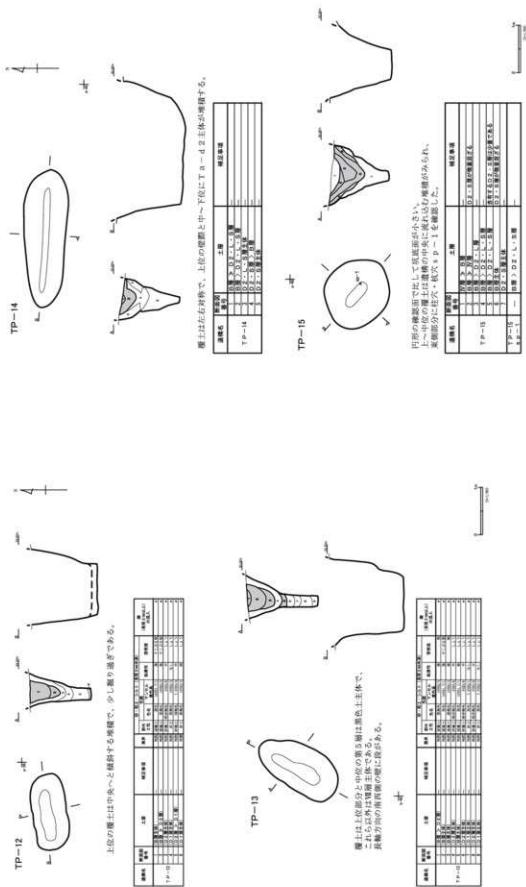


図89 上層内5遺跡 TP-12・TP-13・TP-14・TP-15

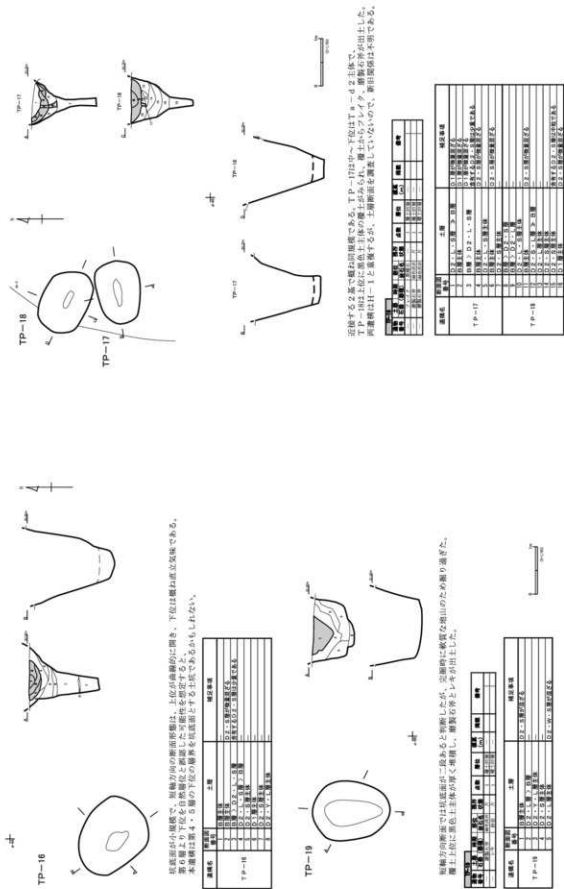


図90 上幌内5遺跡 T.P.-16・T.P.-17・T.P.-18

図91 上幌内5遺跡 T.P.-19

図92 上幌内5遺跡 T.P.-17

図93 上幌内5遺跡 T.P.-18

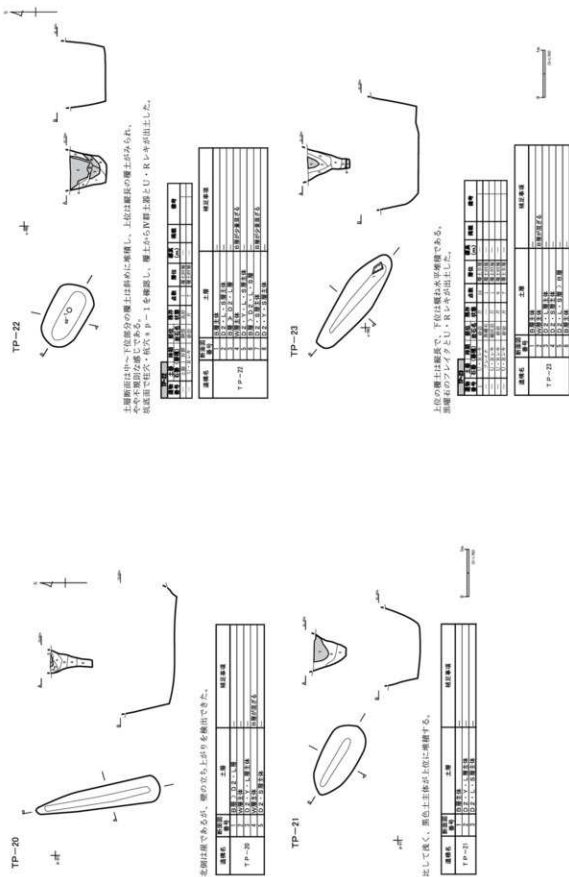
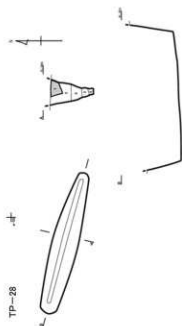


図91 上巻内5遺跡 TP-20・TP-21・TP-22・TP-23





TP-28

北より深く、最上位に黒色土主体の層が部分的にみられる。  
 長軸方向の坑底面は東傾へ傾斜し、IV層土層とフレイクが出た。

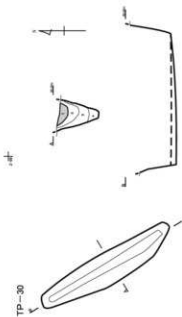
遺跡名	調査年度		調査者	調査種別	調査方法	調査期間	調査場所	調査経緯	調査結果
	年度	月							
TP-28	1978	10	佐藤 浩一	発掘調査	手掘り	10/1-10/15	岡山県 瀬戸市 瀬戸町 瀬戸	瀬戸川左岸	黒色土層、フレイク



TP-29

層は大きく三つに分けられ、すべて赤褐色から褐色山んだ層相である。  
 坑底面は傾り落ちて、黒曜石のフレイクが出た。

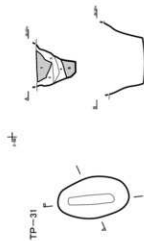
遺跡名	調査年度		調査者	調査種別	調査方法	調査期間	調査場所	調査経緯	調査結果
	年度	月							
TP-29	1978	10	佐藤 浩一	発掘調査	手掘り	10/1-10/15	岡山県 瀬戸市 瀬戸町 瀬戸	瀬戸川左岸	赤褐色土層、黒曜石、フレイク



TP-30

各層上の層相は上位では典型的に半式がくばみ、下段へいくにつれ水平に近くなる。  
 坑底は傾り落ちて、黒曜石が出た。

遺跡名	調査年度		調査者	調査種別	調査方法	調査期間	調査場所	調査経緯	調査結果
	年度	月							
TP-30	1978	10	佐藤 浩一	発掘調査	手掘り	10/1-10/15	岡山県 瀬戸市 瀬戸町 瀬戸	瀬戸川左岸	半式土層、黒曜石



TP-31

層土は最上下位が黒色土主体で、第2層は西から、第3層は東から傾斜した層相である。

遺跡名	調査年度		調査者	調査種別	調査方法	調査期間	調査場所	調査経緯	調査結果
	年度	月							
TP-31	1978	10	佐藤 浩一	発掘調査	手掘り	10/1-10/15	岡山県 瀬戸市 瀬戸町 瀬戸	瀬戸川左岸	黒色土層、赤褐色土層

図93 上帳内5遺跡 TP-28・TP-29・TP-30・TP-31

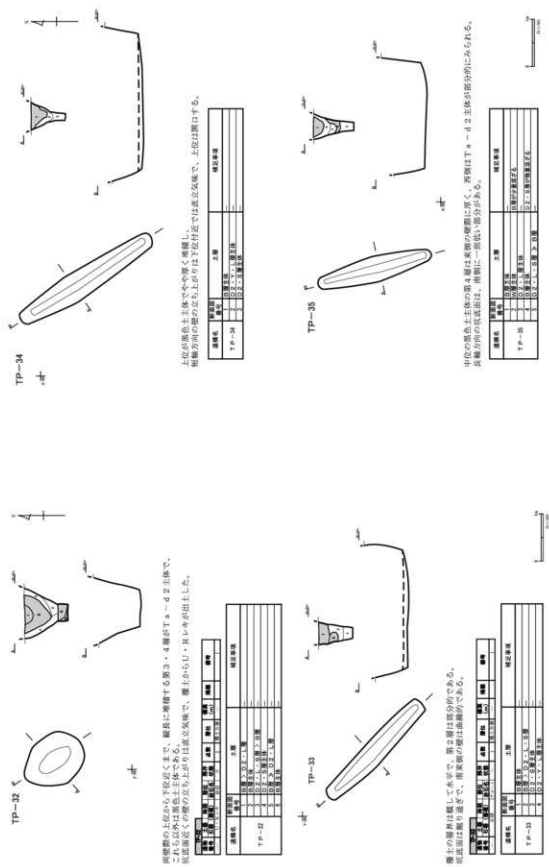
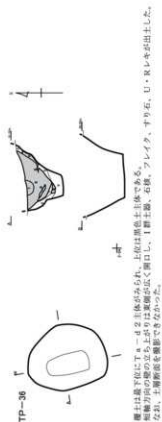


図94 上幌内5遺跡 TP-32・TP-33・TP-34・TP-35



層土は最下層にT a - d 2 主体がみられ、上層は褐色土主体である。輪郭の西の部の上からは東側に広く開口し、1 群土器、石皿、フレイタ、すり石、U・瓦レキが出土した。なお、土層断面を撮影できなかつた。

層土	層土番号	層土名	層土厚	層土色	層土質	層土状態	層土成分	層土特徴
1	1	1	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	1
2	2	2	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	2
3	3	3	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	3
4	4	4	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	4
5	5	5	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	5
6	6	6	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	6
7	7	7	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	7
8	8	8	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	8
9	9	9	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	9
10	10	10	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	10
11	11	11	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	11
12	12	12	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	12
13	13	13	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	13
14	14	14	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	14
15	15	15	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	15
16	16	16	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	16
17	17	17	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	17
18	18	18	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	18
19	19	19	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	19
20	20	20	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	20
21	21	21	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	21
22	22	22	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	22
23	23	23	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	23
24	24	24	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	24
25	25	25	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	25
26	26	26	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	26
27	27	27	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	27
28	28	28	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	28
29	29	29	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	29
30	30	30	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	30
31	31	31	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	31
32	32	32	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	32
33	33	33	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	33
34	34	34	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	34
35	35	35	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	35
36	36	36	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	36
37	37	37	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	37
38	38	38	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	38
39	39	39	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	39
40	40	40	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	40
41	41	41	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	41
42	42	42	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	42
43	43	43	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	43
44	44	44	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	44
45	45	45	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	45
46	46	46	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	46
47	47	47	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	47
48	48	48	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	48
49	49	49	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	49
50	50	50	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	50
51	51	51	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	51
52	52	52	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	52
53	53	53	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	53
54	54	54	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	54
55	55	55	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	55
56	56	56	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	56
57	57	57	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	57
58	58	58	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	58
59	59	59	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	59
60	60	60	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	60
61	61	61	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	61
62	62	62	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	62
63	63	63	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	63
64	64	64	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	64
65	65	65	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	65
66	66	66	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	66
67	67	67	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	67
68	68	68	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	68
69	69	69	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	69
70	70	70	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	70
71	71	71	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	71
72	72	72	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	72
73	73	73	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	73
74	74	74	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	74
75	75	75	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	75
76	76	76	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	76
77	77	77	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	77
78	78	78	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	78
79	79	79	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	79
80	80	80	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	80
81	81	81	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	81
82	82	82	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	82
83	83	83	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	83
84	84	84	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	84
85	85	85	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	85
86	86	86	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	86
87	87	87	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	87
88	88	88	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	88
89	89	89	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	89
90	90	90	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	90
91	91	91	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	91
92	92	92	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	92
93	93	93	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	93
94	94	94	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	94
95	95	95	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	95
96	96	96	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	96
97	97	97	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	97
98	98	98	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	98
99	99	99	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	99
100	100	100	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	100

層土名	層土番号	層土厚	層土色	層土質	層土状態	層土成分	層土特徴
1	1	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	1
2	2	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	2
3	3	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	3
4	4	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	4
5	5	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	5
6	6	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	6
7	7	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	7
8	8	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	8
9	9	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	9
10	10	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	10
11	11	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	11
12	12	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	12
13	13	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	13
14	14	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	14
15	15	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	15
16	16	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	16
17	17	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	17
18	18	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	18
19	19	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	19
20	20	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	20
21	21	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	21
22	22	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	22
23	23	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	23
24	24	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	24
25	25	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	25
26	26	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	26
27	27	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	27
28	28	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	28
29	29	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	29
30	30	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	30
31	31	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	31
32	32	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	32
33	33	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	33
34	34	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	34
35	35	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	35
36	36	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	36
37	37	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	37
38	38	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	38
39	39	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	39
40	40	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	40
41	41	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	41
42	42	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	42
43	43	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	43
44	44	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	44
45	45	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	45
46	46	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	46
47	47	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	47
48	48	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	48
49	49	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	49
50	50	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	50
51	51	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	51
52	52	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	52
53	53	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	53
54	54	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	54
55	55	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	55
56	56	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	56
57	57	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	57
58	58	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	58
59	59	0.1	黄褐色	粘土	硬	砂	59
60	60	0.1	黄褐色	粘土	硬</		



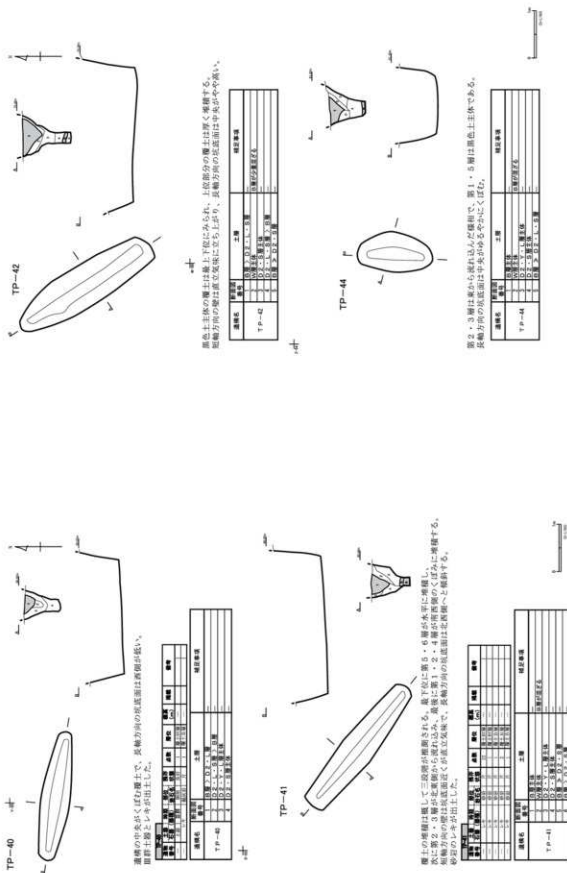


図96 上幌内5遺跡 TP-40・TP-41・TP-42・TP-44

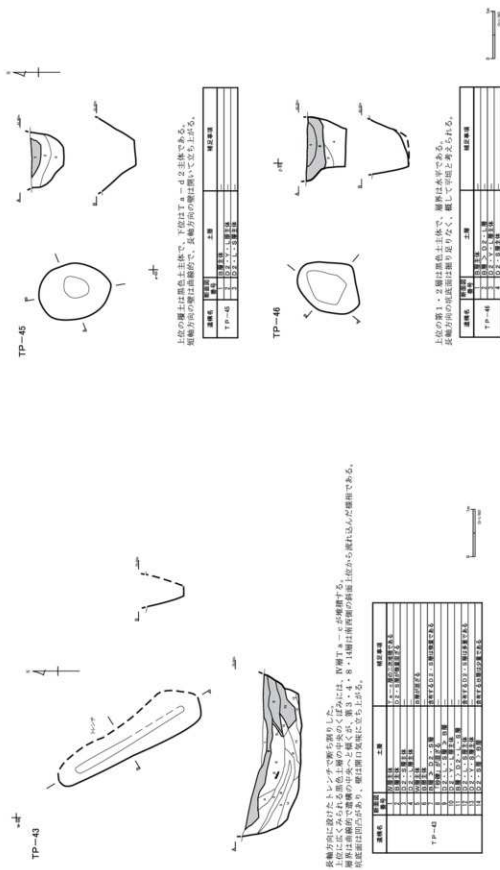
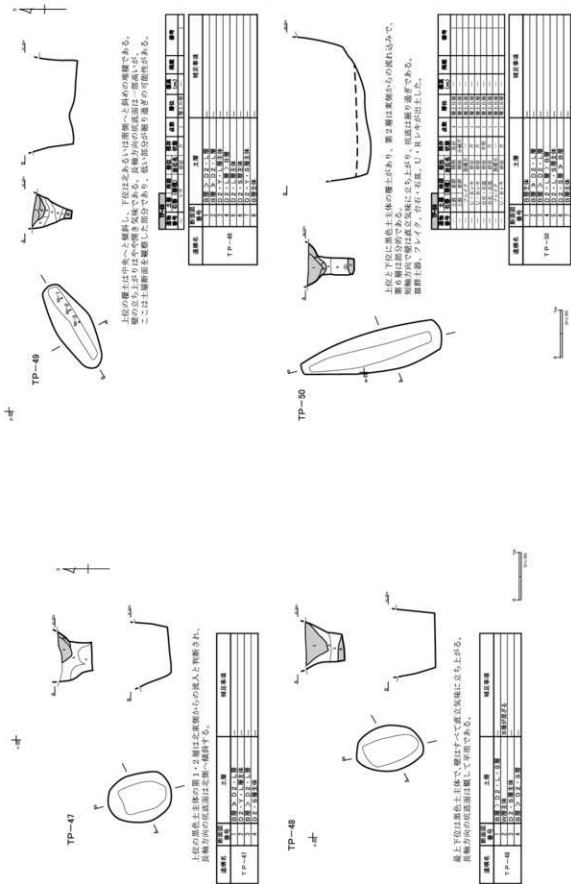


図97 上帳内5遺跡 TP-43・TP-45・TP-46



上位の黒色土主体は中央へと傾斜し、下位は北あるいは南側へと斜めの傾斜である。層の立ち上がりはやや湾曲気味である。反軸方向の瓦葺面は一部高いが、ここは土層断面を撮影した部分であり、低い部分が埋り漏りの可能性がある。

遺構名	遺構位置		遺構形状		遺構用途
	北緯	東経	北緯	東経	
TP-49	1	10	10	10	埋り漏り
	2	10	10	10	
	3	10	10	10	
	4	10	10	10	
	5	10	10	10	
	6	10	10	10	
	7	10	10	10	
	8	10	10	10	
	9	10	10	10	
	10	10	10	10	

上位と下位は黒色土主体の層土があり、第2層は東側からの埋れ込みで、第1層は部分的である。反軸方向で層は直立気味に立ち上がり、瓦葺は斜り向きである。黒土層、アレイタ、右左、石葺、U・R・レンガが出土した。

遺構名	遺構位置		遺構形状		遺構用途
	北緯	東経	北緯	東経	
TP-50	1	10	10	10	埋り漏り
	2	10	10	10	
	3	10	10	10	
	4	10	10	10	
	5	10	10	10	
	6	10	10	10	
	7	10	10	10	
	8	10	10	10	
	9	10	10	10	
	10	10	10	10	

上位の黒色土主体の第1・2層は北東側からの侵入と判別され、反軸方向の瓦葺面は北側へ傾斜する。

遺構名	遺構位置		遺構形状		遺構用途
	北緯	東経	北緯	東経	
TP-47	1	10	10	10	埋り漏り
	2	10	10	10	
	3	10	10	10	
	4	10	10	10	
	5	10	10	10	
	6	10	10	10	
	7	10	10	10	
	8	10	10	10	
	9	10	10	10	
	10	10	10	10	

最上下位は黒色土主体で、層はすべて直立気味に立ち上がる。反軸方向の瓦葺面は傾して平頂である。

遺構名	遺構位置		遺構形状		遺構用途
	北緯	東経	北緯	東経	
TP-48	1	10	10	10	埋り漏り
	2	10	10	10	
	3	10	10	10	
	4	10	10	10	
	5	10	10	10	
	6	10	10	10	
	7	10	10	10	
	8	10	10	10	
	9	10	10	10	
	10	10	10	10	

図98 上幌内5遺跡 TP-47・TP-48・TP-49・TP-50

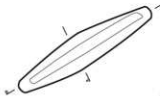
↑ ↓ TP-51



上位の種土は中央がくぼみ、下位は北東側へ傾斜する層状である。  
屈曲方向の両側は身対称で、東部が北へ下位で屈曲する。  
屈曲方向の両側面は中央がゆるやかな谷に似る。

遺物名	種別	層位	出土位置	出土層	出土時期	出土状況	備考
TP-51	土器	上層	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	種別不明
埋蔵深度							
埋蔵深度							
埋蔵深度							

↑ ↓ TP-52



上位は緩急僅かな曲線的に立ち入り、部2・3層が線状に傾斜し、  
反対側は第4層が浅い谷んだ層相である。  
下位は水平な層相がみられる、フレイク、破6、付石・右置が出土した。

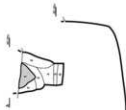
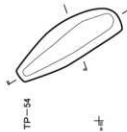
遺物名	種別	層位	出土位置	出土層	出土時期	出土状況	備考
TP-52	土器	上層	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	種別不明
埋蔵深度							
埋蔵深度							
埋蔵深度							

遺物名	種別	層位	出土位置	出土層	出土時期	出土状況	備考
TP-52	土器	上層	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	種別不明
埋蔵深度							
埋蔵深度							
埋蔵深度							



褐色土主体の種土は最上位の第1層のみで、左右非対称な層相である。  
屈曲方向の両側面は北側へと傾斜し、黒曜石のフレイクが出土した。

遺物名	種別	層位	出土位置	出土層	出土時期	出土状況	備考
TP-53	土器	上層	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	種別不明
埋蔵深度							
埋蔵深度							
埋蔵深度							



東側壁部にT<sub>0</sub>-42主体の層が線状に傾斜し、下位は水平層相である。  
屈曲方向の両側は直立して立ち上がり、若干開口する。

最上位の種土は第4層から黒曜土層、黒曜石のフレイク、たまたま石、U・Rレキが出土した。

遺物名	種別	層位	出土位置	出土層	出土時期	出土状況	備考
TP-54	土器	上層	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	種別不明
埋蔵深度							
埋蔵深度							
埋蔵深度							

遺物名	種別	層位	出土位置	出土層	出土時期	出土状況	備考
TP-54	土器	上層	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	2-1-1-1	種別不明
埋蔵深度							
埋蔵深度							
埋蔵深度							



図99 上層内5遺跡 TP-51・TP-52・TP-53・TP-54

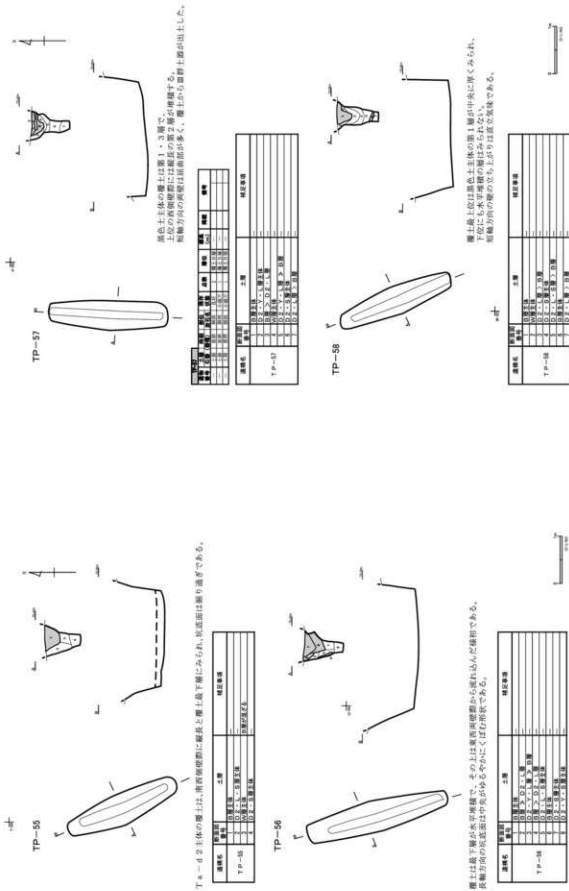
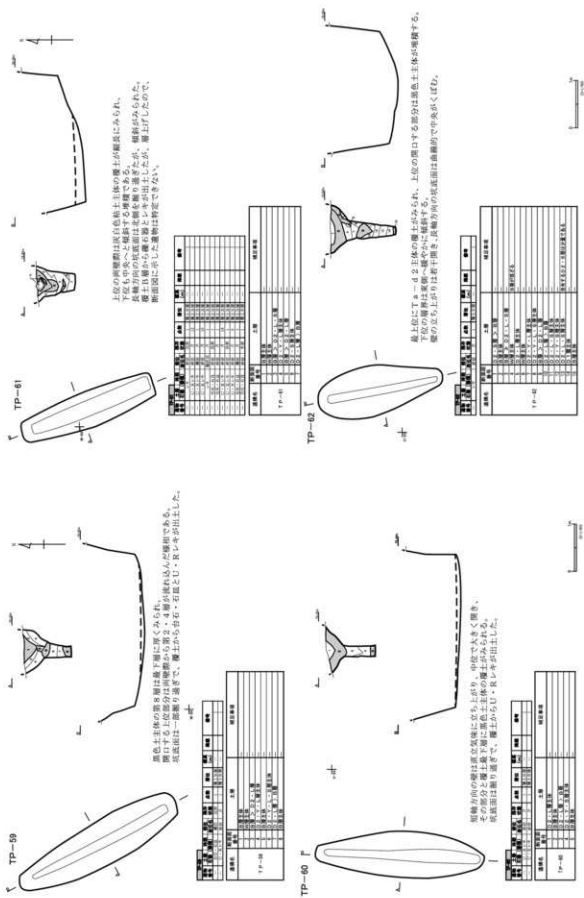


図100 上椽内5遺跡 TP-55・TP-56・TP-57・TP-58



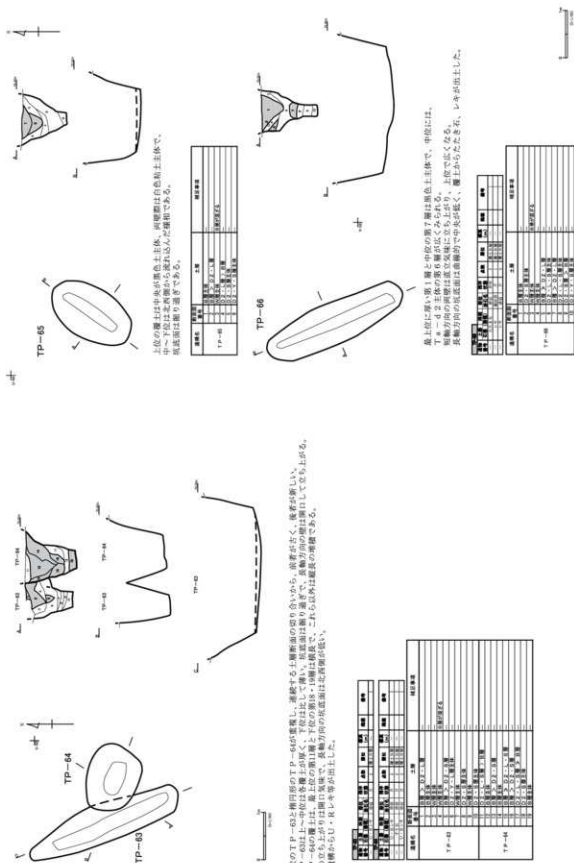


図102 上幌内5遺跡 TP-63・TP-64・TP-65・TP-66

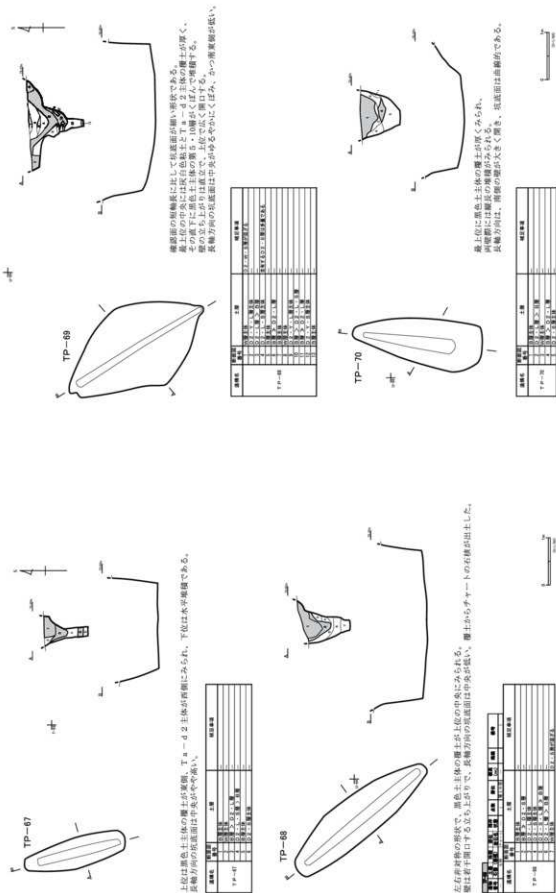
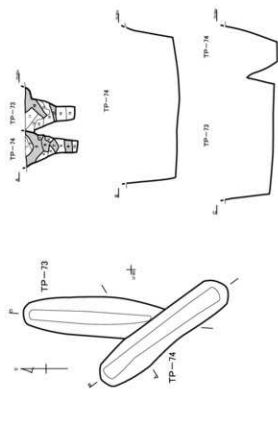


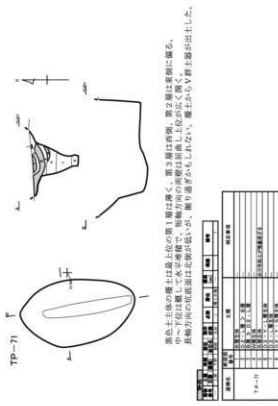
図103 上段内5遺跡 TP-67・TP-68・TP-69・TP-70





同層級の埋まいが認められる。連続する土層断面の編年から、TP-74はTP-73を切っており、前者が新しく後者が古い。  
 TP-73の上位は、南西側から灰白色黏土主体の第1層とT#d-2主体の第1層、北東側から黒色土主体の第1層の層相が中央へと連続してみられ、中～下位は水平層相である。  
 TP-74の層土は、最上段の中央部にT#d-2主体の第1層と灰白色黏土主体の第2層が薄くみられ、その直下は黒色土主体の第3・5層が厚い。長軸方向の両側は若干開口して立ち上がり、底辺面は中央がゆるやかにくぼむ。  
 層土からチャートの石粒とU・R・レキが出土した。

遺構番号	遺構の位置		層相	土質	厚さ	形状	備考
	北緯	東経					
TP-73	100.0	100.0	第1層	灰白色黏土	約1.0m	浅い	
TP-74	100.0	100.0	第1層	黒色土	約1.5m	長楕円形	



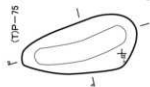
黒色土主体の層土は最上段の第1層は薄く、第2層は石灰、第3層は灰砂、第4層は灰砂に偏る。第5層は石灰質土質の層相が中央へと連続してみられ、中～下位は水平層相である。  
 長軸方向の両側面は北面が埋まいが、掘り通しがみられない。層土からV跡止層が出土した。

遺構番号	遺構の位置		層相	土質	厚さ	形状	備考
	北緯	東経					
TP-71	100.0	100.0	第1層	黒色土	約1.0m	浅い	
TP-72	100.0	100.0	第1層	黒色土	約1.5m	長楕円形	

黒色土主体の層土は、第1層が石灰、第2層が石灰、第3層が石灰に偏る。第4層は石灰質土質の層相は上位に偏る。第5層は石灰質土質の層相は北面側へと連続する。  
 長軸方向の両側面は北面側が埋まいが、掘り通しがみられない。層土からV跡止層が出土した。

遺構番号	遺構の位置		層相	土質	厚さ	形状	備考
	北緯	東経					
TP-73	100.0	100.0	第1層	灰白色黏土	約1.0m	浅い	
TP-74	100.0	100.0	第1層	黒色土	約1.5m	長楕円形	

図104 上幌内5遺跡 TP-71・TP-72・TP-73・TP-74



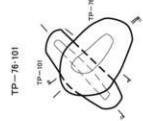
赤く土紙と考えられる。覆土は上面に頂上土主体の第1層が部分的にみられ、  
基下層はT a-d 2 主体である。  
南側の急斜面は開口して立ち上がり、東輪方向の底面は北側が低い。

調査年度	調査地区	調査区画	調査種別
1978-79	大塚	101-103	調査
調査実施者			
調査実施日			

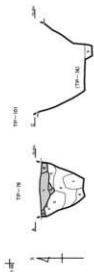


最上層はT a-d 2 主体の第1層が見られ、基下の第2・3層は頂上土主体で曲線的な断面である。  
壁は開口して立ち上がり、底面は北・西側に傾斜する。南・北次s p-1-7を参照し、  
s p-3以内は2か所が急勾配で土輪上に位置するとみられる。

調査年度	調査地区	調査区画	調査種別
1977	大塚	101-103	調査
調査実施者			
調査実施日			



TP-76-101



TP-76-101

TP-76の北西側部分を掘り下げたところ、底面で環状のTP-101の底面が見つかり、  
重複していたと推定した。頂上土主体で、基下層の急斜面には赤色粘土主体の覆土が確認にみられる。  
壁は開口して立ち上がり、急斜面の底面は開口して平坦である。  
TP-101の最下層はT a-d 2 主体で、東輪方向の壁は若干開口して立ち上がり、  
北西側は曲線的に中央がくぼむ。  
みつけられなかっただけの可能性があるが、TP-76の調査中にTP-101の覆土や  
TP-76が重なっており判明しと推定される。

調査年度	調査地区	調査区画	調査種別	
			調査	掘削
1978-79	大塚	101-103	○	○
		101-104	○	○
		101-105	○	○
		101-106	○	○
		101-107	○	○
		101-108	○	○
		101-109	○	○
		101-110	○	○
		101-111	○	○
		101-112	○	○
		101-113	○	○
		101-114	○	○

図105 上巻内5遺跡 (T) P-75・T P-77・T P-76・T P-101

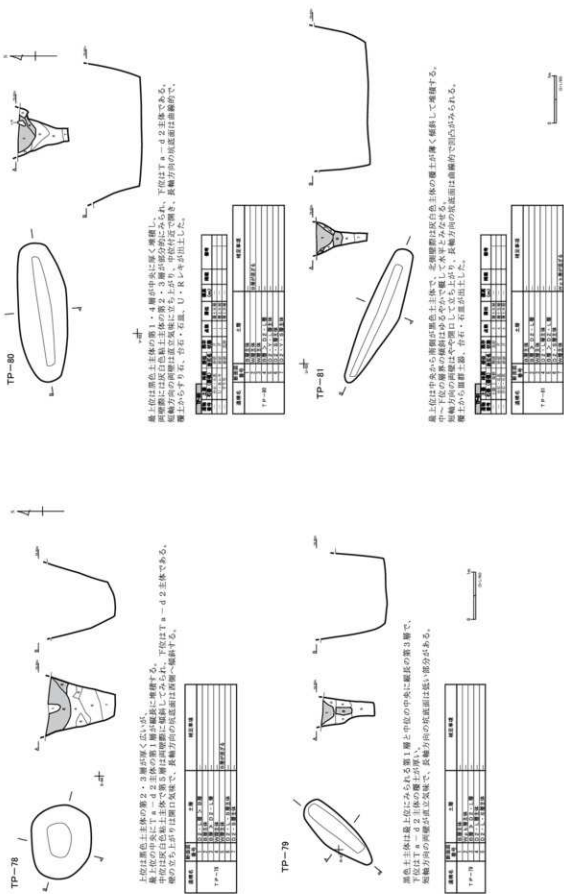
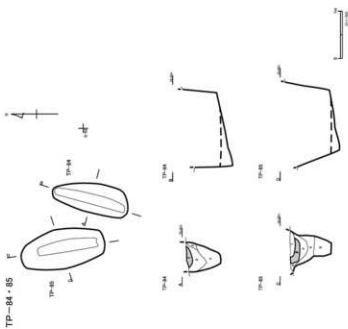
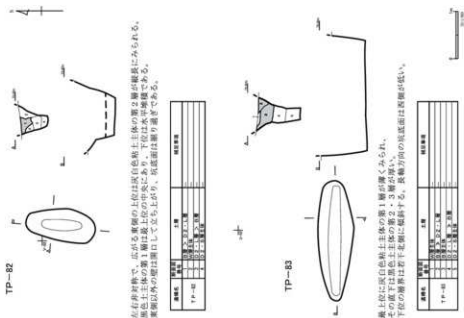


図106 上椽内5遺跡 TP-78・TP-79・TP-80・TP-81



横田館の名で、東側のTP-84は最上位中央に黒色土主体の層が傾斜し、層厚はすべて傾斜する。東側のTP-85は最上位の層上はTP-a-d 2主体の厚い層が傾斜する。灰白色粘土主体の最上層で、下位は若干傾斜する。西側の最上位は傾斜し、傾斜部の北側部分は傾斜が弱い。

調査年度	調査区画	調査位置	調査方法	調査結果
昭和37年	10-1	10-1	10-1	10-1
昭和38年	10-2	10-2	10-2	10-2
昭和39年	10-3	10-3	10-3	10-3
昭和40年	10-4	10-4	10-4	10-4
昭和41年	10-5	10-5	10-5	10-5
昭和42年	10-6	10-6	10-6	10-6

調査年度	調査区画	調査位置	調査方法	調査結果
昭和37年	10-1	10-1	10-1	10-1
昭和38年	10-2	10-2	10-2	10-2
昭和39年	10-3	10-3	10-3	10-3
昭和40年	10-4	10-4	10-4	10-4
昭和41年	10-5	10-5	10-5	10-5
昭和42年	10-6	10-6	10-6	10-6

図107 上層内5遺跡 TP-82・TP-83・TP-84・TP-85

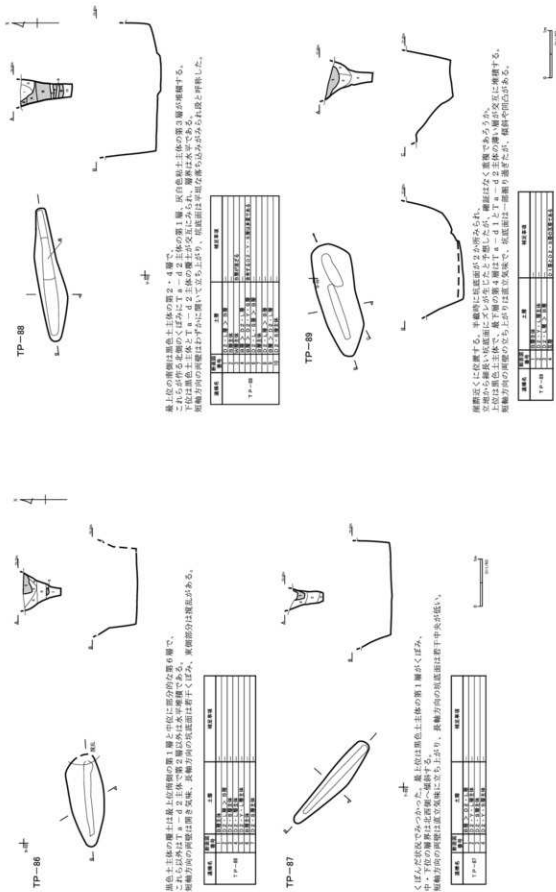


図108 上幌内5遺跡 TP-86・TP-87・TP-88・TP-89

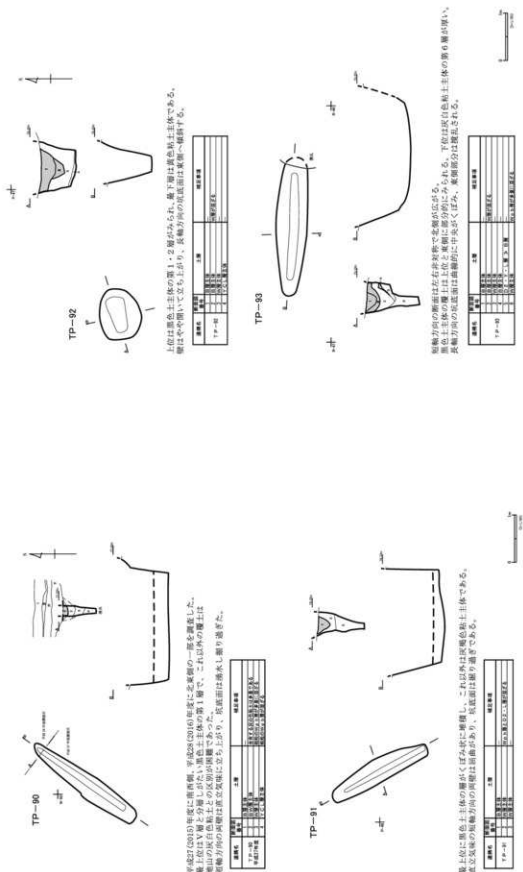


図109 上層内5遺跡 TP-90・TP-91・TP-92・TP-93

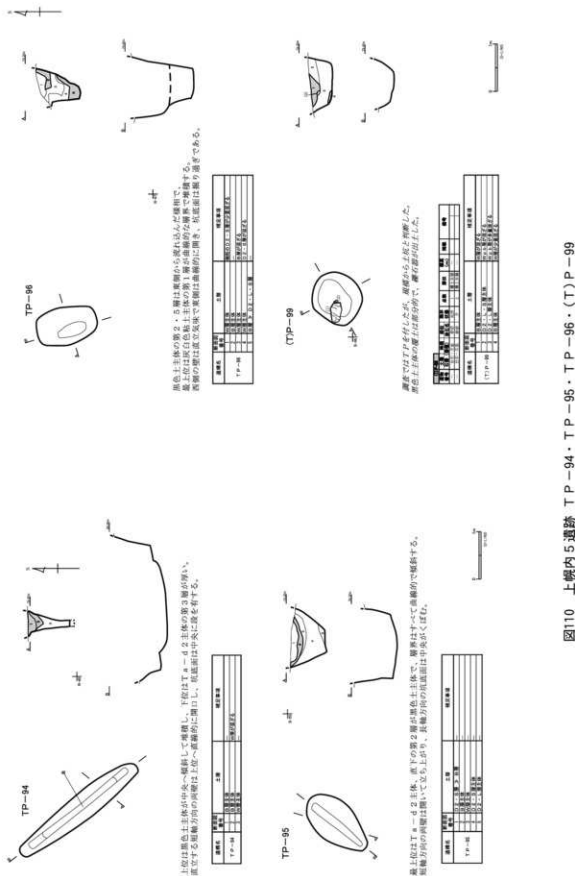


図110 上幌内5遺跡 TP-94・TP-95・TP-96・(T)P-99

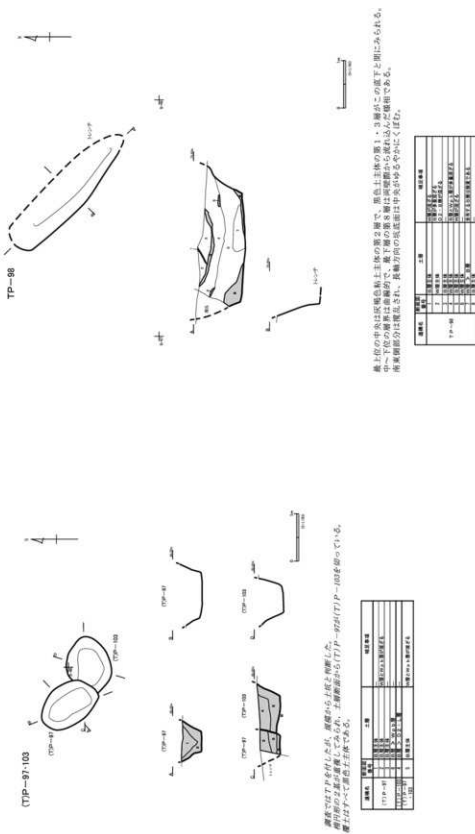


図111 上堀内5遺跡 (TP-97・TP-103・TP-98)



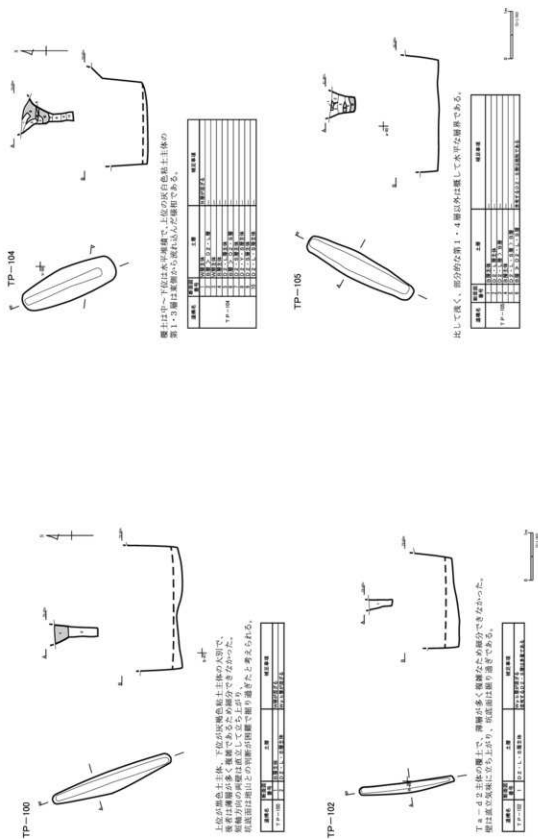


図112 上椽内5遺跡 TP-100・TP-102・TP-104・TP-105

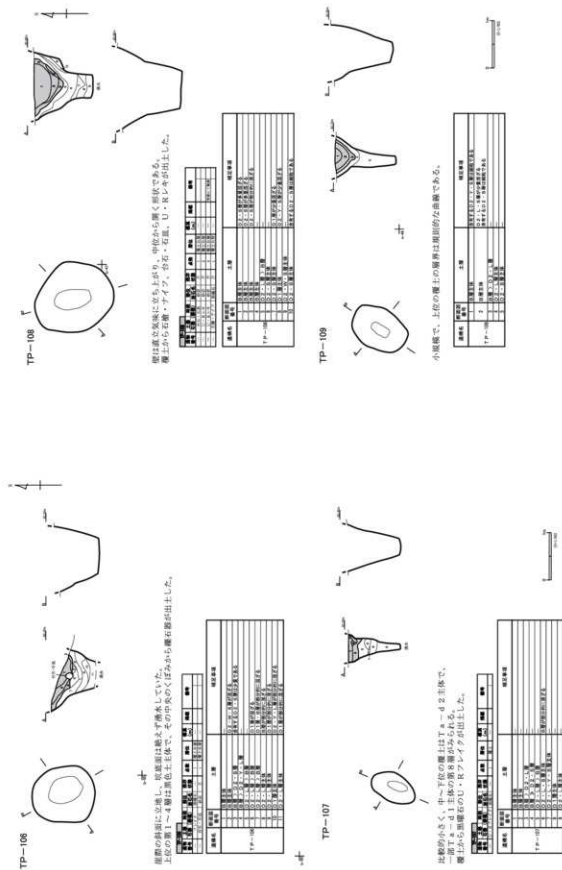
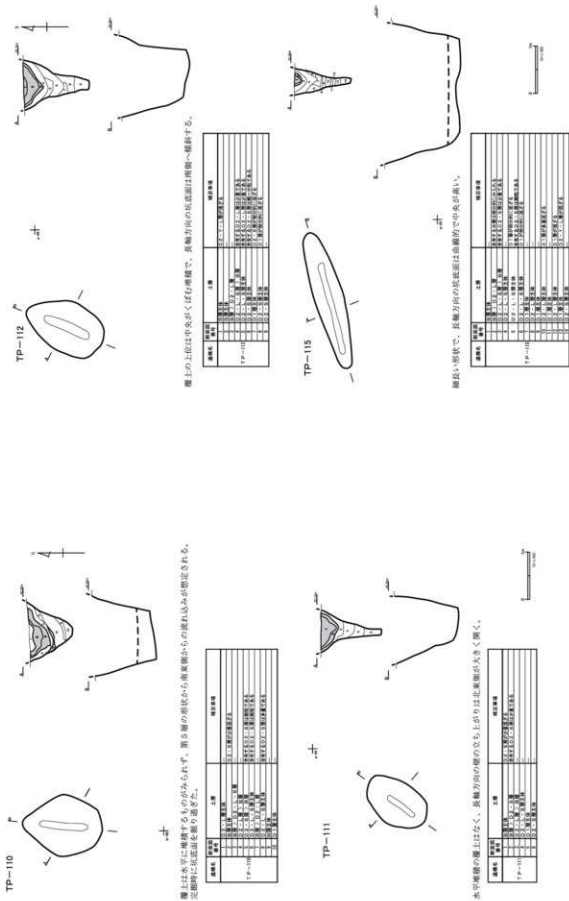


図113 上層内5遺跡 TP-106・TP-107・TP-108・TP-109



遺構名: TP-110  
 位置: 上幌内5遺跡  
 面積: 1.5㎡  
 深さ: 0.5m  
 形状: 長方形  
 用途: 土坑

遺構名: TP-111  
 位置: 上幌内5遺跡  
 面積: 2.0㎡  
 深さ: 0.8m  
 形状: 長方形  
 用途: 土坑

遺構名: TP-112  
 位置: 上幌内5遺跡  
 面積: 1.8㎡  
 深さ: 0.6m  
 形状: 長方形  
 用途: 土坑

遺構名: TP-115  
 位置: 上幌内5遺跡  
 面積: 2.2㎡  
 深さ: 0.9m  
 形状: 長方形  
 用途: 土坑

遺構名: TP-110  
 位置: 上幌内5遺跡  
 面積: 1.5㎡  
 深さ: 0.5m  
 形状: 長方形  
 用途: 土坑

遺構名: TP-111  
 位置: 上幌内5遺跡  
 面積: 2.0㎡  
 深さ: 0.8m  
 形状: 長方形  
 用途: 土坑

図114 上幌内5遺跡 TP-110・TP-111・TP-112・TP-115

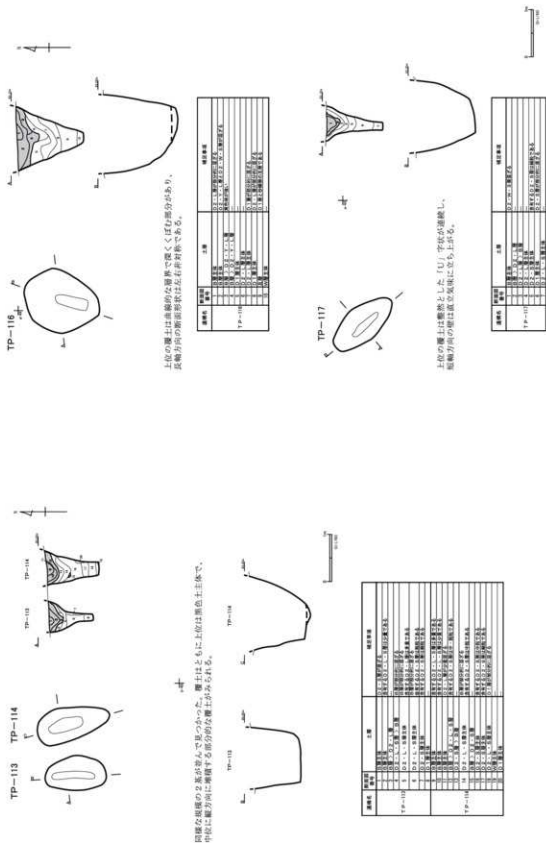


図115 上標内5遺跡 TP-113・TP-114・TP-116・TP-117





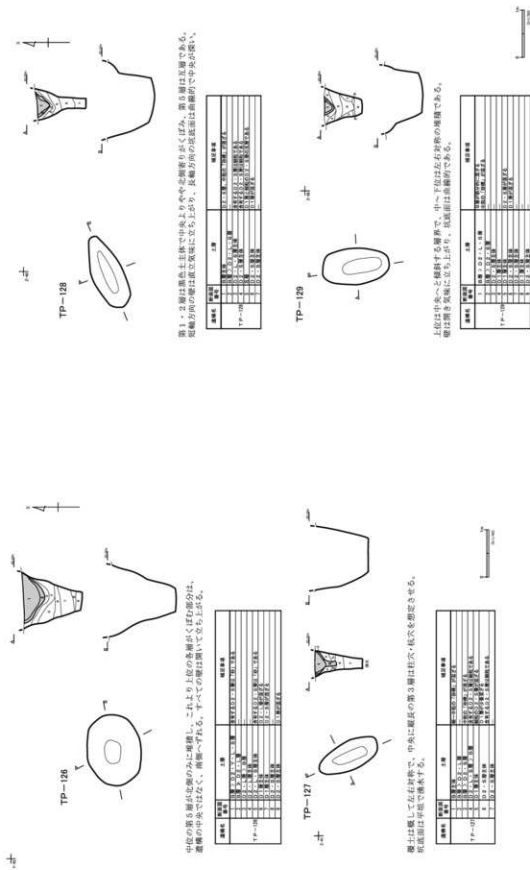


図118 上椽内5遺跡 TP-126・TP-127・TP-128・TP-129

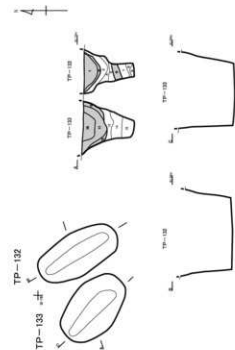


図119 上椀内5遺跡 TP-130・TP-131・TP-132・TP-133

長軸方向で半截したが、黒色土主体の層土は第1・3・6層で北西面にみられる。短軸方向の断面は全々閉口して立ち上る。

層番号	層名	土質	厚さ	備考
1	1. 0.1-0.15	黒色土	0.15	北西面にみられる
2	2. 0.15-0.2	黒色土	0.05	
3	3. 0.2-0.25	黒色土	0.05	
4	4. 0.25-0.3	黒色土	0.05	
5	5. 0.3-0.35	黒色土	0.05	
6	6. 0.35-0.4	黒色土	0.05	

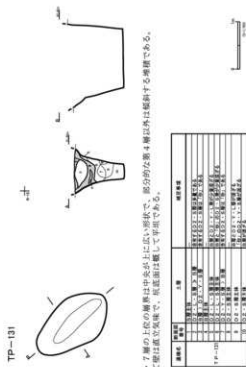


図120 上椀内5遺跡 TP-130・TP-131

第2・7層の上位の層土は中央上に広い凹状で、部分的な第4層以外は傾斜する層状である。下へては底が直交角で、底底面は概して平坦である。

層番号	層名	土質	厚さ	備考
1	1. 0.1-0.15	黒色土	0.15	中央上に広い凹状
2	2. 0.15-0.2	黒色土	0.05	
3	3. 0.2-0.25	黒色土	0.05	
4	4. 0.25-0.3	黒色土	0.05	
5	5. 0.3-0.35	黒色土	0.05	
6	6. 0.35-0.4	黒色土	0.05	

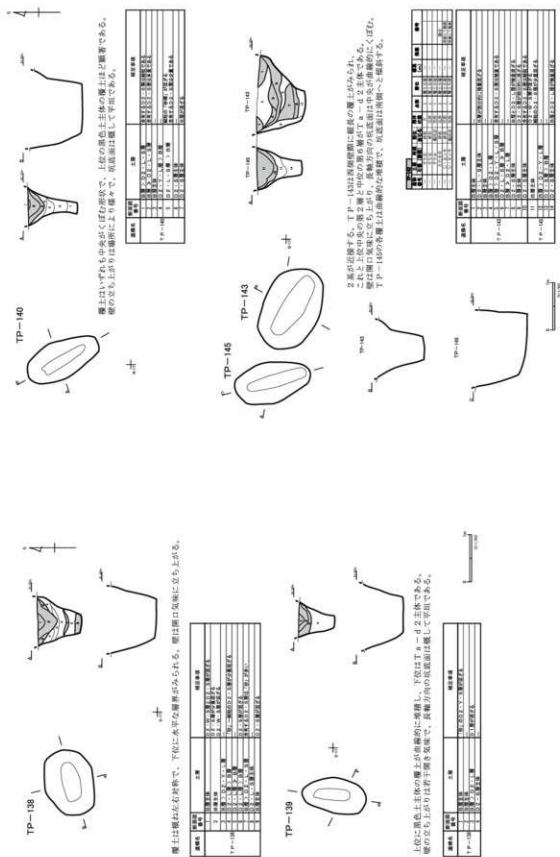
図121 上椀内5遺跡 TP-132・TP-133

2層が反復してみられた。TP-133の上位の層土は中央がくぼみ、下位は溝方向へ傾斜する。TP-132の上位の層土は黒色土主体である。ともに長軸方向の断面は中央が直下傾。

層番号	層名	土質	厚さ	備考
1	1. 0.1-0.15	黒色土	0.15	中央がくぼみ
2	2. 0.15-0.2	黒色土	0.05	
3	3. 0.2-0.25	黒色土	0.05	
4	4. 0.25-0.3	黒色土	0.05	
5	5. 0.3-0.35	黒色土	0.05	
6	6. 0.35-0.4	黒色土	0.05	











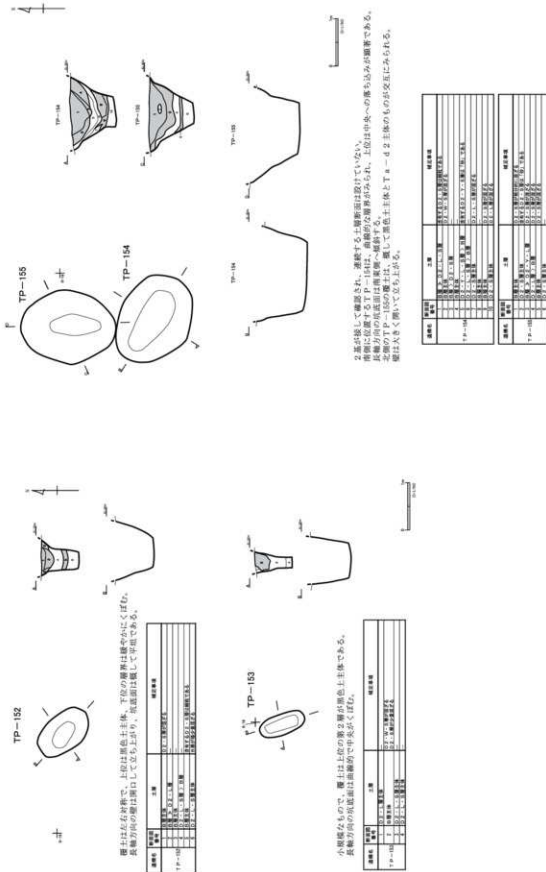


図124 上幌内5遺跡 TP-152・TP-153・TP-154・TP-155

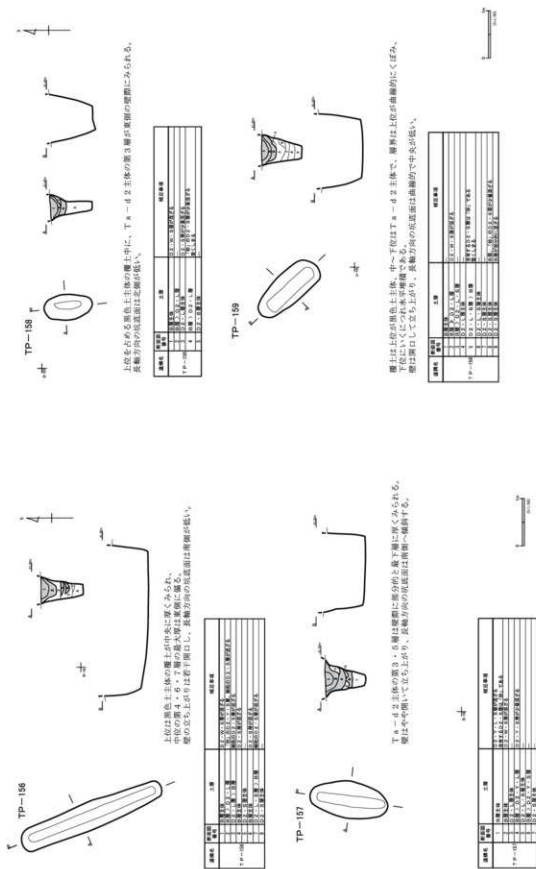


図125 上層内5遺跡 TP-156・TP-157・TP-158・TP-159



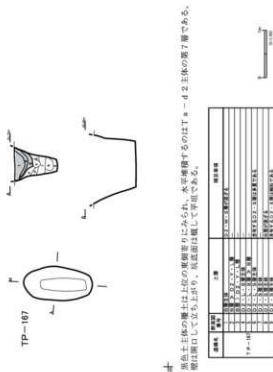
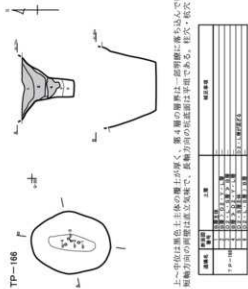
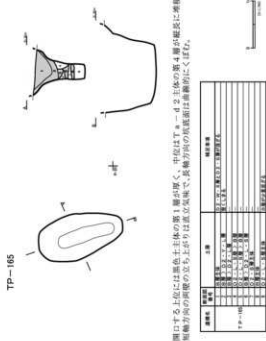
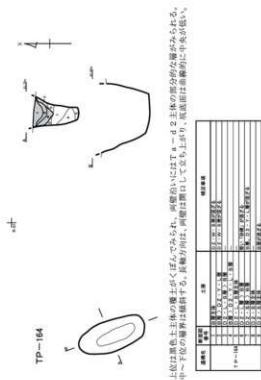


図127 上欄内5遺跡 TP-164・TP-165・TP-166・TP-167





TP-174



上位は本層の礫層の厚さ、5層以外の礫色土主体で広く厚く被覆し、  
中央、下位の礫土主体の層土は中央を広くぼくぼくと占め、  
北西側以外の層は全開口して立ち上がり、長軸方向の底面は中央が前面にくぼむ。

調査区	調査点	土層	地質	備考
TP-174	1	1	1.1	1.1.1 礫層
		2	2.1	2.1.1 礫層
		3	3.1	3.1.1 礫層
		4	4.1	4.1.1 礫層
		5	5.1	5.1.1 礫層
		6	6.1	6.1.1 礫層
		7	7.1	7.1.1 礫層
		8	8.1	8.1.1 礫層
		9	9.1	9.1.1 礫層
		10	10.1	10.1.1 礫層

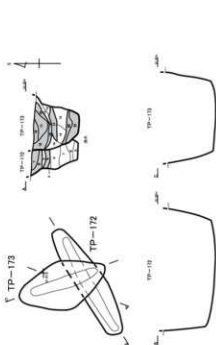
TP-175



礫色土主体の層土は、上位は中央に開口し、3層土層が礫に第4層が礫的にみられ、  
中央に深くのぼくぼくとしてぼくぼくと占められ、下位は長軸方向の厚さ4層で、  
短軸方向の厚さは開口して立ち上がり、長軸方向の底面は開口部がある。  
層土から礫層の厚さが抽出した。

調査区	調査点	土層	地質	備考
TP-175	1	1	1.1	1.1.1 礫層
		2	2.1	2.1.1 礫層
		3	3.1	3.1.1 礫層
		4	4.1	4.1.1 礫層
		5	5.1	5.1.1 礫層
		6	6.1	6.1.1 礫層
		7	7.1	7.1.1 礫層
		8	8.1	8.1.1 礫層
		9	9.1	9.1.1 礫層
		10	10.1	10.1.1 礫層

210



溝状のTP-172と構内部分のTP-173は重複し、連続する土層断面から前者は後者に切られ、  
TP-172は古くTP-173が新しい。  
礫色土主体の層土は中央を広くぼくぼくと占め、  
中央と下位の層土は開口がゆるやかである。  
層の立ち上がりは開口気味で、底面は曲線的で中央が低い。

TP-172は開口して立ち上がり層土が多く、長軸方向の底面は曲線的で中央がくぼむ。  
TP-173は礫色土主体の層土が多く、最上位は開口して中央へよくぼくぼくと占められ、  
中央と下位の層土は開口がゆるやかである。  
層の立ち上がりは開口気味で、底面は曲線的で中央が低い。

調査区	調査点	土層	地質	備考
TP-172	1	1	1.1	1.1.1 礫層
		2	2.1	2.1.1 礫層
		3	3.1	3.1.1 礫層
		4	4.1	4.1.1 礫層
		5	5.1	5.1.1 礫層
		6	6.1	6.1.1 礫層
		7	7.1	7.1.1 礫層
		8	8.1	8.1.1 礫層
		9	9.1	9.1.1 礫層
		10	10.1	10.1.1 礫層

図129 上層内5遺跡 TP-172・TP-173・TP-174・TP-175

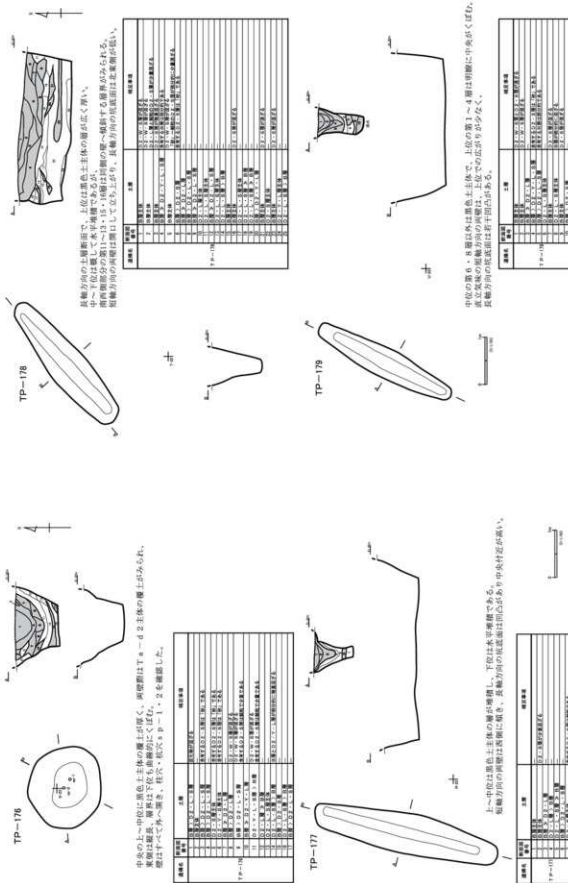


図130 上幌内5遺跡 TP-176・TP-177・TP-178・TP-179

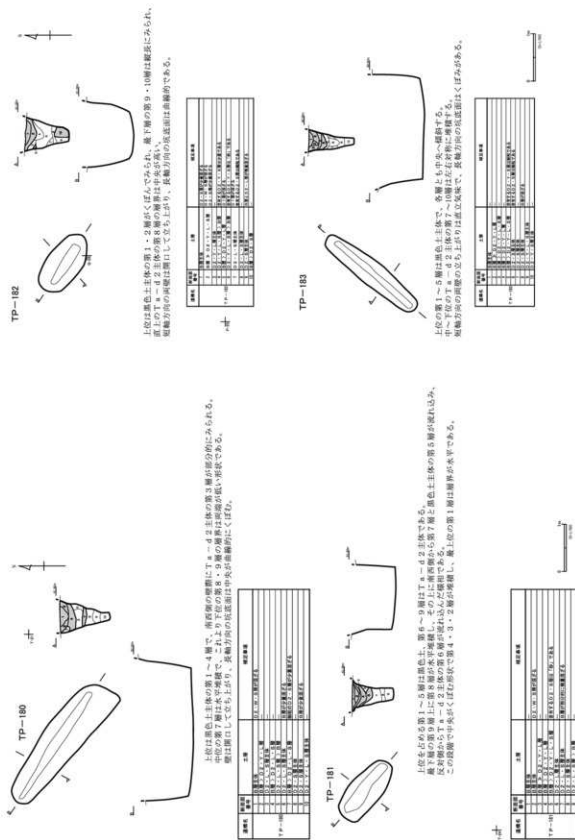


図131 上標内5遺跡 TP-180・TP-181・TP-182・TP-183

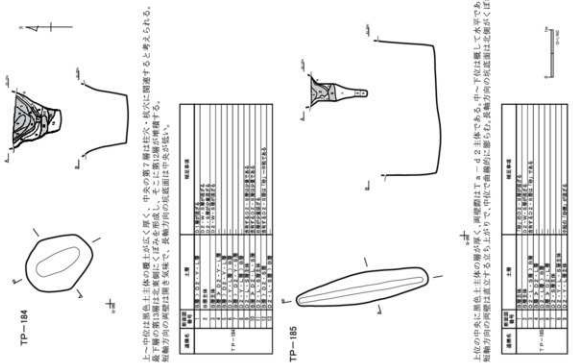
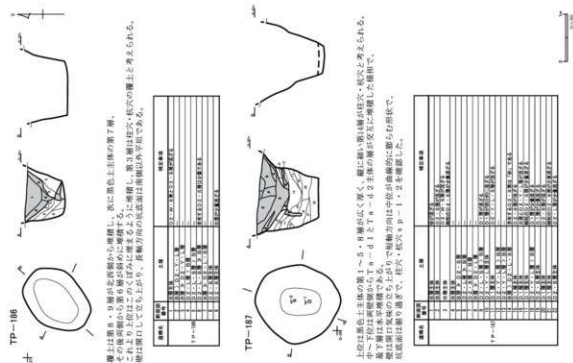
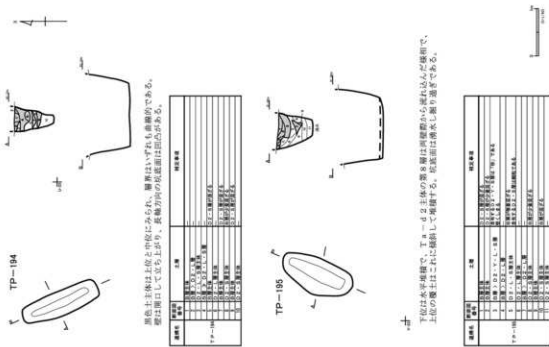


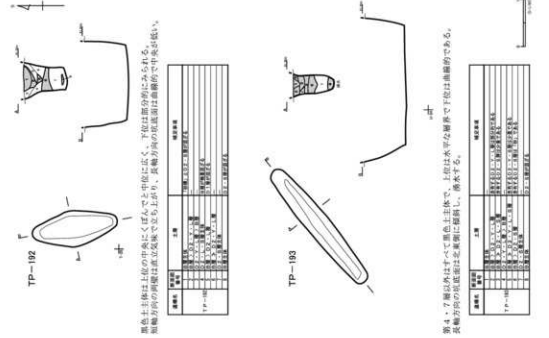
図132 上幌内5遺跡 TP-184・TP-185・TP-186・TP-187





黒色土主体は上位の中央にくぼんで中位に広く、下位は腰分割にみられる。原輪方向の両端は直立突縁で立ち上がり、原輪方向の両端部は曲線的で中央が低い。

下位は水平面形で、上部は黒色土主体の蓄る層は河原部から流れるんだ屋根で、上位の壁土はこれに懸掛して構築する。北西部は雨水し漏り構造である。



黒色土主体は上位の中央にくぼんで中位に広く、下位は腰分割にみられる。原輪方向の両端は直立突縁で立ち上がり、原輪方向の両端部は曲線的で中央が低い。

下位は水平面形で、上部は黒色土主体の蓄る層は河原部から流れるんだ屋根で、上位の壁土はこれに懸掛して構築する。北西部は雨水し漏り構造である。

図134 上幌内5遺跡 TP-192・TP-193・TP-194・TP-195

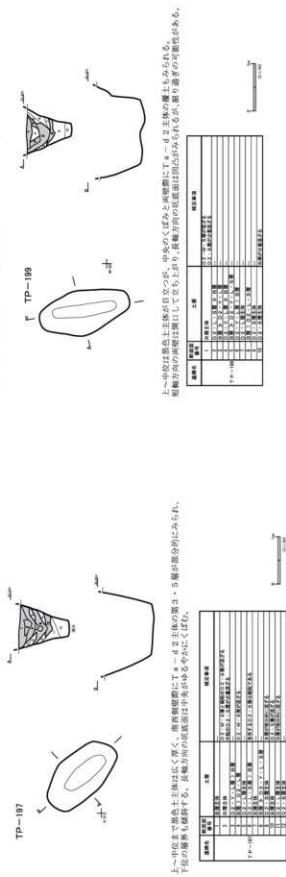
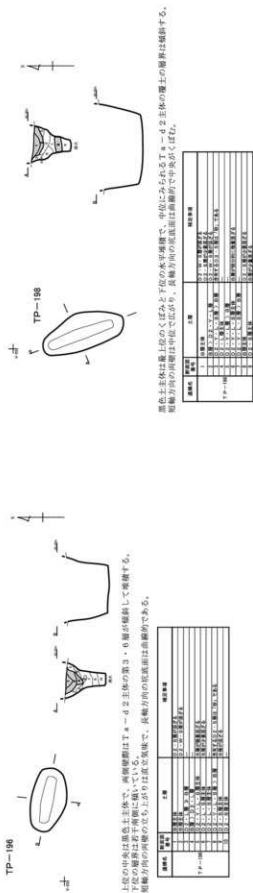
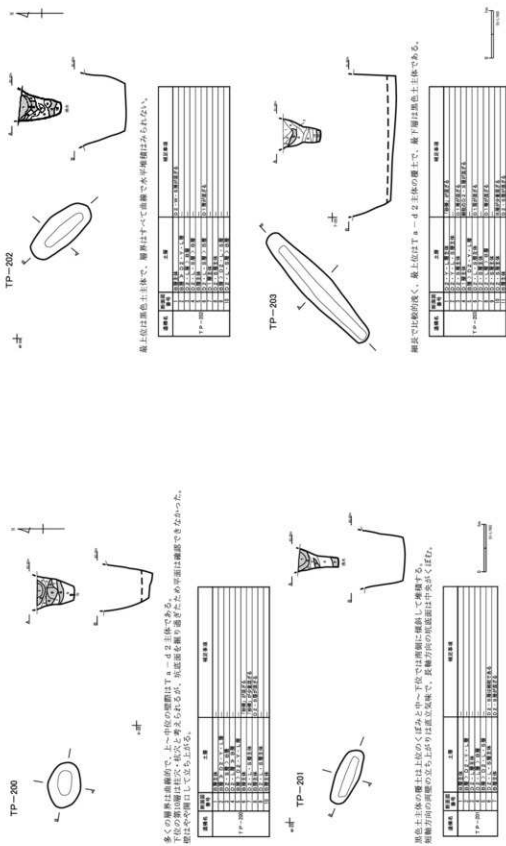


図135 上段内5遺跡 TP-196・TP-197・TP-198・TP-199





黒土位は黒色土主体で、層厚はすべて直線と水平線のみで示されたい。

黒土位は黒色土主体で、黒土位はT a-1-2主体の黒土で、黒土位は黒色土主体である。

▲ TP-200

▲ TP-202

▲ TP-201

▲ TP-203

▲ TP-200

▲ TP-202

▲ TP-201

▲ TP-203

図136 上幌内5遺跡 T P - 200 ・ T P - 201 ・ T P - 202 ・ T P - 203



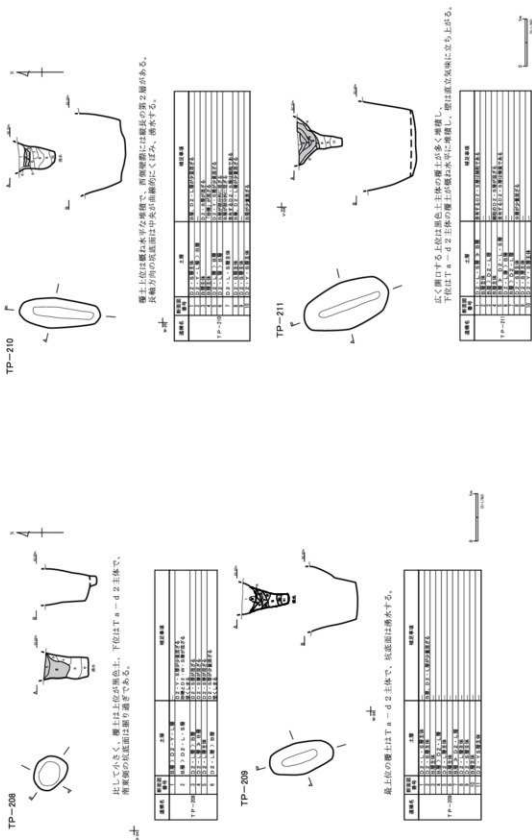


図138 上幌内5遺跡 TP-208・TP-209・TP-210・TP-211

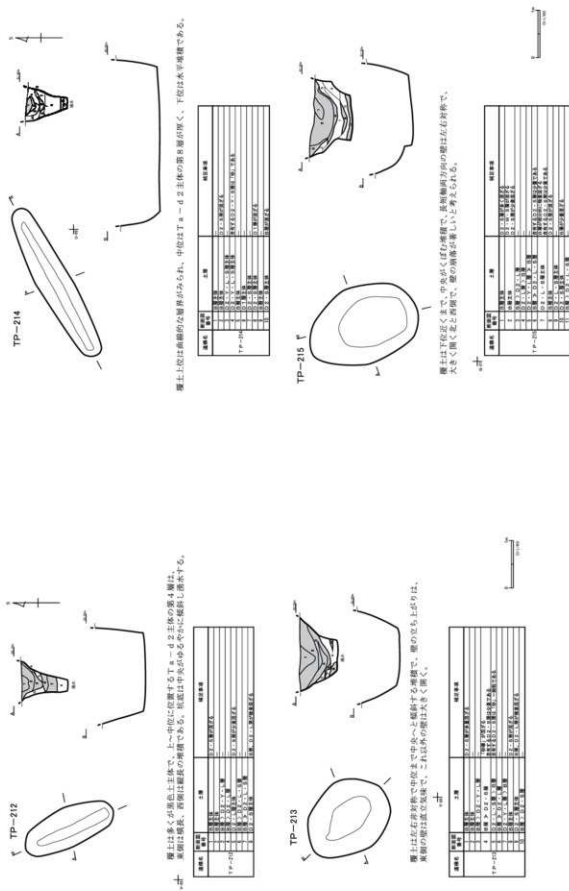
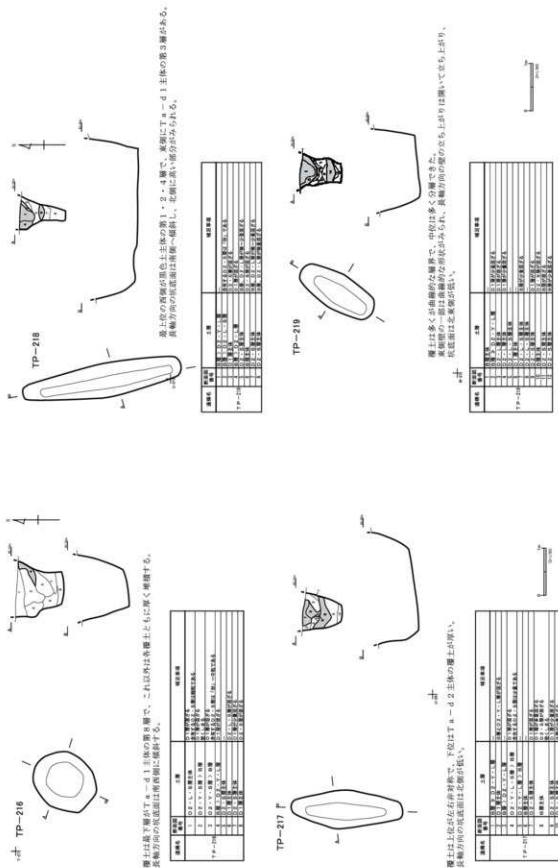


図139 上層内5遺跡 TP-212・TP-213・TP-214・TP-215



遺土は最上層が赤土主体の第1・2・4層で、東側にT a-d-1主体の第3層がある。長軸方向の気流面は南側に傾斜し、北側に高い部分がある。

層別	層番号	土層	観察事項
TP-218	1	D.F.V.L. 1 厚砂層	厚砂層が厚く、上部に傾斜した土層が認められる。
	2	D.F.V.L. 2 厚砂層	厚砂層が厚く、上部に傾斜した土層が認められる。
	4	D.F.V.L. 4 厚砂層	厚砂層が厚く、上部に傾斜した土層が認められる。
TP-218 1 厚砂層 2 厚砂層 3 厚砂層 4 厚砂層 5 厚砂層 6 厚砂層 7 厚砂層 8 厚砂層 9 厚砂層 10 厚砂層 11 厚砂層 12 厚砂層 13 厚砂層 14 厚砂層 15 厚砂層 16 厚砂層 17 厚砂層 18 厚砂層 19 厚砂層 20 厚砂層 21 厚砂層 22 厚砂層 23 厚砂層 24 厚砂層 25 厚砂層 26 厚砂層 27 厚砂層 28 厚砂層 29 厚砂層 30 厚砂層 31 厚砂層 32 厚砂層 33 厚砂層 34 厚砂層 35 厚砂層 36 厚砂層 37 厚砂層 38 厚砂層 39 厚砂層 40 厚砂層 41 厚砂層 42 厚砂層 43 厚砂層 44 厚砂層 45 厚砂層 46 厚砂層 47 厚砂層 48 厚砂層 49 厚砂層 50 厚砂層 51 厚砂層 52 厚砂層 53 厚砂層 54 厚砂層 55 厚砂層 56 厚砂層 57 厚砂層 58 厚砂層 59 厚砂層 60 厚砂層 61 厚砂層 62 厚砂層 63 厚砂層 64 厚砂層 65 厚砂層 66 厚砂層 67 厚砂層 68 厚砂層 69 厚砂層 70 厚砂層 71 厚砂層 72 厚砂層 73 厚砂層 74 厚砂層 75 厚砂層 76 厚砂層 77 厚砂層 78 厚砂層 79 厚砂層 80 厚砂層 81 厚砂層 82 厚砂層 83 厚砂層 84 厚砂層 85 厚砂層 86 厚砂層 87 厚砂層 88 厚砂層 89 厚砂層 90 厚砂層 91 厚砂層 92 厚砂層 93 厚砂層 94 厚砂層 95 厚砂層 96 厚砂層 97 厚砂層 98 厚砂層 99 厚砂層 100 厚砂層 			

遺土は多くが曲線的な構造で、中心は多く分層された。東側の一部は曲線的な形状がみられ、長軸方向の遺土の立ち上がりは傾いて立ち上がり、気流面は北東側が低い。

層別	層番号	土層	観察事項
TP-219	1	D.F.V.L. 1 厚砂層	厚砂層が厚く、上部に傾斜した土層が認められる。
	2	D.F.V.L. 2 厚砂層	厚砂層が厚く、上部に傾斜した土層が認められる。
	3	D.F.V.L. 3 厚砂層	厚砂層が厚く、上部に傾斜した土層が認められる。
TP-219 1 厚砂層 2 厚砂層 3 厚砂層 4 厚砂層 5 厚砂層 6 厚砂層 7 厚砂層 8 厚砂層 9 厚砂層 10 厚砂層 11 厚砂層 12 厚砂層 13 厚砂層 14 厚砂層 15 厚砂層 16 厚砂層 17 厚砂層 18 厚砂層 19 厚砂層 20 厚砂層 21 厚砂層 22 厚砂層 23 厚砂層 24 厚砂層 25 厚砂層 26 厚砂層 27 厚砂層 28 厚砂層 29 厚砂層 30 厚砂層 31 厚砂層 32 厚砂層 33 厚砂層 34 厚砂層 35 厚砂層 36 厚砂層 37 厚砂層 38 厚砂層 39 厚砂層 40 厚砂層 41 厚砂層 42 厚砂層 43 厚砂層 44 厚砂層 45 厚砂層 46 厚砂層 47 厚砂層 48 厚砂層 49 厚砂層 50 厚砂層 51 厚砂層 52 厚砂層 53 厚砂層 54 厚砂層 55 厚砂層 56 厚砂層 57 厚砂層 58 厚砂層 59 厚砂層 60 厚砂層 61 厚砂層 62 厚砂層 63 厚砂層 64 厚砂層 65 厚砂層 66 厚砂層 67 厚砂層 68 厚砂層 69 厚砂層 70 厚砂層 71 厚砂層 72 厚砂層 73 厚砂層 74 厚砂層 75 厚砂層 76 厚砂層 77 厚砂層 78 厚砂層 79 厚砂層 80 厚砂層 81 厚砂層 82 厚砂層 83 厚砂層 84 厚砂層 85 厚砂層 86 厚砂層 87 厚砂層 88 厚砂層 89 厚砂層 90 厚砂層 91 厚砂層 92 厚砂層 93 厚砂層 94 厚砂層 95 厚砂層 96 厚砂層 97 厚砂層 98 厚砂層 99 厚砂層 100 厚砂層 			

図140 上幌内5遺跡 TP-216・TP-217・TP-218・TP-219



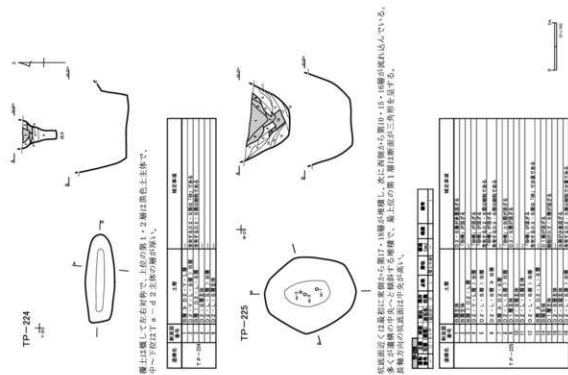
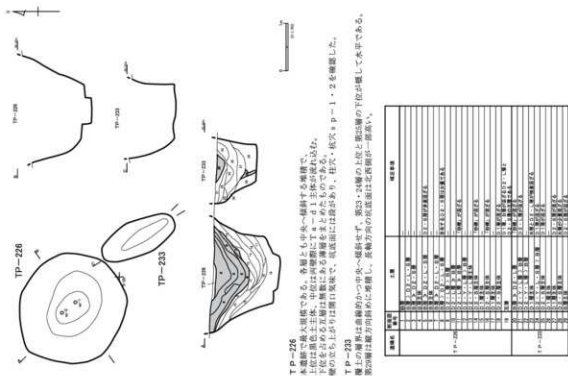
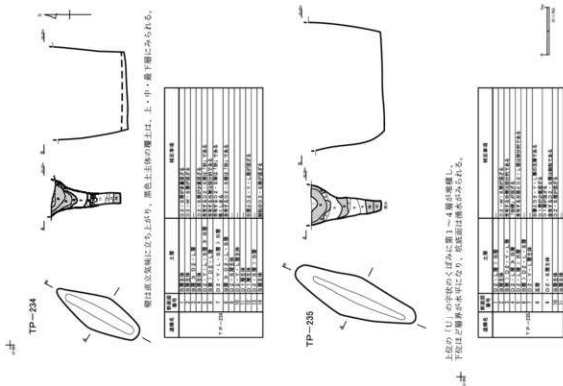


図142 上幌内5遺跡 TP-224・TP-225・TP-226・TP-233

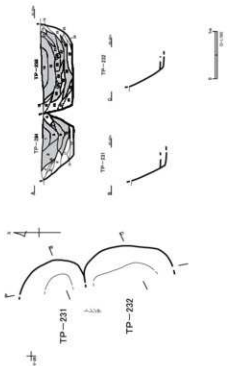






壁は黒土質に立ち上がり、黒色土主体の層土は、上・中・層下部にみられる。

上段の「1」の穴体のくぼみに第1～4層が埋積し、  
下段は層厚が水圧になり、灰底部は湧水がみられる。



長軸方向にトレンチを敷き断りし、連続する土層断面を撮影した。  
ともに断面部であるが、上段部分でTP-232がTP-221を切っていることが判別された。  
黒色土主体の層土は、TP-221は断面に多く、TP-232では層が遺構の中心に埋積している。

層番号	層名	土質	厚	説明
1	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
2	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
3	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
4	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
5	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
6	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
7	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
8	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
9	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
10	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
11	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
12	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
13	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
14	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
15	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
16	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
17	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
18	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
19	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
20	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
21	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
22	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
23	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
24	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
25	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
26	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
27	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
28	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
29	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
30	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
31	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
32	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
33	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
34	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
35	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
36	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
37	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
38	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
39	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
40	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
41	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
42	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
43	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
44	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
45	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
46	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
47	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
48	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
49	黒土質	黒土質	0.1	黒土質
50	黒土質	黒土質	0.1	黒土質

図144 上幌内5遺跡 TP-231・TP-232・TP-234・TP-235

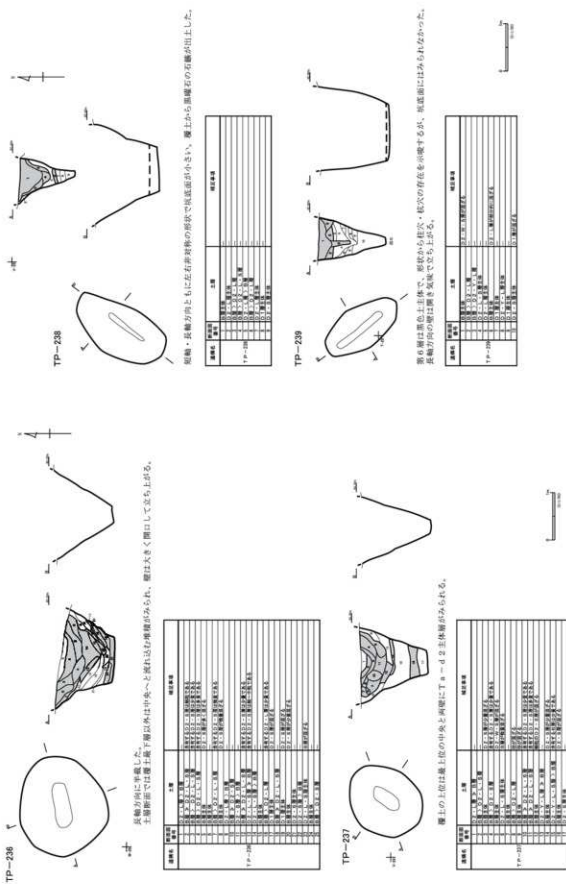


図145 上層内5遺跡 TP-236・TP-237・TP-238・TP-239

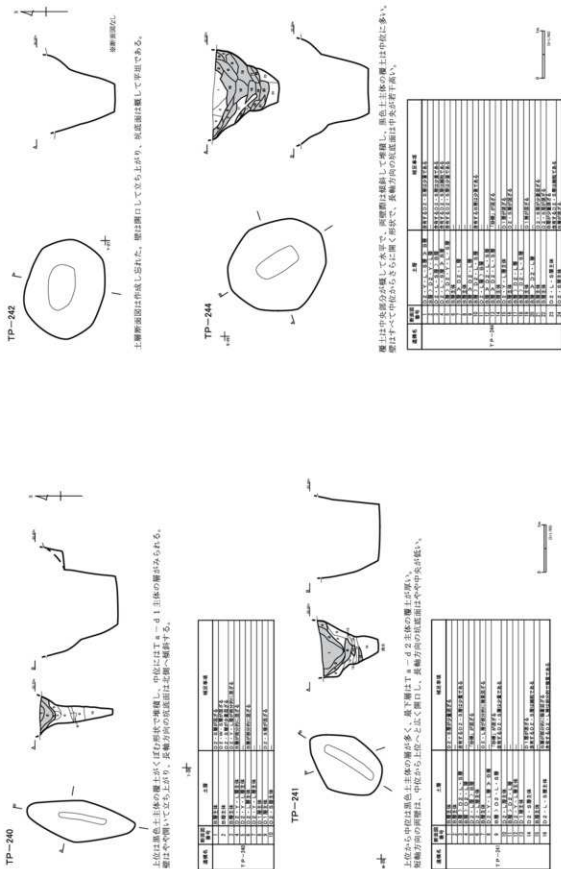


図146 上幌内5遺跡 TP-240・TP-241・TP-242・TP-244

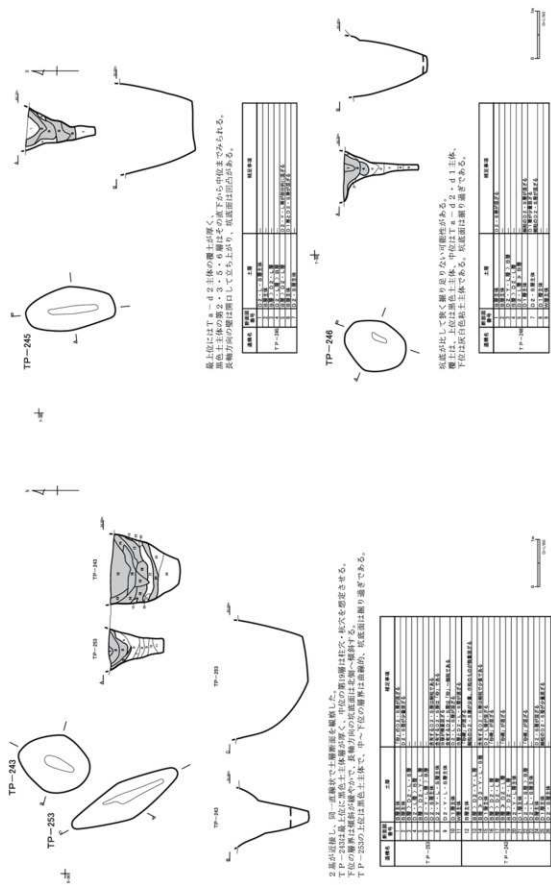


図147 上標内5遺跡 TP-243・TP-245・TP-246・TP-245・TP-246



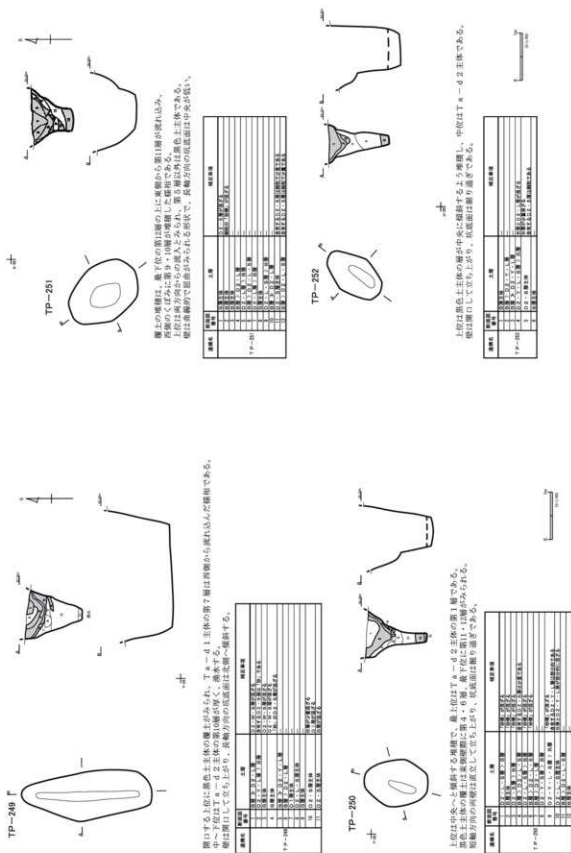


図149 上層内5遺跡 TP-249・TP-250・TP-251・TP-252

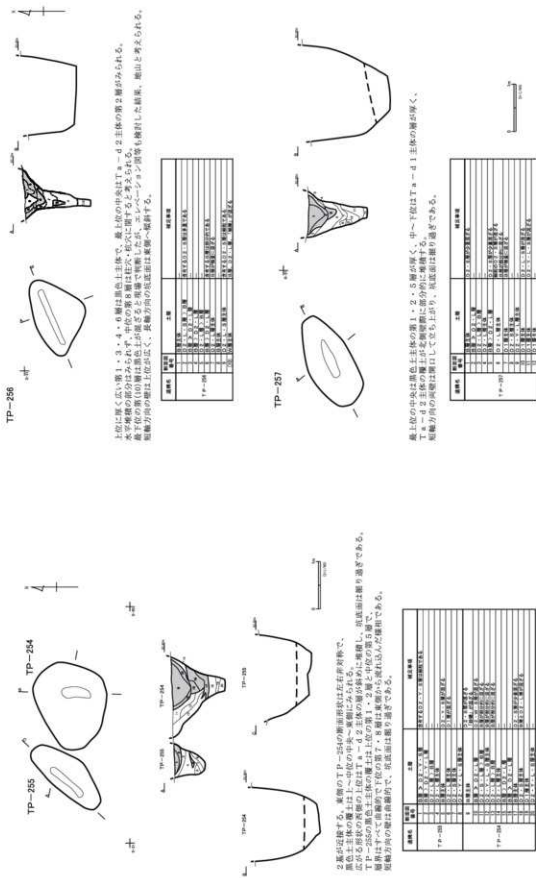


図150 上幌内5遺跡 TP-254・TP-255・TP-256・TP-257

2基が近接する。東側のTP-254の断面形状は左右対称で、黒色土体の層上は上～中央の中央～周囲にみられる。TP-255の断面形状は上～中央の中央～周囲にみられる。TP-256の断面形状は上～中央の中央～周囲にみられる。TP-257の断面形状は上～中央の中央～周囲にみられる。断面は掘り過ぎである。層状はすべて曲線的で下位の第7・8層は東側から流れ込みが確認される。掘削方向の壁は曲線的で、東側面は掘り過ぎである。

最上位の中央は黒色土体の第1・2・3層が厚く、中～下位はT s-d 1主体の層が厚く、T s-d 2主体の層上は北部空間に部分前に薄層する。掘削方向の両端は開口して北上がり、北側面は掘り過ぎである。

上位に厚く広い第1・3・4・6層は黒色土主体で、最上位の中央はT s-d 2主体の第2層がみられる。水平層状の層分はみられる。中位の第8層は柱穴・穴下に開くと考えられる。最下位の第10層は黒色土が厚さると項並で判明したが、エレベーション図等も検討した結果、掘削と考えられる。掘削方向の層は上位が広く、北側面は東側へ傾斜する。

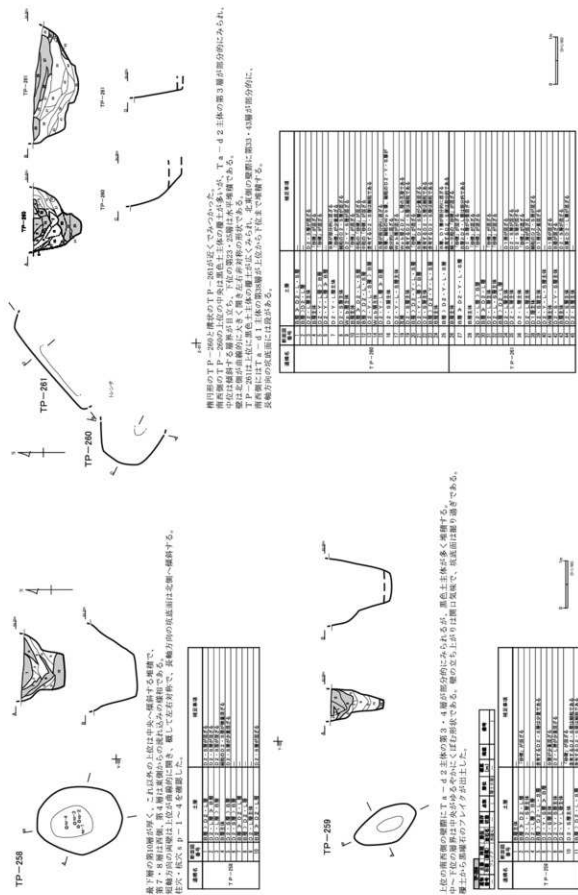


図151 上層内5遺跡 TP-258・TP-259・TP-260・TP-261



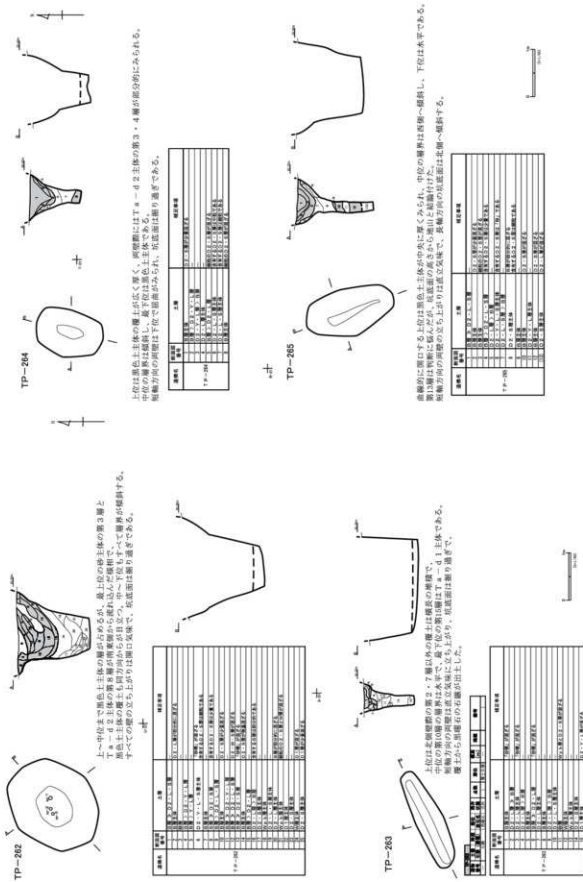
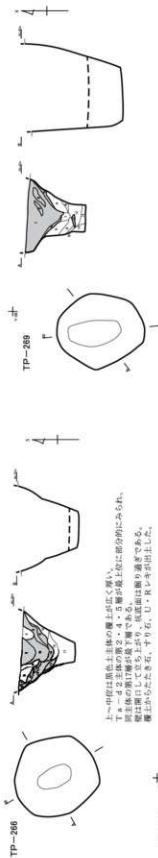


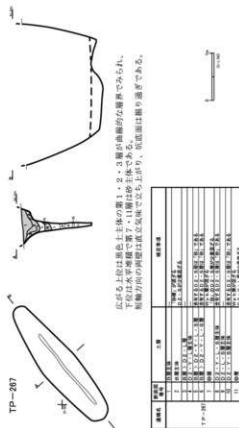
図152 上幌内5遺跡 TP-262・TP-263・TP-264・TP-265



上～中位は黒色土主体の層土が広く厚い。  
 T a - 2 主体の第 2・4・5 層が最上位に部分的にみられ、  
 同層から下位は T a - 1 主体の第 1 層が主層である。底面は傾り過ぎである。  
 層土からなる石、すり石、し・れとギヤ出止む。

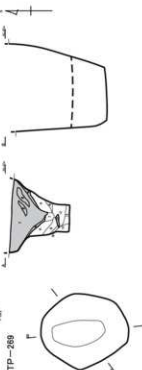
層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30



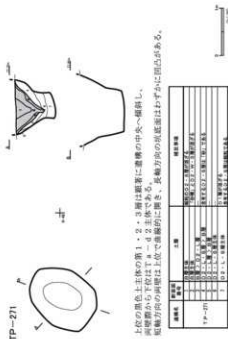
広がる上部は黒色土主体の第 1・2・3 層が傾斜的な層層であられ、  
 傾斜方向の両側は直立気体で立ち上がり、底面は傾り過ぎである。

層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30



上～中位まで黒色土主体の第 1・2・3・4・5 層が広く厚く、中位の層層は傾斜し、  
 T a - d 1 主体の部分・15 層は有肉部から戻れられただ傾斜である。  
 成立して立ち上がり傾斜方向の両側は上位で開き、底面は傾り過ぎである。

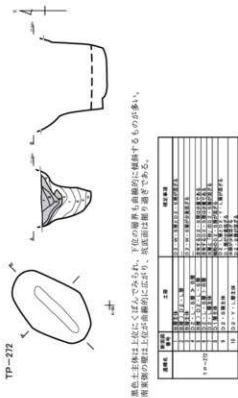
層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30



上位の黒色土主体の第 1・2・3 層は傾斜に遺構の中央～傾斜し、  
 所層から下位は T a - d 2 主体である。  
 傾斜方向の両側は上位で急激的に開き、左端方向の気底面はおよそに傾きがある。

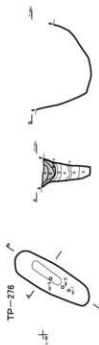
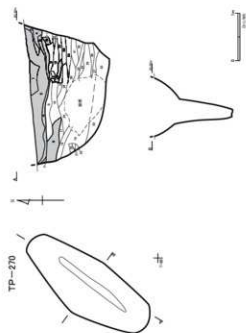
層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

図153 上層内5遺跡 TP-266・TP-267・TP-269・TP-271



黒色土主体は上位にくぼんでみられ、下位の層界も断片的に模糊するものが多い。南東部の壁は上位が断片的に広がり、底表面は粗みぞである。

上部は黒色土主体が著しく、中～下部はT・dまたは白色土主体の層が断片的に分布する層上である。多くの層間は断片的でゆるやかな傾斜がみられる。北東部は遺構として東西に連続する層上である。「溝溝」と呼ばれた部分は土層断面図面に於いた部分で、長軸方向の底表面は北東部が低い。



上位は褐色土主体の第1・2・3層で、中位にT・a-d 1主体の第7層が断片的な層内でみられ、最下層は灰色土主体である。赤土・粘土・p-1・2を連続した地点で底表面と判断した。しかし、層上中に突起がある可能性もあるため、覆り足りない可能性がある。また、溝溝のはば中央にはp-2がある。

遺構番号	層別	用途	構造	面積	長さ	幅	高さ	位置	備考
TP-276	1	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明
	2	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明
	3	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明
	4	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明
	5	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明
	6	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明
	7	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明
	8	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明
	9	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明
	10	土間	土間	1.5	1.5	1.5	0.1	1.5	遺構不明

図154 上椽内5遺跡 TP-270・TP-272・TP-276

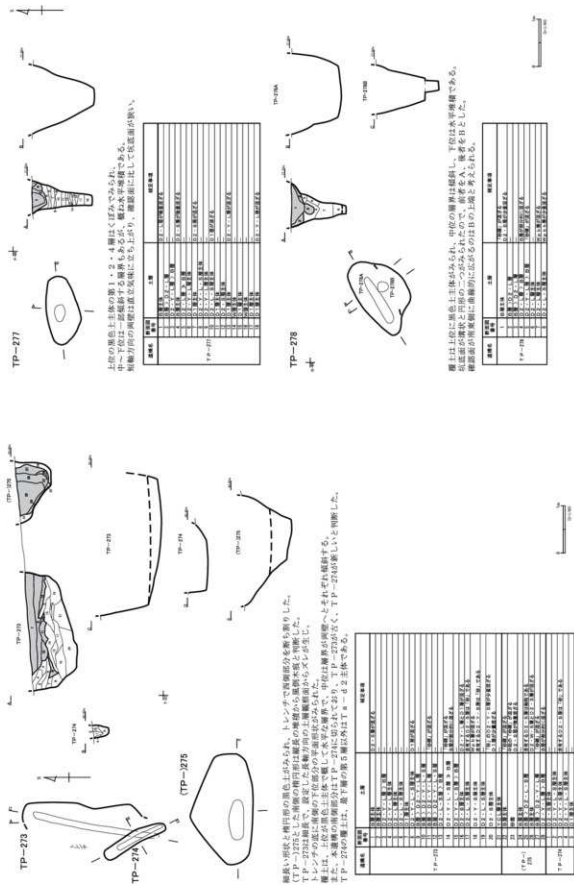


図155 上轆内5遺跡 TP-273・TP-274・(TP-)275・TP-277・TP-278

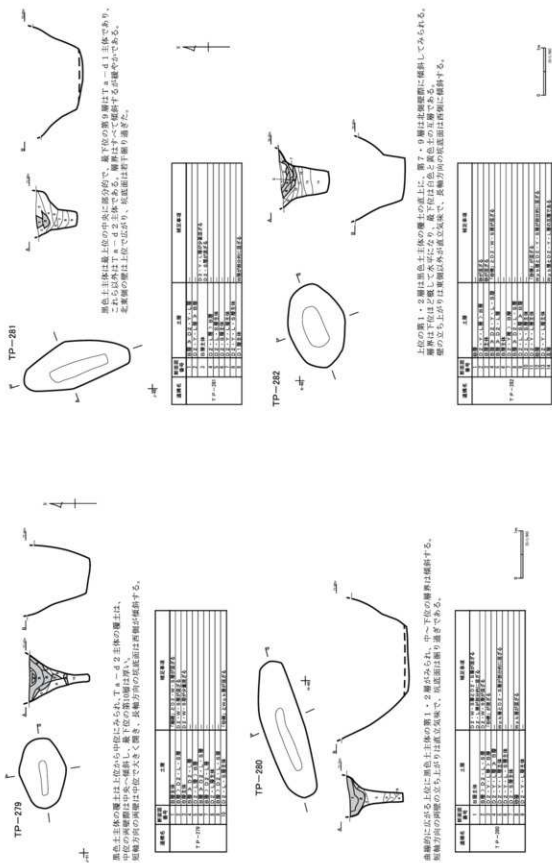
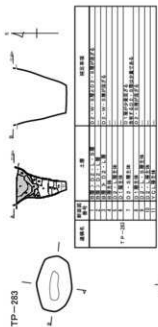
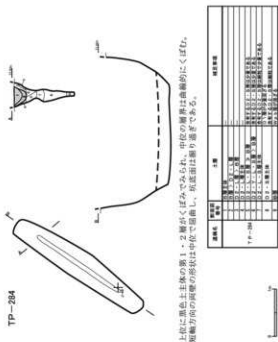


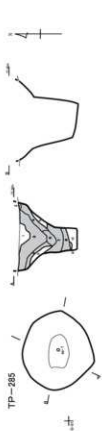
図156 上幌内5遺跡 TP-279・TP-280・TP-281・TP-282



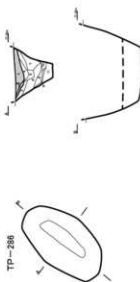
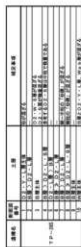
上位は黒色土主体、中位はT-a-d 3主体の第6・8層で、最下位は黄褐色土である。前層の境は曲線的にあつた形状で、其層方向の気流面は緩む平直である。



上位は黒色土主体の第1・2層がくぼみでみられ、中位の層界は曲線的にくぼむ。縦断方向の両側の形状は中位で直線し、両底面は斜り通である。



最上位のくぼみの第1層と中位の両側面の第5層はT-a-d 2主体、最下層の第10層は灰色粘土主体で、これら以外はすべて黒色土主体である。壁は上へ中位で開口し、両底面は直線〜傾斜し、柱穴・穴状1の部はa-p-1を参照した。



上位は黒色土主体の第1・2層がある中央の層で、中位は中央へ傾斜してみられる。第8・9層は北西側から波状にみられ、中央の層界が斜り、壁はすべて開口して立ち上がり、両底面は斜り通である。

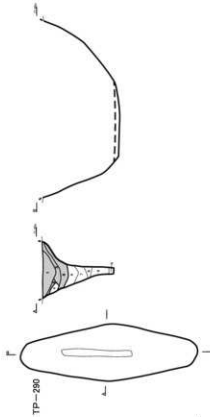


図157 上標内5遺跡 TP-283・TP-284・TP-285・TP-286



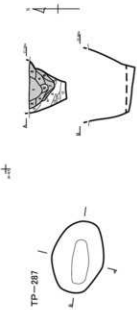
上段は灰色土で、土位は A、B 2、下段は灰白色粘土主体で、層厚はいずれも曲線的で傾斜する。壁の立ち上がりは東側が多少高く、長軸方向の気道面は曲線的で中央が低く、

層別	層番号	土質	厚さ	備考
1	1	灰白色粘土	約 1.5m	東側が多少高く、長軸方向の気道面は曲線的で中央が低い。
	2	灰白色粘土	約 1.5m	
2	1	灰白色粘土	約 1.5m	東側が多少高く、長軸方向の気道面は曲線的で中央が低い。
	2	灰白色粘土	約 1.5m	
計測方法：断面計測法				
計測者：田中 隆夫、1967.10.16				
調査機関：国土地理院				



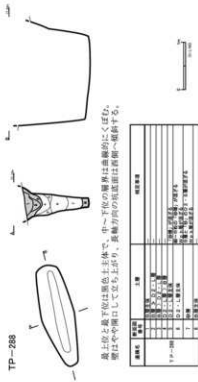
上段は灰色土主体が厚く、中央は層厚が傾斜し、南下側の隅の隅は表層である。長軸方向の前面は北方が高く、東側の土位が低く、気道面は傾り過ぎである。

層別	層番号	土質	厚さ	備考
1	1	灰白色粘土	約 1.5m	中央は層厚が傾斜し、南下側の隅の隅は表層である。
	2	灰白色粘土	約 1.5m	
2	1	灰白色粘土	約 1.5m	長軸方向の前面は北方が高く、東側の土位が低く、気道面は傾り過ぎである。
	2	灰白色粘土	約 1.5m	
計測方法：断面計測法				
計測者：田中 隆夫、1967.10.16				
調査機関：国土地理院				



南側の第 3・8・10・11層は同方向から採れ込んだ層相で、これが中心くぼみに照らして土位が上位までみられる。すべての壁は傾いて立ち上がり、気道面は傾り過ぎである。

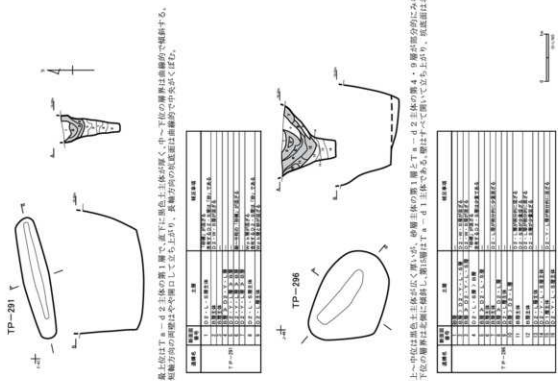
層別	層番号	土質	厚さ	備考
1	1	灰白色粘土	約 1.5m	南側の第 3・8・10・11層は同方向から採れ込んだ層相で、これが中心くぼみに照らして土位が上位までみられる。
	2	灰白色粘土	約 1.5m	
2	1	灰白色粘土	約 1.5m	すべての壁は傾いて立ち上がり、気道面は傾り過ぎである。
	2	灰白色粘土	約 1.5m	
計測方法：断面計測法				
計測者：田中 隆夫、1967.10.16				
調査機関：国土地理院				



最上段と最下段は灰色土主体で、中～下位の層厚は曲線的にくぼむ。壁は中央傾きとして立ち上がり、長軸方向の気道面は西側へ傾斜する。

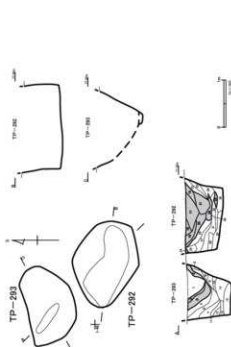
層別	層番号	土質	厚さ	備考
1	1	灰白色粘土	約 1.5m	最上段と最下段は灰色土主体で、中～下位の層厚は曲線的にくぼむ。
	2	灰白色粘土	約 1.5m	
2	1	灰白色粘土	約 1.5m	壁は中央傾きとして立ち上がり、長軸方向の気道面は西側へ傾斜する。
	2	灰白色粘土	約 1.5m	
計測方法：断面計測法				
計測者：田中 隆夫、1967.10.16				
調査機関：国土地理院				

図158 上幌内5遺跡 TP-287・TP-288・TP-289・TP-290



最上位はT a-d 2主体の第1層で、直下は黒色土主体が厚く、中～下位の層界は曲線的で傾斜する。短軸方向の両側はやや開口して立ち上がり、長軸方向の底面は曲線的で中央がくぼむ。

上～中位の黒色土主体が広く傾いたが、砂層主体の第1層とT a-d 2主体の第4・9層が部分的にみられる。下位の層界は北側に傾斜し、第1層はT a-d 1主体である。底面は北側に傾いて立ち上がり、底面は北側に傾いて深くなった。



2基が近くで見られた。南東側のTP-292は上～中位の黒色土主体が中央付近にくぼみで見られ、両側側のT a-d 2主体の層界は傾斜する。最下層の第35・36層は層界が互互にみられ、長軸方向の底面は凹状がある。北東側のTP-293は第2・3層で、最上層は黒色土主体が厚く、中～下位の層界は傾斜する。最上層の第1層が傾斜する。中～下位は北側側がT a-d 2、南東側は反白土主体の層上がみられる。北東側の中～下位の壁は傾き過ぎた。

層数	層厚	土質	説明	調査方法
1	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
2	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
3	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
4	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
5	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
6	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
7	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
8	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
9	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
10	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
11	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
12	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
13	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
14	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
15	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
16	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
17	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
18	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
19	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
20	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
21	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
22	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
23	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
24	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
25	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
26	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
27	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
28	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
29	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
30	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
31	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
32	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
33	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
34	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
35	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
36	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
37	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
38	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
39	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
40	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
41	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
42	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
43	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
44	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
45	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
46	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
47	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
48	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
49	0.1	黒色土	黒色土	調査方法
50	0.1	黒色土	黒色土	調査方法

図159 上層内5遺跡 TP-291・TP-296・TP-292・TP-293



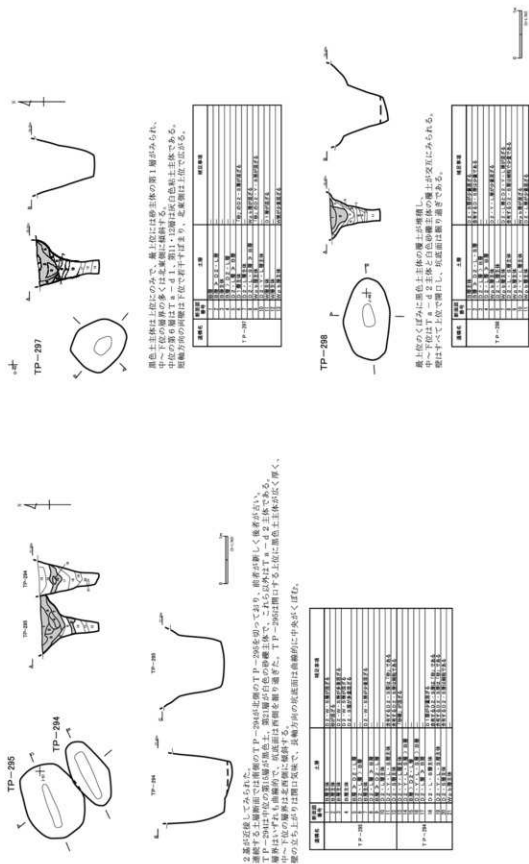
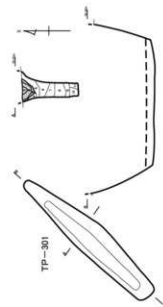


図160 上幌内5遺跡 TP-294・TP-295・TP-297・TP-298

2基が重複してみられた。遺構①-②は、ほぼ正方形の平面をもち、中央部に円形の小穴がみられ、南東角に開口する。遺構③は、ほぼ正方形の平面をもち、中央部に円形の小穴がみられ、南東角に開口する。遺構④は、ほぼ正方形の平面をもち、中央部に円形の小穴がみられ、南東角に開口する。遺構⑤は、ほぼ正方形の平面をもち、中央部に円形の小穴がみられ、南東角に開口する。遺構⑥は、ほぼ正方形の平面をもち、中央部に円形の小穴がみられ、南東角に開口する。遺構⑦は、ほぼ正方形の平面をもち、中央部に円形の小穴がみられ、南東角に開口する。遺構⑧は、ほぼ正方形の平面をもち、中央部に円形の小穴がみられ、南東角に開口する。遺構⑨は、ほぼ正方形の平面をもち、中央部に円形の小穴がみられ、南東角に開口する。遺構⑩は、ほぼ正方形の平面をもち、中央部に円形の小穴がみられ、南東角に開口する。

黒色土主体は上位にのみで、最上位には砂土主体の第1層がみられ、中～下位の層の多くは北東側に傾斜する。中位の第6層はT a-d 1、第11・12層は灰白色粘土主体である。遺構①の開口は下位で若干平ばまり、北東側は上位に広がる。

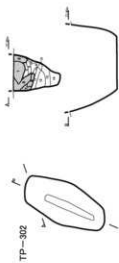
最上位のくぼみに面砂土主体の層土がみられ、最上位は傾斜し、中位交互にみられる。層はすべて上位で開口し、北東側は傾斜する。



TP-301

↑ 覆土は、上部は黒色土主体、中位はT a～d 主体で、  
下位は灰白砂土主体層等みられ、掘り過ぎの可能性がある。

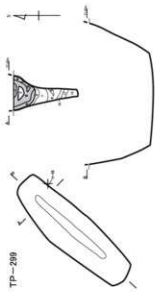
基礎	種別		基礎寸法	埋設位置
	種別	寸法		
TP-301	1	基礎	300×300×300	埋設位置
	2	基礎	300×300×300	埋設位置
	3	基礎	300×300×300	埋設位置



TP-302

↑ 覆土は中位で西側のものは緩方向に長く、  
東側の第6・9層は緩方向に長い地層厚みがある。

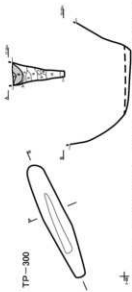
基礎	種別		基礎寸法	埋設位置
	種別	寸法		
TP-302	1	基礎	300×300×300	埋設位置
	2	基礎	300×300×300	埋設位置
	3	基礎	300×300×300	埋設位置



TP-299

↑ 最上位の黒色土主体層の中にT a～d 主体の第3層がみられ、掘削は、  
中位で中央赤くぼみ、下位は南東側に傾斜する。  
掘削方向の両壁は開口して立ち上がり、北東面は曲線的に中央赤くぼむ。

基礎	種別		基礎寸法	埋設位置
	種別	寸法		
TP-299	1	基礎	300×300×300	埋設位置
	2	基礎	300×300×300	埋設位置
	3	基礎	300×300×300	埋設位置



TP-300

↑ 上位は曲線的な溝等で黒色土主体がみられ、中位はT a～d 主体、下位の覆土は水平層である。  
掘削方向の両壁は直立気味に立ち上がり、北東面は掘り過ぎである。

基礎	種別		基礎寸法	埋設位置
	種別	寸法		
TP-300	1	基礎	300×300×300	埋設位置
	2	基礎	300×300×300	埋設位置
	3	基礎	300×300×300	埋設位置

図161 上層内5遺跡 TP-299・TP-300・TP-301・TP-302

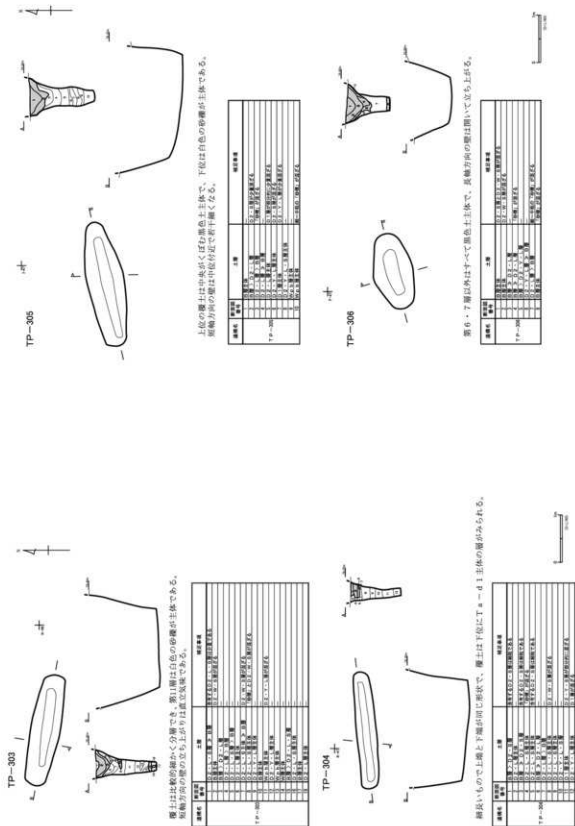


図162 上幌内5遺跡 TP-303・TP-304・TP-305・TP-306

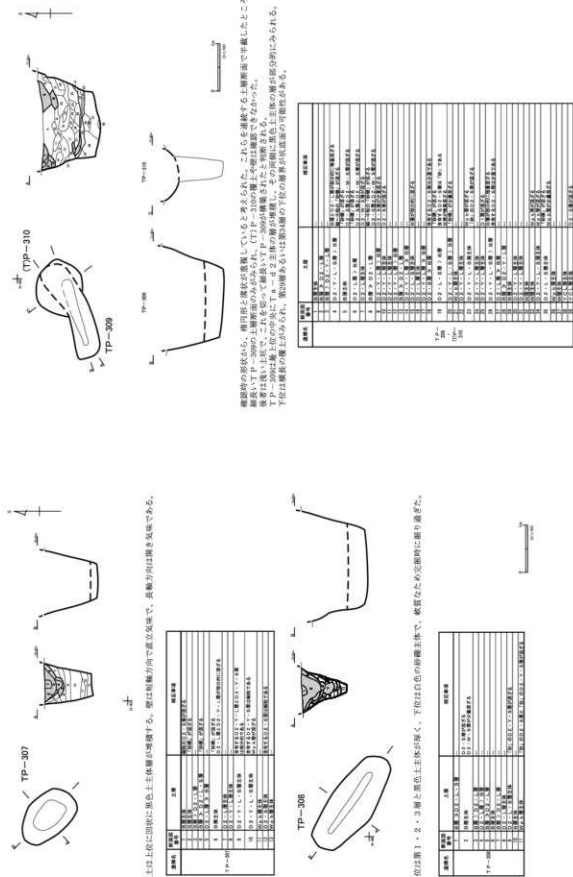


図163 上帳内5遺跡 TP-307・TP-308・TP-309・(T)P-310

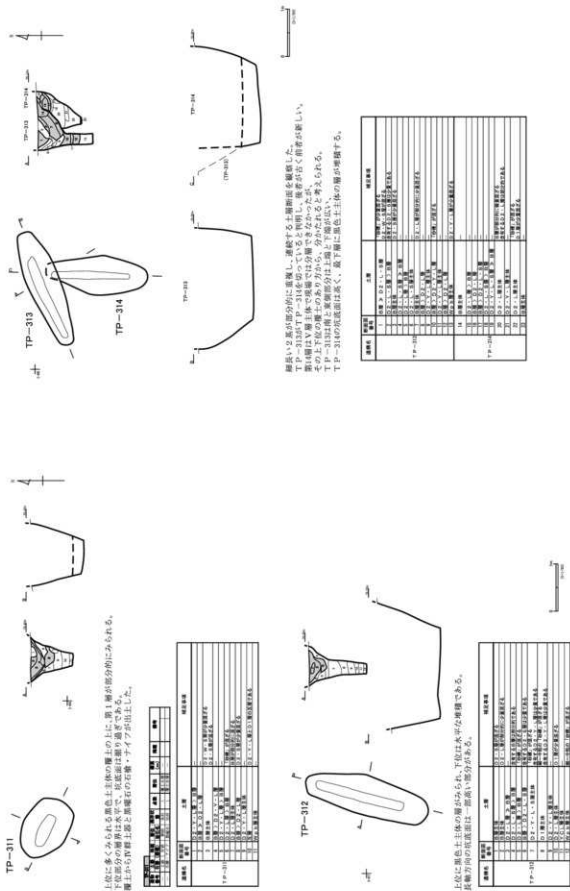


図164 上幌内5遺跡 TP-311・TP-312・TP-313・TP-314

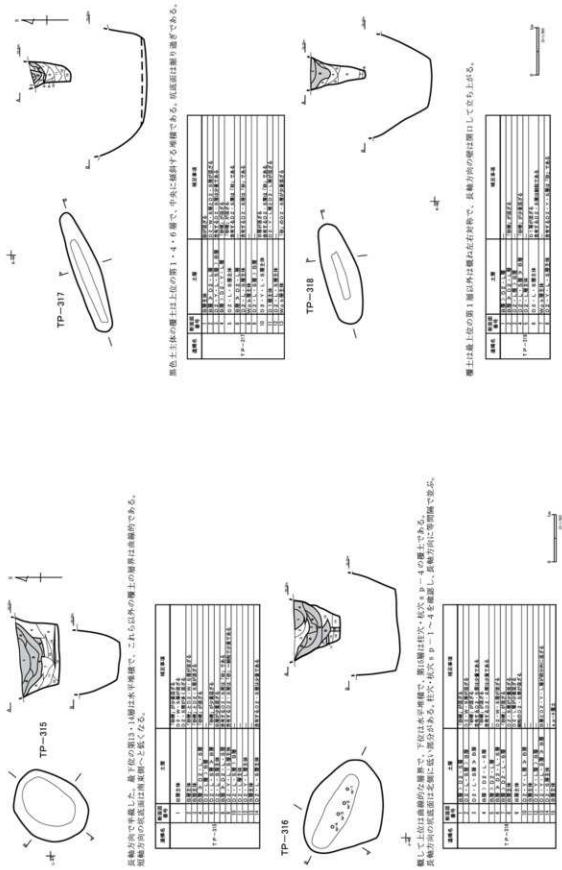
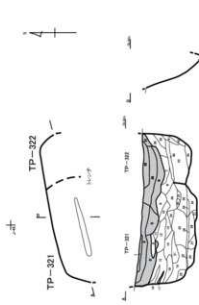
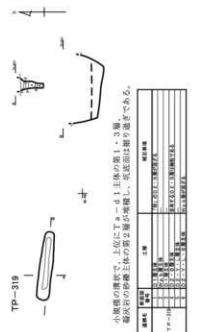


図165 上層内5遺跡 TP-315・TP-316・TP-317・TP-318

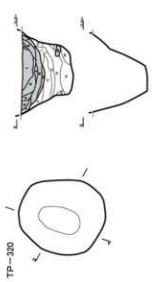


坑底面の高さより下記の層土から土質を採取すると判明した。見極め方で断らぬ限りトレンチを設け土層断面を把握した。切り合いからTP-321はTP-322を切っただけと判断され、前者が新しく後者が古い。第6・7・8層は分層できず、河湾部に連続してみられる。第9層は第10層にほぼ対応する土体であるが、坑底面は傾斜する層土は少ない。土質は第10層とほぼ一致する土質であるが、坑底面は傾斜する層土は少ない。TP-322の層土は第6層部に非対称に堆積する層土がみられる。断は斜めに立ち上がり、坑底面は東側へ傾斜する。

層番号	層名	土質	備考
1	表層	黄褐色の粘り土	
2	第2層	黄褐色の粘り土	
3	第3層	黄褐色の粘り土	
4	第4層	黄褐色の粘り土	
5	第5層	黄褐色の粘り土	
6	第6層	黄褐色の粘り土	
7	第7層	黄褐色の粘り土	
8	第8層	黄褐色の粘り土	
9	第9層	黄褐色の粘り土	
10	第10層	黄褐色の粘り土	
11	第11層	黄褐色の粘り土	
12	第12層	黄褐色の粘り土	
13	第13層	黄褐色の粘り土	
14	第14層	黄褐色の粘り土	
15	第15層	黄褐色の粘り土	
16	第16層	黄褐色の粘り土	
17	第17層	黄褐色の粘り土	
18	第18層	黄褐色の粘り土	
19	第19層	黄褐色の粘り土	
20	第20層	黄褐色の粘り土	
21	第21層	黄褐色の粘り土	
22	第22層	黄褐色の粘り土	
23	第23層	黄褐色の粘り土	
24	第24層	黄褐色の粘り土	
25	第25層	黄褐色の粘り土	
26	第26層	黄褐色の粘り土	
27	第27層	黄褐色の粘り土	
28	第28層	黄褐色の粘り土	
29	第29層	黄褐色の粘り土	
30	第30層	黄褐色の粘り土	
31	第31層	黄褐色の粘り土	
32	第32層	黄褐色の粘り土	
33	第33層	黄褐色の粘り土	
34	第34層	黄褐色の粘り土	
35	第35層	黄褐色の粘り土	
36	第36層	黄褐色の粘り土	
37	第37層	黄褐色の粘り土	
38	第38層	黄褐色の粘り土	
39	第39層	黄褐色の粘り土	
40	第40層	黄褐色の粘り土	
41	第41層	黄褐色の粘り土	
42	第42層	黄褐色の粘り土	
43	第43層	黄褐色の粘り土	
44	第44層	黄褐色の粘り土	
45	第45層	黄褐色の粘り土	
46	第46層	黄褐色の粘り土	
47	第47層	黄褐色の粘り土	
48	第48層	黄褐色の粘り土	
49	第49層	黄褐色の粘り土	
50	第50層	黄褐色の粘り土	



小規模の遺跡で、上位はT a-d 1主体の層1・3層、層灰土の砂層主体の第2層が確認し、坑底面は傾り過ぎである。



層土の層理は連続的であるが、遺構の中央付近は著しく傾斜する層理のものはない。坑底面は南側と西側が低い。

層番号	層名	土質	備考
1	表層	黄褐色の粘り土	
2	第2層	黄褐色の粘り土	
3	第3層	黄褐色の粘り土	
4	第4層	黄褐色の粘り土	
5	第5層	黄褐色の粘り土	
6	第6層	黄褐色の粘り土	
7	第7層	黄褐色の粘り土	
8	第8層	黄褐色の粘り土	
9	第9層	黄褐色の粘り土	
10	第10層	黄褐色の粘り土	
11	第11層	黄褐色の粘り土	
12	第12層	黄褐色の粘り土	
13	第13層	黄褐色の粘り土	
14	第14層	黄褐色の粘り土	
15	第15層	黄褐色の粘り土	
16	第16層	黄褐色の粘り土	
17	第17層	黄褐色の粘り土	
18	第18層	黄褐色の粘り土	
19	第19層	黄褐色の粘り土	
20	第20層	黄褐色の粘り土	
21	第21層	黄褐色の粘り土	
22	第22層	黄褐色の粘り土	
23	第23層	黄褐色の粘り土	
24	第24層	黄褐色の粘り土	
25	第25層	黄褐色の粘り土	
26	第26層	黄褐色の粘り土	
27	第27層	黄褐色の粘り土	
28	第28層	黄褐色の粘り土	
29	第29層	黄褐色の粘り土	
30	第30層	黄褐色の粘り土	
31	第31層	黄褐色の粘り土	
32	第32層	黄褐色の粘り土	
33	第33層	黄褐色の粘り土	
34	第34層	黄褐色の粘り土	
35	第35層	黄褐色の粘り土	
36	第36層	黄褐色の粘り土	
37	第37層	黄褐色の粘り土	
38	第38層	黄褐色の粘り土	
39	第39層	黄褐色の粘り土	
40	第40層	黄褐色の粘り土	
41	第41層	黄褐色の粘り土	
42	第42層	黄褐色の粘り土	
43	第43層	黄褐色の粘り土	
44	第44層	黄褐色の粘り土	
45	第45層	黄褐色の粘り土	
46	第46層	黄褐色の粘り土	
47	第47層	黄褐色の粘り土	
48	第48層	黄褐色の粘り土	
49	第49層	黄褐色の粘り土	
50	第50層	黄褐色の粘り土	

図166 上幌内5遺跡 TP-319・TP-320・TP-321・TP-322

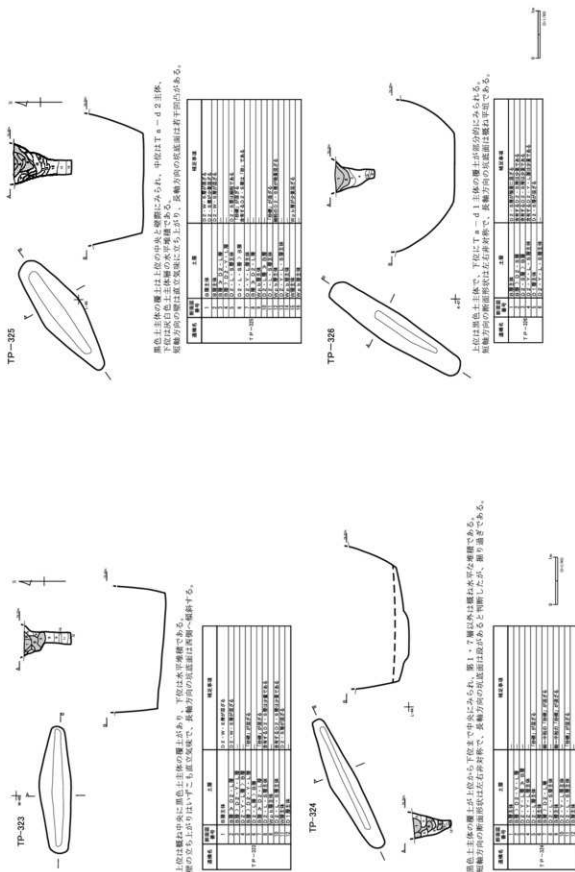


図167 上層内5遺跡 TP-323・TP-324・TP-325・TP-326



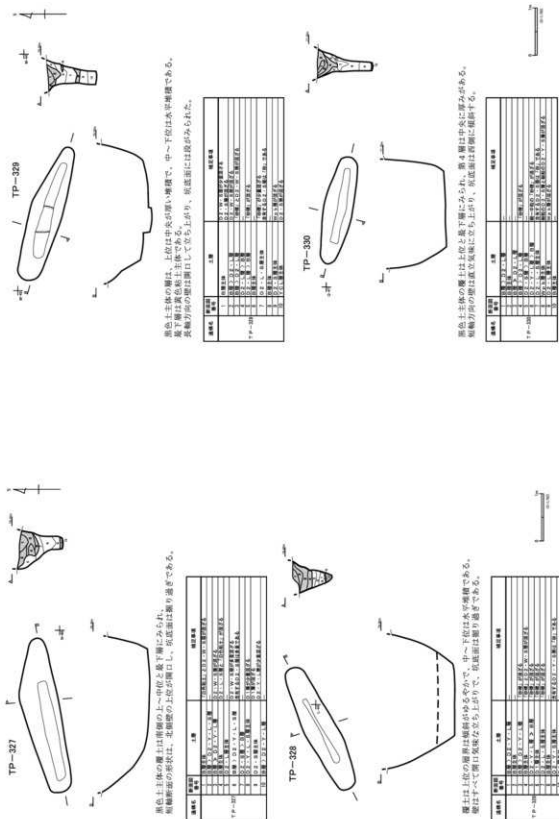


図168 上帆内5遺跡 TP-327・TP-328・TP-329・TP-330

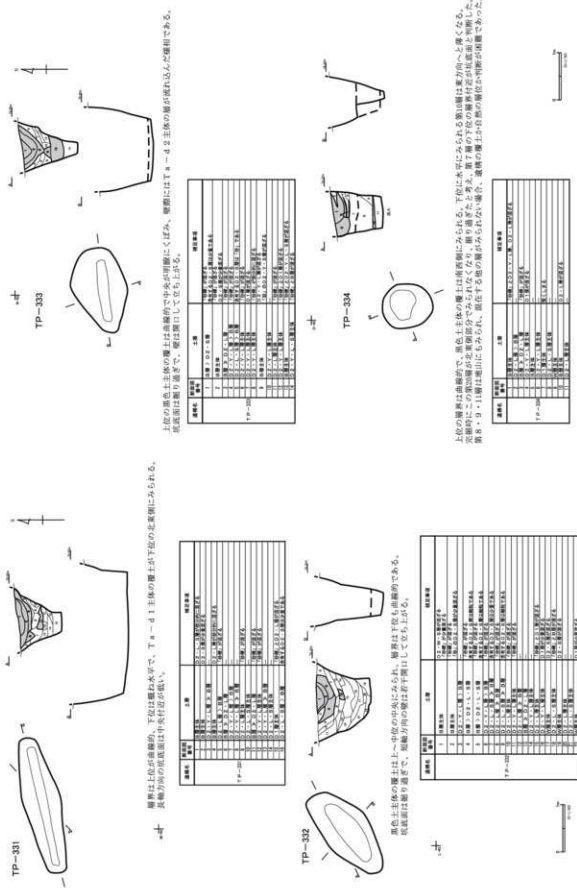


図 169 上欄内 5 遺跡 TP-331・TP-332・TP-333・TP-334

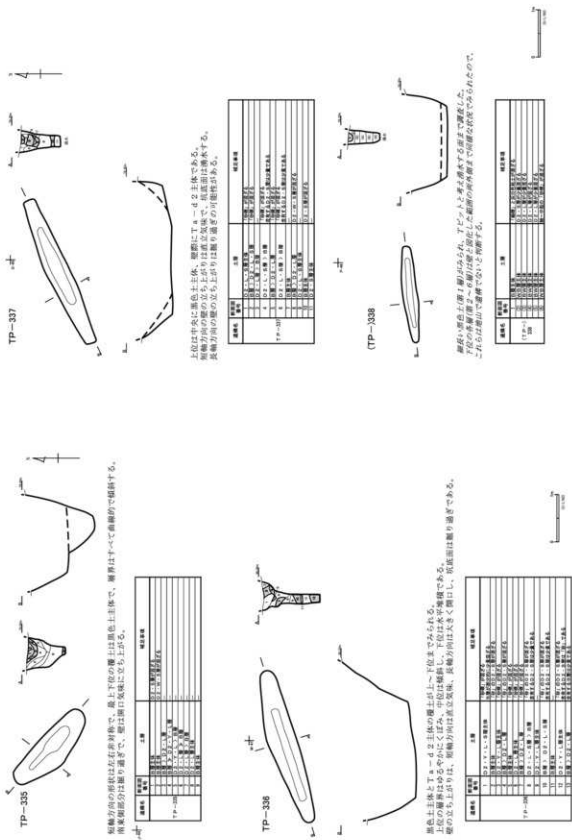


図170 上幌内5遺跡 TP-335・TP-336・TP-337・(TP-338)



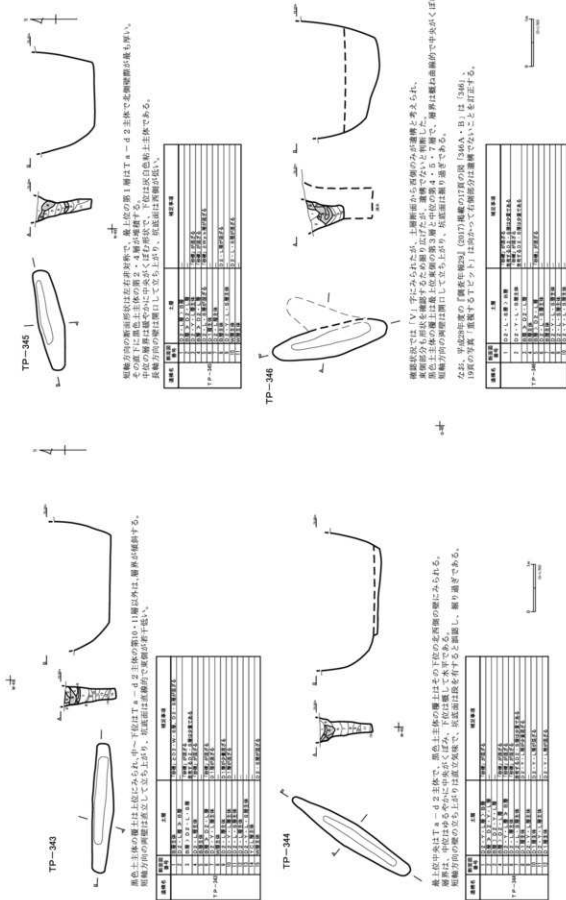


図172 上帳内5遺跡 TP-343・TP-344・TP-345・TP-346

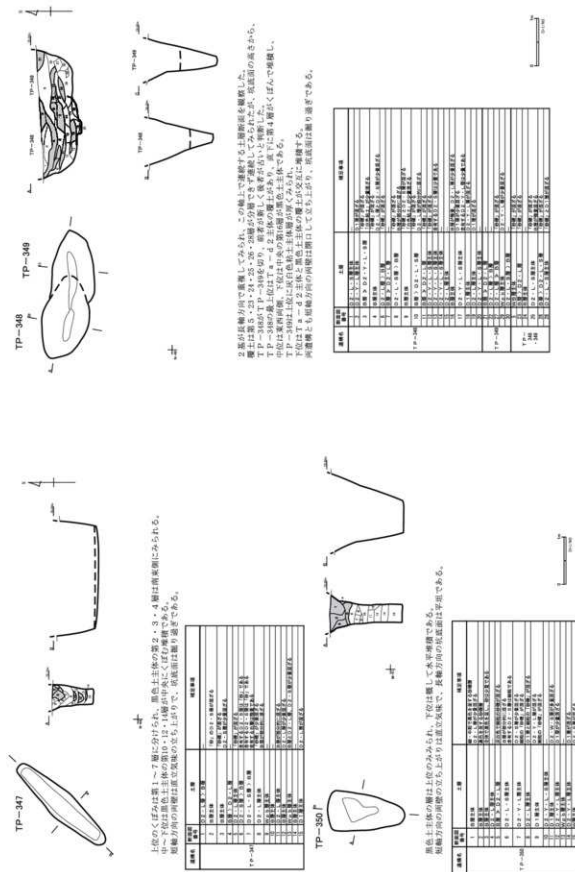
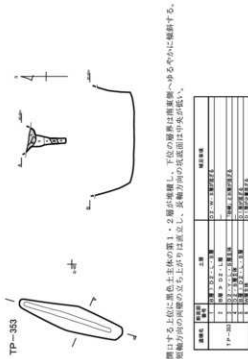
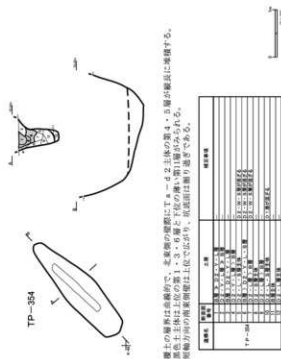


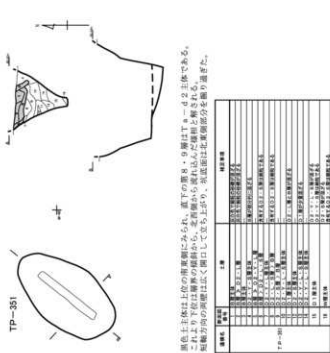
図173 上層内5遺跡 TP-347・TP-350・TP-348・TP-349



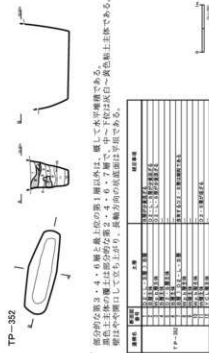
開口する上位は黒色土主体の第1・2層が埋積し、下位の層間は積層面へゆるやかに傾斜する。長軸方向の両端の立ち上がりは直立し、長軸方向の両端は中央が低く、



開口の階層は多層的で、北東側の階層にT a-d 2主体の第4・5層が傾斜に埋積する。開口より下位の階層は黒色土主体の第2・4・6・7層で、中～下位は灰白～灰色粘土質土で構成される。長軸方向の両端は開口より立ち上がり、両端は傾斜面である。



黒色土主体は上位の積層面にみられ、直下の第8・9層はT a-d 2主体である。これより下位は階層の傾斜から、北西側から流れ込んだ埋積土層と推定される。長軸方向の両端は広く開口して立ち上がり、両端は北東側部分を削ぎ落した。



部分の第3・4・6層と最上位の第1層以外は、傾して水平埋積である。黒色土主体の開口は部分的な第2・4・6・7層で、中～下位は灰白～灰色粘土質土で構成される。開口は中央開口して立ち上がり、長軸方向の両端面は平坦である。

図174 上幌内5遺跡 TP-351・TP-352・TP-353・TP-354

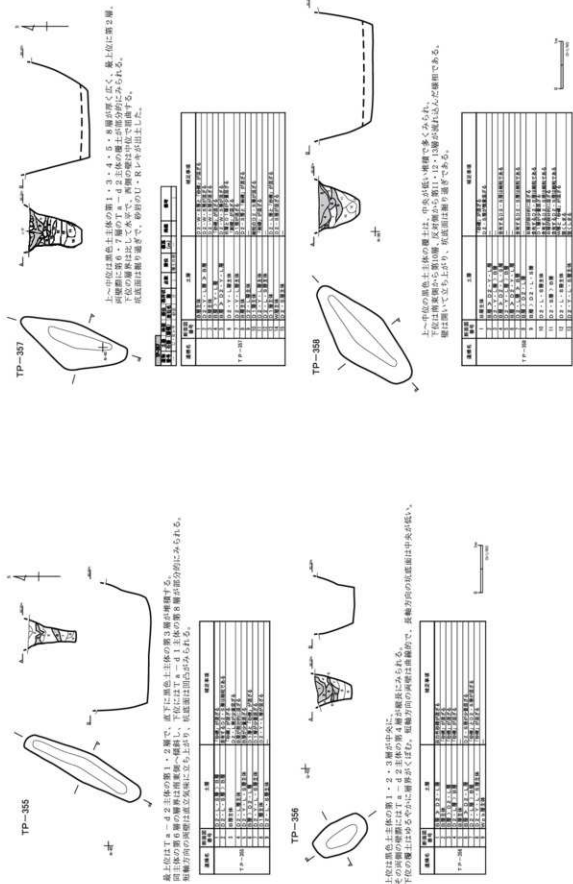


図175 上標内5遺跡 TP-355・TP-356・TP-357・TP-358



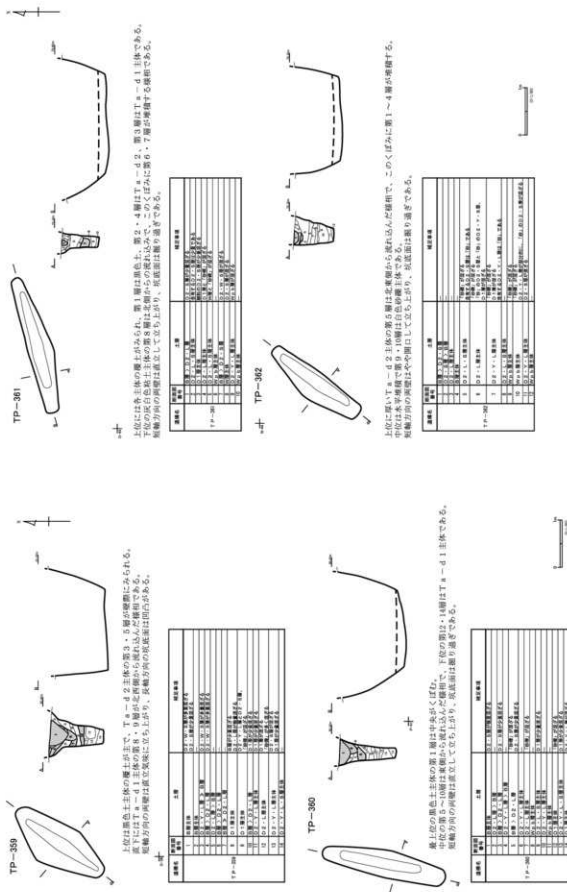


図176 上幌内5遺跡 TP-359・TP-360・TP-361・TP-362



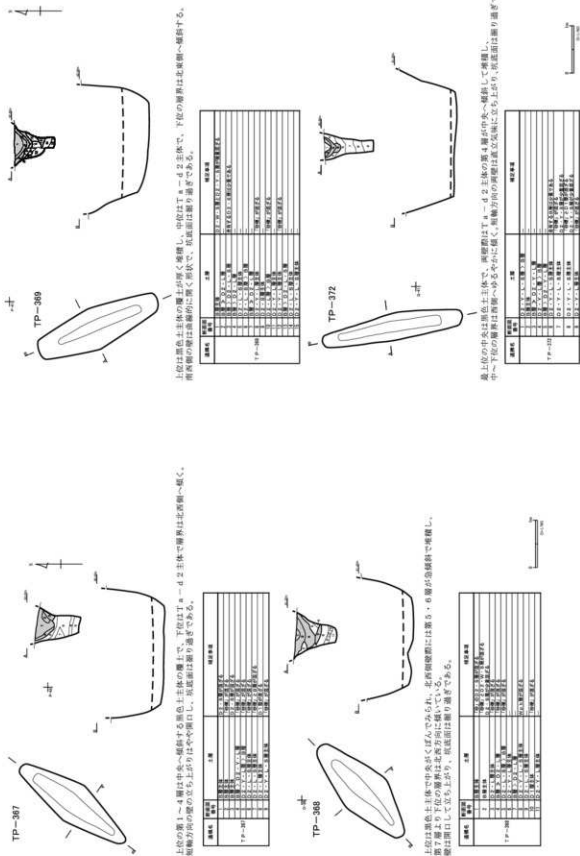


図178 上幌内5遺跡 TP-367・TP-368・TP-369・TP-372

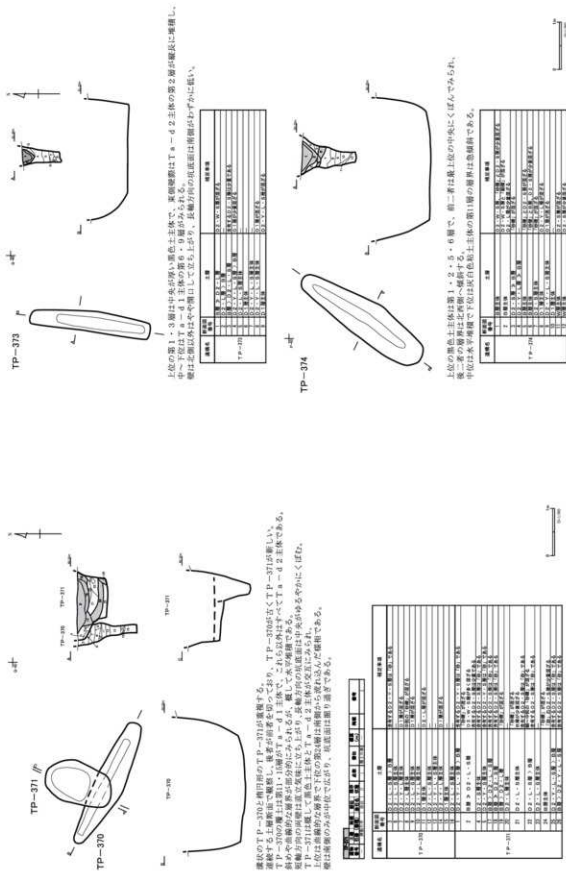


図179 上層内5遺跡 TP-370・TP-371・TP-372・TP-373・TP-374

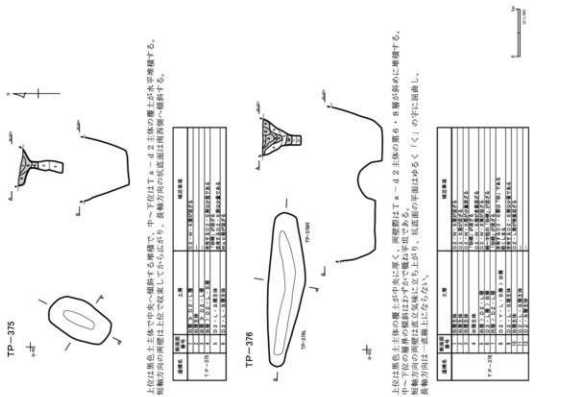
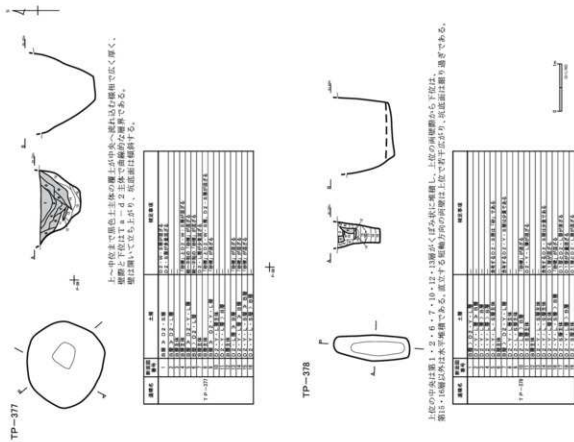
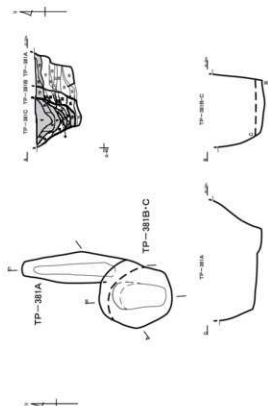
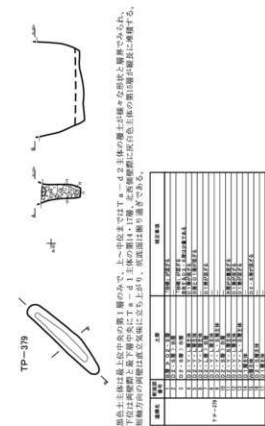


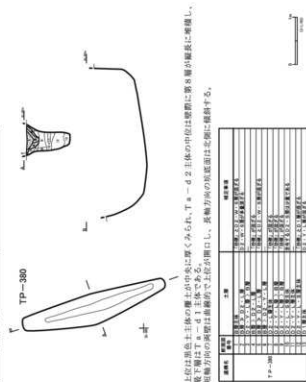
図180 上幌内5遺跡 TP-375・TP-376・TP-377・TP-378



形状と輪郭面が重複し、連続する上層断面を構成した。  
 連続したTP-381Aが内側に認められ、さらに後者は灰泥面が2か所認められたので、B・Cに分けた。  
 下層の断面29層は断面との区別ができなかった。断面方向の灰泥面は断面一層だけ認められる。  
 輪郭面が古いBは最上位が黒色土主体で、層界は中心が傾斜、下部は水平である。  
 Cは黒色土主体の層上が多く、上位はくぼみ、中心は北東側から覆れ込んだ傾斜。そして最下層にみられる。  
 B・Cの断面は開口して立ち上がり、灰泥面は北側面のみあり、Cは断面で見えない。



黒色土主体は最上位中央の第1層のみで、上へ中位まではT-a-d 2主体の黒土が継ぎ合状と層界のみ認められ、  
 下部は同層類と最下層の共にT-a-d 1 5主体の黒14・17層、北西側断面は灰白色土主体の第1層が縦長に連続する。  
 断面方向の両側は直立気集に立ち上がり、灰泥面は無い層である。



上位は黒色土主体の層界が中心部に厚くみられ、T-a-d 2主体の中心位は断面に第8層が縦長に連続し、  
 最下層はT-a-d 1 5主体である。  
 断面方向の両側は断面方向で上位が開口し、断面方向の灰泥面は北側に連続する。

断面	層	説明	断面	層	説明
TP-381C	1	黒色土主体	TP-381A	1	黒色土主体
	2	黒色土主体		2	黒色土主体
	3	黒色土主体		3	黒色土主体
	4	黒色土主体		4	黒色土主体
	5	黒色土主体		5	黒色土主体
	6	黒色土主体		6	黒色土主体
	7	黒色土主体		7	黒色土主体
	8	黒色土主体		8	黒色土主体
	9	黒色土主体		9	黒色土主体
	10	黒色土主体		10	黒色土主体
TP-380	1	黒色土主体	TP-381B-C	1	黒色土主体
	2	黒色土主体		2	黒色土主体
	3	黒色土主体		3	黒色土主体
	4	黒色土主体		4	黒色土主体
	5	黒色土主体		5	黒色土主体
	6	黒色土主体		6	黒色土主体
	7	黒色土主体		7	黒色土主体
	8	黒色土主体		8	黒色土主体
	9	黒色土主体		9	黒色土主体
	10	黒色土主体		10	黒色土主体

図181 上層内5遺跡 TP-379・TP-380・TP-381

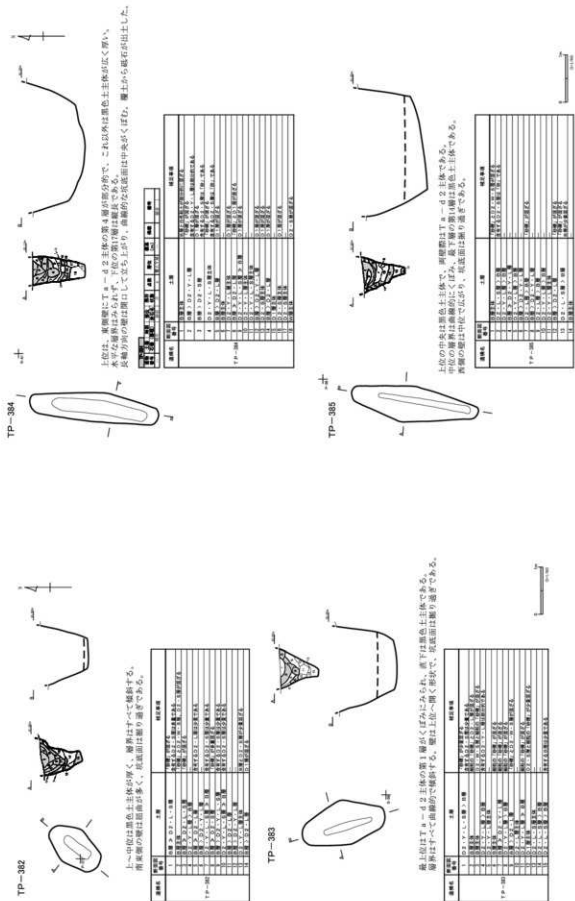
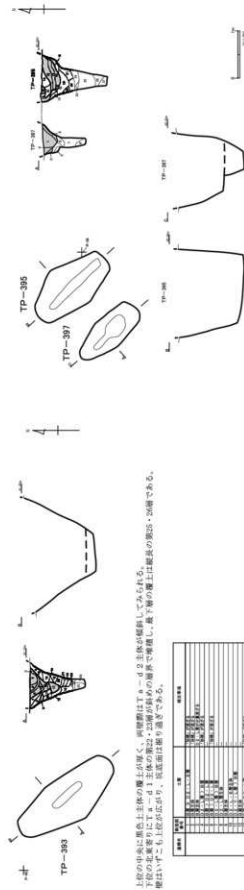


図182 上帳内5遺跡 TP-382・TP-383・TP-384・TP-385



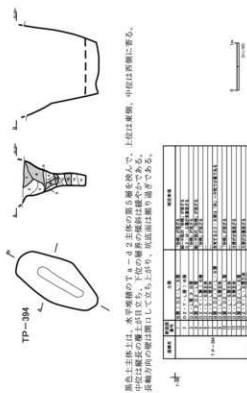






上段の中央に黒色土主体の層7が厚く、両側面はT a-d 2 主体の傾斜してみられる。中段の北東角より、1 主体の層25、26層部分の断面で確認し、最下層の層土は総長の第25・26層である。層1より上段が広がり、断面は傾り過ぎである。

2 高さ近くでみられた。北東側のTP-398の層土は上段に黒色土主体のみならず、第13・14・15層は北東側から流れ込んだ傾斜である。T a-d 2 主体の前段・1 層は傾斜で、中～下段の第23・24層はT a-d 1 主体である。断面が傾り過ぎ、層土がほとんど出ておらず、両側面は傾り過ぎである。中段のTP-398の層土は、中段がT a-d 2、下段がT a-d 2 主体で、両側面の断面は傾り過ぎである。



黒色土主体土は、水が乾燥したT a-d 2 主体の断面も傾り過ぎ、上段は西側に落ちる。中段は総長の層土が注目され、上段の断面は傾り過ぎである。長軸方向の断面は傾き過ぎて立ち上がり、断面は傾り過ぎである。

図185 上層内5遺跡 TP-393・TP-394・TP-395・TP-397

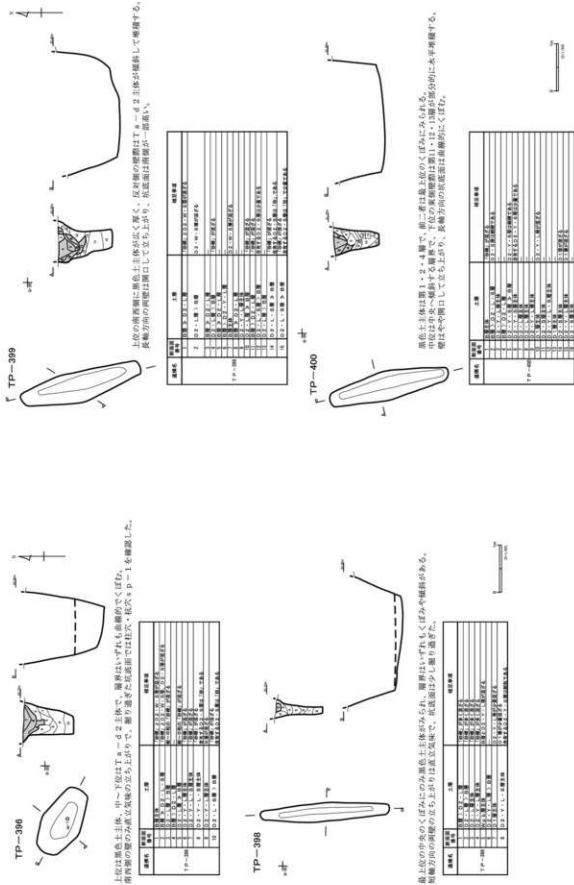


図186 上幌内5遺跡 TP-396・TP-398・TP-399・TP-400

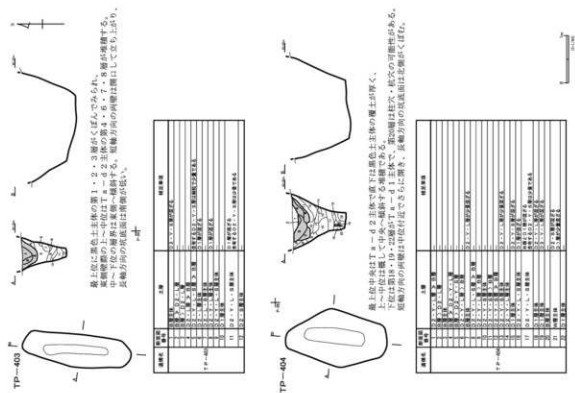


図187 上層内5遺跡 TP-401・TP-402・TP-403・TP-404

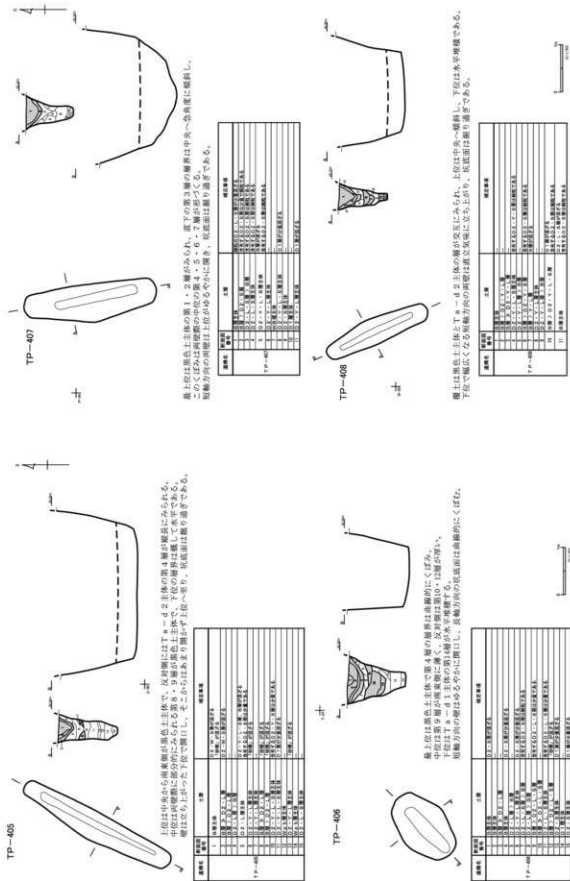


図188 上幌内5遺跡 TP-405・TP-406・TP-407・TP-408

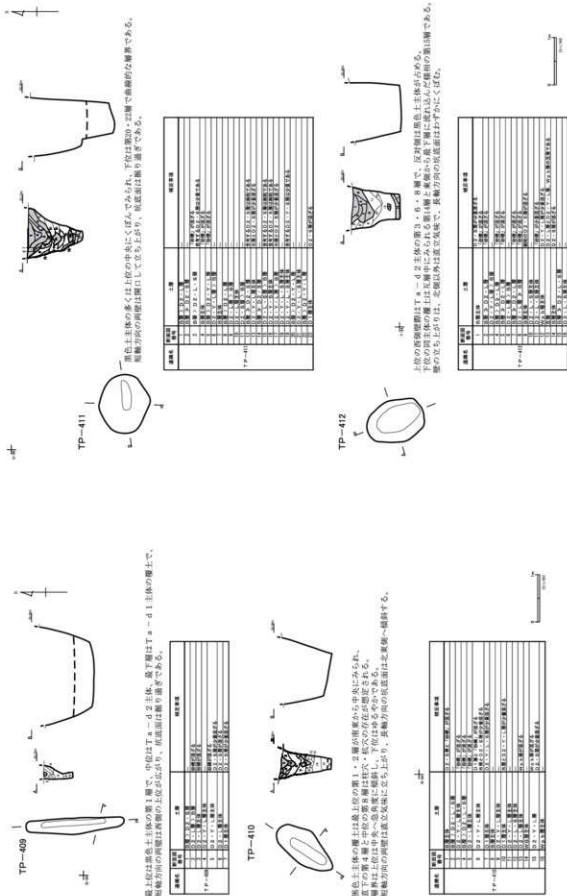
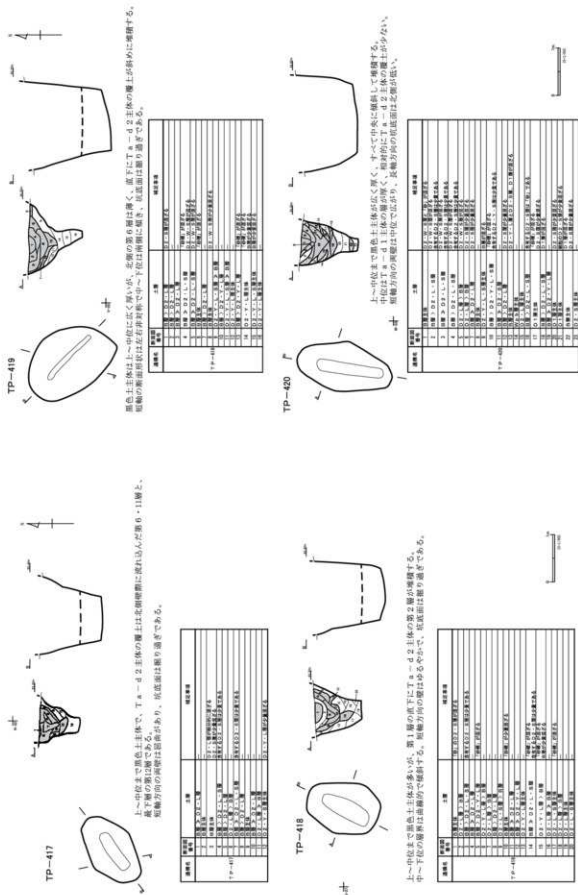


図189 上標内5遺跡 TP-409・TP-410・TP-411・TP-412







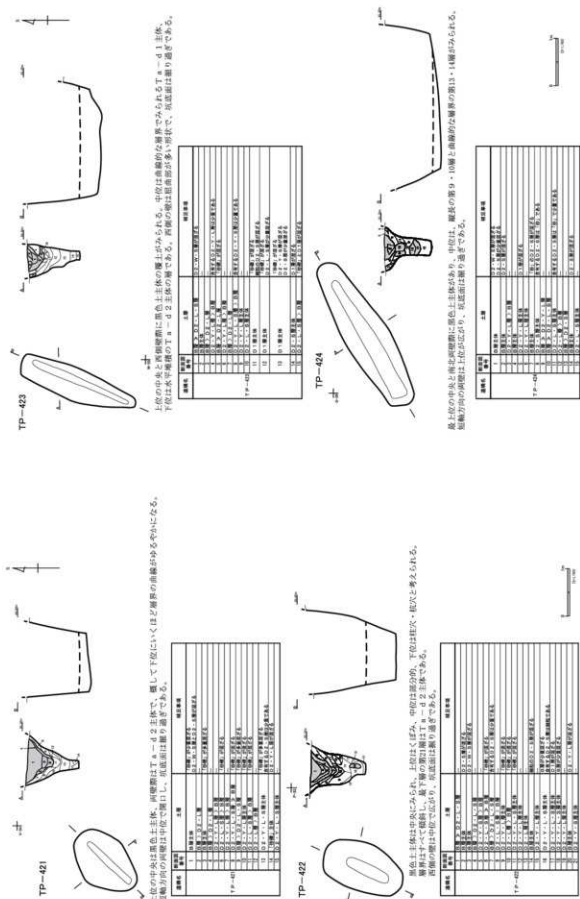


図192 上幌内5遺跡 TP-421・TP-422・TP-423・TP-424

表58 上幌内5遺跡 竪穴住居跡一覧表

遺構名	目	距離	グリッド	平面形状	建 構 (m)				付属遺構	出土遺物			備考			
					幅		深			最大深	土器	削片石器		焼石器		
					長さ	幅	長さ	幅								
H-1	竪	32	ホ・ウ・ボ-11(北)・40B	楕円形	2.60	2.30	2.30	4.40	0.24	段1:丸瓦1 特片・丸瓦1 特片・丸瓦1	1個	石製 石製・土イ フライク	煎製石 焼石 削片・石 削片・石 削片・石	TP-1・TP-10 土器類	—	不明

表59 上幌内5遺跡 竪穴住居跡付属遺構一覧表

遺構	付属遺構名	種類	目	距離	形状	建 構 (m)				最大深	出土遺物			備考	
						幅		深			土器	削片石器	焼石器		
						長さ	幅	長さ	幅						
H-1	—	竪	—	—	—	2.90	1.24	2.32	1.18	0.25	—	—	—	—	—
	hp-1	土坑	32	楕円形	—	0.24	0.44	0.44	0.38	0.08	—	—	焼片 削片・石	—	—
	hp-2	—	32	円形	丸	0.20	—	—	0.20	0.20	—	—	—	—	—
	hp-3	特穴・竪穴	32	円形	楕円	0.14	—	—	0.08	0.08	—	—	—	—	—
	hp-4	—	—	円形	楕円	0.24	—	0.10	0.10	0.08	—	—	—	—	—

表60 上幌内5遺跡 土坑一覧表

遺構名	目	距離	位置		グリッド	平面形状	建 構 (m)				最大深	出土遺物			備考		
			大深分	小深分			幅	幅		深		土器	削片石器	焼石器			
								長さ	幅								
F-1	竪	33	1	1	1	3階式	0-25K	楕円形	1.25	0.26	0.26	0.43	0.24	—	—	—	—
F-2	竪	33	1	1	1	3階式	0-25K	楕円形	1.25	0.42	0.42	0.22	0.22	—	—	—	—
F-3	竪	32	1	1	1	3階式	1-N -35K	楕円形	1.04	1.25	1.00	0.42	0.44	—	赤砂	—	削片・石 削片・石 削片・石
F-4	竪	33	1	1	1	3階式	1-33K	楕円形	1.11	0.45	0.40	0.34	0.29	—	—	—	削片・石 削片・石 削片・石
F-5	竪	34	1	1	1	3階式	1-33K	楕円形	1.08	0.49	0.20	0.33	0.22	—	—	—	—
F-6	竪	32	1	1	1	3階式	0-33K	楕円形	1.42	1.20	1.22	1.47	0.34	—	つばみ付きサシ フライク	—	煎製石 削片・石 削片・石
F-7	竪	34	1	1	1	3階式	0-33K	楕円形	1.45	1.45	1.34	1.66	0.34	—	フライク	—	削片・石 削片・石
F-8	竪	34	1	1	1	3階式	0-33K	楕円形	1.38	0.27	1.38	0.20	0.28	—	—	—	—

表61 上幌内5遺跡 S P一覧表

遺構名	目	距離	位置		グリッド	平面形状	建 構 (m)				特長	出土遺物	備考		
			大深分	小深分			幅	幅		深					
								長さ	幅						
S P-1	竪	34	1	1	1	3階式	1-33K	円形	0.27	0.45	0.20	0.45	—	—	—

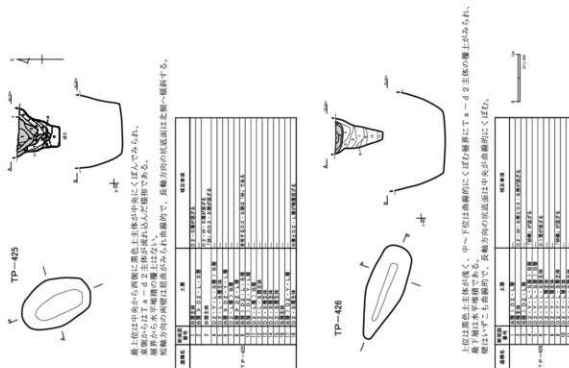


図193 上幌内5遺跡 TP-425・TP-426







表62 上幌内5遺跡 Tビット一覧表(4)

遺跡名	調査年度	区	路線	地区	プロット	発掘年度		調査年度				調査種別	調査者	出土品目		備考		
						年度	期	遺物		土器				数量	備考		品名	数量
								種類	数量	種類	数量							
T-F-262	昭和40年	上幌内	1	1	30-110	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-263	昭和40年	上幌内	1	1	30-111	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-264	昭和40年	上幌内	1	1	30-112	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-265	昭和40年	上幌内	1	1	30-113	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-266	昭和40年	上幌内	1	1	30-114	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-267	昭和40年	上幌内	1	1	30-115	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-268	昭和40年	上幌内	1	1	30-116	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-269	昭和40年	上幌内	1	1	30-117	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-270	昭和40年	上幌内	1	1	30-118	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-271	昭和40年	上幌内	1	1	30-119	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-272	昭和40年	上幌内	1	1	30-120	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-273	昭和40年	上幌内	1	1	30-121	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-274	昭和40年	上幌内	1	1	30-122	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-275	昭和40年	上幌内	1	1	30-123	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-276	昭和40年	上幌内	1	1	30-124	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-277	昭和40年	上幌内	1	1	30-125	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-278	昭和40年	上幌内	1	1	30-126	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-279	昭和40年	上幌内	1	1	30-127	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-280	昭和40年	上幌内	1	1	30-128	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-281	昭和40年	上幌内	1	1	30-129	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-282	昭和40年	上幌内	1	1	30-130	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-283	昭和40年	上幌内	1	1	30-131	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-284	昭和40年	上幌内	1	1	30-132	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-285	昭和40年	上幌内	1	1	30-133	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-286	昭和40年	上幌内	1	1	30-134	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-287	昭和40年	上幌内	1	1	30-135	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-288	昭和40年	上幌内	1	1	30-136	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-289	昭和40年	上幌内	1	1	30-137	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-290	昭和40年	上幌内	1	1	30-138	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-291	昭和40年	上幌内	1	1	30-139	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-292	昭和40年	上幌内	1	1	30-140	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-293	昭和40年	上幌内	1	1	30-141	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-294	昭和40年	上幌内	1	1	30-142	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-295	昭和40年	上幌内	1	1	30-143	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-296	昭和40年	上幌内	1	1	30-144	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-297	昭和40年	上幌内	1	1	30-145	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-298	昭和40年	上幌内	1	1	30-146	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-299	昭和40年	上幌内	1	1	30-147	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-300	昭和40年	上幌内	1	1	30-148	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-301	昭和40年	上幌内	1	1	30-149	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
T-F-302	昭和40年	上幌内	1	1	30-150	昭和40	第1期	土器	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1







## VIII章 上幌内5遺跡 V層の遺構・包含層の出土遺物

### 1. 概要

本遺跡のV層の遺構・包含層出土遺物をまとめて記載する。ほとんどが遺構確認調査であったので、包含層出土の遺物は少なく、土器は8点、石器377等点、合計385点出土した。

#### 包含層出土点数表(表67～69)

土器はV層出土が2点、I層・F層(風倒木痕)出土が6点で、I・III・IV群である。剥片石器は、約95%が黒曜石のフレイクで、石鏃5点、スクレイパー2点、U・Rフレイク2点、石核1点が出土した。礫石器・石製品・レキは84%がレキである。多い順に台石・石皿16点、砥石6点、たたき石3点、すり石3点、磨製石斧2点、石製品1点で、過半数以上がF層出土である。

#### 出土分布図(図194～198)

I群土器はe-50区、III群土器はU-52区、c-46区、h-54区、IV群土器はd-56区から4点出土した。石鏃が出土したグリッドは4か所で、U・RフレイクはS-33・35区、石核はV-53区の出土である。磨製石斧はR-33区、たたき石はL-3地区、すり石は2か所、砥石は4か所のグリッドから出土した。台石・石皿は強いていえば南側に多い。

### 2. 土器

#### (1) 破片土器(図199 表70 図版106)

##### 遺構出土(1～9)

1はH-1出土で、RL縄線文と縄文が施される。2・3はP-3出土で、2は節の形状からLRの別原体による施文と判断され、3は底部近くで内面が剥離する。4はTP-27出土で燃りの異なる原体の羽状縄文がみられる。5はTP-26出土で絡条体圧痕文が施される。6はTP-40出土、7はTP-50出土、8はTP-54出土で、結束第1種羽状縄文がみられる。9はTP-81出土、10はTP-311出土で、斜行縄文がみられる。

1・5はI群b類、2～4・9・10はIV群a類、6～8はIII群b類と考えられる。

##### 包含層出土(11～15)

11は突起を有し、貼付帯上に貝殻腹縁文が縦位に施される。I群a類と考えられる。12は口唇部が内面に顕著に張り出し、外面は貼付帯と燃り戻し原体による縄文がみられる。13は燃紐により施文された貼付帯とRL縄文がみられる。14はLR縄文と半載竹管状工具による刺突文が施され、III群b類と判断される。15は底部近くで、LR縄文が浅く観察され、IV群a類と考えられる。

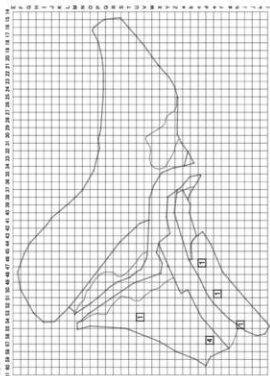
### 3. 石器等

#### (1) 遺構出土の石器(図200～205 表71 図版106～109)

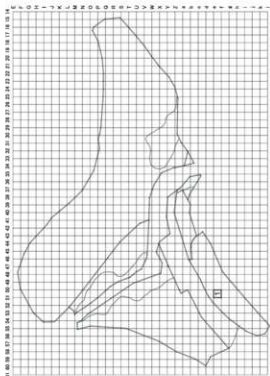
##### 剥片石器(1～13)

1～3はH-1出土の石鏃で、1は腹面右側縁部の一部、2は先端部を破損する。3は周縁のみ加工が施される。4はP-6出土のつまみ付きナイフで、上部の作出は両面調整である。5はTP-8出土で非対称である。6は直線距離で4.5m離れたTP-33・36出土が接合し、表面は透明な結晶が集中する。7は表面に原礫面を残し、右側縁に加工らしき痕跡がみられる。8はTP-72出土で、背

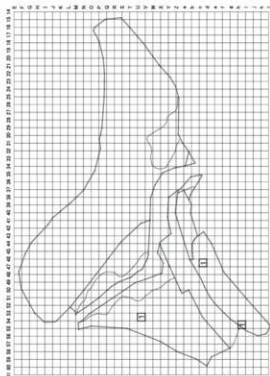
土器 総点数



I 群土器



III 群土器



IV 群土器

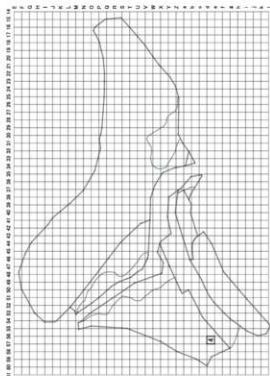


图194 上幌内5遺跡 遺物出土分布图(1)

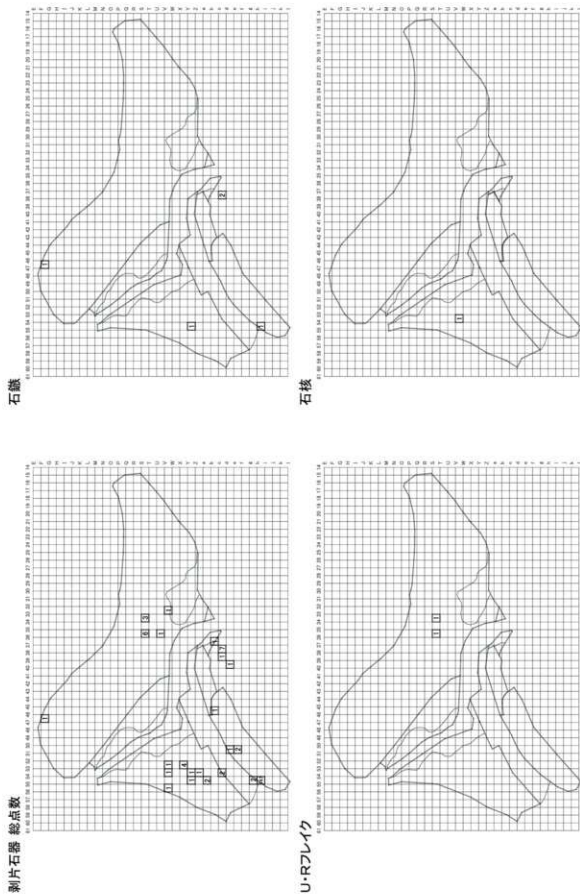
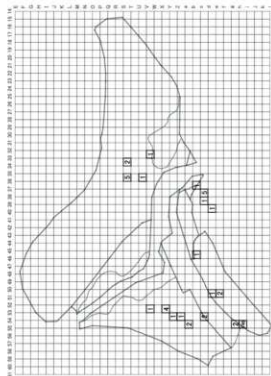
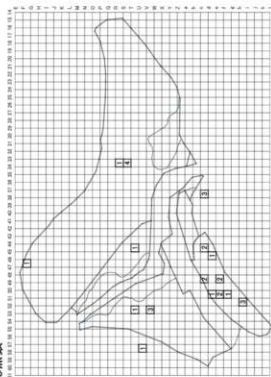


図195 上幌内5遺跡 V層の遺構・包含層の出土遺物

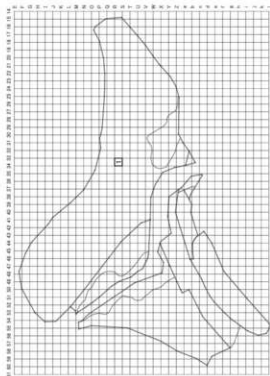
フレイク



礫石器 総点数



磨製石斧



たたき石

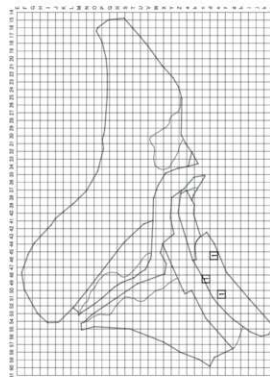


図196 上幌内5遺跡 遺物出土分布図(3)

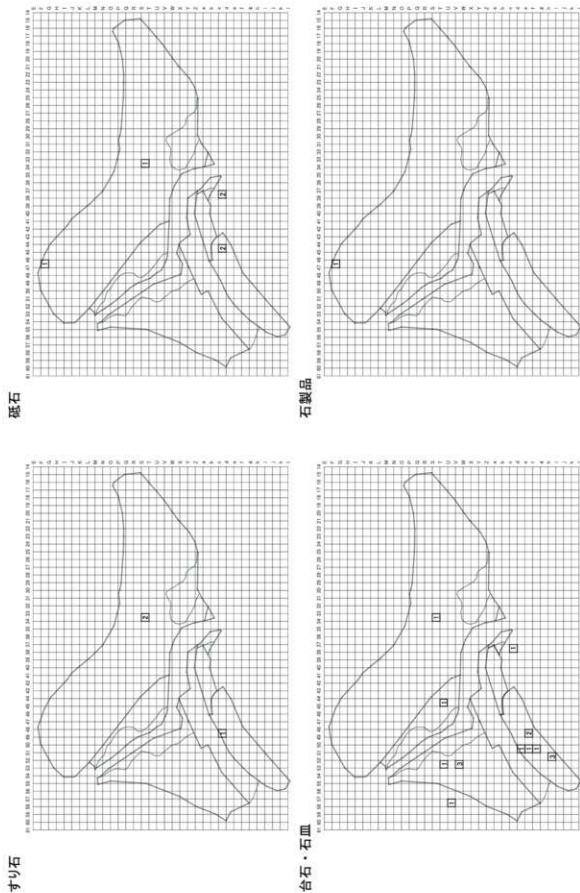
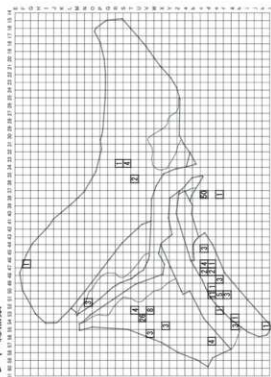
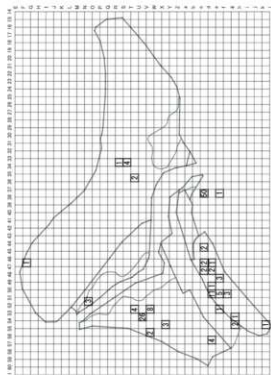


図197 上幌内5遺跡 遺物出土分布図(4)

U・Rレキ 総高数



U・Rレキ



レキ

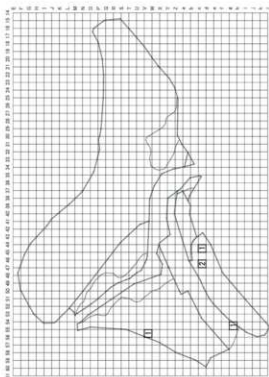


図198 上管内5遺跡 遺物出土分布図(5)

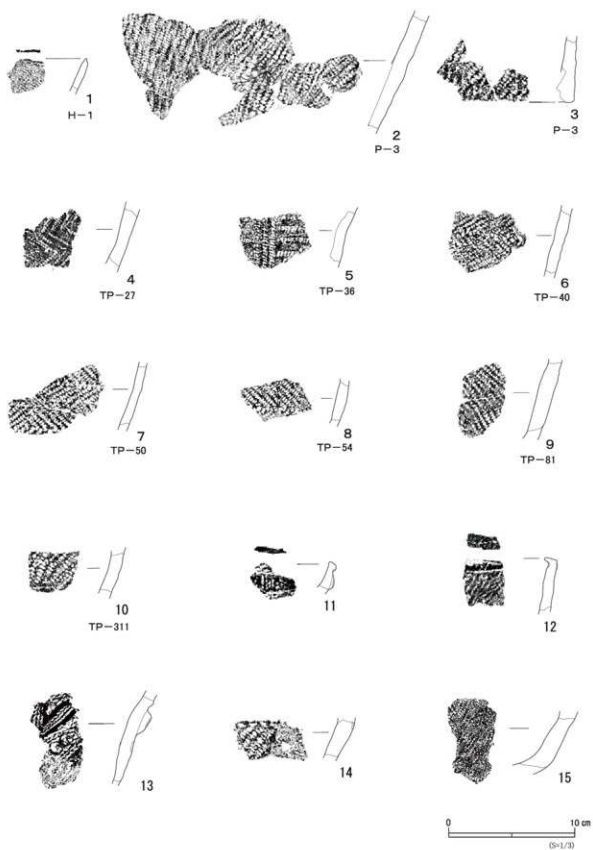


図199 上幌内5遺跡 遺構・包含層出土の破片土器

面の中央部分に高まりを残す。9はTP-74出土で原礫面と剥離面がみられる。10はTP-108出土で、基部のみで石鱗かもしれない。11はTP-238出土で、薄手で二等辺三角形である。12はTP-263出土で、基部のみである。13はTP-311出土で、腹面は槌状剥離が目立つ。

#### 礫石器(14~38)

##### H出土

14はやや粗粒の砂岩の砥石で、15は台石・石皿で左側を破損する。

##### P出土

16はP-4出土で使用面は明瞭にくぼみ、17は加工・使用痕と判断できる部分はみられない。18は中央に曲線的にくぼむ使用痕がみられ、19は表面全体にすり痕、中央にたたき痕がみられる。

##### TP出土

20はTP-36出土で、接合した表面に使用痕がみられる。21はTP-54出土で、表面と右側面にたたき痕がみられる。22はTP-59出土で、概して直方体の礫岩を用いている。23・24はTP-61出土である。23は全体にすり痕、部分的にたたき痕がみられ、24は厚みのある石材で、曲線的にくぼむ使用痕がみられる。25はTP-64出土で、下端面は直線化した使用痕があり、敲打による加工がある。26はTP-66出土で、棒状の礫を素材とし表面と下端面にたたき痕が観察される。27はTP-80出土で、下端に平滑なすり面と表面に敲打による加工がみられ、形状は似ないが北海道式石冠とも考えられる。28はTP-106出土、29はTP-108出土で、すり痕とたたき痕がみられる。30はTP-136出土で、表裏両面に使用痕が観察される。31~34はTP-143出土で、31のたたき石は下端面に使用痕がみられ、32は使用により直線化したと思われる三つの辺がある。33のすり石は、使用面が素材の軸に対し傾斜する。34は厚みのある中粒の砂岩を素材とする。35~37はTP-266出土で、35は表面の下側にたたき痕がみられ、36・37は扁平な楕円礫を素材とするすり石である。38は磨製石斧の刃部である。

#### (2) 包含層出土の石器(図206 表71 図版109)

##### 剥片石器(1~6)

1~4は黒曜石の石鱗である。1は基部を破損し、2は腹面の中央から基部側に剥離面を残す。3は先端部側を破損し、4の両側縁はやや曲線的である。5は両面調整で、背面右側縁部の大きな剥離面はざらつきがあり、被熱と考えられる。6は灰白色のチャートで剥離面が複数みられる。



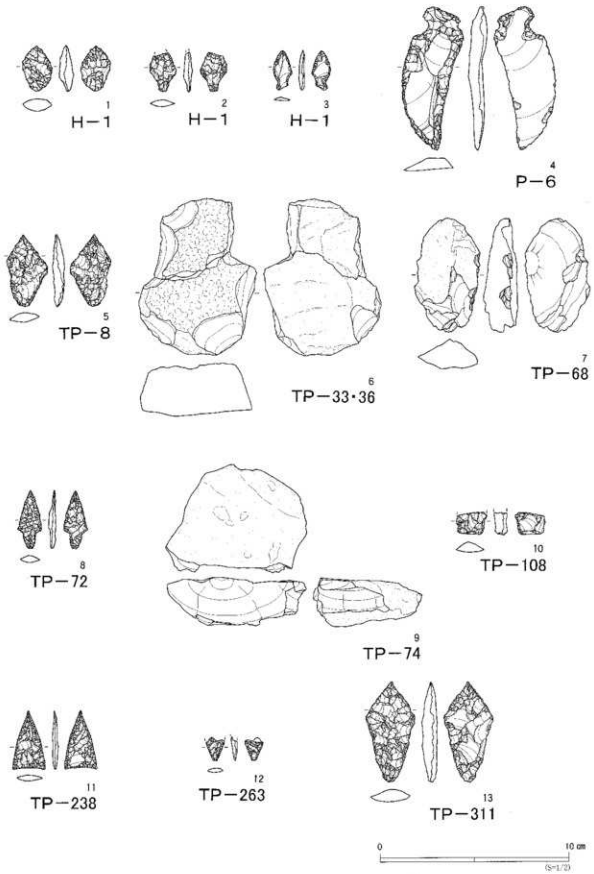


図200 上幌内5遺跡 遺構出土の剥片石器

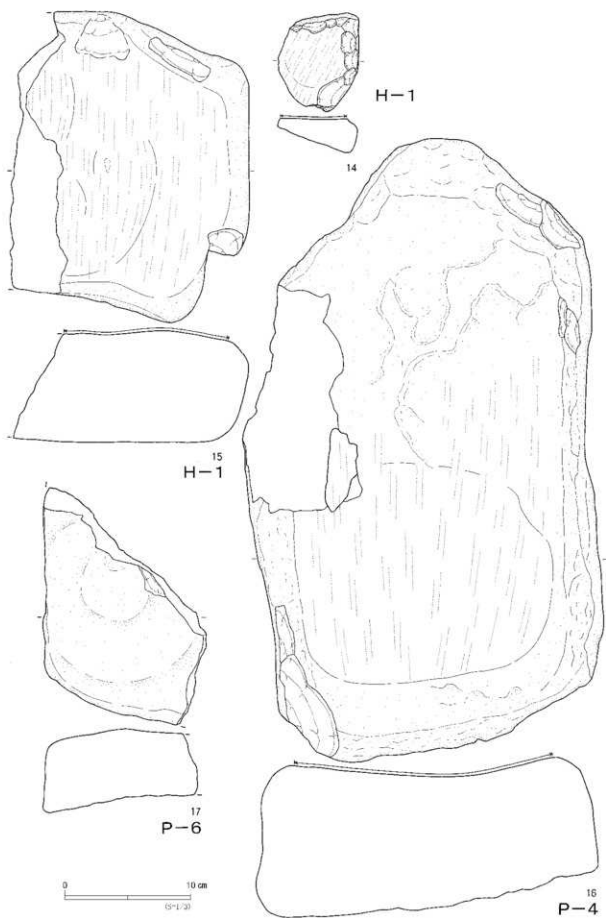


図201 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(1)

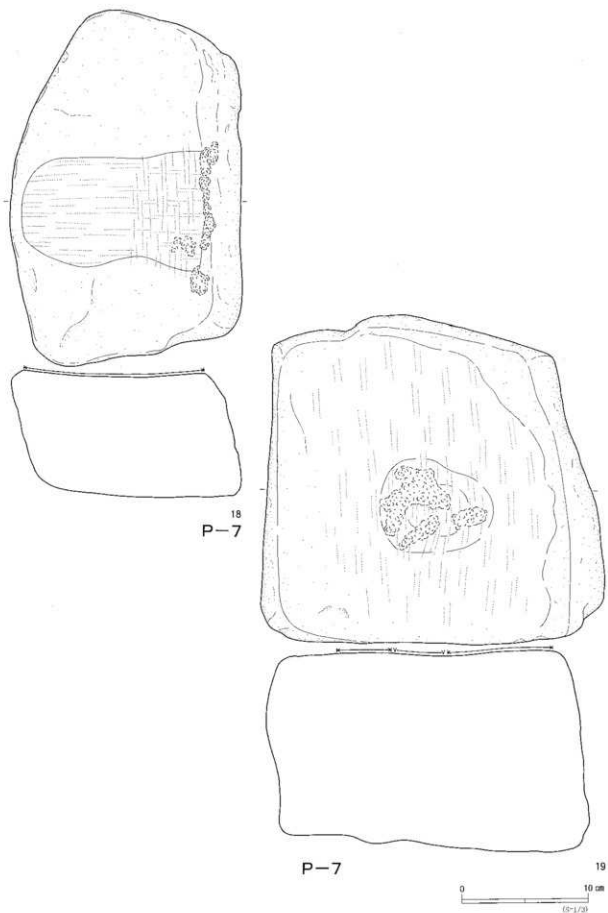


図202 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(2)

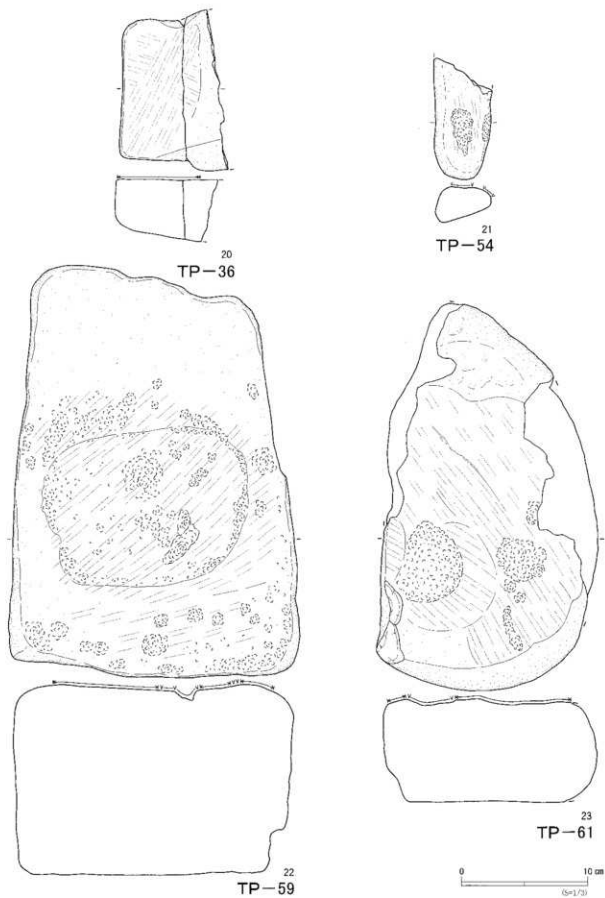


図203 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(3)

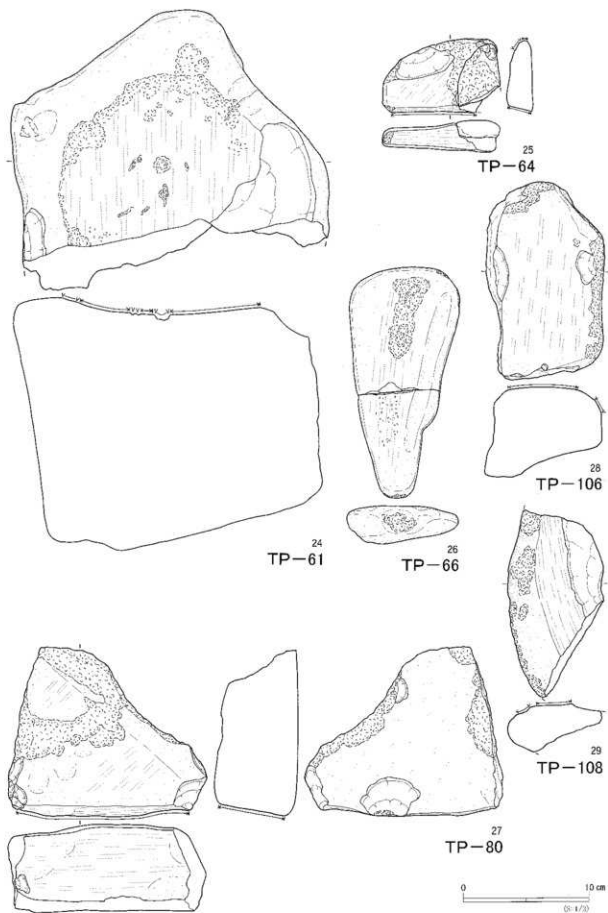


図204 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(4)

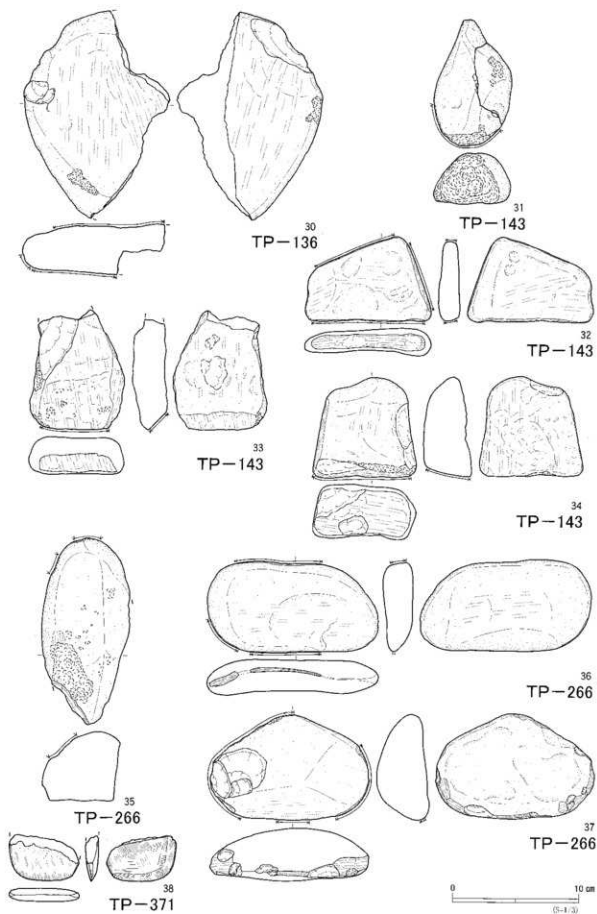


図205 上幌内5遺跡 遺構出土の礫石器(5)

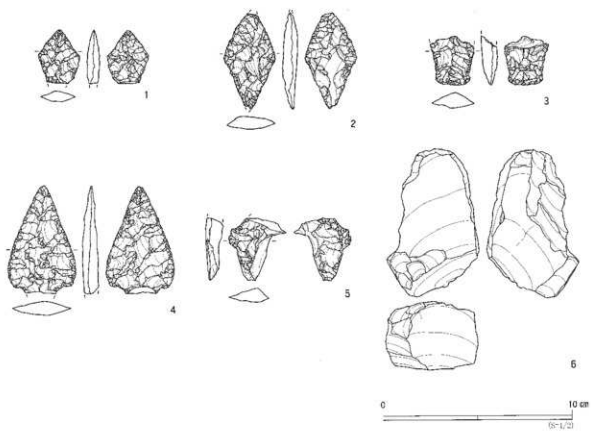


図206 上幌内5遺跡 包含層出土の石器





表65 上幌内5遺跡 遺構出土剥片石器点数表

遺構名	群種名・分類 / 層位	種類	形状状態	石種	破砕数	TP-1		TP-6		TP-7		TP-8		TP-16		TP-23		小計	
						優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計		
						破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層		
石鏡	完整	---	---	---	1	1													3
	準完成形	---	---	---					0		0			0		0		0	0
	半形	---	---	---	3	3												0	2
	片	---	---	---														0	0
石鏃・ナイフ	完整	---	---	---															0
	準完成形	---	---	---			1		0		0		0		0			0	0
	半形	---	---	---														0	0
	片	---	---	---	1	1												0	1
つまみ付き ナイフ	完整	---	---	---				1										1	0
	準完成形	---	---	---					1									0	0
	半形	---	---	---						0								0	0
	片	---	---	---														0	0
U・Rフレイク	---	---	---			0		0		0		0		0				0	0
	片	---	---	---														0	0
フレイク	---	---	---	10	103	56	171	54	30	111	1	1	0	1	1	1	1	277	285
	破砕	---	---	---															8
石核	---	---	---			0		0		0		0		0				0	0
	チャート	---	---	---															0
合計						176		332		1	1	1	1	1	1	1		292	

遺構名	群種名・分類 / 層位	種類	形状状態	石種	破砕数	TP-25		TP-28		TP-29		TP-33		TP-36		TP-38		TP-50		小計
						優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計			
						破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層			
石鏡	完整	---	---	---																0
	準完成形	---	---	---			0		0		0		0		0		0		0	0
	半形	---	---	---															0	0
	片	---	---	---															0	0
石鏃・ナイフ	完整	---	---	---															0	0
	準完成形	---	---	---			0		0		0		0		0		0		0	0
	半形	---	---	---															0	0
	片	---	---	---															0	0
つまみ付き ナイフ	完整	---	---	---															0	0
	準完成形	---	---	---			0		0		0		0		0		0		0	0
	半形	---	---	---															0	0
	片	---	---	---															0	0
U・Rフレイク	---	---	---			0		0		0		0		0		0		0	0	
	片	---	---	---			3	1	2	1	3	3	2	7	2	3	3	2	18	18
フレイク	---	---	---																0	0
	破砕	---	---	---			3	3	1	2	1	3	2	7	2	3	3	2	18	18
石核	---	---	---																0	0
	チャート	---	---	---							1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
合計						3	1	3	3	1	1	1	8	2	2	2		20		

遺構名	群種名・分類 / 層位	種類	形状状態	石種	破砕数	TP-52		TP-53		TP-54		TP-68		TP-72		TP-76		TP-106		TP-107		小計
						優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計			
						破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層			
石鏡	完整	---	---	---								1										1
	準完成形	---	---	---									1		0		0					0
	半形	---	---	---			0		0		0		1		0		0					0
	片	---	---	---																		0
石鏃・ナイフ	完整	---	---	---																		0
	準完成形	---	---	---			0		0		0		0		0		0					0
	半形	---	---	---																		0
	片	---	---	---																		0
つまみ付き ナイフ	完整	---	---	---																		0
	準完成形	---	---	---			0		0		0		0		0		0					0
	半形	---	---	---																		0
	片	---	---	---																		0
U・Rフレイク	---	---	---			0		0		0		0		0		0		1	1	1	1	
	片	---	---	---			1	1	6	6	0	1	1	0	1	1	0	10	10	10	10	
フレイク	---	---	---																			0
	破砕	---	---	---																		0
石核	---	---	---																			0
	チャート	---	---	---						1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
合計						1	1	0	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	16	

遺構名	群種名・分類 / 層位	種類	形状状態	石種	破砕数	TP-108		TP-144		TP-176		TP-238		TP-259		TP-263		TP-263		小計	合計
						優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計	優土 点層	合計				
						破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層	破片 点層	片層				
石鏡	完整	---	---	---								1									6
	準完成形	---	---	---																	1
	半形	---	---	---			0		1	1			0		1		0			3	9
	片	---	---	---																	0
石鏃・ナイフ	完整	---	---	---												1		2			2
	準完成形	---	---	---			1		1		0		0		1		0			3	0
	半形	---	---	---					0		0		0		0		0			0	4
	片	---	---	---			1														2
つまみ付き ナイフ	完整	---	---	---																	0
	準完成形	---	---	---			0		0		0		0		0		0			0	0
	半形	---	---	---																	0
	片	---	---	---																	0
U・Rフレイク	---	---	---			0		0		0		0		0		0		0		1	1
	片	---	---	---			0		0			1	1	0	0	1	1	0	1	206	314
フレイク	---	---	---																		0
	破砕	---	---	---																	0
石核	---	---	---																		0
	チャート	---	---	---																	8
合計						1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	7	323	



表66 上幌内5遺跡 遺構出土礫石器・石製品・レキ点数表(2)

遺構名	種別	形状	厚位	T.P-37		T.P-38		T.P-40		T.P-41		T.P-42		小計
				礫土	小計	礫土	小計	礫土	小計	礫土	小計	礫土	小計	
				0層	0V層	0層	0V層	0層	0V層	0層	0V層	0層	0V層	
磨製石片	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
たたく石	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
すり石	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
砥石	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
台石・砥石	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
合計				0	0	0	0	0	0	2	136	140		
U・Bレキ	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
レキ	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
合計				3	1	1	1	27	1	6	0	37		
合計				3	1	1	1	27	1	6	0	177		

遺構名	種別	形状	厚位	T.P-54		T.P-59		T.P-60		T.P-61		T.P-62		T.P-63		T.P-64		T.P-66		小計
				礫土	小計	礫土	小計	礫土	小計	礫土	小計	礫土	小計	礫土	小計	礫土	小計	礫土	小計	
				0層	0V層	0層	0V層	0層	0V層	0層	0V層	0層	0V層	0層	0V層	0層	0V層	0層	0V層	
磨製石片	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
たたく石	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
すり石	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
砥石	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
台石・砥石	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
合計				1	1	0	4	0	0	0	2	2	10							
U・Bレキ	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
レキ	片	片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
		片	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
合計				30	1	2	54	1	2	5	4	39								
合計				31	2	2	58	1	2	7	6	109								

表66 上幌内5遺跡 遺構出土礫石器・石製品・レキ点数表(3)

遺構名				TP-94		TP-98		TP-99		TP-106		TP-136		TP-143		TP-144		小計
種類	種別/分科	層位	結核地	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計		
磨製石片	完形	—	—															0
	鎌先形	—	—															0
	平形	—	—	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	緑色岩質 片岩	—															0
たたく石	完形	砂岩	—										2					2
	鎌先形	砂岩	—														0	
	平形	砂岩	—	0	0		0	0	0	0	0	0	2				2	
	片	—	—														0	
すり石	完形	砂岩	緑熱		1									1				2
	完形	燧石	緑熱											1				1
	完形	燧石	緑熱	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4
	平形	—	—														0	
砥石	完形	—	—															0
	鎌先形	—	—															0
	平形	—	—	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	燧石 燧石 燧石	—															0
台石・石皿	完形	燧石	—				1											1
	鎌先形	砂岩	—					3										3
	平形	砂岩	—	0	1				1		1		1		0	0	0	4
	片	燧石 燧石	—		1	7	2	1	1	1	1	1	1	5	0	0	0	13
合計	—	—	0	2	7	3	1	1	1	1	1	1	5	0	0	0	20	
U・Rレキ	完形	燧石	—										1					1
	完形	砂岩	—										1					2
	片	燧石 燧石	—	1	1		0	0		0	0	0	2		7		0	
	片	燧石 砂岩	—	1	1				0					7				15
レキ	完形	燧石	—															0
	完形	砂岩	—															0
	片	燧石 燧石	—	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	片	燧石 砂岩	—															0
合計	—	—	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	7	7	7	7	17	
合計	—	—	1	3	7	3	1	7	1	7	1	7	7	7	7	7	7	37

遺構名				TP-225		TP-266		TP-342		TP-357		TP-371		TP-384		TP-393		小計	合計
種類	種別/分科	層位	結核地	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計	礫土 小計			
磨製石片	完形	—	—															0	0
	鎌先形	—	—															0	0
	平形	—	—	0	0		0	0	0	1		0		1				2	0
	片	緑色岩質 片岩	—								1							1	2
たたく石	完形	砂岩	—															0	2
	鎌先形	砂岩	—		1		1	0	0	0	0	0	0	0				1	1
	平形	砂岩	—															0	3
	片	—	—															0	0
すり石	完形	砂岩	緑熱		1													0	2
	完形	燧石	緑熱															2	1
	完形	燧石	緑熱	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
	平形	—	—															0	0
砥石	完形	—	—															0	5
	平形	—	—															0	0
	片	燧石 燧石 燧石	—															4	0
	片	燧石 燧石	—										4		4			8	7
台石・石皿	完形	燧石	—															0	1
	完形	砂岩	—															0	9
	鎌先形	砂岩	—															0	2
	片	燧石 燧石	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
U・Rレキ	完形	燧石	—		2													0	3
	完形	砂岩	—															1	4
	片	燧石 燧石	—	1		10		2		1	0	0	0	0	0	14		3	199
	片	燧石 砂岩	—					1										1	25
レキ	完形	燧石	—															0	5
	完形	砂岩	—															0	1
	片	燧石 燧石	—	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	片	燧石 砂岩	—															0	1
合計	—	—	1	10	2	1	0	0	0	0	0	0	14	23	23	23	14	275	
合計	—	—	1	13	2	1	1	1	4	1	4	1	23	23	23	23	23	524	

表67 上幌内5遺跡  
包含層出土土器点数表

遺物種別 / 層位	時期	部位	残存状態	V層	その他 (I層・F層)	合計
土器						0
I層	口縁部		良好		0	0
			割離	0	0	0
			磨耗	0	0	0
			小破片	0	0	0
底面		良好		0	0	
		割離	0	0	0	
		磨耗	0	0	0	
		小破片	0	0	0	
胴部		良好	1	1	1	
		割離	0	1	0	
		磨耗	0	1	0	
		小破片	0	0	0	
不明		良好		0	0	
		割離	0	0	0	
		磨耗	0	0	0	
		小破片	0	0	0	
小計	0	1	1	0		
II層	口縁部		良好	1	1	1
			割離	1	0	0
			磨耗	0	0	0
			小破片	0	0	0
底面		良好	0	0	0	
		割離	0	0	0	
		磨耗	0	0	0	
		小破片	0	0	0	
胴部		良好	1	2	2	
		割離	1	1	0	
		磨耗	0	0	0	
		小破片	0	0	0	
不明		良好		0	0	
		割離	0	0	0	
		磨耗	0	0	0	
		小破片	0	0	0	
小計	2	1	2	0		
III層	口縁部		良好		0	0
			割離	0	0	0
			磨耗	0	0	0
			小破片	0	0	0
底面		良好		0	0	
		割離	0	0	0	
		磨耗	0	0	0	
		小破片	0	0	0	
胴部		良好	1	4	4	
		割離	0	1	0	
		磨耗	0	0	0	
		小破片	0	0	0	
不明		良好		0	0	
		割離	0	0	0	
		磨耗	0	0	0	
		小破片	0	0	0	
小計	0	1	4	0		
合計	2	6	8	0		

表68 上幌内5遺跡  
包含層出土剥片石器点数表

器種	器種名・分類 / 層位	残存状態	剥片層	V層	I層	F層	合計
石鏃	完形	—	—			1	1
	準完形	黒曜石	—	2	3	2	5
	半形	—	—	1	0	1	2
スクレイパー	片	—	—			0	0
	完形	—	—				0
	準完形	—	—	0	1	2	2
U・Rフレイク	片	黒曜石	—		1		1
	完形	—	—	2	2	0	4
	準完形	—	—	2	2	0	4
フレイク	完形	黒曜石	—	165	9	11	185
	準完形	—	—	2	167	9	178
	破砕岩	—	—			1	1
石核	完形	—	—	0	1	1	1
	チャート	—	—			0	1
合計			172	12	14	198	

表69 上幌内5遺跡  
包含層出土燧石器・石製品・レキ点数表

器種	残存状態	剥片層	V層	I層	F層	合計
磨製石片	完形	—				0
	準完形	緑色泥岩	—	1	1	0
	半形	—	—			1
たたく石	片	緑色泥岩	—	1		1
	完形	—	—			0
	準完形	凝灰岩	—	1	0	1
すり石	片	凝灰岩	—	2	0	1
	完形	安山岩	—	1		1
	準完形	凝灰岩	—	2	0	2
疑石	完形	—	3	0	0	3
	準完形	—	—			0
	半形	—	—			0
台石・石皿	完形	凝灰岩	—	1		1
	準完形	—	—			0
	半形	—	—			0
石製品	完形	—	2	2	2	6
	準完形	—	—			0
	半形	—	—			0
U・Rレキ	片	砂岩	—	1	2	2
	完形	凝灰岩	—	1	1	2
	準完形	—	—			0
レキ	片	砂岩	—	2	2	4
	完形	—	—			0
	準完形	—	—			0
合計	完形	—	17	4	7	28
	準完形	—	—			0
	半形	—	—			0
合計	完形	—	65	6	80	151
	準完形	—	—			0
	半形	—	—			0
合計			82	10	87	179

表70 上幌内5遺跡 遺構・包含層出土破片土器観察表

図	番号	図版	出土地点	層位	遺物 番号	破片数		破片部位	重量 (g)	器種	分類	備考 (土器型式)
						小計	合計					
編年		相土(遺和材)		種類		文様・装飾		色調		使用の痕跡		
199	1	106	H-1	床面	—	1	口縁部?	4.7	深鉢	I群b類?	全体の磨耗	
無	細粒	灰物主体	R.L.線文 燕糸文? R.L.線文?	—	?	(口唇部) ?	黄褐色 (01K3/0)	—	—	炭化物付着	—	
199	2	106	P-3	覆土B層	—	8	胴部	185.6	深鉢	IV群a類	内面一部剥離	
無	細粒	岩石・灰物 ともにあり	L.R.線文 (羽状線文)	ナズ	—	(赤色化)	褐色 (7.51K7/0)	赤色化 明赤褐色 (5YK5/0)	—	炭化物付着	—	
199	3	106	P-3	覆土B層	—	3	底部	17.0	深鉢	IV群a類	内面 大部分剥離	
少量?	細粒	岩石・灰物 ともにあり (白色岩石)	L.R.線文	ナズ?	—	(底外面)	にぶい褐色 (7.51K6/0)	にぶい褐色 (7.51K6/0)	—	—	—	
199	4	106	TP-27	覆土B層	—	1	胴部	30.6	深鉢	IV群a類	—	
中量	中～細粒	灰物主体 (石灰)	L.R.・R.L. 羽状線文	ナズ	—	—	褐色 (7.51K8/0)	にぶい褐色 (7.51K5/0)	黒色化	炭化物付着	—	
199	5	106	TP-36	覆土B層	—	1	胴部	22.3	深鉢	I群b類	車輪跡 内面剥離	
中量	細粒	灰物主体	結晶体圧痕文 (R石巻層体) 平截竹筒刺突文	—	—	—	(黒褐色)	—	—	炭化物付着	—	
199	6	106	TP-40	覆土B層	—	1	胴部	33.7	深鉢	II群b類	—	
少～中量	粗粒	岩石主体 (円礫状の泥岩 ・白色岩石)	L.R.・R.L. 結晶体1種 羽状線文	ミガキ (沈没文状の 調整面)	—	—	にぶい褐色 (01K6/0)	(黒褐色)	—	炭化物付着	—	
199	7	106	TP-50	覆土B層	—	2	胴部	28.4	深鉢	II群b類	8と同一個体	
微量	細粒	灰物主体?	L.R.・R.L. 結晶体1種 羽状線文	ミガキ	—	—	にぶい褐色 (7.51K7/0)	にぶい褐色 (01K6/0)	黒色化	炭化物	—	
199	8	106	TP-54	覆土B層	—	1	胴部	15.3	深鉢	II群b類	7と同一個体	
微量	細粒	灰物主体?	L.R.・R.L. 結晶体1種 羽状線文	ミガキ	—	—	にぶい褐色 (7.51K7/0)	(黒褐色)	—	炭化物付着	—	
199	9	106	TP-61	覆土B層	—	2	胴部	27.1	深鉢	IV群a類	—	
中量	中～粗粒	灰物主体 (長石)	R.L.線文	ナズ	—	—	にぶい褐色 (01K7/0)	浅褐色 (2.5Y7/0)	炭色化?	—	—	
199	10	106	TP-311	覆土B層	—	1	胴部	17.5	深鉢	IV群a類	—	
中量	細粒	灰物主体	L.R.線文 ナズ	ナズ	—	—	にぶい褐色 (01K6/0)	(黒褐色)	炭色化	炭化物付着	—	
199	11	106	U-53区	V層	—	1	口縁部 (突起部)	6.4	深鉢	I群a類	外面一部 磨耗・剥離	
少量	中粒	岩石主体 (赤門礫状)	貼付帯 斜交文(貝殻?)	ミガキ (貼付帯 貝殻線文 (口唇部) ミガキ?)	—	—	褐色 (7.51K6/0)	にぶい褐色 (7.51K6/0)	—	炭色化	—	
199	12	106	e-50区	F層	—	1	口縁部	14.8	深鉢	IV群a類	補修孔1か所	
少～中量	中粒	岩石・灰物 ともにあり (赤門礫状)	貼付帯 R.L.線文	ナズ	—	(口唇部) L.線文・線文 (貼付帯) L.L.線文	にぶい褐色 (7.51K6/0)	(黒褐色)	—	炭化物付着	—	
199	13	106	h-54区	V層	—	1	胴部	31.3	深鉢	II群b類	—	
少量	中粒	岩石・灰物 ともにあり (赤門礫状)	貼付帯 R.L.線文 線面圧痕文	ミガキ	—	(貼付) 矢羽線状の 線面圧痕文	(黒褐色)	明黄褐色 (05K6/0)	炭色化 炭化物付着	炭色化	—	
199	14	106	c-46区	F層	—	1	胴部	29.7	深鉢	II群b類	外面一部剥離	
多量	細粒	灰物主体 (石灰多量)	L.R.線文 平截竹筒刺突文	ミガキ	—	—	(黒褐色)	(黒褐色)	炭色化 炭化物付着	炭色化	—	
199	15	106	d-56区	F層	—	1	胴部	42.5	深鉢	IV群a類	外面磨耗	
中～多量	中粒	岩石・灰物 ともにあり (赤門礫状 粗粒の凝岩岩)	L.R.線文	ナズ	—	—	にぶい褐色 (01K6/0)	(褐色)	—	炭色化	—	

表71 上幌内5遺跡 遺構・包含層出土石器等観察表

図	層番号	図説	出土地点	層位	遺物番号	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		保存状態	特徴観察事項	備考
							長さ	幅	厚さ		原石名	特徴			
200	1	106	H-1	床面	—	石版	2.4	1.6	0.8	2.2	黒曜石	—	完好	破損?	
	2	106	H-1	層土B層	—	石版	0.11	1.4	0.5	1.0	黒曜石	—	完好	先端部破損 重傷品	
	3	106	H-1	層土B層	—	石版	2.1	1.0	0.3	0.4	黒曜石	—	半坏	—	
	4	106	P-6	層土B層	—	つまみ付きナイフ	2.6	3.3	1.6	14.4	頁岩 肌黄褐色 010162	—	完好	—	
	5	106	TP-8	層土1層	—	石版	3.8	3.2	0.6	3.5	黒曜石	—	完好	破損した面を 再加工	
	6	106	TP-33	層土B層	—	石核	8.3	6.2	2.8	191.8	チャート	石黄結晶部分 (灰白色)	—	破損	遺構間で接合
	7	106	TP-68	層土B層	—	スクレイパー	6.0	3.5	1.8	30.2	チャート	石黄結晶部分 (灰白色)	—	破損	
	8	106	TP-72	層土B層	—	石版	3.1	1.3	0.4	0.9	黒曜石	—	完好	—	
	9	106	TP-74	層土B層	—	石核	2.6	2.4	5.7	110.5	チャート	石黄結晶部分 (灰白色)	—	—	
	10	106	TP-108	層土B層	—	石核・ナイフ	0.20	1.6	0.7	1.3	黒曜石	—	片	破損 基部の一部のみ残存	
	11	106	TP-238	層土B層	—	石版	3.1	1.7	0.3	1.1	黒曜石	—	完好	—	
	12	106	TP-283	層土B層	—	石版	0.20	1.0	0.4	0.7	黒曜石	—	片	破損 基部のみ残存	
	13	106	TP-311	層土B層	—	石核・ナイフ	5.3	3.6	0.8	8.5	黒曜石	—	完好	—	
201	14	107	H-1	層土BY層	—	砥石	7.8	6.4	2.6	131.8	砂岩	粗粒 にぶい黄褐色 010171	片	すり痕	
	15	107	H-1	床面	—	台石・石版	24.6	18.9	5.8	8,200	砂岩	にぶい黄褐色 010172	半坏	破損 すり痕	
	16	107	P-4	層土B層	—	台石・石版	80.1	28.5	12.9	22,400	砂岩	にぶい黄褐色 010173	完好	すり痕	
202	17	107	P-6	層土BY層	—	レキ	02.80	6.6	1,700	砂岩	にぶい黄褐色 010174	片	破損		
	18	107	P-7	層土BY層	—	台石・石版	28.1	18.3	11.2	8,400	砂岩	黄灰色 2.5161	完好	すり痕 たたき痕	
203	19	108	P-7	層土BY層	—	台石・石版	30.0	27.1	15.9	26,800	砂岩	黄灰色 2.5162	完好	すり痕 たたき痕	
	20	108	TP-36	層土BY層	—	台石・石版 (すり石)	12.7	(8.7)	5.0	800	砂岩	細～中粒 肌黄褐色 2.5163	片	破損 すり痕	2点接合
204	21	108	TP-54	層土B層	—	たたき石	09.0	4.7	3.8	150	砂岩	肌灰色 010181	半坏	破損 たたき痕	
	22	108	TP-59	層土B層	—	台石・石版	32.6	23.0	13.1	20,600	凝灰岩	(黄灰色)	完好	すり痕 たたき痕	
	23	108	TP-61	層土B層	—	台石・石版	30.6	17.5	11.5	6,800	砂岩	にぶい黄褐色 2.5164	完好	破損 すり痕 たたき痕	
	24	108	TP-67	層土B層	—	台石・石版	02.11	25.1	18.9	11,000	砂岩	黄灰色 2.5165	半坏	破損 すり痕 たたき痕	
204	25	109	TP-64	層土B層	—	すり石	5.9	9.3	2.6	143	砂岩	肌黄褐色 2.5172	片	破損 磨り痕	2点接合
	26	109	TP-66	層土B層	—	たたき石	18.2	8.7	3.0	500	砂岩	肌黄褐色 2.5167	完好	破損 跡高 たたき痕 すり痕	
	27	109	TP-80	層土	—	すり石	13.3	13.7	7.0	1,680	砂岩	肌黄褐色 2.5162	完好	磨り痕 すり痕	持手部分主作田 北高道式石版
	28	109	TP-106	層土B層	—	台石・石版	15.8	9.3	7.1	1,480	砂岩	粗粒 肌黄褐色(2.5168)	片	破損 すり痕 たたき痕	
	29	109	TP-108	層土B層	—	台石・石版	114.80	07.0	4.1	410	砂岩	粗粒 (黄灰色)	片	たたき痕 すり痕	
	30	109	TP-136	層土B層	—	台石・石版	16.4	01.70	5.2	700	砂岩	粗粒 硬質 (黄灰色)	片	すり痕 たたき痕	
205	31	109	TP-143	層土B層	—	たたき石	10.0	8.1	4.0	237.5	砂岩	(黄灰色)	完好	たたき痕	2点接合
	32	109	TP-143	層土B層	—	すり石	6.7	16.0	2.2	151.8	凝灰岩	(黄灰色)	完好	すり痕	全体に平滑な面
	33	109	TP-143	層土B層	—	すり石	9.0	7.5	2.9	253.3	砂岩	中粒 (黄灰色)	片	破損 すり痕	
	34	109	TP-143	層土B層	—	すり石	7.9	8.2	4.3	350	砂岩	中粒 やや硬質 (黄灰色)	片	すり痕	
	35	109	TP-286	層土B層	—	たたき石	114.71	7.0	5.5	580	砂岩	粗粒黄褐色 (2.5152)	壊片	たたき痕	
	36	109	TP-286	層土BY層	—	すり石	7.2	13.5	2.8	350	砂岩	粗粒	完好	すり痕	黒熱(赤色化)
	37	109	TP-286	層土BY層	—	すり石	8.5	12.6	4.2	480	凝灰岩	粗粒	完好	すり痕	黒熱(赤色化)
	38	109	TP-371	層土B層	—	磨製石斧	03.0	5.5	1.0	28.5	片岩	(明緑灰色)	片	すり痕 基部のみ残存	黒色化?
206	1	109	Y-54E	V層	—	石版	02.0	3.2	0.7	3.6	黒曜石	—	壊片	破損	
	2	109	c-37E	F層	—	石版	05.71	3.8	0.8	7.7	黒曜石	—	完好	先端部破損	
	3	109	h-54E	V層	—	石版	02.0	3.4	0.9	4.1	黒曜石	—	半坏	破損 基部のみ残存	
	4	109	F-46E	V層	—	石版	05.71	3.6	0.9	11.5	黒曜石	—	壊片	基部破損	
	5	109	—	I層	—	スクレイパー	03.0	3.0	1.0	4.9	黒曜石	—	半坏	破損	磨り痕
	6	109	V-53E	I層	—	石核	7.8	4.9	3.8	132.7	チャート	石黄結晶部分 (灰白色) 上端部に黄灰岩	—	割片	

## IX章 まとめ

### 1. 自然科学的分析結果について

#### (1) 上幌内4・5遺跡 放射性炭素年代測定結果について

これらについて、標準偏差の百分率が高いものを表72にまとめた。竪穴住居跡は上幌内4遺跡のH-1が縄文時代後期初頭、H-2が同中期中葉～後葉で、上幌内5遺跡のH-1はこれらよりも古い縄文時代中期前葉～中葉頃と考えられ、概して両遺跡の主たる時期と同じである。上幌内4遺跡のⅢ層の遺構は大きく二つの時期に分けられ、前半期は、焼土UF-1が13世紀の中頃～後半、US-2は14世紀代である。後半期は炭化物集中UC-1が16～17世紀、UC-2は15～17世紀でやや年代幅がある。この測定結果を受け、炭化物集中はともに遺構でなく、西暦1667年の樽前b軽石降下に伴う可能性が考えられる。アイヌ文化期の遺跡では、明確な時期を判断できる遺物が出土しないため、放射性炭素年代測定が有効である。

#### (2) 上幌内4遺跡 炭化種実同定結果について

焼土UF-1から採取した土壌の一部はフローテーションを行い、植物遺存体を回収した。同定できたものはイネ科、タデ属、タデ属サナエタデ節、アカザ属である。現場の調査では、焼土の色調が不明瞭であったため、炭化した自然遺物の出土をもって焼土であるとの確認を得たいとの目的もあったが、炭化したものは確認できなかった。これらは当時(13世紀中頃～後半)の周囲の自然環境を表すと理解され、これらすべては樹木の少なく日当たりの良い生育環境であることから、伐採など人間活動の影響があったことを示している。

#### (3) 上幌内4遺跡 鉄製品の保存処理と材質分析の結果について

Ⅲ層から出土した鉄製品のうち、図23に掲載の3：棒状品、4：鉤状品、5：刀子の各種別について実施した。破壊分析であるため、破損しているものを選び出した。

いずれも外観は錆が目立つが、内部には金属鉄が残存する。組織観察では、3は微細で強度と靱性を持たせたもの、4は介在物が層状にみられ、折り返し鍛錬されたもので、硬度観察では、5が予想より硬質であった。E P M A分析では、3と5は砂鉄を原料とすることが判明し、4はこれが認められなかった。

### 2. 上幌内4遺跡の調査

#### (1) Ⅲ層の調査

平成28(2016)年度のみ調査した。中世～近世アイヌ文化期で、放射性炭素年代測定結果では、最古は13世紀代、最新は17世紀代で時期に幅があり、すべての遺構・遺物の帰属を確定させることはできない。小柱穴SP-1・2は平成27(2015)年度にTP-13の調査時に確認し、Ⅲ層の遺構と判断した。周囲に同様な柱穴はみられず、平地住居跡の可能性は低いと考えられる。焼土UF-1はカワシンジユガイと植物遺存体が出土し、礫集中US-1・2は斜面に広がり、丸みを帯び楕円形で厚みのある、いわゆる「棒状礫」が多数出土した。炭化物集中UC-1・2は出土状況や測定結果から、樽前b降下軽石に関わる自然のものである可能性も考えられる。鉄製品は斜面から小刀、刀子、棒状品、鉤状品が出土した。台地平坦部にも当該時期の遺跡が広がっていたと考えられる。



## (2) V層の調査

竪穴住居跡は地床炉をもち、台地平坦部に位置するH-1は縄文時代中期末葉～後期初頭で、縄文中期末葉のH-2は台地の南西端に位置する。Tピットは多くみられ、確認面が円形で坑底面が楕円形、かつ複数の柱穴・杭穴をもつものはTP-6・17・20・31で、20以外は台地縁部や斜面に位置する。TP-31は斜面の下にh-1とした掘り上げ土がみられた。多くのTピットは北東側～南西側方向に並ぶと解され、台地の北側の縁部と平行に位置する。遺物集中は、土器集中は各時期のものが多くみられ、フレイク集中は2か所である。

本遺跡出土の復原土器も含めて整理する。

### 早期後半 I群b類 東剣路Ⅳ式：PS-3A・3B、4、6、R-25区、K-23区

調査区の南側のPS-3A、3B、4、R-25区と北側の斜面のPS-6とK-23区の二つの地点が認められ、深鉢と浅鉢が出土した。

### 前期後半 II群b類 静内中野式：PS-7 植苗式：R-24区

静内中野式は調査区北東側の斜面出土で、一次整理ではIV群と誤認した。植苗式は調査区南側のR-24区出土の小型の深鉢がある。貼付帯はみられないが、口唇部の断面形態、繊維を含む胎土、内面の縄文等から、これに分類した。

### 中期前半 III群a類 円筒土器上層a式：PS-1

調査区南側で、本型式の復原土器は厚真町内では初の出土である。胎土、内面調整、整然とした施文から、搬入品と推測される。

### 中期後半 III群b類 柏木川式：PS-5 北筒式：S-1

柏木川式は調査区北側の斜面で出土し、半截竹管状工具による施文で、器形は萩ヶ岡式に類似する。北筒式は調査区北側の斜面で、円形刺突文がめぐり、曲線的な器形と結束する縄文から中期と判断した。

### 後期前葉 IV群a類 余市式

#### ：PS-5A・5B、H-1、H-1・PS-5、TP-21、TP-26 タブコブ式：TP-29

PS-5は北側の斜面で、H-1は調査区中央付近の平坦部である。H-1・PS-5はH-1床面直上の出土の20点とPS-5の3点が接合し、遺構間の距離は約15mである。TP-21・26・29は覆土から出土した破片が、周囲の包含層と接合した。これらは、調査区の中央から北東側部分である。特徴は貼付帯が複数みられるもの、円形刺突文、無文部分があり縄線文が施されるものがある。また、土器集中PS-5ではIII群b類とIV群a類が出土している。斜面に位置し遺物が二次的に移動している可能性があり、土器集中の範囲の定め方にもよるが、これらの土器の時期が近いことを示唆しているのかもしれない。

### 後期中葉 IV群b類 手稲式：PS-2

調査区の南側の沢に面する平坦部で出土した。同時期の土器はこれ以外にはみられなかった。

石器は各器種がみられた。剥片石器は黒曜石製が多く、頁岩製は石槍・ナイフとつまみ付きナイフに限られる。チャートと分類した「透明の石英質」のものはU・Rフレイク、石核、フレイク、原石にみられ、特定の石器の器種に仕上げられたものはない。礫石器は、磨製石斧の多くは緑色泥岩が用いられ、残存状態「片」が多い。たたき石は、比較的厚みのある石材の周縁等に使用痕がみられるものと、扁平な石材を用い平坦で広い面に2か所の敲打痕がみられるものがある。後者は、持ち手部として加工した「すり石」との指摘(北理調報325)があったが、本遺跡の調査では結論には至らなかった。すり石は、自然礫の形状を大きく加工することなく、全体や一部に平滑な使用痕があるもの、扁平打製石器とこれに類似するもの、北海道式石冠がある。砥石は使用による結果で様々な形状がある

が、石材は、粗粒の砂岩から軟質で粒径の細かい凝灰岩を用いたものがみられ、使用痕は、断面が凹状の曲線的なくぼみで広い砥面のもと、溝あるいは線状で明瞭な段差を有する痕のものがある。台石・石皿では図76-70、77-73のような大型で重いものがあり、これらは地面に固定され使用されたと考えられる。

礫石器は、礫の自然面と使用による平滑な面の区別が困難なものが多く、かつ脆弱な堆積岩のものは破片と化し本来の形状を想像できない遺物も多く、分類に悩むものが多かった。

### 3. 上幌内5遺跡の調査

#### (1) Tピット以外の遺構・遺物

整穴住居跡は大型の楕円形で、L-3地区の北東側に位置する。床面からI群b類が出土し、放射性炭素年代測定の結果は縄文時代中期の前半である。付属遺構h p-1が先端部ピットの様な軸上の土坑と解すると、後者と判断される。土坑は、P-1のみがL-1地区で、P-2~7はL-3地区の南西側に位置する。L-3地区の中央とL-5地区の南西側部分は遺構が全くみられない。

土器はI群、III群、IV群があり、図199-11のU-53区出土の土器は貝殻腹縁文が施され、I群a類と考えられる。剥片石器は、石鏃、石槍・ナイフ、つまみ付きナイフ、U・Rフレイク、フレイク、石核で、つまみ付きナイフが頁岩、石核がチャートで、これら以外はすべて黒曜石である。礫石器は、磨製石斧、たたき石、すり石、砥石、台石・石皿、石製品、U・Rレキ、レキが出土し、砂岩と凝灰岩が多い。また、溝状のTP-33と楕円形のTP-36出土のチャートが接合した(図200-6)。両遺構の平面形態は異なるが、遺物が接合したことから、さほど時間差がなく、形状の異なるTピットが同時に利用された可能性が想定される。

#### (2) Tピット

多くみつくと予想したTピットの数を、あらかじめ把握し計画的に調査を進めるために、表土除去が完了した時点で、Tピットと考えられる場所に通し番号を付し、426まで数えた。調査の結果、①：単独のTピット、②：単独番号で複数と判明したTピット、③：複数番号で単独と判明したTピット、④：土坑と判断したもの、⑤：遺構でないものに分けられ、これらを整理し表73にまとめた。すなわち、②は方角またはアルファベット大文字を末尾に付し、③は[角形括弧]で数字をくくった。④は「T」の字を、⑤は「TP-」を(丸括弧)でくくり、本文は斜字体とした。整理後のTピットの総数は421基で、土坑は6基である。

また、効率的な調査や統一的な記述のために、表74に示すように覆土の表記を統一した。

Tピットが構築される遺跡の自然層位は、概していうと上位の黒色土層、下位の地山はT a-d 2のスコリア(礫)またはローム(土)層で、主たる覆土はこれらが混ざり合う相対的な量で分けられる。スコリアは非常に脆弱で観察のために手にすると土壌化しているため、ロームとの違いは土層断面の状態、礫の形状を保っているか否かで判断した。また、T a-d 2層の色調が黄色または白色を呈する部分もみられ、これは地下水の影響による還元作用の変色と考えた。地山であるT a-d 2層は多くが水成二次堆積と考えられ、これらの中に部分的な薄層がみられ、これらが掘り上げられ、覆土として遺構内にみられたものが、灰白色(W層)または黄色粘土(YCL層)や青灰色の砂礫層のT a-d 1層(D 1層)等である。

Tピットの分布の概要を述べる。左岸はL-2の全体、L-3地区北東側、L-5地区の中央から東側にやや集中し、周囲には遺構が位置しない部分がある。L-4地区の南側部分はまばらにみられ、中央付近は長軸方向を南北とする溝状のものが集中する。北側へとさらにまばらになり、さらにみら

れなくなる。無名の沢(イタルイカ)近くのR-2地区は少なく、細長いものが多い。R-3地区の北側部分は、東西または北東から南西方向を長軸とする溝状が目立つ、同地区の中央部分は南西から北東側の範囲に多く、その周囲は散在的である。東側部分は、南側が少なく、みられない範囲が認められ、溝状の長軸方向は比して様々である。

(未光)

表72 放射性炭素年代測定結果一覧表

試料名	調査年度	遺跡名	遺構	付属遺構	層位	遺物 番号	遺物 種別	乾燥重量 (g)	1標準偏差 暦年較正年代(8k-2X)		2標準偏差 暦年較正年代(9k-4X)		世紀・時代
									4299 calBP	4238 calBP	4469 calBP	4224 calBP	
KH4-1	平成27 (2015)年度	上幌内4遺跡	竪穴住居跡 H-1	—	層土1層	炭1	炭化物	0.1	4299 calBP	4238 calBP	4469 calBP	4224 calBP	縄文時代 後前期終
KH4-2	平成27 (2015)年度	上幌内4遺跡	竪穴住居跡 H-2	炭化物集中 hc-1	床面	—	炭化物	0.5	4709 calBP	4644 calBP	4963 calBP	4772 calBP	縄文時代 中期中層～後層
KH5-1	平成27 (2015)年度	上幌内5遺跡	竪穴住居跡 H-1	—	床面	2	炭化物	0.3	5283 calBP	5214 calBP	5592 calBP	5444 calBP	縄文時代 中期前期～中層
KH4-3	平成28 (2016)年度	上幌内4遺跡	竪土 (UF-1)	—	竪層	(1)	貝	2.3	1362 calAD	1277 calAD	1683 calAD	1545 calAD	12世紀中層～後半 (仲世アイヌ文化期)
KH4-4	平成28 (2016)年度	上幌内4遺跡	竪層中 US-2	—	竪層	38	炭化物	0.7	1311 calAD	1292 calAD	1392 calAD	1300 calAD	14世紀初層～末層 (仲世アイヌ文化期)
KH4-5	平成28 (2016)年度	上幌内4遺跡	炭化物集中 UC-1	—	竪層	—	炭化物	0.2	1309 calAD	1329 calAD	1671 calAD	1654 calAD	17世紀前半～中層 (近世アイヌ文化期)
KH4-6	平成28 (2016)年度	上幌内4遺跡	炭化物集中 UC-2	—	竪層	—	炭化物	2.7	1329 calAD	1343 calAD	1521 calAD	1575 calAD	16世紀中層～後半 (仲世アイヌ文化期)
KH4-6	平成28 (2016)年度	上幌内4遺跡	炭化物集中 UC-2	—	竪層	—	炭化物	2.7	1529 calAD	1595 calAD	1692 calAD	1605 calAD	15世紀末～17世紀初層 (仲～近世アイヌ文化期)

表73 上幌内5遺跡 Tピット 数整理表

遺跡群別 / 地区・調査年度		L地区					R地区					合計
		L-1地区	L-2地区	L-3地区	L-4地区	L-2+5 地区	R-1地区	R-2地区	R-2+3 地区	R-3地区		
		平成27 (2015)年度	平成28 (2016)年度	平成27 (2015)年度	平成27 (2015)年度	平成27、28 (2015・2016) 年度	平成27 (2015)年度	平成27 (2015)年度	平成27、28 (2015・2016) 年度	平成28 (2016)年度		
① 単独発見で 確認したTピット	数	—	12	5	72	1	23	—	8	1	237	421
	遺構番号	—	T7-10-1 T7-10-4 T7-10-5	T7-10-9	T7-10-1 T7-10-2 T7-10-3 T7-10-4 T7-10-5 T7-10-6 T7-10-7 T7-10-8 T7-10-9 T7-10-10 T7-10-11 T7-10-12 T7-10-13 T7-10-14 T7-10-15 T7-10-16 T7-10-17 T7-10-18 T7-10-19 T7-10-20 T7-10-21 T7-10-22 T7-10-23 T7-10-24 T7-10-25 T7-10-26 T7-10-27 T7-10-28 T7-10-29 T7-10-30 T7-10-31 T7-10-32 T7-10-33 T7-10-34 T7-10-35 T7-10-36 T7-10-37 T7-10-38 T7-10-39 T7-10-40 T7-10-41 T7-10-42 T7-10-43 T7-10-44 T7-10-45 T7-10-46 T7-10-47 T7-10-48 T7-10-49 T7-10-50 T7-10-51 T7-10-52 T7-10-53 T7-10-54 T7-10-55 T7-10-56 T7-10-57 T7-10-58 T7-10-59 T7-10-60 T7-10-61 T7-10-62 T7-10-63 T7-10-64 T7-10-65 T7-10-66 T7-10-67 T7-10-68 T7-10-69 T7-10-70 T7-10-71 T7-10-72 T7-10-73 T7-10-74 T7-10-75 T7-10-76 T7-10-77 T7-10-78 T7-10-79 T7-10-80 T7-10-81 T7-10-82 T7-10-83 T7-10-84 T7-10-85 T7-10-86 T7-10-87 T7-10-88 T7-10-89 T7-10-90 T7-10-91 T7-10-92 T7-10-93 T7-10-94 T7-10-95 T7-10-96 T7-10-97 T7-10-98 T7-10-99 T7-10-100	T7-10-1 T7-10-2 T7-10-3 T7-10-4 T7-10-5 T7-10-6 T7-10-7 T7-10-8 T7-10-9 T7-10-10 T7-10-11 T7-10-12 T7-10-13 T7-10-14 T7-10-15 T7-10-16 T7-10-17 T7-10-18 T7-10-19 T7-10-20 T7-10-21 T7-10-22 T7-10-23 T7-10-24 T7-10-25 T7-10-26 T7-10-27 T7-10-28 T7-10-29 T7-10-30 T7-10-31 T7-10-32 T7-10-33 T7-10-34 T7-10-35 T7-10-36 T7-10-37 T7-10-38 T7-10-39 T7-10-40 T7-10-41 T7-10-42 T7-10-43 T7-10-44 T7-10-45 T7-10-46 T7-10-47 T7-10-48 T7-10-49 T7-10-50 T7-10-51 T7-10-52 T7-10-53 T7-10-54 T7-10-55 T7-10-56 T7-10-57 T7-10-58 T7-10-59 T7-10-60 T7-10-61 T7-10-62 T7-10-63 T7-10-64 T7-10-65 T7-10-66 T7-10-67 T7-10-68 T7-10-69 T7-10-70 T7-10-71 T7-10-72 T7-10-73 T7-10-74 T7-10-75 T7-10-76 T7-10-77 T7-10-78 T7-10-79 T7-10-80 T7-10-81 T7-10-82 T7-10-83 T7-10-84 T7-10-85 T7-10-86 T7-10-87 T7-10-88 T7-10-89 T7-10-90 T7-10-91 T7-10-92 T7-10-93 T7-10-94 T7-10-95 T7-10-96 T7-10-97 T7-10-98 T7-10-99 T7-10-100	T7-10-1 T7-10-2 T7-10-3 T7-10-4 T7-10-5 T7-10-6 T7-10-7 T7-10-8 T7-10-9 T7-10-10 T7-10-11 T7-10-12 T7-10-13 T7-10-14 T7-10-15 T7-10-16 T7-10-17 T7-10-18 T7-10-19 T7-10-20 T7-10-21 T7-10-22 T7-10-23 T7-10-24 T7-10-25 T7-10-26 T7-10-27 T7-10-28 T7-10-29 T7-10-30 T7-10-31 T7-10-32 T7-10-33 T7-10-34 T7-10-35 T7-10-36 T7-10-37 T7-10-38 T7-10-39 T7-10-40 T7-10-41 T7-10-42 T7-10-43 T7-10-44 T7-10-45 T7-10-46 T7-10-47 T7-10-48 T7-10-49 T7-10-50 T7-10-51 T7-10-52 T7-10-53 T7-10-54 T7-10-55 T7-10-56 T7-10-57 T7-10-58 T7-10-59 T7-10-60 T7-10-61 T7-10-62 T7-10-63 T7-10-64 T7-10-65 T7-10-66 T7-10-67 T7-10-68 T7-10-69 T7-10-70 T7-10-71 T7-10-72 T7-10-73 T7-10-74 T7-10-75 T7-10-76 T7-10-77 T7-10-78 T7-10-79 T7-10-80 T7-10-81 T7-10-82 T7-10-83 T7-10-84 T7-10-85 T7-10-86 T7-10-87 T7-10-88 T7-10-89 T7-10-90 T7-10-91 T7-10-92 T7-10-93 T7-10-94 T7-10-95 T7-10-96 T7-10-97 T7-10-98 T7-10-99 T7-10-100	T7-10-1 T7-10-2 T7-10-3 T7-10-4 T7-10-5 T7-10-6 T7-10-7 T7-10-8 T7-10-9 T7-10-10 T7-10-11 T7-10-12 T7-10-13 T7-10-14 T7-10-15 T7-10-16 T7-10-17 T7-10-18 T7-10-19 T7-10-20 T7-10-21 T7-10-22 T7-10-23 T7-10-24 T7-10-25 T7-10-26 T7-10-27 T7-10-28 T7-10-29 T7-10-30 T7-10-31 T7-10-32 T7-10-33 T7-10-34 T7-10-35 T7-10-36 T7-10-37 T7-10-38 T7-10-39 T7-10-40 T7-10-41 T7-10-42 T7-10-43 T7-10-44 T7-10-45 T7-10-46 T7-10-47 T7-10-48 T7-10-49 T7-10-50 T7-10-51 T7-10-52 T7-10-53 T7-10-54 T7-10-55 T7-10-56 T7-10-57 T7-10-58 T7-10-59 T7-10-60 T7-10-61 T7-10-62 T7-10-63 T7-10-64 T7-10-65 T7-10-66 T7-10-67 T7-10-68 T7-10-69 T7-10-70 T7-10-71 T7-10-72 T7-10-73 T7-10-74 T7-10-75 T7-10-76 T7-10-77 T7-10-78 T7-10-79 T7-10-80 T7-10-81 T7-10-82 T7-10-83 T7-10-84 T7-10-85 T7-10-86 T7-10-87 T7-10-88 T7-10-89 T7-10-90 T7-10-91 T7-10-92 T7-10-93 T7-10-94 T7-10-95 T7-10-96 T7-10-97 T7-10-98 T7-10-99 T7-10-100	T7-10-1 T7-10-2 T7-10-3 T7-10-4 T7-10-5 T7-10-6 T7-10-7 T7-10-8 T7-10-9 T7-10-10 T7-10-11 T7-10-12 T7-10-13 T7-10-14 T7-10-15 T7-10-16 T7-10-17 T7-10-18 T7-10-19 T7-10-20 T7-10-21 T7-10-22 T7-10-23 T7-10-24 T7-10-25 T7-10-26 T7-10-27 T7-10-28 T7-10-29 T7-10-30 T7-10-31 T7-10-32 T7-10-33 T7-10-34 T7-10-35 T7-10-36 T7-10-37 T7-10-38 T7-10-39 T7-10-40 T7-10-41 T7-10-42 T7-10-43 T7-10-44 T7-10-45 T7-10-46 T7-10-47 T7-10-48 T7-10-49 T7-10-50 T7-10-51 T7-10-52 T7-10-53 T7-10-54 T7-10-55 T7-10-56 T7-10-57 T7-10-58 T7-10-59 T7-10-60 T7-10-61 T7-10-62 T7-10-63 T7-10-64 T7-10-65 T7-10-66 T7-10-67 T7-10-68 T7-10-69 T7-10-70 T7-10-71 T7-10-72 T7-10-73 T7-10-74 T7-10-75 T7-10-76 T7-10-77 T7-10-78 T7-10-79 T7-10-80 T7-10-81 T7-10-82 T7-10-83 T7-10-84 T7-10-85 T7-10-86 T7-10-87 T7-10-88 T7-10-89 T7-10-90 T7-10-91 T7-10-92 T7-10-93 T7-10-94 T7-10-95 T7-10-96 T7-10-97 T7-10-98 T7-10-99 T7-10-100			
② 単独発見で 確認されたTピット	数	—	—	—	2	—	—	—	—	—	5	7
③ 複数発見で 確認されたTピット	数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
④ 土坑と併発した 6本の	数	—	—	—	7	—	—	—	2	—	2	8
⑤ 溝壁でQ11-6の	数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
Tピット 総数	小地区 合計	0	12	5	79	25	0	0	0	0	247	421
	地区 合計	—	—	—	108	—	—	—	205	—	—	—
	平成27(2015) 年度 合計	—	12	—	—	—	—	—	—	—	—	12
	平成28(2016) 年度 合計	—	—	—	79	—	—	—	2	—	—	81
	平成27(2015) 年度 合計	—	—	—	—	25	—	—	—	—	—	25
	平成28(2016) 年度 合計	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	2
遺跡 合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	421

※調査年度で調査したT7-10-100は別1調査年度で集計した。L-4地区は調査し、平成28(2016)年度に調査したT7-10-101は本年度で集計した。

表74 上幌内5遺跡 Tピット 覆土表記

色調と構成物からみた分類		見だ目の色調	報告書での表記	備考	原因での表記
黒色土主体			B層主体	黒色土 = V層	B層
黒色土に混ざる Ta-d2の量	少量 ↓ ↓ 多量		B層>D2・α層		BBY層
			B層/D2・α層		BY層
			D2・α>B層		YB層
			D2・α>B層		YYB層
棕色または黄色(Ta-d2)主体			D2・α層主体		Y層

α:主たる構成物の記号 L:ローム S:スコリア

## 覆土の主たる構成物による区分

覆土の主たる構成物	報告書での表記	備考
棕色または黄色土主体	D2・L層	主に地山の水成二次堆積層起源
棕色または黄色礫(スコリア)主体	D2・S層	主に地山の水成二次堆積層起源
棕色または黄色礫混じり土(スコリア混じり土)主体	D2・L・S層	主に地山の水成二次堆積層起源

\*土(ローム:L)か礫(スコリア:S)の区別は、礫が礫石の形状を留めていても無いため、観察時にくだけるので、両者は兼ねると考えた。

## Ta-d2スコリアの色調による区分

見だ目の色調	報告書での表記	備考
一般的な色調のもの(棕色)	D2・L層 / D2・S層	—
黄色	D2・Y・L層 / D2・Y・S層	還元が進んだと解釈した層
白色	— / D2・W・S層	さらに還元が進んだと解釈した層

## その他の区分

見だ目の色調	報告書での表記	備考	
灰白色粘土主体の層	W層	灰白色粘土(湧水の表面)	
灰白色粘土に黒色土が混じる層	灰白色粘土が少ない	BW層	黒色土(V層)が多い
	灰白色粘土が多い	WB層	黒色土(V層)が少ない
黄色粘土主体の層	YCL層	黄色粘土(湧水の表面)	
青灰色の砂礫主体(Ta-d1)	D1層	Ta-d1 スコリア	
β層に白色岩片が混ざる	β+Wpb層	白色岩片: 凝灰岩(シルト岩)	
白色の砂礫主体の層	Wpb層		

・スコリアの形状は、円礫、重円礫が多いが、一部、歪角礫のものもある。

・灰白色粘土・黄色粘土は、地山の水成二次堆積物の一部と考えられる。

・白色の岩片は凝灰岩(シルト岩)で、この地域の山間部にみられる。円礫度から水成二次堆積と考えられる。

## 「砂礫」

・円礫形状で、上記に該当しない岩石(火山噴出物や凝灰岩以外)を主として構成される砂礫層 自然層位では地山の水成堆積物中に薄層で見られる。  
 ・土性の「砂」は、この「砂礫」の粒径が小さなものを示す。

## 互層

・薄層が多数重なってみられる範囲

## 量

・その覆土中に占める混在物の量を判断し、多量・少量、微量と記し、中量の場合は表記しない。  
 ・量の目安は、多量:30%、中量:20%、少量:10%、微量:10%未満である。

## 粒度区分

右記の表による	採用した粒度区分
	「粘土」
	「シルト」
	「砂」
2mm	微 細粒
20mm	微 中粒
40mm	微 粗粒

## 現場で使用した名称の名称

原因での表記	報告書での表記
細礫	「砂礫」
中礫	中粒の「砂礫」
Yスコ	粗粒のスコリア
小スコ	中粒のスコリア
小粒	細粒のスコリア
Yつぶ	さらに細粒のスコリア
白つぶ	細粒の灰白色のスコリア
粒砂	砂礫層のスコリア

## その他

・具体的に、補足する

# 付 篇

自然科学的手法による分析

## 1. 平成27(2015)年度 上幌内4遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

## 1 測定対象試料

上幌内4遺跡は、北海道勇払郡厚真町幌内368-1ほか(北緯42° 46' 57.51", 東経142° 00' 19.06")に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡から出土した炭化物2点である(表1)。試料が出土した遺構は樽前cテフラ(約2000年前降下)下位の黒色土層で検出された。

## 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

## 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

## 4 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5 算出方法

- (1) δ<sup>13</sup>Cは、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代はδ<sup>13</sup>Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差 (±1σ) は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。

pMCが小さい ( $^{13}\text{C}$ が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 ( $^{13}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{13}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{13}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{13}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が $^{13}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない $^{13}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{13}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の $^{13}\text{C}$ 年代は、KH4-1が $3860 \pm 30\text{yrBP}$ 、KH4-2が $4140 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、KH4-1が縄文時代後期初頭頃、KH4-2が縄文時代中期中葉から後葉頃に相当する (小林編2008)。テフラとの上下関係に整合的な結果である。

試料の炭素含有率はいずれも60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (‰)
IAAA-152824	KH4-1	竪穴住居跡H-1 覆土B	炭化物	AAA	-28.74±0.31	3,860±30	61.85±0.20
IAAA-152825	KH4-2	竪穴住居跡H-2bc-1 床面	炭化物	AAA	-27.18±0.37	4,140±30	59.70±0.20

[#7801]

表2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代)

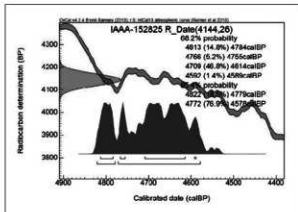
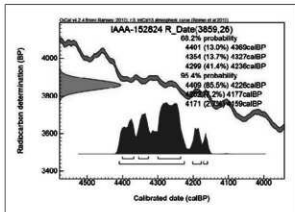
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-152824	3,920 $\pm$ 30	61.37 $\pm$ 0.20	3,859 $\pm$ 26	4401calBP - 4369calBP(13.0%)	4409calBP - 4226calBP(83.5%)
				4354calBP - 4327calBP(13.7%)	4202calBP - 4177calBP( 7.2%)
				4299calBP - 4236calBP(41.4%)	4171calBP - 4159calBP( 2.7%)
IAAA-152825	4,180 $\pm$ 30	59.43 $\pm$ 0.19	4,144 $\pm$ 26	4813calBP - 4784calBP(14.8%)	4822calBP - 4779calBP(18.5%)
				4766calBP - 4755calBP( 5.2%)	4772calBP - 4578calBP(76.9%)
				4709calBP - 4614calBP(46.8%)	
				4592calBP - 4589calBP( 1.4%)	

[参考値]

## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

[図版]暦年較正年代グラフ (参考)

(平成28(2016)年3月23日 受領 内容点検 受場)



## 2. 平成27(2015)年度 上幌内5遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

上幌内5遺跡は、北海道勇払郡厚真町幌内351-1ほか(北緯42° 47' 09.24", 東経142° 00' 48.05")に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡から出土した炭化物1点である(表1)。この竪穴住居跡は樽前d火山噴出物層(8~9千年前降下、町田・新井2011)を掘り込んで構築されている。

### 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 4 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HoX II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。

pMCが小さい ( $^{13}\text{C}$ が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 ( $^{13}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{13}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{13}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{13}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が $^{13}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない $^{13}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{13}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料KH5-1の $^{13}\text{C}$ 年代は $4490 \pm 30\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は縄文時代中期前葉から中葉頃に相当する (小林編2008)、テフラとの上下関係に整合的な結果である。

試料の炭素含有率は60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-152826	KH5-1	竪穴住居跡H-1 床面	炭化物	AaA	-25.26±0.60	4,490±30	57.16±0.21

[#7802]

表2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-152826	4,500 $\pm$ 30	57.13 $\pm$ 0.19	4,493 $\pm$ 28	5281calBP - 5214calBP(30.8%) 5191calBP - 5163calBP(13.2%) 5135calBP - 5105calBP(13.7%) 5076calBP - 5053calBP(10.5%)	5292calBP - 5044calBP (95.4%)

[参考値]

## 文献

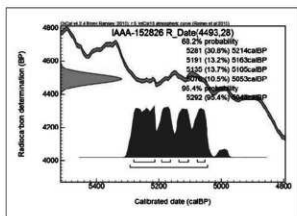
Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

町田洋, 新井房夫 2011 新編火山灰アトラス [日本列島とその周辺] (第2刷), 東京大学出版会

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363



[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

(平成28(2016)年3月23日 受領 内容点検 愛場)

### 3. 平成28(2016)年度 上幌内4遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

#### 1 測定対象試料

上幌内4遺跡は、北海道勇払郡厚真町幌内368-1ほか(北緯42° 46' 57.51", 東経142° 00' 19.06")に所在し、厚真川上流左岸の緩斜面(標高約72~73m)に立地する。測定対象試料は、Ⅲ層中で検出された焼土の周囲から出土した貝殻(カワシンジュガイ)、礫集中、炭化物集中から出土した炭化物の合計4点である(表1)。

Ⅲ層は、樽前b火山灰(西暦1667年降下)直下の黒色土層である。試料の時期は、いずれもアイヌ文化期(13~17世紀)と推定されている。

#### 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

#### 3 化学処理工程

##### (1) 炭化物の化学処理

- 1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AA」を表1に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

##### (2) 貝殻の化学処理

- 1) メス・ピンセットを使い付着物を取り除き、超純水に浸し、超音波洗浄を行う。
  - 2) 試料の表面を塩酸で約30%溶かし、汚染された可能性のある部分を除去する(Edg)。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。なお、試料が特に少量の場合、塩酸の処理を行わない場合がある(Non)。
  - 3) 試料中の炭酸カルシウム(CaCO<sub>3</sub>)を分解し、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。
- 以下、(1) 4)以降と同じ。

#### 4 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>11</sup>C濃度(<sup>11</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOX

II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2)  $^{14}\text{C}$ 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}\text{C}$ 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2、3に示した。 $^{14}\text{C}$ 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$ 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度の割合である。pMCが小さい ( $^{14}\text{C}$ が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 ( $^{14}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2、3に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が $^{14}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2、3、図版1、2に示した。なお、暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を表2、図版1、3に、後者を表3、図版2、4に示した。

## 6 測定結果

測定結果を表1～3、図版1～4に示す。較正年代は、cal BPとcal BC/ADの2通りで算出したが、以下の説明ではcal BC/ADの値で記載し (表3、図版2、4)、cal BPの値は図表のみ提示した (表2、図版1、3)。試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、KH4-3が $750 \pm 20$ yrBP、KH4-4が $600 \pm 20$ yrBP、KH4-5が $280 \pm 20$ yrBP、KH4-6が $320 \pm 20$ yrBPである。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、KH4-3が1262～1277cal ADの範囲、KH4-4が1309～1396cal ADの間に3つの範囲、KH4-5が1529～1654cal ADの間に2つの範囲、KH4-6が1517～1635cal ADの間に3つの範囲で示され、いずれも推定される年代の範囲内である。

試料の状態を炭素含有率から確認すると、炭化物試料の炭素含有率は、すべて70%を超える十分な値である。また、貝殻試料の炭素含有率 (試料が100%炭酸カルシウムであると見なした場合) は90%以上の適正な値である。

## 文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360Reimer, P. J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363表 1 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-162237	KH4-3	焼土 UF-1 Ⅲ層	貝殻 (カワシンジユガイ)	Edg	$1.01 \pm 0.27$	$750 \pm 20$	$91.07 \pm 0.21$
IAAA-162238	KH4-4	礫集中 US-2 Ⅲ層	炭化物	AAA	$-27.00 \pm 0.35$	$600 \pm 20$	$92.77 \pm 0.22$
IAAA-162239	KH4-5	炭化物集中 UC-1 Ⅲ層	炭化物	AAA	$-26.50 \pm 0.43$	$280 \pm 20$	$96.61 \pm 0.23$
IAAA-162240	KH4-6	炭化物集中 UC-2 Ⅲ層	炭化物	AAA	$-23.68 \pm 0.34$	$320 \pm 20$	$96.04 \pm 0.23$

[#8399]

表 2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代cal BP)

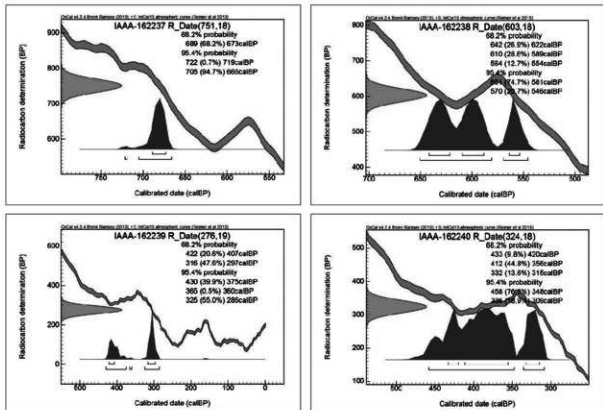
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-162237	$330 \pm 20$	$95.98 \pm 0.21$	$751 \pm 18$	689calBP - 673calBP (68.2%)	722calBP - 719calBP (0.7%) 705calBP - 666calBP (94.7%)
IAAA-162238	$640 \pm 20$	$92.39 \pm 0.21$	$603 \pm 18$	642calBP - 622calBP (26.9%) 610calBP - 589calBP (28.6%) 564calBP - 554calBP (12.7%)	651calBP - 581calBP (74.7%) 570calBP - 546calBP (20.7%)
IAAA-162239	$300 \pm 20$	$96.31 \pm 0.22$	$276 \pm 19$	422calBP - 407calBP (20.6%) 316calBP - 297calBP (47.6%)	430calBP - 375calBP (39.9%) 365calBP - 360calBP (0.5%) 325calBP - 286calBP (55.0%)
IAAA-162240	$300 \pm 20$	$96.30 \pm 0.22$	$324 \pm 18$	433calBP - 420calBP (9.8%) 412calBP - 356calBP (44.8%) 332calBP - 315calBP (13.6%)	458calBP - 348calBP (76.5%) 336calBP - 309calBP (18.9%)

[参考値]

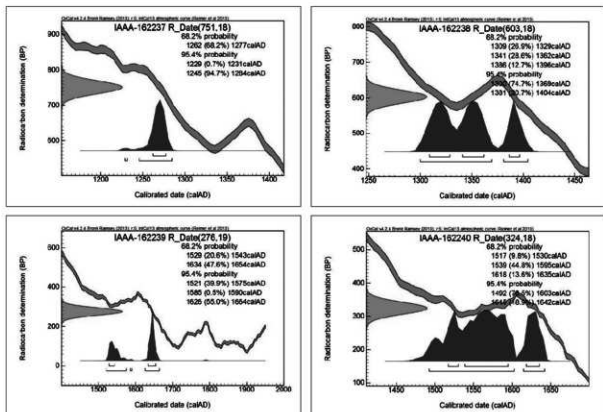
表3 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代cal BC/AD)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-162237	330 $\pm$ 20	95.98 $\pm$ 0.21	751 $\pm$ 18	1262calAD - 1277calAD(68.2%)	1229calAD - 1231calAD(0.7%) 1245calAD - 1284calAD(94.7%)
IAAA-162238	640 $\pm$ 20	92.39 $\pm$ 0.21	603 $\pm$ 18	1309calAD - 1329calAD(26.9%) 1341calAD - 1362calAD(28.6%) 1386calAD - 1396calAD(12.7%)	1306calAD - 1369calAD(74.7%) 1381calAD - 1404calAD(20.7%)
IAAA-162239	300 $\pm$ 20	96.31 $\pm$ 0.22	276 $\pm$ 19	1529calAD - 1543calAD(20.6%) 1634calAD - 1654calAD(47.6%)	1521calAD - 1575calAD(39.9%) 1585calAD - 1590calAD(0.5%) 1626calAD - 1664calAD(55.0%)
IAAA-162240	300 $\pm$ 20	96.30 $\pm$ 0.22	324 $\pm$ 18	1517calAD - 1530calAD(9.8%) 1539calAD - 1595calAD(44.8%) 1618calAD - 1635calAD(13.6%)	1492calAD - 1603calAD(76.5%) 1615calAD - 1642calAD(18.9%)

[参考値]

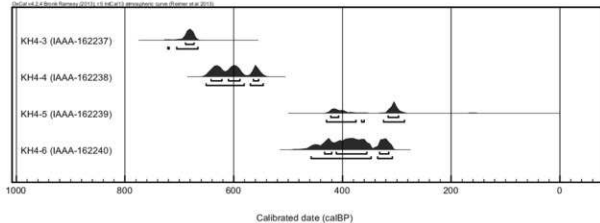


[図版 1] 暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)

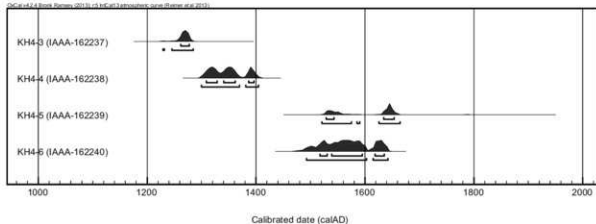


[図版 2] 暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)





[図版 3] 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、cal BP、参考)



[図版 4] 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図、cal BC/AD、参考)

(平成29(2017)年3月24日 受領 内容点検 未光)

## 4. 平成28(2016)年度 上幌内4遺跡における種実同定

株式会社バレオ・ラボ

### 1. はじめに

厚真町に所在する上幌内4遺跡は、厚真川の左岸に位置する。ここから出土した種実を同定し、当時の植生と植物利用について検討する。

### 2. 試料と方法

試料は、アイヌ文化期とされる焼土(UF-1)Ⅲ層より水洗選別、篩分けされたものである。試料番号1-(1)浮遊物0.425mm、試料番号1-(2)浮遊物2.0mm、試料番号1-(3)残渣1.41mm、の計3点である。

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

### 3. 結果

#### (1) 分類群

草本4分類群が同定された。学名、和名および粒数を表1に示し、主要な分類群の写真を図版に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

#### 【草本】

イネ科 Gramineae 穎

穎は灰褐色～茶褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平らで背面は丸い。表面は滑らかである。

タデ属 Polygonum 果実 タデ科

黒褐色で卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。

タデ属サナエタデ節 Polygonum sect. Persicaria 果実(破片) タデ科

黒褐色で頂端が尖る広卵形を呈す。表面は滑らかで光沢があり、断面は扁平で中央がややくぼむ。

アカザ属 Chenopodium 種子 アカザ科

黒色で光沢があり円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

#### (2) 種実群集の特徴

##### 1) 試料番号1-(1) 浮遊物0.425mm

草本種実のイネ科穎2、タデ属1、タデ属サナエタデ節2、アカザ属1が同定された。

##### 2) 試料番号1-(2) 浮遊物2.0mm

種実は検出されなかった。

##### 3) 試料番号1-(3) 残渣1.41mm

種実は検出されなかった。

### 4. 考察とまとめ

上幌内4遺跡の焼土(UF-1)Ⅲ層より出土した種実では、未炭化の草本種実、イネ科穎、タデ属、タデ属サナエタデ節、アカザ属が同定された。イネ科とタデ属には湿潤な環境、乾燥した環境に生育

する双方が含まれるが、タデ属サナエタデ節を除くタデ属は概して乾燥した環境に生育するものが多い。タデ属サナエタデ節は水生植物であり、湿地や流路際などに生育する。アカザ属は乾燥した集落域や路傍や畑などの人間活動の活発な干渉地に生育し、畑雑草でもある。

以上から、焼土（UF-1）Ⅲ層に含まれていた種実類は、未炭化であり周囲の草本を反映していると考えられる。数量は少ないが、人為干渉のある環境に生育する草本ばかりで、周囲には樹木が少なく日当たりの良い環境であったとみなされる。タデ属サナエタデ節の湿潤を好む草本とアカザ属の乾燥を好む草本が近接して生育し、湿潤な環境と乾燥した環境が隣接した起伏のある環境が推定される。

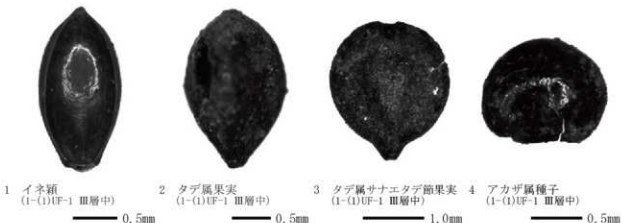
表 1 上幌内 4 遺跡における種実同定結果

試料番号	対象試料	遺構名	層位	分類群		部位	個数	備考	時期
				学名	和名				
1-(1)	浮遊物 0.425mmメッシュ	UF-1	Ⅲ層中	Gramineae	イネ科	穎	2	未炭化	アイヌ文化期
				<i>Polygonum</i>	タデ属	果実	1		
				<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節	果実(破片)	2		
				<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1		
1-(2)	浮遊物 2.0mmメッシュ	UF-1	Ⅲ層中						
1-(3)	残渣 1.41mmメッシュ	UF-1	Ⅲ層中						

#### 参考文献

- 笠原安夫 (1985) 日本雑草図説, 養賢堂, 494p.  
 笠原安夫 (1988) 作物および田畑雑草種類, 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣 出版, p. 131-139.  
 南木睦彦 (1992) 低湿地遺跡の種実, 月刊考古学ジャーナルNo. 355, ニューサイエンス社, p. 18-22.  
 南木睦彦 (1993) 葉・果実・種子, 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p. 276-283.

#### 上幌内 4 遺跡の種実



(平成29(2017)年3月24日 受領 内容点検 未光)

## 5. 平成29(2017)年度 厚真町上幌内4遺跡の金属製品の材質分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

上幌内4遺跡は勇払郡厚真町に所在する。発掘調査ではアイヌ文化期と推定される小刀、刀子、鉤状・棒状などの金属製品が出土している。これら金属製品の材質や製作技術を検討する目的から、材質分析を行った。

## 1. 試料

本分析調査では、棒状品（遺物番号3）、鉤状品（遺物番号4）、刀子（遺物番号5）の3点について調査を実施した。表1に試料の詳細と、調査項目を示す。

表1 分析試料と調査項目

遺物番号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		調査項目				
					大きさ(mm)	重量(g)	金属探知器反応	マクロ組織	顕微鏡組織	ビッカース断面硬度	EPMA
3	上幌内4	H-25区 III層	棒状品	アイヌ文化期	(5.8) ×10×8	5.0	L (●)	○	○	○	○
4	上幌内4	H-26区 III層	鉤状品		(48) ×37×7	13.8	L (●)	○	○	○	○
5	上幌内4	H-25区 III層	刀子		(85) ×12×3	5.6	L (●)	○	○	○	○

## 2. 分析方法

## (1) 外観観察

鉄製品の外的な特徴を記載した。

## (2) マクロ組織

試料を端部から切り出した後、断面をエメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μmと1μmで順を追って研磨し、断面の全体像を撮影した。

## (3) 顕微鏡組織

光学顕微鏡を用いて、鉄製品の金属組織および非金属介在物を観察後、写真を撮影した。金属組織観察には、3%ナイタル（硝酸アルコール液）を腐食（Etching）に用いた。

## (4) ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試料は顕微鏡を用いて併用し、荷重50～200gfで測定した。ビッカース硬さは測定箇所（136°の頂角をもったダイヤモンド）を押し込んだ時の荷重と、それにより残された窪み（圧痕）の対角線長さから求めた表面積から算出される。

## (5) EPMA調査

EPMA（日本電子製機 JXA-8230）を用いて、鉄製品中の非金属介在物の組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：2.00E-8A。

## 3. 結果

## 遺物番号3 棒状鉄製品

(1) 外観観察：錆化に伴い両端が欠損した棒状の鉄製品（5.0g）である。上端部横断面は約7mm×

2mmとやや幅広く薄手の長方形、下端部横断面は約2.5mm角のやや歪な方形を呈する。全体が茶褐色の錆で覆われており、表面には錆膨れが複数生じている。ただし、広い範囲で金属探知器反応があるため、内部には金属鉄が残存すると考えられる。

(2) マクロ組織：図版1-①に示す。下端部横断面を調査した。写真右側のやや歪な環状の灰色部は鉄器表面に生じた錆膨れである。左側が鉄器断面で、錆化に伴い左下角部が欠損している。また内部には金属鉄が残存する。

(3) 顕微鏡組織：図版1-②③に示す。金属鉄部は3%ナイトルで腐食したところ、微細なフェライト(Ferrite:α鉄)・パーライト(Pearlite)組織が確認された。パーライトの面積率から炭素含有率は0.3~0.5%程度の亜共析鋼(C<0.77%)と推定される。近代以前の鉄器としては、非常に微細な組織であった。この特徴から、製品に強度と靱性を持たせるために、比較的低い温度(850℃前後)で鍛打加工した可能性が考えられる。

また内部には微細な淡茶褐色多角形結晶が点在する。これらの結晶は色調と形状から、ウルボスピネル(Ulvöspinel:2FeO・TiO<sub>2</sub>)など、製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)に由来する非金属介在物と推定される。組成については、EPMA調査の項で詳述する。

(4) ビッカース断面硬度：図版1-②の金属鉄部の硬度を測定した。硬度値は163~242Hvであった。炭素含有量が低めの芯部(②の中央寄りと下側)が比較的軟らかく、炭素量が高い表層(②の上側から左側)はやや硬質の値となっている。

(5) EPMA調査：図版1-④に鉄中非金属介在物の反射電子像(COMP)を示す。中央の結晶は図版1-③右下の淡茶褐色多角形結晶の拡大で、定量分析値は45.2%FeO-18.0%Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-15.0%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-11.7%TiO<sub>2</sub>-8.2%V<sub>2</sub>O<sub>5</sub>(分析点1)であった。クロム鉄鉱(Chromite:FeO・Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、ヘルシナイト(Hercynite:FeO・Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、ウルボスピネル(Ulvöspinel:2FeO・TiO<sub>2</sub>)などを主な端成分とする、スピネル(Spinel)類の化合物と推定される。

さらにもう1箇所、図版1-⑤に鉄中非金属介在物の反射電子像(COMP)を示す。不定形暗灰色部の定量分析値は42.7%FeO-39.3%SiO<sub>2</sub>-9.8%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-1.6%CaO-1.6%K<sub>2</sub>O-2.3%P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>(分析点2)であった。素地は非晶質硅酸塩で、非常に微細なファヤライト(Fayalite:2FeO・SiO<sub>2</sub>)が晶出しているため、両者を反映した値となったと考えられる。また微細な茶褐色多角形結晶の定量分析値は60.5%FeO-7.1%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-2.5%V<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-25.0%TiO<sub>2</sub>(分析点3)であった。ウルボスピネル(Ulvöspinel:2FeO・TiO<sub>2</sub>)とヘルシナイト(Hercynite:FeO・Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)を主な端成分とする固溶体と推定される。

#### 遺物番号4 鈎状鉄製品

(1) 外観観察：鈎状の鉄製品(13.8g)である。外観写真左側は錆化による破面で、横断面はやや歪な楕円状である。一方、外観写真右側端部は鋭く尖っている。また表面全体は茶褐色の錆で覆われており、錆膨れも複数生じている。ただし広い範囲で金属探知器反応があるため、内部に金属鉄が残存すると考えられる。

(2) マクロ組織：図版2-①に示す。外観写真の端部横断面を調査した。①の下側はやや直線的な輪郭線であるが、全体はやや歪な楕円状を呈する。内側には金属鉄が残存する。鉄中には熱間での鍛打に伴い展伸した非金属介在物が多数層状に分布しており、折り返し鍛錬された鍛造製品と判断される。また金属鉄部を3%ナイトルで腐食したところ、帯状の白色領域と灰色領域が確認された。部位により炭素量にばらつきがあることを示している。

(3) 顕微鏡組織：図版2-②~⑤に示す。②は①の上側表層の拡大である。②の上半部は炭素量が

最も低く、ほとんど炭素を含まないフェライト単相に近い組織であった。フェライトは再結晶して粗大化しており、かつ加工に伴い変形している。一方、②の下半部はフェライト・パーライト組織であった。黒色のパーライトの面積率から炭素含有率は0.4%前後と推定される。

また④⑤は①の右下表層部の拡大である。フェライト結晶には加工による変形がみられ、パーライトは不完全球状セメントイト (Cementite:  $\text{Fe}_3\text{C}$ ) 化している。この特徴から、当鉄器の最終的な熱間鍛造加工温度は、パーライト組織が分解する700℃前後であったと推察される。

(4) **ピッカース断面硬度**: 図版2-②④の金属鉄部の硬さを測定した。硬度値は167~254Hvであった。上述のように、②の上側表層が最も炭素量は低いが、フェライト結晶が加工によって変形しているため、内側の亜共析組織部分 (④の上側)の方が軟質であった。これに対して、炭素量が高い下面表層部は最も硬質であった。

(5) **EPMA調査**: 図版2-⑥および⑦に鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) を示す。白色粒状結晶の定量分析値は96.7%FeO (分析点4)、95.5%FeO (分析点6)であった。ともにウスタイト (Wustite:  $\text{FeO}$ ) と推定される。また淡灰色結晶の定量分析値は66.7%FeO-1.0%CaO-27.5% $\text{SiO}_2$ -1.8% $\text{P}_2\text{O}_5$  (分析点5)であった。ファヤライト (Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) と推定される。

これらの介在物は主に鉄酸化物 (FeO) と粘土溶融物 ( $\text{SiO}_2$ 主成分) からなる。熱間加工時の鉄器の酸化防止剤、または鍛接剤に用いられた粘土汁が、赤熱状態の鉄器表面と反応して生じたものと推定される。棒状鉄製品のような、製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) に由来する非金属介在物は確認されなかった。

#### 遺物番号5 刀子

(1) **外観観察**: 非常に薄手の刀子の刃部破片 (5.6g) と推定される。全体が強く湾曲している。切先と柄側は欠損している。表面は錆に覆われるが金属探知器反応があり、内部には金属鉄が残存すると考えられる。

(2) **マクロ組織**: 図版3-①に示す。切先側の横断面を調査した。全体に錆化しているが、棟と刃部先端に若干金属鉄 (明白色部) が残存する。

(3) **顕微鏡組織**: 図版3-②③に示す。②は棟側、③は刃部先端の金属鉄部の拡大である。ほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織であった。

(4) **ピッカース断面硬度**: 図版3-②の金属鉄部の硬度を測定した。硬度値は158Hvと組織から予想されるよりやや硬質であった。周囲は錆化が進んでいるため、その影響を受けた可能性が考えられる。

(5) **EPMA調査**: 図版3-④および⑤に鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) を示す。淡茶褐色多角形結晶の定量分析値は64.9%FeO-6.2% $\text{Al}_2\text{O}_3$ -3.4% $\text{V}_2\text{O}_5$ -22.5% $\text{TiO}_2$  (分析点7) 64.3%FeO-6.0% $\text{Al}_2\text{O}_3$ -3.8% $\text{V}_2\text{O}_5$ -22.4% $\text{TiO}_2$  (分析点9)であった。ウルボスピネル (Ulvöspinel:  $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ ) と推定される。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) に由来する非金属介在物である。また淡灰色柱状結晶の定量分析値は65.0%FeO-24.6% $\text{SiO}_2$  (分析点8)、65.1%FeO-24.4% $\text{SiO}_2$  (分析点10)であった。ファヤライト (Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ ) と推定される。

棒状鉄製品 (KAH-1) と同様、当鉄器中にも製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) に由来する非金属介在物 [鉄チタン酸化物: ウルボスピネル (Ulvöspinel:  $2\text{FeO}\cdot\text{TiO}_2$ )] が確認された。

#### 4. まとめ

上幌内4遺跡から出土した鉄製品3点を調査した結果、以下の点が明らかとなった。

鉄製品中の非金属介在物を調査した結果、2点（遺物番号3、5）から、製鉄原料の砂鉄に由来する鉄チタン酸化物の結晶が確認された。これらは砂鉄を製錬して生産された鉄が鍛冶原料であったことを示すものである。このため本州で生産された鉄素材を入手していた可能性が考えられる。

なお棒状鉄製品（遺物番号3）の非金属介在物中には、チタン（Ti）、バナジウム（V）に加え、高い割合でクロム（Cr）を含む化合物（図版1-④中央の多角形結晶）が確認された。クロムは蛇紋岩、斑レイ岩などの超苦鉄質岩に特徴的な元素であり（井澤, 2005）、苦鉄質岩が分布する流域の河川または海岸で採取された砂鉄が始発原料であったと推察される。

鉄製品3点は、いずれも熱間で鍛打成形された鍛造品であった。

棒状鉄製品（遺物番号3）は、フェライト・パーライト組織が確認された。パーライトの割合から、炭素含有量が0.3~0.5%程度の鋼と推定される。組織は非常に微細であり、製品に強度と靱性を持たせるため、比較的低い温度（850℃前後）で鍛打加工された可能性が考えられる。

鉤状鉄製品（遺物番号4）は低炭素域と高炭素域が不規則な帯状に分布している。折り返し鍛錬後、鉤状に鍛打成形されたものと考えられる。最も炭素量の低い部分はほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織、高い部分は炭素含有量が0.4%前後の鋼と推測される。また表層部のフェライト結晶には加工による変形がみられ、パーライトは不完全球状セメント化している。このため最終的な加工温度は、パーライト組織が分解する700℃前後であったと推察される。

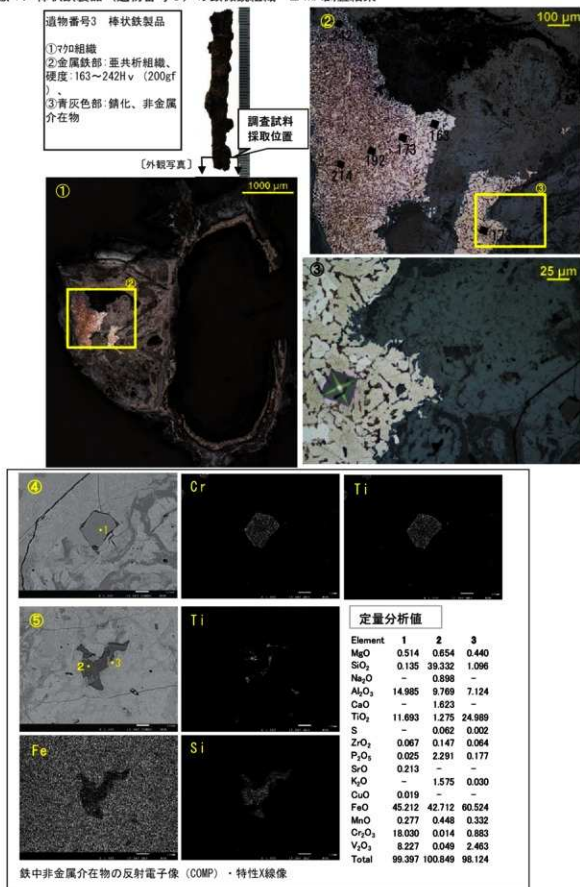
刀子（遺物番号5）の残存金属鉄部は、棟側・刃先ともほとんど炭素を含まないフェライト単相の組織であった。全体が軟鉄の薄刃刃物であり、乾燥した木材等の硬い対象物の切削ができる製品ではない。実用品であれば、柔らかいものを薄く切るような用途で作られた可能性が考えられる。

#### 引用文献

井澤英二, 2005, 日本の古代製鉄で使用された鉱石, ふえらむVol.10 No.5

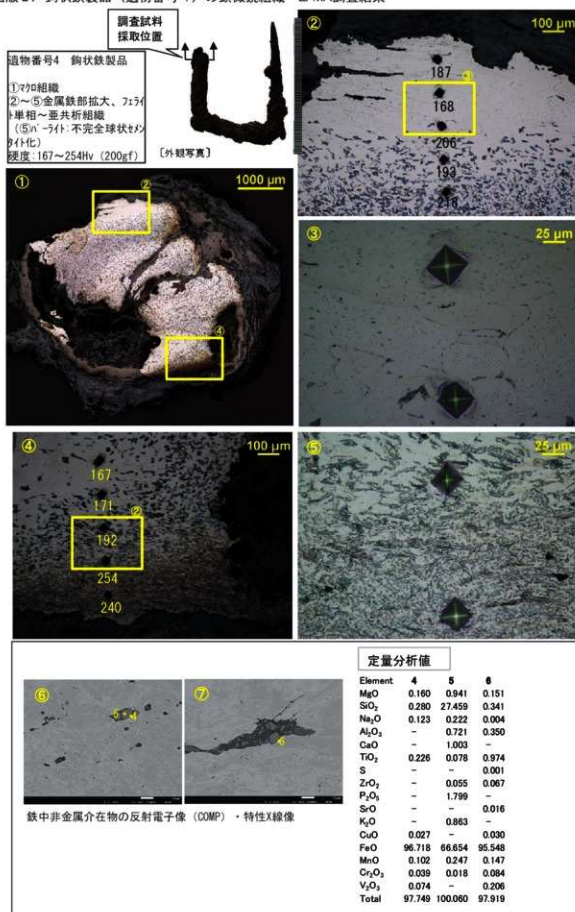
(平成29(2017)年度10月27日 受領 内容点検 未光)

図版1. 棒状鉄製品（遺物番号3）の顕微鏡組織・EPMA調査結果

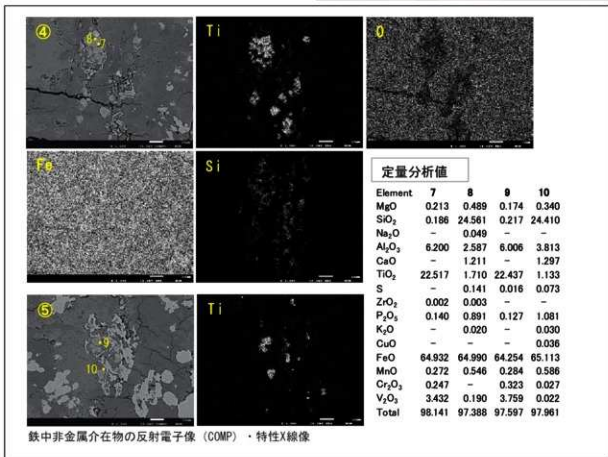




図版2. 鈎状鉄製品（遺物番号4）の顕微鏡組織・EPMA調査結果



図版3. 刀子（遺物番号5）の顕微鏡組織・EPMA調査結果



# 写 真 图 版



平成27(2015)年度調査区V層上面の状況(北東から)



平成28(2016)年度調査区Ⅲ層上面の状況(東から)



平成27(2015)年度 基本土層(南東から)



馬の骨出土状況(L・M-21・22区)(南西から)



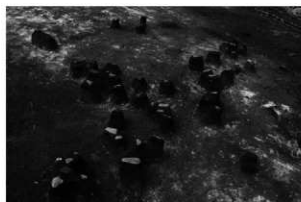
平成27(2015)年度調査区完掘状況(北東から)



SP-1 土層断面(北東から)



UF-1 (北東から)



US-1 (東から)



US-2 (南西から)



UC-1 (北東から)



UC-2 (南から)



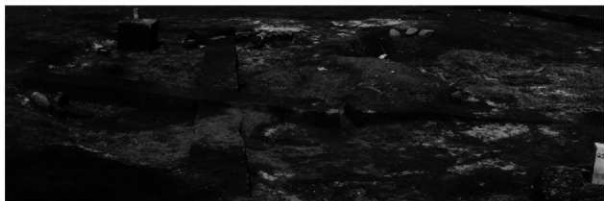
M-25区 鉤状品出土状況(北西から)



N-26区 小刀出土状況(北から)



N-26区 刀子出土状況(西から)



H-1 土層断面(南西から)



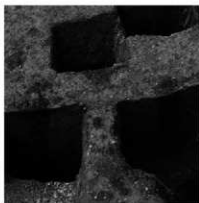
H-1 遺物出土状況(北から)



H-1 · hf-1 土層断面(東から)



H-1 · hp-1 完掘状況(東から)



H-1 · ph-1(右)・2(左) 土層断面(北東から)



H-2 土層断面(北東から)



H-2 遺物出土状況(北東から)



H-2 · h f - 1 土層断面(北東から)



H-2 完掘状況(北東から)



P-1 土層断面(南東から)



P-1 完掘状況(南東から)



TP-1 土層断面(南から)



TP-3 土層断面(南から)



TP-5 土層断面(南東から)



TP-6 土層断面(北東から)



TP-7 土層断面(北東から)

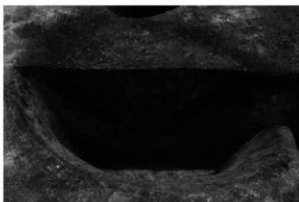


TP-11 土層断面(東から)





TP-12(右)・13(左)土層断面(南東から)



TP-14土層断面(南東から)



TP-15土層断面(南東から)



TP-16土層断面(南東から)



TP-17土層断面(東から)



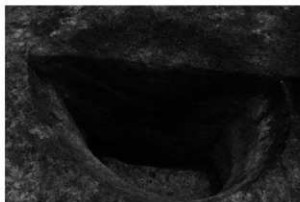
TP-18土層断面(南東から)



TP-19土層断面(南東から)



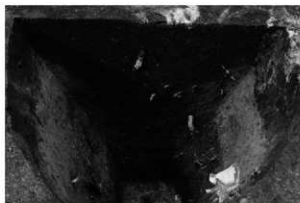
TP-20土層断面(南から)



TP-21土層断面(南東から)



TP-22土層断面(南東から)



TP-25土層断面(南から)



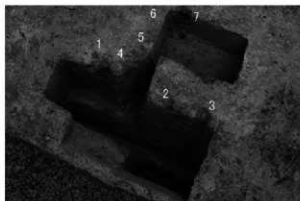
TP-28土層断面(南東から)



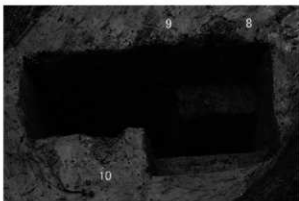
TP-30土層断面(東から)



TP-31土層断面(北から)



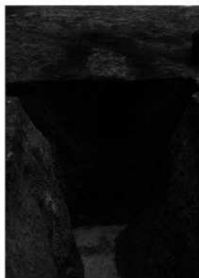
TP-6・sp-1~7(北東から)



TP-20・sp-8~10(南東から)



TP-2 土層断面(北東から)



TP-4 土層断面(東から)



TP-8 土層断面(北東から)



TP-9 土層断面(東から)



TP-10 土層断面(北西から)



TP-23 土層断面(東から)



TP-24 土層断面(南から)



TP-26 土層断面(南東から)



TP-27 土層断面(南東から)



TP-29土層断面(南東から)



TP-1完掘状況(南から)



TP-2完掘状況(北東から)



TP-3完掘状況(南から)



TP-4完掘状況(南東から)



TP-8完掘状況(北西から)



TP-9完掘状況(東から)



TP-10完掘状況(北西から)



TP-11完掘状況(南東から)



TP-5 完掘状況(南東から)



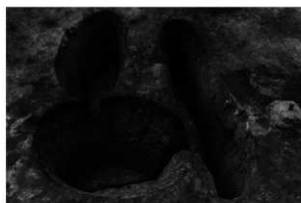
TP-6 完掘状況(南から)



TP-7 完掘状況(南東から)



TP-12(右)・13(左) 完掘状況(南東から)



TP-14(左前)・15(右)・16(左奥) 完掘状況(南東から)



TP-17 完掘状況(東から)



TP-18 完掘状況(南東から)



TP-19 完掘状況(南東から)



TP-20完掘状況(南から)



TP-18(左)・21(中)・22(右)完掘状況(東から)



TP-23完掘状況(東から)



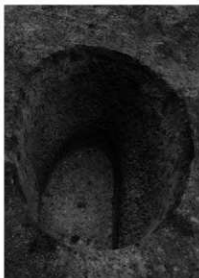
TP-24完掘状況(南から)



TP-25完掘状況(南から)



TP-26完掘状況(南東から)



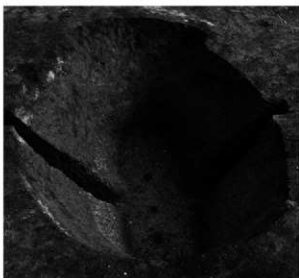
TP-27完掘状況(北西から)



TP-28完掘状況(北西から)



TP-29完掘状況(北西から)



TP-30完掘状況(北西から)



TP-31完掘状況(北東から)



TP-31・h-1(北西から)



F-1土層断面(南西から)



PS-1(北から)



P S - 2 (北西から)



P S - 3 A (東から)



P S - 3 B (北西から)



P S - 4 (北西から)



P S - 5 (北東から)



P S - 5 A (北から)





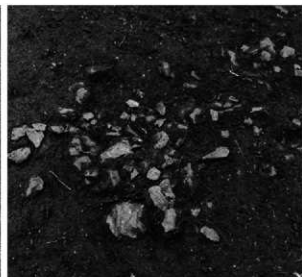
P S - 5 B (北西から)



P S - 6 (北東から)



P S - 7 (南西から)



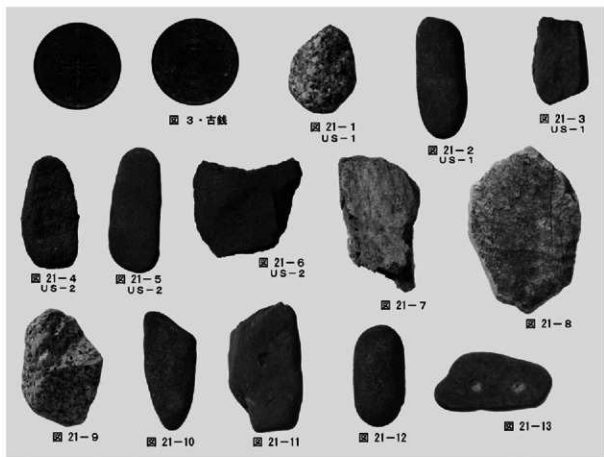
F C - 1 (東から)



S - 1 (北東から)



S - 1 土器出土状況 (南東から)



I・Ⅲ層出土遺物



US-1・2出土のレキ





図 56-1  
H-1

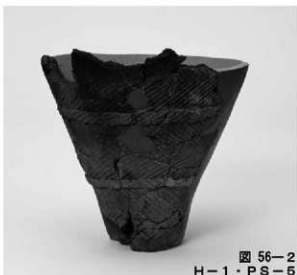


図 56-2  
H-1・PS-6



図 56-3  
TP-21



図 56-4  
TP-26

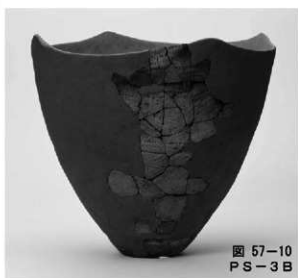


図 56-5  
TP-29

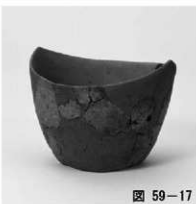
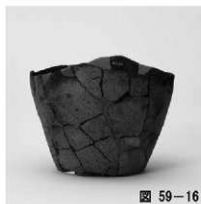
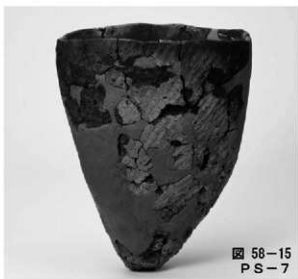
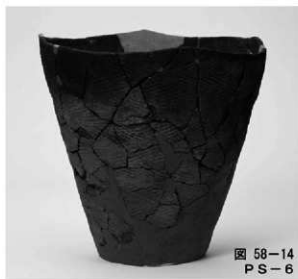
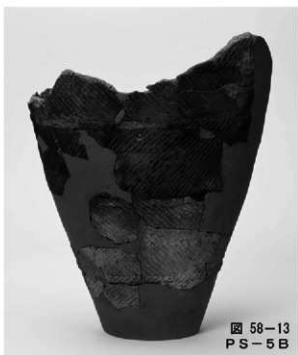


図 56-6  
S-1

上幌内4遺跡 復原土器(1)



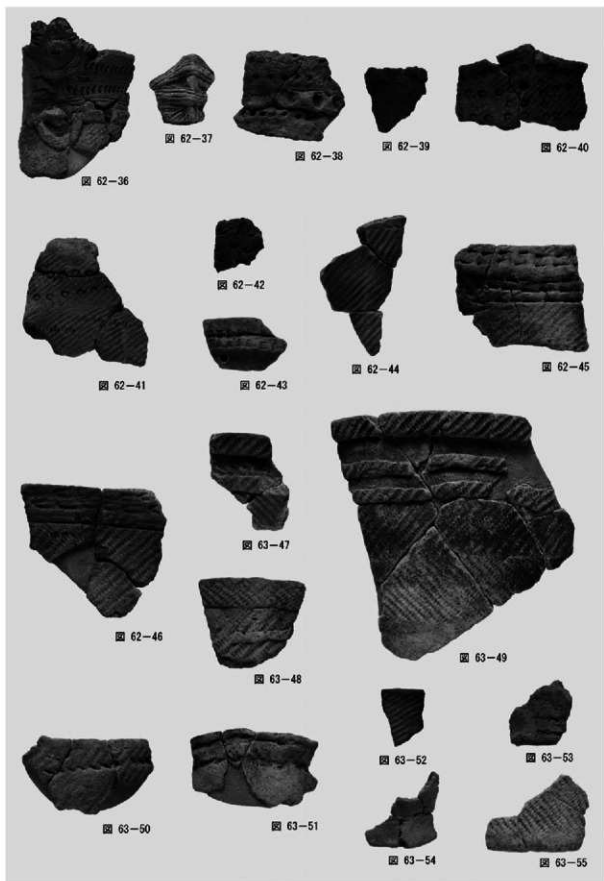
上幌内4遺跡 復原土器(2)



上幌内4遺跡 復原土器(3)

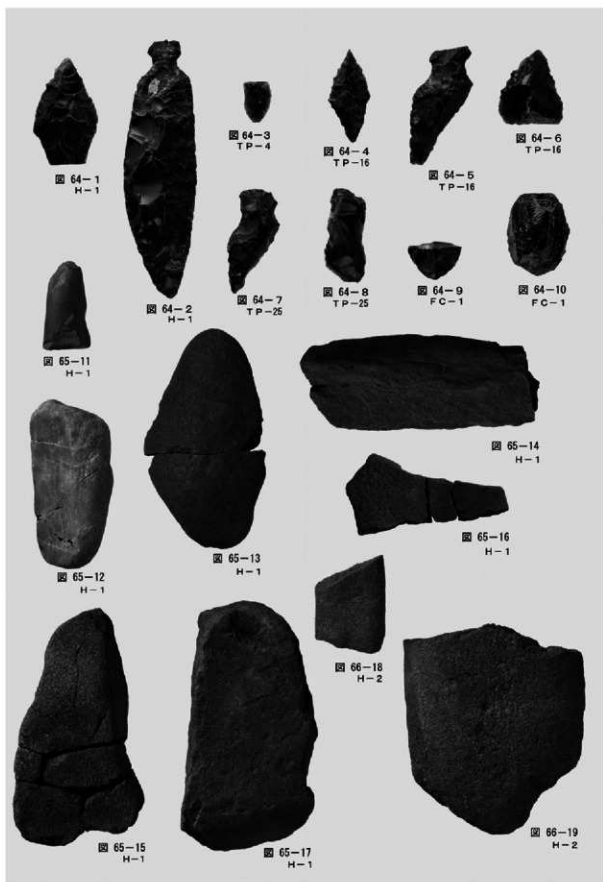


上幌内4遺跡 破片土器(1)



上横内4遺跡 破片土器(2)

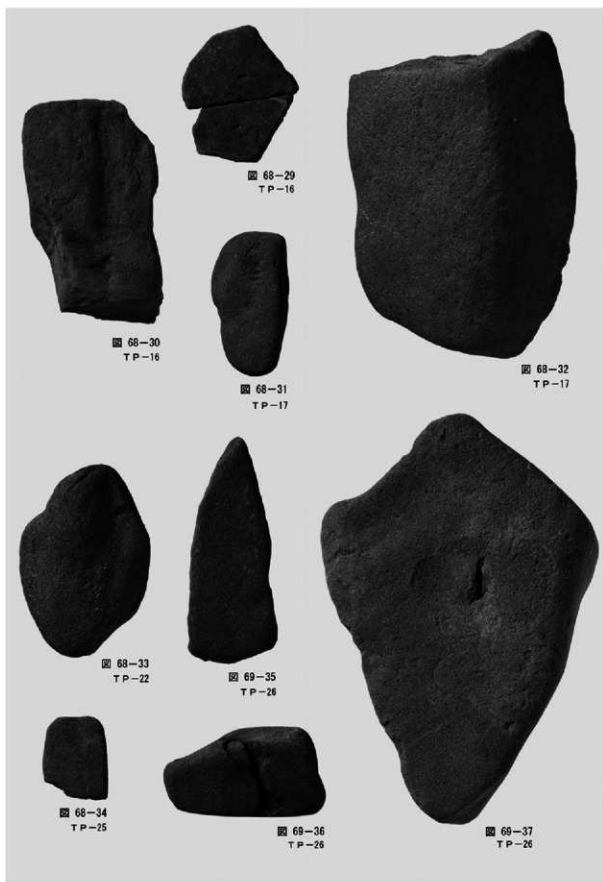




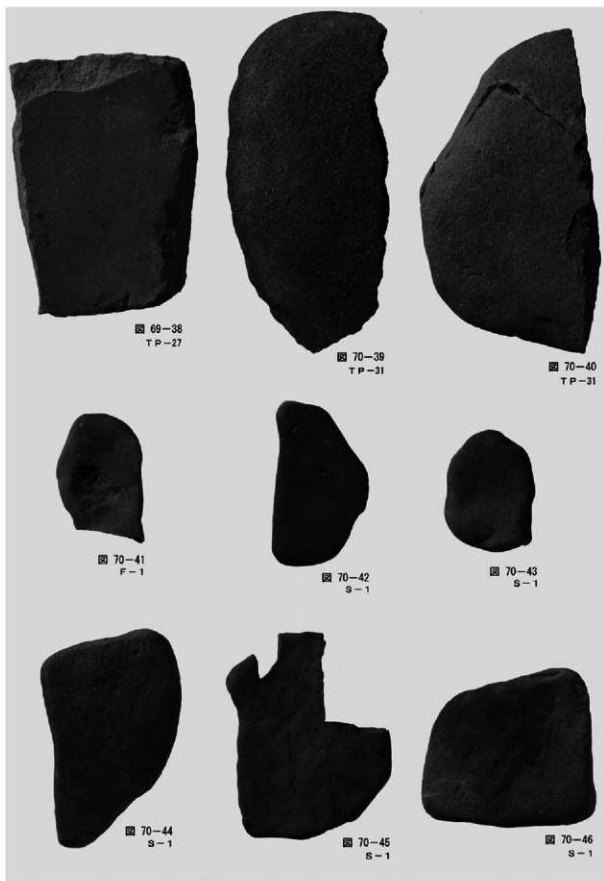
上幌内4遺跡 石器等(1)



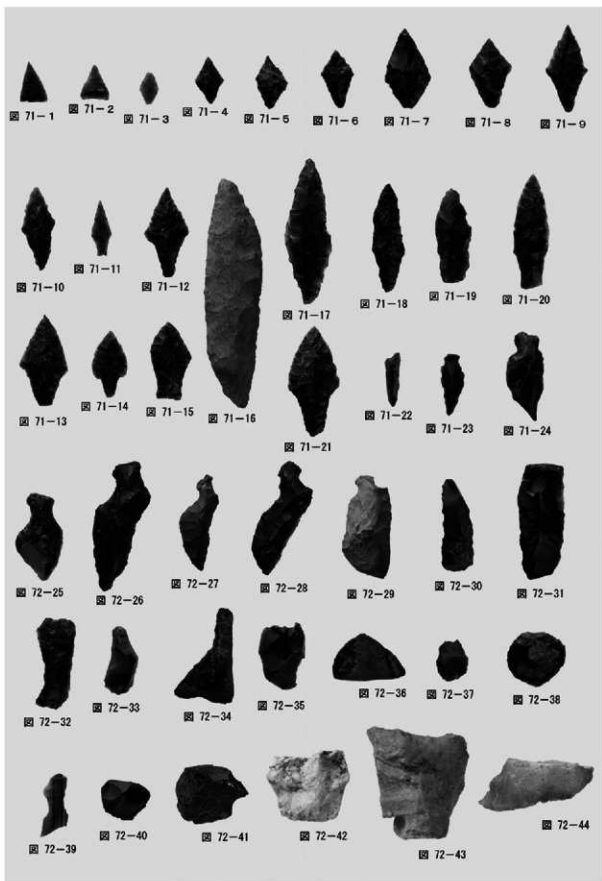
上幌内4遺跡 石器等(2)



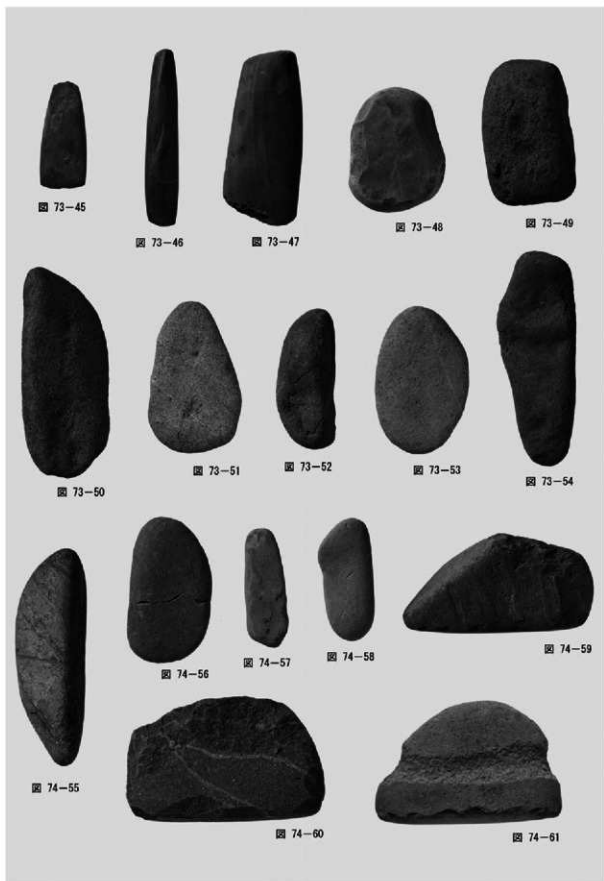
上幌内4遺跡 石器等(3)



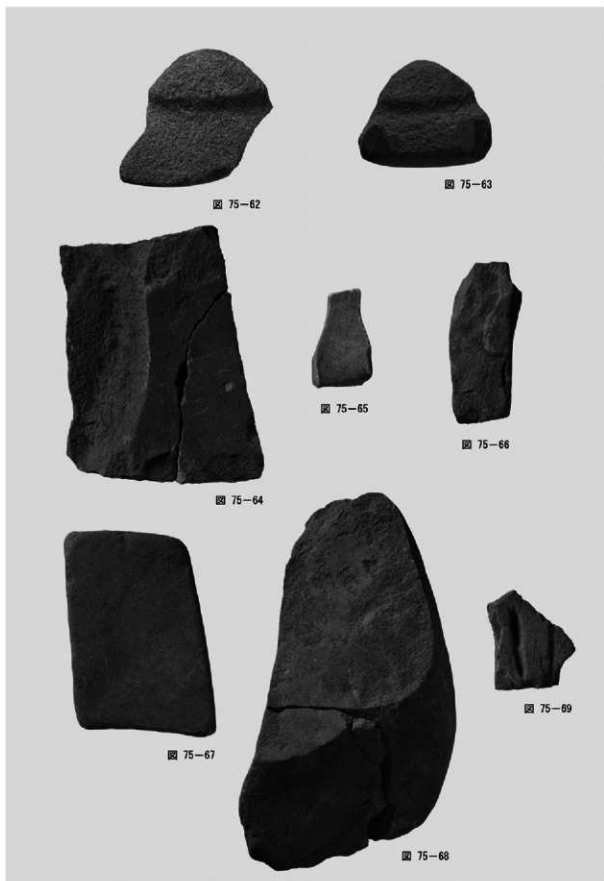
上幌内4遺跡 石器等(4)



上幌内4遺跡 石器等(5)



上幌内4遺跡 石器等(6)



上幌内4遺跡 石器等(7)



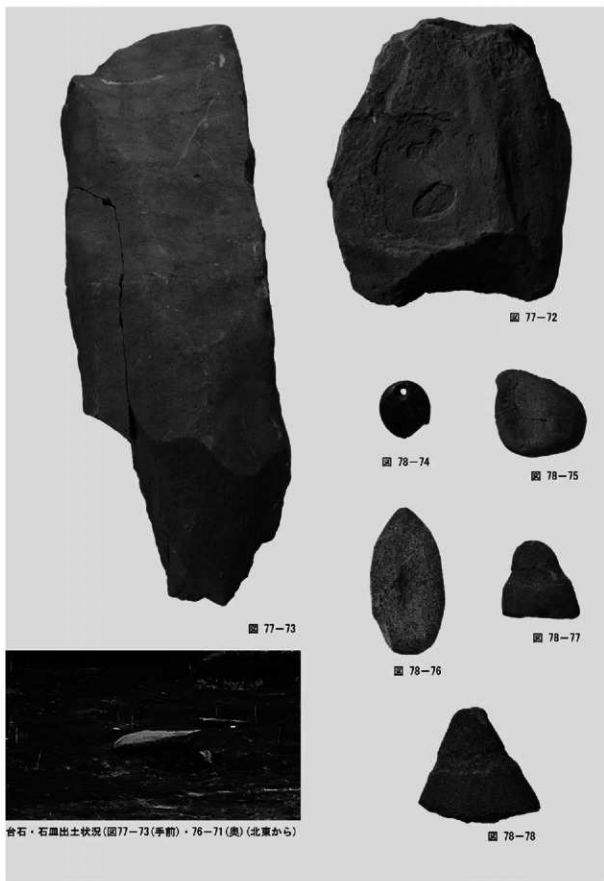
图 76-70



图 76-71

上幌内4遺跡 石器等(8)





上幌内4遺跡 石器等(9)



平成25(2013)年度 L-2 地区完掘状況(西から)



平成27(2015)年度 L-4 地区調査風景1(南西から)



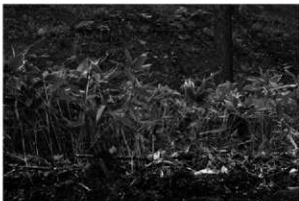
平成27(2015)年度 L-4 地区調査風景2(東から)



平成27(2015)年度 R-2 地区調査風景(西から)



平成28(2016)年度 R-3 地区東側部分調査風景(西から)



基本土層(北西から)



平成28(2016)年度 R-3 地区北西側部分調査風景(南東から)



H-1土層断面(南から)



H-1・hp-1完掘状況(北から)



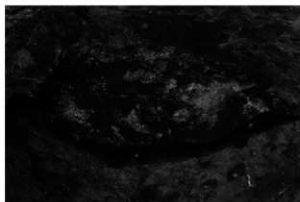
H-1・hp-2土層断面(北東から)



H-1・hp-3完掘状況(東から)



H-1完掘状況(北東から)



P-1 土層断面(東から)



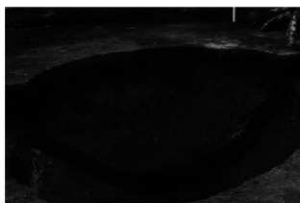
P-1 完掘状況(北西から)



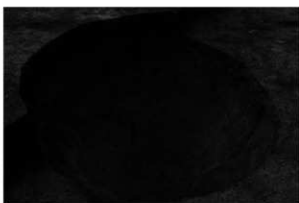
P-2 土層断面(南から)



P-2 完掘状況(北から)



P-3 土層断面(北西から)



P-3 完掘状況(北から)



P-4 土層断面(東から)



P-4 完掘状況(東から)



P-5 土層断面(南から)



P-5 完掘状況(南から)



P-6 土層断面(南東から)



P-6 完掘状況(北東から)



P-7 土層断面(南東から)



P-7 遺物出土状況(南西から)



P-8 完掘状況(南東から)



SP-1 土層断面(南東から)



SP-1 完掘状況(南東から)



TP-1土層断面(北東から)



TP-2土層断面(北から)



TP-3土層断面(北から)



TP-4土層断面(南西から)



TP-5土層断面(南から)



TP-6土層断面(北東から)



TP-8土層断面(北西から)



TP-7土層断面(西から)



TP-9土層断面(南東から)



TP-10土層断面(南から)



TP-11土層断面(東から)



TP-12土層断面(西から)



TP-13土層断面(南西から)



TP-14土層断面(東から)



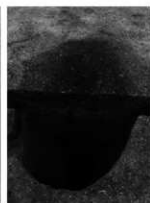
TP-16土層断面(南東から)



TP-15土層断面(南東から)



TP-17土層断面(東から)



TP-18土層断面(東から)



TP-19土層断面(南西から)



TP-20土層断面(南から)



TP-23土層断面(南東から)



TP-21土層断面(南東から)



TP-22土層断面(東から)



TP-24土層断面(南東から)



TP-25土層断面(南東から)



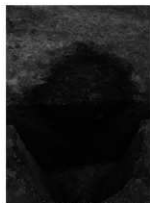
TP-28土層断面(東から)



TP-26土層断面(南東から)



TP-27土層断面(北東から)



TP-29土層断面(南から)



TP-30土層断面(南東から)



TP-31土層断面(南から)



TP-32土層断面(南東から)



TP-33土層断面(南東から)



TP-34土層断面(南東から)



TP-35土層断面(南から)



TP-37土層断面(南から)



TP-40土層断面(東から)





TP-38(左)・TP-39(右)土層断面(北から)



TP-41土層断面(南東から)



TP-42土層断面(南東から)



TP-43土層断面(北東から)



TP-44土層断面(南から)



TP-45土層断面(南から)



TP-46土層断面(南東から)



TP-47土層断面(南から)



TP-48土層断面(南から)



TP-49土層断面(北東から)



TP-50土層断面(南から)



TP-51土層断面(南から)



TP-52土層断面(南東から)



TP-53土層断面(南東から)



TP-54土層断面(南東から)



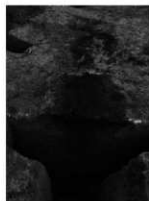
TP-55土層断面(南東から)



TP-56土層断面(南東から)



TP-57土層断面(南から)



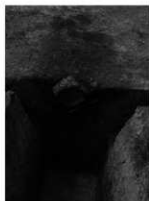
TP-58土層断面(南東から)



TP-59土層断面(南東から)



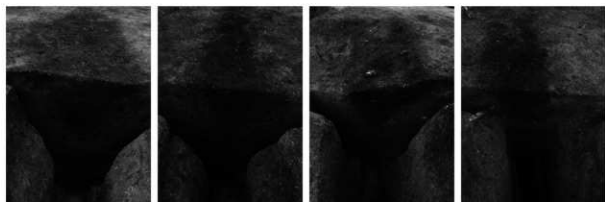
TP-60土層断面(南から)



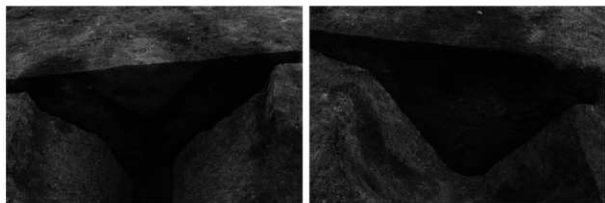
TP-61土層断面(南から)



TP-62土層断面(南から) TP-63(左)・TP-64(右)土層断面(南東から) TP-65土層断面(南西から)

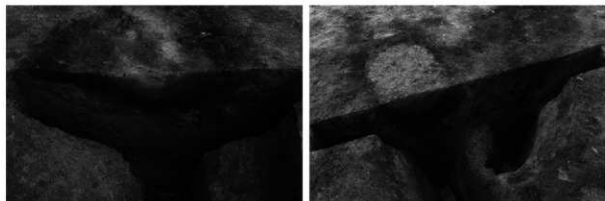


TP-66土層断面(南東から) TP-67土層断面(南から) TP-68土層断面(南東から) TP-72土層断面(南東から)



TP-69土層断面(南東から)

TP-70土層断面(南西から)



TP-71土層断面(南から)

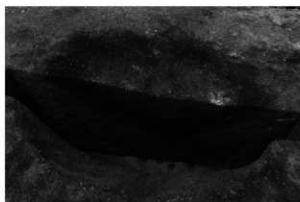
TP-73(右)・TP-74(左)土層断面(南から)



(T) P-75土層断面(南から)



T P-76土層断面(南東から)



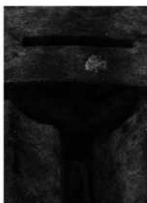
T P-77土層断面(東から)



T P-78土層断面(東から)



T P-79土層断面(南西から)



T P-80土層断面(東から)



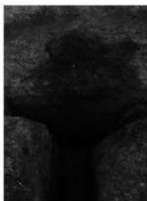
T P-81土層断面(東から)



T P-82土層断面(南から)



T P-83土層断面(東から)



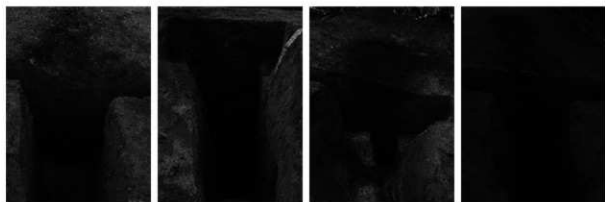
T P-84土層断面(南から)



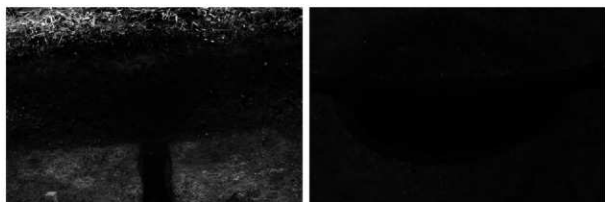
T P-85土層断面(南から)



T P-86土層断面(東から)

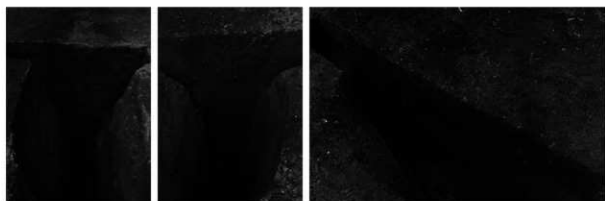


TP-87土層断面(南東から) TP-88土層断面(東から) TP-89土層断面(東から) TP-91土層断面(南から)



TP-90土層断面(南西から)

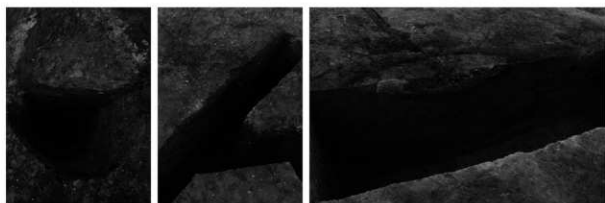
TP-92土層断面(南から)



TP-93土層断面(東から)

TP-94土層断面(南東から)

TP-95土層断面(南東から)



TP-96土層断面(南から)

(T)P-97土層断面(南東から)

TP-98土層断面(北東から)



(T) P-99土層断面(南東から)



TP-100土層断面(南から)



TP-102土層断面(南から)



TP-101土層断面(北東から)



(T) P-103土層断面(南から)



TP-104土層断面(北から)



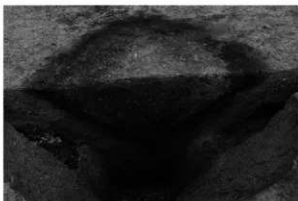
TP-105土層断面(南西から)



TP-107土層断面(南西から)



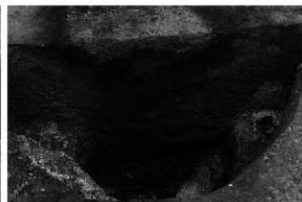
TP-106土層断面(南東から)



TP-108土層断面(南東から)



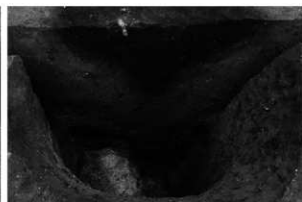
TP-109土層断面(南西から)



TP-110土層断面(南西から)



TP-111土層断面(南西から)



TP-112土層断面(南西から)



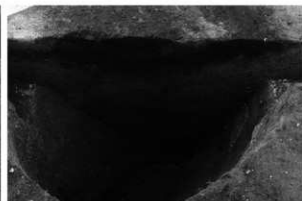
TP-113土層断面(南から)



TP-114土層断面(南から)



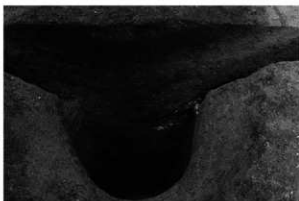
TP-115土層断面(西から)



TP-116土層断面(南から)



TP-117土層断面(南東から)



TP-118土層断面(南西から)



TP-120土層断面(西から)



TP-119土層断面(南から)



TP-121土層断面(北から)



TP-[122・123]土層断面(南から)



TP-124土層断面(南西から)



TP-125土層断面(南西から)



TP-126土層断面(西から)





TP-127土層断面(南東から)



TP-128土層断面(西から)



TP-134土層断面(南東から)



TP-129土層断面(南から)



TP-130土層断面(南から)



TP-131土層断面(南東から)



TP-132土層断面(南から)



TP-133土層断面(南から)



TP-135土層断面(東から)



TP-136土層断面(南東から)



TP-137土層断面(南東から)



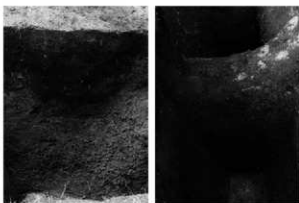
TP-138土層断面(東から)



TP-139土層断面(北から)



TP-140土層断面(南東から)



(T)P-141土層断面(東から) TP-142土層断面(南西から)



TP-143土層断面(南から)



TP-144土層断面(南から)



TP-145土層断面(南から)



TP-146土層断面(南から)



TP-147土層断面(南東から)



TP-148土層断面(南東から)



TP-149土層断面(南東から)



TP-150土層断面(南東から)



TP-151土層断面(南東から)



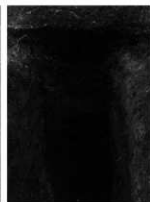
TP-152土層断面(南東から)



TP-153土層断面(南から)



TP-154土層断面(南東から)



TP-156土層断面(南東から)



TP-155土層断面(南東から)



TP-157土層断面(南から)



TP-158土層断面(南から)



TP-159土層断面(南東から)



TP-160土層断面(北東から)



TP-161土層断面(南東から)



TP-162土層断面(南東から)



TP-164土層断面(東から)



TP-163土層断面(東から)



TP-165土層断面(北西から)



TP-166土層断面(南から)



TP-167土層断面(南から)



TP-168土層断面(南から)



TP-169土層断面(南東から)



TP-171土層断面(南東から)



TP-170土層断面(南から)



TP-172(左)・TP-173(右)土層断面(南東から)



TP-174土層断面(南東から)



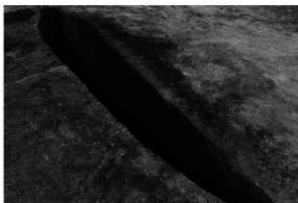
TP-175土層断面(南東から)



TP-176土層断面(南から)



TP-177土層断面(南から)



TP-178土層断面(南東から)



TP-179土層断面(南西から)



TP-180土層断面(南東から)



TP-181土層断面(南東から)



TP-182土層断面(南東から)



TP-183土層断面(南西から)



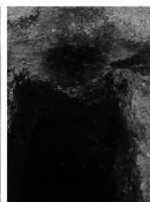
TP-184土層断面(南東から)



TP-185土層断面(南から)



TP-186土層断面(南西から)



TP-188土層断面(東から)



TP-187土層断面(東から)



TP-189土層断面(南西から)



TP-190土層断面(西から)



TP-191土層断面(西から)



TP-192土層断面(南から)



TP-193土層断面(南西から)



TP-194土層断面(南東から)



TP-195土層断面(南から)



TP-196土層断面(東から)



TP-197土層断面(南東から)



TP-201土層断面(東から)



TP-198土層断面(南から)



TP-199土層断面(南から)



TP-200土層断面(東から)



TP-202土層断面(南東から)



TP-203土層断面(南西から)

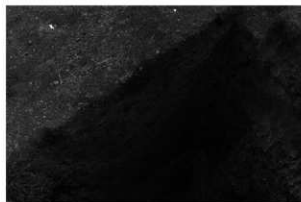


TP-204土層断面(南西から)



TP-205土層断面(南東から)





TP-206土層断面(南から)



TP-207土層断面(南東から)



TP-208土層断面(南東から)



TP-209土層断面(南から)



TP-210土層断面(南から)



TP-211土層断面(南から)



TP-212土層断面(南から)



TP-213土層断面(南から)



TP-214土層断面(南西から)



TP-215土層断面(南から)



TP-218土層断面(南から)



TP-216土層断面(南から)



TP-217土層断面(南から)



TP-219土層断面(南西から)



TP-220土層断面(南から)



TP-221土層断面(南東から)



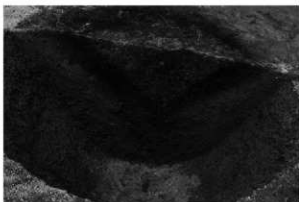
TP-222土層断面(南東から)



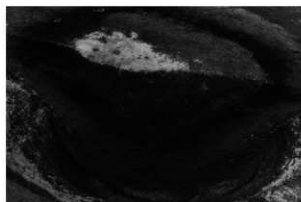
TP-224土層断面(西から)



TP-223土層断面(南から)



TP-225土層断面(南から)



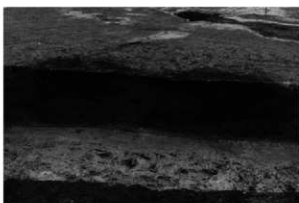
TP-226土層断面(南西から)



TP-227土層断面(南から)



TP-228土層断面(南から)



TP-229(左)・TP-230(右)土層断面(東から)



TP-231(左)・TP-232(右)土層断面(西から)



TP-233土層断面(南西から)



TP-234土層断面(南西から)



TP-235土層断面(南西から)



TP-236土層断面(南から)



TP-237土層断面(南から)



TP-238土層断面(南西から)



TP-239土層断面(南東から)



TP-240土層断面(南から)



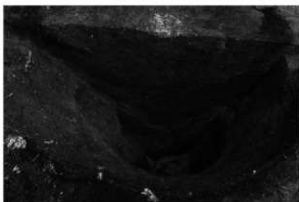
TP-241土層断面(西から)



TP-242土層断面(南から)



TP-243土層断面(東から)



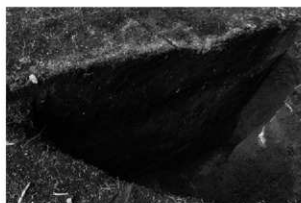
TP-244土層断面(南東から)



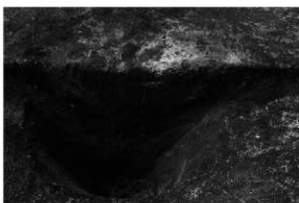
TP-245土層断面(南から)



TP-246土層断面(南から)



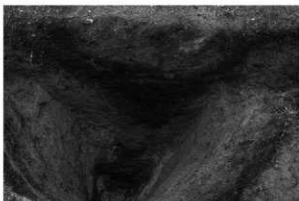
TP-247土層断面(南西から)



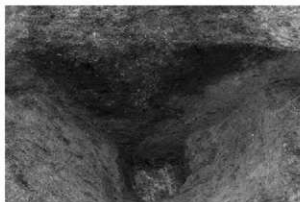
TP-248土層断面(南から)



TP-249土層断面(南から)



TP-250土層断面(南から)



TP-251土層断面(南東から)



TP-252土層断面(南西から)



TP-253土層断面(南東から)



TP-254土層断面(南から)



TP-255土層断面(南東から)



TP-256土層断面(西から)



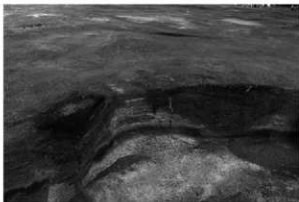
TP-257土層断面(南西から)



TP-259土層断面(南東から)



TP-258土層断面(南から)



TP-260(左)・TP-261(右)土層断面(南東から)



TP-262土層断面(南西から)



TP-263土層断面(南西から)



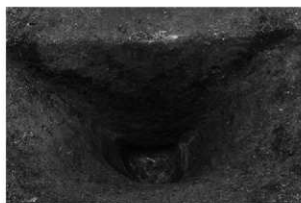
TP-267土層断面(南西から)



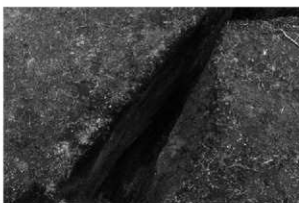
TP-264土層断面(南から)



TP-265土層断面(南から)



TP-266土層断面(南東から)



TP-268土層断面(南西から)



TP-269土層断面(南東から)



TP-270土層断面(北東から)



TP-271土層断面(南西から)



TP-272土層断面(南西から)



TP-273(左)・(TP-275(右)土層断面 TP-274(右手前)確認状況(北西から)



TP-276土層断面(南西から)



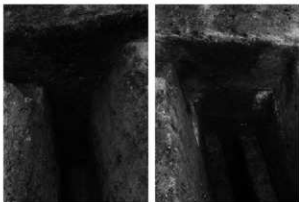
TP-277土層断面(西から)



TP-278土層断面(南西から)



TP-279土層断面(西から)



TP-280土層断面(西から) TP-284土層断面(南西から)





TP-281土層断面(南から)



TP-282土層断面(西から)



TP-283土層断面(東から)



TP-285土層断面(東から)



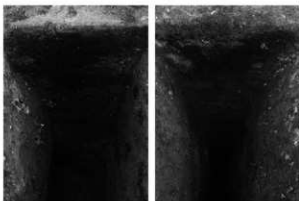
TP-286土層断面(南西から)



TP-287土層断面(東から)



TP-288土層断面(西から)



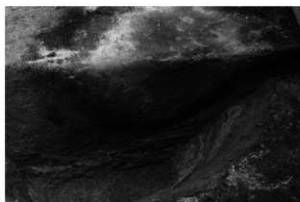
TP-289土層断面(西から) TP-290土層断面(南から)



TP-291土層断面(西から)



TP-292土層断面(南西から)



TP-293土層断面(南西から)



TP-294土層断面(南西から)



TP-295土層断面(南西から)



TP-296土層断面(北西から)



TP-297土層断面(南東から)



TP-298土層断面(西から)



TP-299土層断面(南西から)



TP-300土層断面(南西から)



TP-301土層断面(南西から)



TP-302土層断面(南から)



TP-303土層断面(東から)



TP-304土層断面(東から)



TP-305土層断面(西から)



TP-306土層断面(西から)



TP-312土層断面(南から)



TP-307土層断面(南東から)



TP-308土層断面(南東から)



TP-309(左)・(T)P-310(右)土層断面(南から)



TP-311土層断面(南東から)



TP-313土層断面(西から)



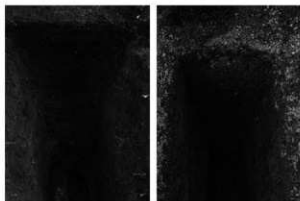
TP-314土層断面(西から) TP-317土層断面(西から)



TP-315土層断面(南東から)



TP-316土層断面(南東から)



TP-318土層断面(西から) TP-319土層断面(東から)



TP-320土層断面(東から)



TP-321(左)・TP-322(右)土層断面(南東から)



TP-323土層断面(西から)



TP-324土層断面(南西から)



TP-325土層断面(南西から)



TP-326土層断面(南西から)



TP-327土層断面(西から)



TP-328土層断面(南西から)



TP-329土層断面(東から)



TP-330土層断面(東から)



TP-331土層断面(南東から)



TP-332土層断面(南から)



TP-333土層断面(東から)



TP-334土層断面(南から)



TP-335土層断面(南東から)



TP-336土層断面(東から)



TP-337土層断面(北東から)



(TP-)338土層断面(東から)



TP-339土層断面(北東から)



TP-341土層断面(西から)



TP-340土層断面(南から)



TP-342土層断面(南西から)



TP-343土層断面(東から)



TP-344土層断面(南西から)



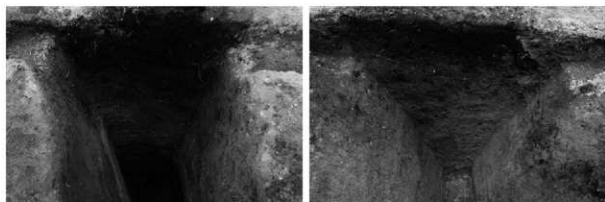
TP-345土層断面(東から)



TP-346土層断面(南から)



TP-347土層断面(北東から) TP-348(左)・TP-349(右)土層断面(南西から) TP-352土層断面(東から)



TP-350土層断面(南から)

TP-351土層断面(北東から)



TP-353土層断面(北から)

TP-354土層断面(南西から)

TP-360土層断面(北から)



TP-355土層断面(北東から)

TP-356土層断面(南東から)



TP-357土層断面(北から)



TP-358土層断面(北東から)



TP-359土層断面(北東から)



TP-361土層断面(東から)



TP-362土層断面(北東から)



TP-363土層断面(東から)



TP-364土層断面(東から)



TP-365土層断面(東から)



TP-366土層断面(南東から)



TP-367土層断面(北東から)



TP-368土層断面(北東から)





TP-369土層断面(南東から)



TP-370(左)・TP-371(右)土層断面(南東から)



TP-372土層断面(南から)



TP-373土層断面(南から)



TP-374土層断面(北東から)



TP-378土層断面(南から)



TP-375土層断面(北東から)



TP-376土層断面(東から)



TP-377土層断面(南東から)



TP-379土層断面(北東から)



TP-380土層断面(南から)



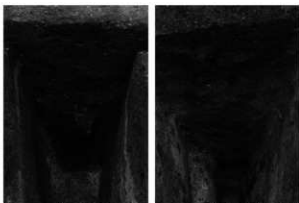
TP-381土層断面(南東から)



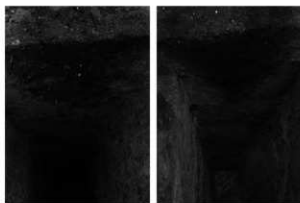
TP-382土層断面(南西から)



TP-383土層断面(南から)



TP-384土層断面(北から) TP-385土層断面(南から)



TP-386土層断面(南東から) TP-387土層断面(南から)



TP-388土層断面(南東から)



TP-389土層断面(南東から)



TP-390土層断面(南東から)



TP-391土層断面(北から)



TP-392土層断面(南東から)



TP-393土層断面(南東から)



TP-394土層断面(南西から)



TP-397土層断面(南東から)



TP-395土層断面(南東から)



TP-396土層断面(南東から)



TP-398土層断面(北から)



TP-399土層断面(南東から)



TP-400土層断面(南から)



TP-401土層断面(南から)



TP-402土層断面(北東から)



TP-403土層断面(南から)



TP-404土層断面(南から)



TP-405土層断面(北東から)



TP-407土層断面(南から)



TP-406土層断面(北東から)



TP-408土層断面(南東から)



TP-409土層断面(北から)



TP-410土層断面(北東から)



TP-411土層断面(東から)



TP-413土層断面(北から)



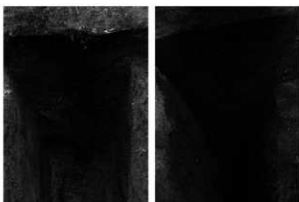
TP-412土層断面(南から)



TP-414土層断面(北東から)



TP-415土層断面(南西から)



TP-416土層断面(北東から) TP-423土層断面(南から)



TP-417土層断面(北東から)



TP-418土層断面(南西から)



TP-419土層断面(東から)



TP-420土層断面(南から)



TP-421土層断面(北東から)



TP-422土層断面(南から)



TP-424土層断面(南西から)



TP-425土層断面(南から)



TP-426土層断面(北西から)



平成28(2016)年度 R-3地区北～東側部分調査風景(西から)



TP-1 完掘状況(北東から)



TP-2 完掘状況(北から)



TP-3 完掘状況(北から)



TP-4 完掘状況(北東から)



TP-5 完掘状況  
(平成25(2013)年度)(南西から)



TP-7 完掘状況(東から)



TP-8 完掘状況(南西から)



TP-9 完掘状況(南東から)



TP-10 完掘状況(南西から)



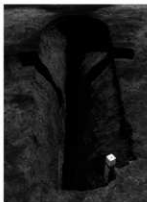
TP-11 完掘状況(西から)



TP-12 完掘状況(西から)



TP-13 完掘状況(北東から)



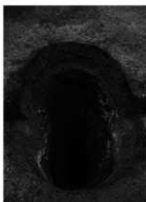
TP-14 完掘状況(西から)



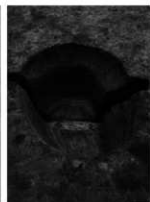
TP-15 完掘状況(南から)



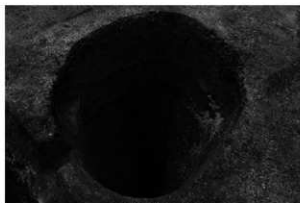
TP-16完掘状況(南東から)



TP-17完掘状況(東から)



TP-19完掘状況(南から)



TP-18完掘状況(南東から)



TP-20完掘状況(北から)



TP-21完掘状況(南東から)



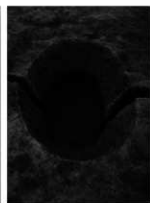
TP-22完掘状況(南東から)



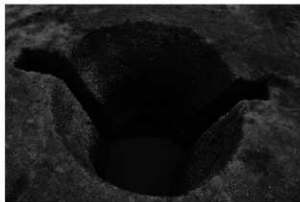
TP-23完掘状況(南東から)



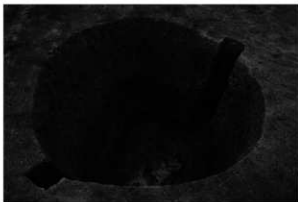
TP-24完掘状況(北西から)



TP-25完掘状況(南東から)



TP-26完掘状況(北西から)

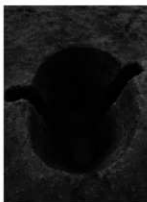


TP-27完掘状況(東から)





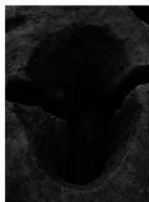
TP-28完掘状況(西から)



TP-29完掘状況(北から)



TP-30完掘状況(北西から)



TP-31完掘状況(北から)



TP-32完掘状況(北西から)



TP-33完掘状況(北西から)



TP-34完掘状況(南東から)



TP-35完掘状況(北から)



TP-36完掘状況(北から)



TP-37完掘状況(北から)



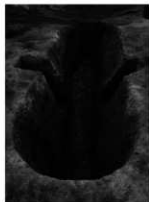
TP-38(奥)・TP-39(手前)  
完掘状況(北西から)



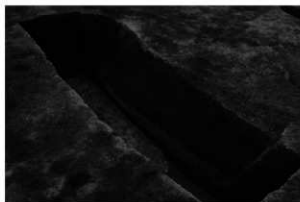
TP-40完掘状況(西から)



TP-41完掘状況(北西から)



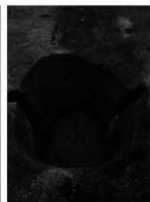
TP-42完掘状況(南東から)



T P - 43完掘状況(北から)



T P - 44完掘状況(北から)



T P - 47完掘状況(北から)



T P - 45完掘状況(北から)



T P - 46完掘状況(北西から)



T P - 48完掘状況(北から)



T P - 49完掘状況(南西から)



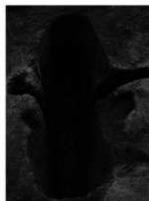
T P - 50完掘状況(北から)



T P - 51完掘状況(南東から)



T P - 52完掘状況(南東から)



T P - 53完掘状況(北西から)



T P - 54完掘状況(北西から)



T P - 55完掘状況(北西から)



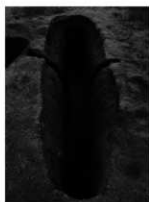
TP-56完掘状況(南から)



TP-57完掘状況(北から)



TP-58完掘状況(南から)



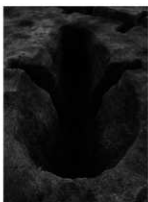
TP-59完掘状況(北西から)



TP-60完掘状況(北から)



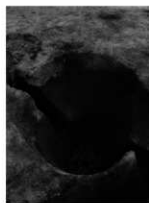
TP-61完掘状況(北西から)



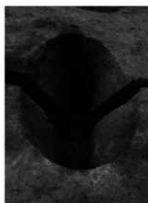
TP-62完掘状況(北から)



TP-63完掘状況(北西から)



TP-64完掘状況(西から)



TP-65完掘状況(北東から)



TP-66完掘状況(南東から)



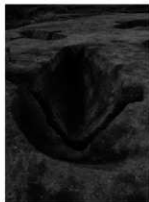
TP-67完掘状況(北から)



TP-68完掘状況(北東から)



TP-69完掘状況(北西から)



TP-70完掘状況(南から)



TP-71完掘状況(北から)



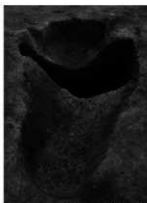
TP-72完掘状況(北西から)



TP-73完掘状況(北から)



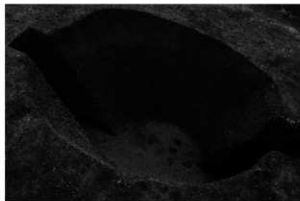
TP-74完掘状況(北西から)



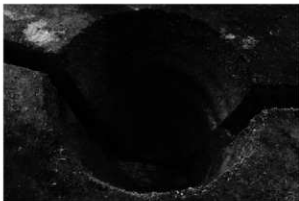
(T)P-75完掘状況(北から)



TP-76(左典)・TP-101(右手前)完掘状況(北から)



TP-77完掘状況(東から)



TP-78完掘状況(東から)



TP-79完掘状況(北東から)



TP-80完掘状況(西から)



TP-81完掘状況(南東から)



TP-82完掘状況(北から)



TP-83完掘状況(東から)



TP-84完掘状況(北から)



TP-85完掘状況(北から)



TP-86完掘状況(東から)



TP-87完掘状況(南東から)



TP-88完掘状況(東から)



TP-89完掘状況(東から)



TP-90完掘状況  
(平成28(2016)年度)(南西から)



TP-91完掘状況(南東から)



TP-92完掘状況(東から)



TP-93完掘状況(東から)



TP-94完掘状況(北西から)



TP-95完掘状況(北東から)



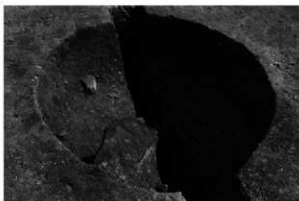
TP-96完掘状況(南から)



(T)P-97(左)・(T)P-103(右)完掘状況(西から)



TP-98完掘状況(北西から)



(T) P-99完掘状況(西から)



TP-100完掘状況(北から)



TP-102完掘状況(北から)



TP-104完掘状況(南から)



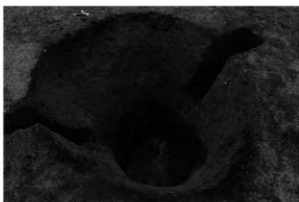
TP-105完掘状況(北東から)



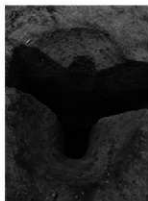
TP-107完掘状況(北東から)



TP-106完掘状況(北西から)



TP-108完掘状況(北西から)



TP-109完掘状況(北東から)



TP-110完掘状況(北から)



TP-111完掘状況(北東から)



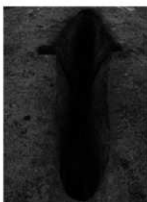
TP-112完掘状況(北東から)



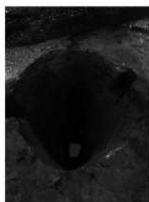
TP-113完掘状況(北から)



TP-114完掘状況(北から)



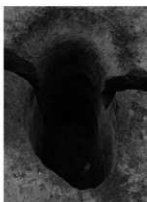
TP-115完掘状況(東から)



TP-116完掘状況(南から)



TP-117完掘状況(北西から)



TP-118完掘状況(北から)



TP-119完掘状況(北から)



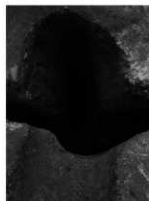
TP-120完掘状況(東から)



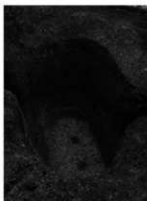
TP-121完掘状況(北から)



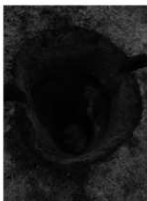
TP-[122・123]完掘状況(南西から)



TP-124完掘状況(南西から)



TP-125完掘状況(北東から)



TP-126完掘状況(東から)



TP-127完掘状況(北西から)



TP-128完掘状況(東から)



TP-129完掘状況(北から)



TP-130完掘状況(西から)



TP-131完掘状況(北西から)



TP-132完掘状況(北西から)



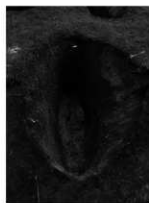
TP-133完掘状況(北西から)



TP-134完掘状況(北西から)



TP-135完掘状況(西から)



TP-136完掘状況(北西から)



TP-137完掘状況(北から)



TP-138完掘状況(西から)



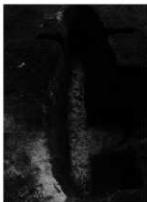
TP-139完掘状況(南から)



TP-140完掘状況(北西から)



(T)P-141完掘状況(東から)

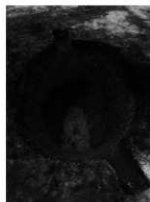


TP-142完掘状況(北東から)

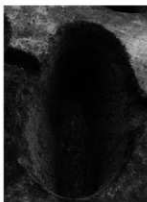


TP-143完掘状況(南東から)





TP-144完掘状況(東から)



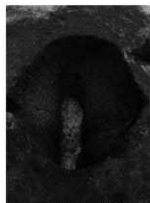
TP-145完掘状況(北から)



TP-146完掘状況(南から)



TP-147完掘状況(北西から)



TP-148完掘状況(北西から)



TP-149完掘状況(南東から)



TP-150完掘状況(南西から)



TP-151完掘状況(北西から)



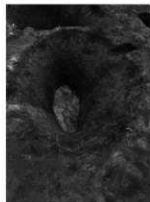
TP-152完掘状況(北西から)



TP-153完掘状況(北から)



TP-154完掘状況(南東から)



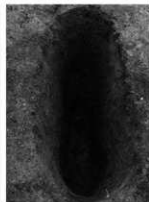
TP-155完掘状況(北から)



TP-156完掘状況(北西から)



TP-157完掘状況(北から)



TP-158完掘状況(北から)



TP-159完掘状況(北西から)



TP-160完掘状況(北東から)



TP-161完掘状況(北西から)



TP-162完掘状況(南東から)



TP-163完掘状況(北西から)



TP-164完掘状況(北から)



TP-165完掘状況(北から)



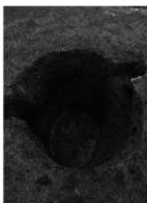
TP-166完掘状況(北から)



TP-167完掘状況(北から)



TP-168完掘状況(北から)



TP-169完掘状況(北西から)



TP-170完掘状況(北から)



TP-171完掘状況(北西から)



TP-172完掘状況(北東から)



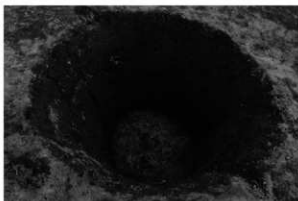
TP-173完掘状況(北から)



TP-174完掘状況(北西から)



TP-175完掘状況(北西から)



TP-176完掘状況(北西から)



TP-177完掘状況(北から)



TP-178完掘状況(北東から)



TP-179完掘状況(北東から)



TP-180完掘状況(北西から)



TP-181完掘状況(北西から)



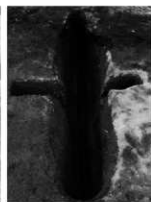
TP-182完掘状況(北西から)



TP-183完掘状況(南西から)



TP-184完掘状況(北西から)



TP-185完掘状況(南から)



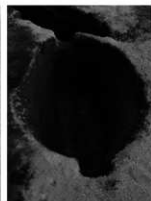
TP-186完掘状況(北東から)



TP-187完掘状況(南から)



TP-188完掘状況(南東から)



TP-189完掘状況(北西から)



T P-190完掘状況(東から)



T P-191完掘状況(東から)



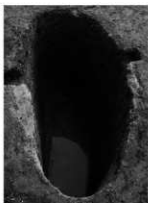
T P-192完掘状況(北から)



T P-193完掘状況(北東から)



T P-194完掘状況(南東から)



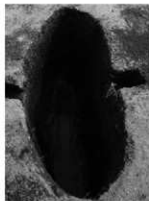
T P-195完掘状況(北から)



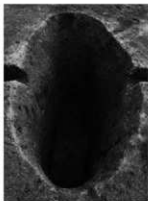
T P-196完掘状況(東から)



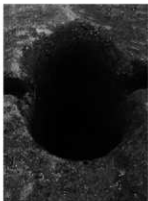
T P-197完掘状況(北西から)



T P-198完掘状況(北から)



T P-199完掘状況(北から)



T P-200完掘状況(西から)



T P-201完掘状況(西から)



T P-202完掘状況(北西から)



T P-203完掘状況(南西から)



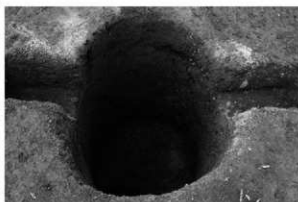
T P-204完掘状況(北東から)



T P-205完掘状況(南東から)



TP-206完掘状況(北から)



TP-208完掘状況(北西から)



TP-209完掘状況(北から)



TP-210完掘状況(北から)



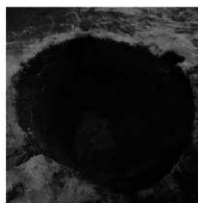
TP-211完掘状況(北から)



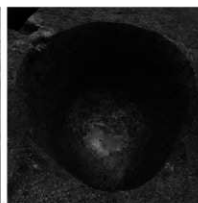
TP-212完掘状況(北から)



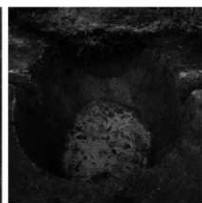
TP-214完掘状況(北東から)



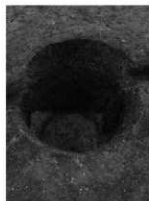
TP-207完掘状況(北から)



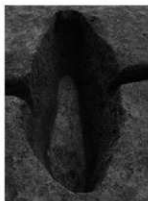
TP-213完掘状況(北西から)



TP-215完掘状況(南から)



TP-216完掘状況(北東から)



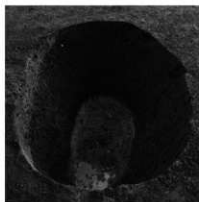
TP-217完掘状況(北から)



TP-218完掘状況(北から)



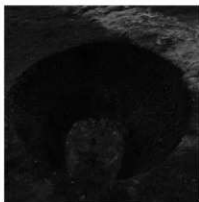
TP-219完掘状況(北東から)



TP-220完掘状況(北から)



TP-221完掘状況(北から)



TP-225完掘状況(北から)



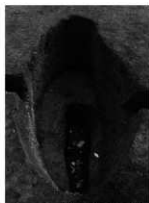
TP-222完掘状況(北西から)



TP-223完掘状況(北から)



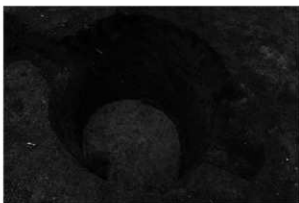
TP-224完掘状況(東から)



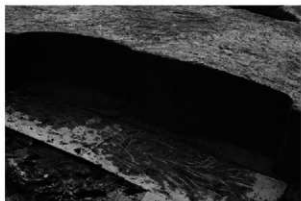
TP-228完掘状況(北から)



TP-226完掘状況(南東から)



TP-227完掘状況(北西から)



TP-229(左)・TP-230(右)完掘状況(東から)



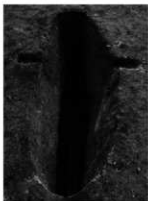
TP-231(左)・TP-232(右)完掘状況(西から)



TP-233完掘状況(南東から)



TP-234完掘状況(北東から)



TP-235完掘状況(北東から)



TP-237完掘状況(南西から)



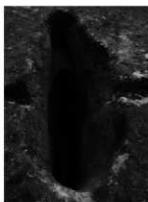
TP-236完掘状況(東から)



TP-238完掘状況(北東から)



TP-239完掘状況(北西から)



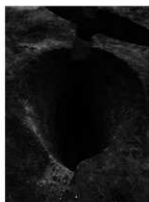
TP-240完掘状況(北から)



TP-241完掘状況(北東から)



TP-242完掘状況(東から)



TP-243完掘状況(北東から)



TP-244完掘状況(北西から)



TP-245完掘状況(北から)



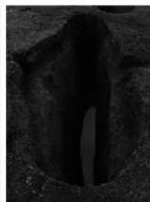
TP-246完掘状況(北から)



TP-247(横方向)・TP-268  
(右縦方向)完掘状況(東から)



TP-248完掘状況(北から)



TP-249完掘状況(南から)



TP-250完掘状況(北から)



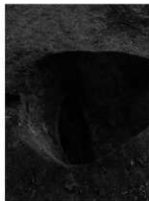
TP-251完掘状況(北西から)



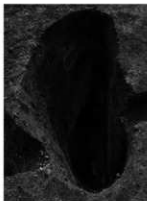
TP-252完掘状況(北東から)



TP-253完掘状況(北から)



TP-254完掘状況(北から)



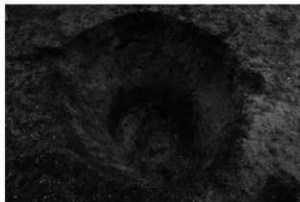
TP-255完掘状況(北東から)



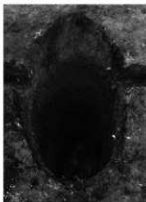
TP-256完掘状況(東から)



TP-257完掘状況(北東から)



TP-258完掘状況(北から)

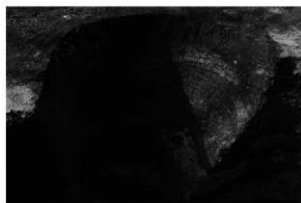


TP-259完掘状況(南東から)

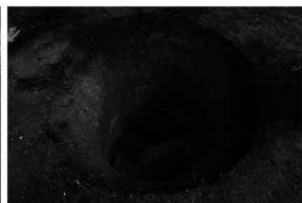


TP-261完掘状況(北東から)





TP-260完掘状況(東から)



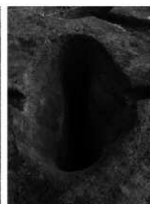
TP-262完掘状況(北東から)



TP-263完掘状況(北東から)



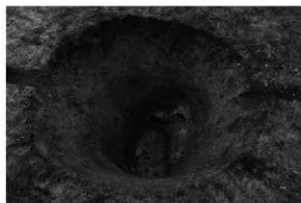
TP-264完掘状況(北から)



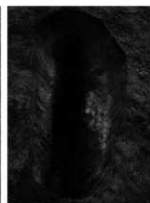
TP-265完掘状況(北から)



TP-267完掘状況(北東から)



TP-266完掘状況(南東から)



TP-270完掘状況(北東から)



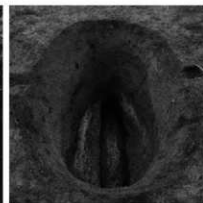
TP-273完掘状況(北から)



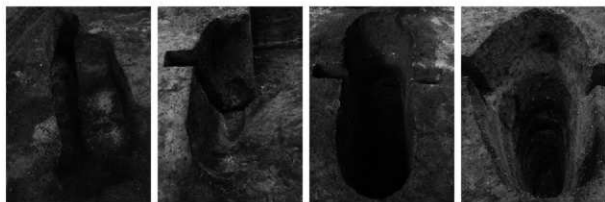
TP-269完掘状況(北から)



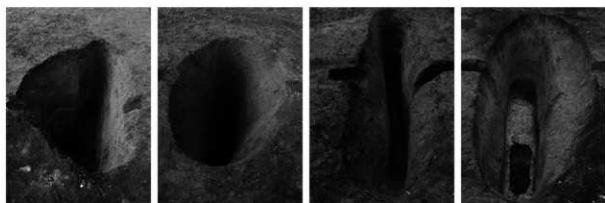
TP-271完掘状況(北東から)



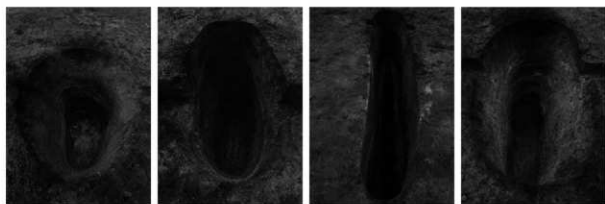
TP-272完掘状況(北東から)



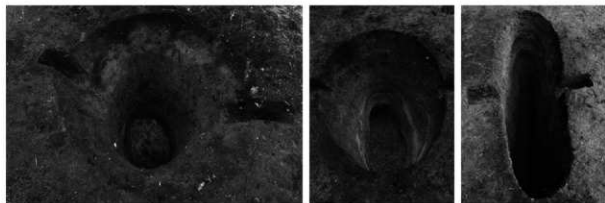
TP-274完掘状況(北西から) (TP-)275完掘状況(北から) TP-276完掘状況(南西から) TP-277完掘状況(東から)



TP-278完掘状況(北東から) TP-279完掘状況(東から) TP-280完掘状況(東から) TP-281完掘状況(南から)



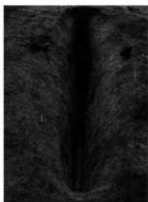
TP-282完掘状況(東から) TP-283完掘状況(東から) TP-284完掘状況(南西から) TP-286完掘状況(北東から)



TP-285完掘状況(東から) TP-287完掘状況(西から) TP-288完掘状況(東から)



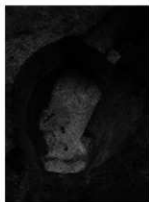
TP-289完掘状況(西から)



TP-290完掘状況(北から)



TP-291完掘状況(東から)



TP-292完掘状況(南東から)



TP-293完掘状況(南西から)



TP-294完掘状況(北東から)



TP-295完掘状況(南西から)



TP-296完掘状況(南東から)



TP-297完掘状況(南東から)



TP-298完掘状況(西から)



TP-299完掘状況(北東から)



TP-300完掘状況(南西から)



TP-301完掘状況(南西から)



TP-302完掘状況(北東から)



TP-303完掘状況(東から)



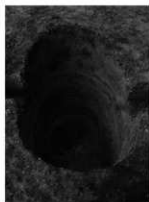
TP-304完掘状況(西から)



TP-305完掘状況(西から)



TP-306完掘状況(東から)



TP-307完掘状況(南東から)



TP-308完掘状況(南東から)



TP-309(縦方向)・(TP-310  
(手前横方向)完掘状況(北東から)



TP-311完掘状況(北西から)



TP-312完掘状況(北から)



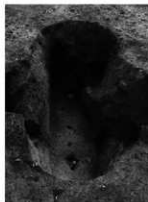
TP-313完掘状況(東から)



TP-314完掘状況(北から)



TP-315完掘状況(南東から)



TP-316完掘状況(北西から)



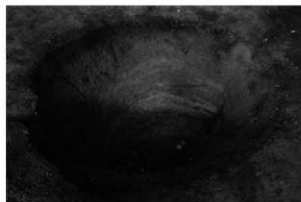
TP-317完掘状況(東から)



TP-318完掘状況(東から)



TP-319完掘状況(西から)



TP-320完掘状況(南東から)



TP-321(左)・TP-322(右)完掘状況(南から)



TP-323完掘状況(西から)



TP-324完掘状況(北東から)



TP-325完掘状況(北東から)



TP-326完掘状況(北東から)



TP-327完掘状況(西から)



TP-328完掘状況(南西から)



TP-329完掘状況(西から)



TP-330完掘状況(東から)



TP-331完掘状況(西から)



TP-332完掘状況(北東から)



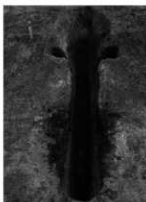
TP-333完掘状況(東から)



TP-335完掘状況(南東から)



TP-334完掘状況(南から)



TP-336完掘状況(西から)



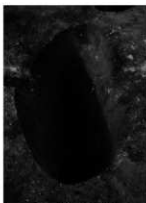
TP-337完掘状況(南西から)



(TP-338)完掘状況(東から)



TP-339完掘状況(北東から)



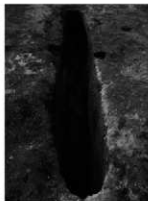
TP-340完掘状況(南から)



TP-341完掘状況(西から)



TP-342完掘状況(北東から)



TP-343完掘状況(東から)



TP-344完掘状況(南西から)



TP-345完掘状況(西から)



TP-346完掘状況(南から)



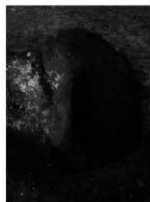
TP-347完掘状況(南西から)



TP-348(手前)・TP-349(奥)  
完掘状況(西から)



TP-350完掘状況(南から)



TP-351完掘状況(南西から)



TP-352完掘状況(東から)



TP-353完掘状況(北から)



TP-354完掘状況(北東から)



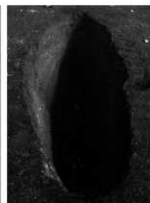
TP-355完掘状況(北東から)



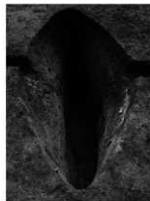
TP-356完掘状況(北西から)



TP-357完掘状況(北から)



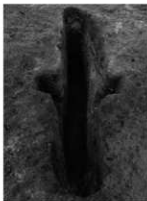
TP-358完掘状況(南西から)



TP-359完掘状況(北東から)



TP-360完掘状況(北から)



TP-361完掘状況(西から)



TP-362完掘状況(北東から)



TP-363完掘状況(東から)



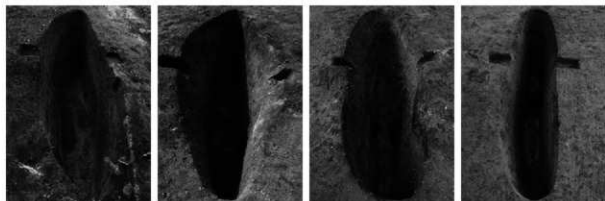
TP-364完掘状況(東から)



TP-365完掘状況(東から)



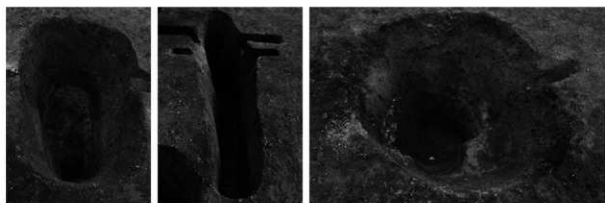
TP-366完掘状況(南東から)



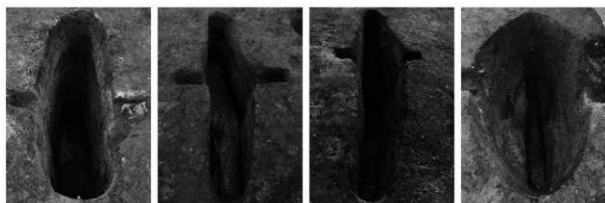
TP-367完掘状況(北東から) TP-368完掘状況(北東から) TP-369完掘状況(南東から) TP-372完掘状況(北から)



TP-370(左奥~右手前)・TP-371(右)完掘状況(南から) TP-373完掘状況(北から) TP-374完掘状況(北東から)



TP-375完掘状況(南西から) TP-376完掘状況(西から) TP-377完掘状況(北西から)

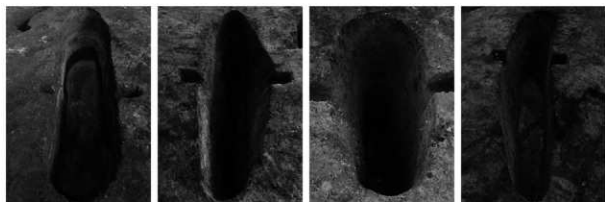


TP-378完掘状況(南から) TP-379完掘状況(南西から) TP-380完掘状況(北から) TP-383完掘状況(北から)

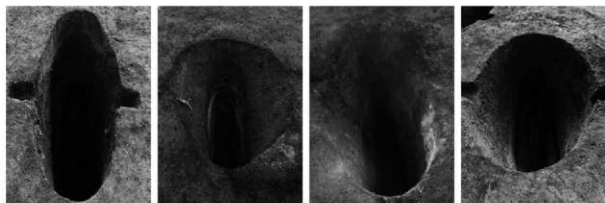




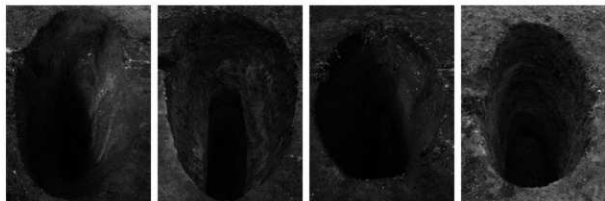
TP-381 A・B・C完掘状況(南から) TP-382完掘状況(南西から) TP-388完掘状況(北西から)



TP-384完掘状況(南から) TP-385完掘状況(北から) TP-386完掘状況(北西から) TP-387完掘状況(北から)



TP-389完掘状況(北西から) TP-390完掘状況(北西から) TP-391完掘状況(北東から) TP-392完掘状況(北西から)



TP-393完掘状況(南東から) TP-394完掘状況(南西から) TP-395完掘状況(南東から) TP-396完掘状況(北西から)



TP-397完掘状況(南東から)



TP-398完掘状況(南から)



TP-399完掘状況(南から)



TP-400完掘状況(北から)



TP-401完掘状況(北から)



TP-402完掘状況(北東から)



TP-403完掘状況(南から)



TP-404完掘状況(南から)



TP-405完掘状況(北東から)



TP-406完掘状況(南西から)



TP-407完掘状況(南から)



TP-408完掘状況(北西から)



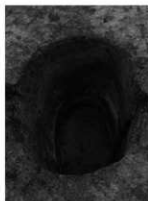
TP-409完掘状況(北から)



TP-410完掘状況(南西から)



TP-411完掘状況(東から)



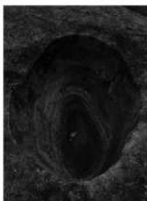
TP-412完掘状況(南から)



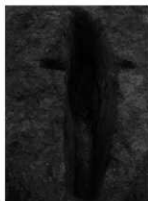
TP-413完掘状況(北から)



TP-414完掘状況(南西から)



TP-415完掘状況(北東から)



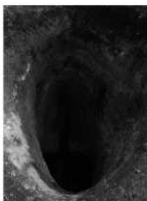
TP-416完掘状況(南西から)



TP-417完掘状況(南西から)



TP-418完掘状況(北東から)



TP-419完掘状況(北西から)



TP-420完掘状況(南から)



TP-421完掘状況(北東から)



TP-422完掘状況(北から)



TP-423完掘状況(北から)



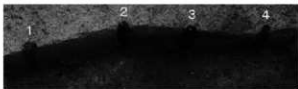
TP-424完掘状況(北東から)



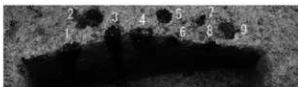
TP-425完掘状況(北から)



TP-426完掘状況(北西から)



TP-316・s p-1~4(北東から)



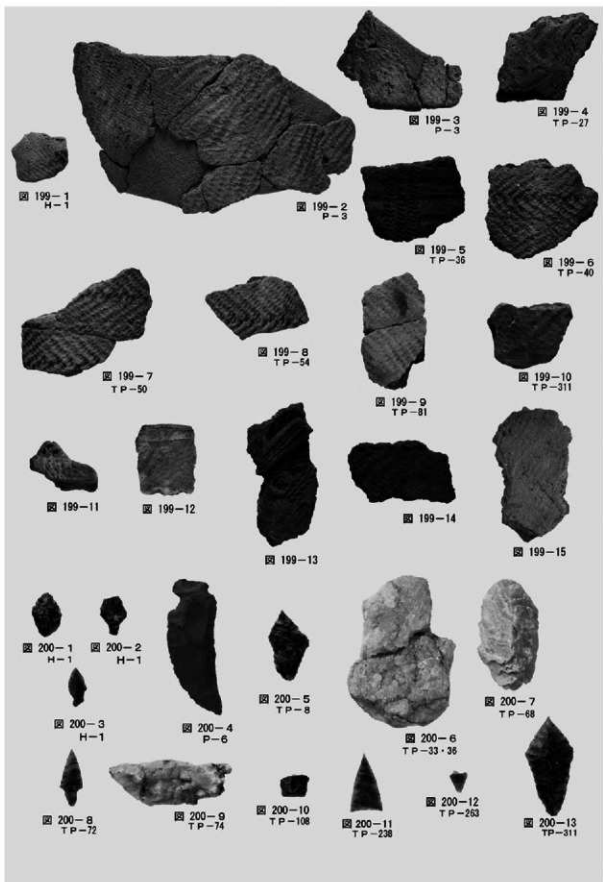
TP-388・s p-1~9(東から)



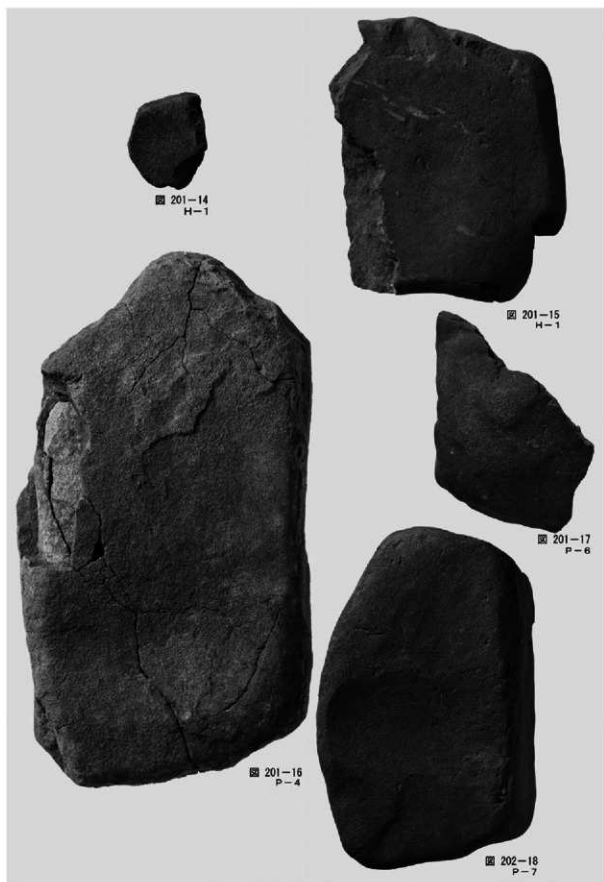
平成27(2015)年度 Tビット完掘状況 L-4地区(南東から)



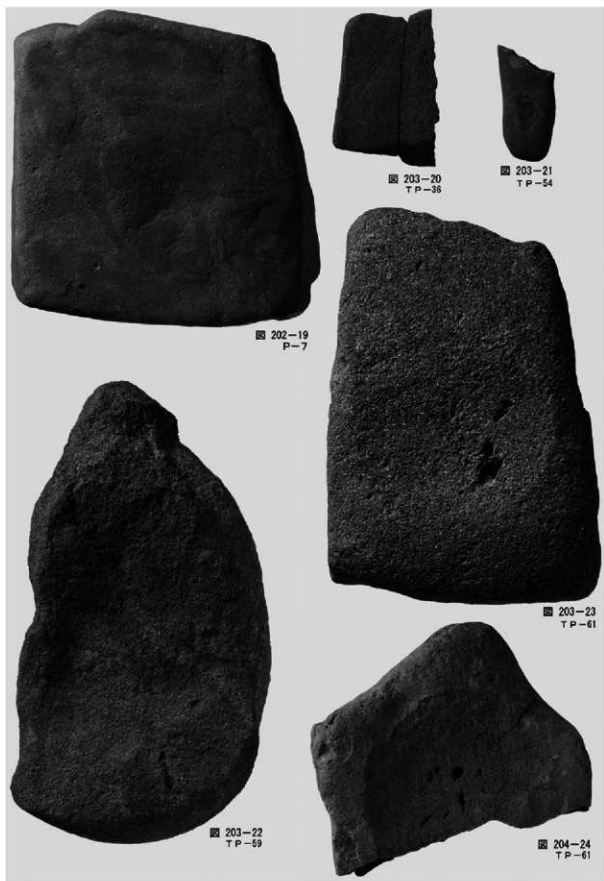
平成28(2016)年度 Tビット完掘状況 R-3地区東側部分(南東から)



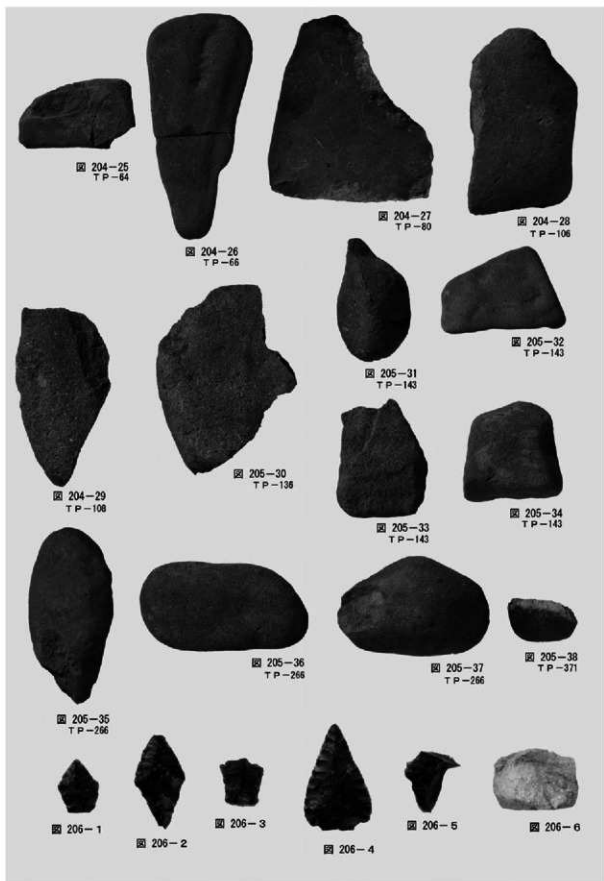
上幌内5遺跡 破片土器・遺構出土の剥片石器



上幌内5遺跡 礫石器(1)



上幌内5遺跡 礫石器(2)



上幌内5遺跡 礫石器(3)・包含層出土の剥片石器



# 引用参考文献

## 論文・書籍等

- 池田実・亀井喜久太郎 1976 『厚真の旧地名を尋ねて』  
池田実・亀井喜久太郎 1978 『続 厚真の旧地名を尋ねて』  
小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社  
松浦武四郎 秋葉実 解説 高倉新一郎校訂  
1985 「戊午 東部 安都麻志 全」『戊午 東西蝦夷山川地理取調日誌 中』北海道出版企画センター

## 団体組織刊行物

- 厚真町 1986 『厚真町史』  
厚真町 1998 『増補 厚真町史』  
厚真シンポジウム実行委員会・厚真町教育委員会 2015  
『厚真シンポジウム 遺跡が語るアイヌ文化の成立 -11～14世紀の北海道と本州島』  
厚真町観内自治会 1997 『開基百年 観内のあゆみ』  
厚真村 1956 『厚真村史』  
厚真村教育委員会・厚真村郷土研究会 1956 『厚真村古代史 一村内に所在する先住民の遺跡-』  
ベドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』博友社  
北海道考古学会 2013 『2013年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』  
北海道考古学会 2014 『2014年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』  
北海道考古学会 2015 『2015年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』  
北海道考古学会 2016 『2016年度 北海道考古学会 遺跡調査報告会資料集』

## 埋蔵文化財発掘調査報告書

### 厚真町教育委員会

#### 厚幌ダム建設事業

- 厚真町教育委員会 2004 『厚幌1遺跡』-厚幌ダム建設に係わる一般道道切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書  
厚真町教育委員会 2006 『厚真町 上幌内モイ遺跡(1)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1  
厚真町教育委員会 2007 『厚真町 上幌内モイ遺跡(2)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2  
厚真町教育委員会 2009 『厚真町 上幌内モイ遺跡(3)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3  
厚真町教育委員会 2011 『オニキシベ2遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4  
厚真町教育委員会 2013 『ワチャラセナイチャシ跡・ワチャラセナイ遺跡』  
厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5  
厚真町教育委員会 2013 『オニキシベ5遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6  
厚真町教育委員会 2014 『厚幌1遺跡(3)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7  
厚真町教育委員会 2014 『オニキシベ4遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書8  
厚真町教育委員会 2014 『ワチャラセナイ遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9  
厚真町教育委員会 2014 『オニキシベ6遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10  
厚真町教育委員会 2014 『ショロマ3遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書11  
厚真町教育委員会 2015 『ショロマ1遺跡(1)』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書12  
厚真町教育委員会 2015 『ショロマ2遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書13  
厚真町教育委員会 2016 『上幌内1遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書14  
厚真町教育委員会 2017 『上幌内2遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書15  
厚真町教育委員会 2017 『一里沢遺跡』厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書16

## 国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水管事業

- 厚真町教育委員会 2009 『ニタツナイ遺跡(1)』  
国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1

- 厚真町教育委員会 2010 『厚幌1遺跡(2) 幌内7遺跡』  
 国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2
- 厚真町教育委員会 2010 『幌内5遺跡(1) 富里2遺跡 ニタツナイ遺跡(2)』  
 国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3

#### その他の事業

- 厚真町教育委員会 2002 『鯉沼2遺跡』 鯉沼農地造成工事・土砂採取工事用地内 埋蔵文化財工事立会報告書
- 厚真町教育委員会 2002 『豊川1遺跡』 ノーザンファームトレーニングコース(坂路馬場) 造成工事立会報告書
- 厚真町教育委員会 2013 『ヨイカルマイ遺跡』  
 道道上幌内早来停車場線特改1種工事(道州) 事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

#### その他の市町村

- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター  
 1998 『美沢東遺跡群』 道道静川美沢線道路改良工事に伴う美沢東4・5・6 遺跡発掘調査報告書

#### (財)・(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)

- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2003 『厚真町 浜厚真3遺跡』 北埋調報186
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2005 『千歳市 オルイカ2遺跡(2)』 北埋調報221
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2007 『千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』 北埋調報238
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2007 『占冠村 占冠原野1遺跡』 北埋調報239
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2010 『千歳市 アンカリトロー7遺跡・アンカリトロー9遺跡』 北埋調報268
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2013 『千歳市 祝梅川上田遺跡(2)』 北埋調報300
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2014 『千歳市 梅川4遺跡(3)』 北埋調報306
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『厚真町 朝日遺跡』  
 道道早来停車場線埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報313
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『厚真町 オコッコ1遺跡(1)』  
 厚真川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報338

#### 厚幌ダム建設事業

- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『厚真町 オニキシベ1遺跡』 北埋調報318
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『厚真町 イクバンドユクチセ2遺跡』 北埋調報319
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『厚真町 ショロマ4遺跡』 北埋調報322
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『厚真町 イクバンドユクチセ3遺跡』 北埋調報325
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『厚真町 上幌内3遺跡』 北埋調報335

#### 国営土地改良事業勇払東部(二期)地区 厚幌導水管事業

- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『厚真町 富里3遺跡』 北埋調報326
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『厚真町 厚幌1遺跡・幌内6遺跡・幌内7遺跡』 北埋調報336

#### (財)・(公財) 北海道埋蔵文化財センター刊行物

- (財) 北海道埋蔵文化財センター 1994 『遺跡が語る北海道の歴史』 15周年記念誌
- (財) 北海道埋蔵文化財センター 2004 『遺跡が語る北海道の歴史』 25周年記念誌
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2013 『調査年報25 平成24年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2014 『調査年報26 平成25年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2015 『調査年報27 平成26年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2016 『調査年報28 平成27年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2017 『調査年報29 平成28年度』
- (公財) 北海道埋蔵文化財センター 2018 『調査年報30 平成29年度』

# 報告書抄録

ふりがな	あつちまよう かみほろないいせき かみほろないいせき							
書名	厚真町 上層内4遺跡 上層内5遺跡							
副書名	厚真ダム建設事業環境文化財調査報告書							
シリーズ名	(1)第01北海道環境文化財センター調査報告書 (北海道編)							
シリーズ番号	第243巻							
編著者名	愛媛組人・東光正幸・奥山さとし							
編集機関	公益財団法人 北海道環境文化財センター							
所在地	〒089-0822 北海道江別市西野幌85番地1 国011-284-2221							
発行年月日	西暦2019年3月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみほろないいせき 上層内4 1号 遺跡	かみほろないいせき 北海道 厚真町 あつちまよう 厚真町 あつちまよう 字代 368-112か	1881	J-13 -124	N-22号		20141001 ～ 20141030 20160302 ～ 20161030 20180302 ～ 20181028	平成26年度：900㎡ 平成27年度：1402㎡ 平成28年度：300㎡ 全調査面積：1,292㎡	厚真ダム建設 事業に伴う 事前調査
かみほろないいせき 上層内5 1号 遺跡	かみほろないいせき 北海道 厚真町 あつちまよう 厚真町 あつちまよう 字代 357-1-150ほか	1881	J-13 -125	L型式 V-30号		20160303 ～ 20160909 20160302 ～ 20161030 20180302 ～ 20181028	平成25年度：300㎡ 平成27年度：3,612㎡ 平成28年度：9,530㎡ 全調査面積：14,442㎡	厚真ダム建設 事業に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
かみほろないいせき 上層内4 遺跡	築造跡	アイヌ文化遺 縄文時代中期・晩期	土上・礎石中 壁/穴口 竪溝 土坑 / ビット	小刀・刀子・刺し器・鏃		縄文時代中期 内層土層とアイヌ文化遺 縄文時代前期 手続式 住口土層		
要約	<p>上層内4遺跡は、石狩低地帯の南東部、厚真町の土壌部に位置する。山間部を流れる厚真川の左岸、標高11～12mの段丘に上北側の斜面に立地する。平成28(2016)・平成27(2015)年度は発掘事前調査、平成28(2016)年度は発掘調査を実施した。本巻は3年度分の報告である。</p> <p>遺跡の時期は、縄文時代中期後半～後期前半が主体で、阿蘇山火砕土はアイヌ文化層に堆積した。アイヌ文化層は、柱穴・杭穴と土上・礎石中壁・フレック中壁が認められ、小刀、刀子等の鉄製品が出土した。</p> <p>縄文時代は、壁/穴口跡跡、土上・下ビット・土層基中・フレック中壁を調査した。壁/穴口跡は積層断面で遺物は少ない。下ビットは横して溝状と横形跡があり、中壁や遺構は、土層基中は縄文時代中期、前期、中期、後期で、これ以外の遺構は多くは縄文時代中期後半～後期前半である。</p> <p>縄文時代の遺物は、土層は塊状も多く、ついで早期、中期である。後期後半では中層の住口土層式土層式の手続式の住口土層は厚真町内では珍しい出土である。住口土層は、石層、石積・ナイス、石溝、つまみ付きナイフ、スライヤーが残り、礎石跡は、礎石石、たたき石、すり石、砥石等の遺物がある。</p>							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
かみほろないいせき 上層内5 遺跡	築造跡 住居跡	縄文時代中期・晩期	壁/穴口 竪溝 土坑 中土坑 / ビット	土層 / 石層		多数の下ビット		
要約	<p>上層内5遺跡は、石狩低地帯の南東部、厚真町の土壌部に位置する。山間部を流れる厚真川の左岸、標高約8～9mの段丘に立地する。遺跡の中心に無名の沢(イナボイ川)が流れ、これの左岸を土地区、右岸を水田区とした。平成23(2011)・28(2016)の両年度で発掘し、調査した。本巻は3年度分の報告である。</p> <p>遺跡は縄文時代中期後半・土層基中、小刀/刀子等を調査し、調査区全域から800基をこえて下ビットが出土した。これらの時期は縄文時代と考えられ、溝状と横形跡または埋形跡がある。これらは発掘時に観察しているところから認められ、壁や石層の残り、切り合いがみられる。</p> <p>遺物は少なく、土層は中層・後期が多い。礎石跡は、石層、石積・ナイス、つまみ付きナイフ、スライヤーが残り、礎石跡は、礎石石、たたき石、すり石、砥石、石臼・石溝等の遺物がある。厚真町土壌に立地する遺跡は、山形を隔てる阿蘇山を隔てた厚真町内でも多く出土する遺物が多いが、本遺跡はほとんどが阿蘇山火砕土に由来する。</p>							



(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第345集

**厚真町**  
**上幌内4遺跡 上幌内5遺跡**

— 厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成30(2018)年3月26日

**編集・発行**

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1  
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238  
[URL] <http://www.domaibun.or.jp/>  
[E-mail] [mail@domaibun.or.jp](mailto:mail@domaibun.or.jp)

**印刷**

株式会社 総北海  
〒078-8272 北海道旭川市工業団地2条1丁目1-23  
TEL 0166(36)5556 FAX 0166(36)5657  
[URL] <http://www.sohokkai.co.jp>  
[E-mail] [info@sohokkai.co.jp](mailto:info@sohokkai.co.jp)